



BEA WebLogic Portal

管理者ガイド

リリース 7.0 サービス パック 1 リリース 7.0 サービス
パック 1
マニュアルの日付 : マニュアルの日付 : 2002 年 9 月

著作権

Copyright © 2002 BEA Systems, Inc. All Rights Reserved.

限定的権利条項

本ソフトウェアおよびマニュアルは、BEA Systems, Inc. 又は日本ビー・イー・エー・システムズ株式会社（以下、「BEA」といいます）の使用許諾契約に基づいて提供され、その内容に同意する場合にのみ使用することができ、同契約の条項通りにのみ使用またはコピーすることができます。同契約で明示的に許可されている以外の方法で同ソフトウェアをコピーすることは法律に違反します。このマニュアルの一部または全部を、BEA からの書面による事前の同意なしに、複製、複製、翻訳、あるいはいかなる電子媒体または機械可読形式への変換も行うことはできません。

米国政府による使用、複製もしくは開示は、BEA の使用許諾契約、および FAR 52.227-19 の「Commercial Computer Software-Restricted Rights」条項のサブパラグラフ (c)(1)、DFARS 252.227-7013 の「Rights in Technical Data and Computer Software」条項のサブパラグラフ (c)(1)(ii)、NASA FAR 補遺 16-52.227-86 の「Commercial Computer Software--Licensing」条項のサブパラグラフ (d)、もしくはそれらと同等の条項で定める制限の対象となります。

このマニュアルに記載されている内容は予告なく変更されることがあり、また BEA による責務を意味するものではありません。本ソフトウェアおよびマニュアルは「現状のまま」提供され、商品性や特定用途への適合性を始めとする（ただし、これらには限定されない）いかなる種類の保証も与えません。さらに、BEA は、正当性、正確さ、信頼性などについて、本ソフトウェアまたはマニュアルの使用もしくは使用結果に関していかなる確約、保証、あるいは表明も行いません。

商標または登録商標

BEA、Jolt、Tuxedo、および WebLogic は、BEA Systems, Inc. の登録商標です。BEA Builder、BEA Campaign Manager for WebLogic、BEA eLink、BEA Manager、BEA WebLogic Commerce Server、BEA WebLogic Enterprise、BEA WebLogic Enterprise Platform、BEA WebLogic Express、BEA WebLogic Integration、BEA WebLogic Personalization Server、BEA WebLogic Portal、BEA WebLogic Server、および How Business Becomes E-Business は、BEA Systems, Inc. の商標です。

その他の商標はすべて、関係各社がその権利を有します。

管理者ガイド

マニュアルの版数	日付	ソフトウェアのバージョン
なし	2002 年 9 月	7.0 サービス パック 1

目次

第 1 章 BEA WebLogic ポータル管理の概要

管理者のためのポータル入門	1-2
ポータルの機能	1-2
ユーザ管理	1-2
グループ ポータル	1-3
委託管理	1-3
ポータルとポートレットの管理	1-3
パーソナライゼーション	1-3
キャンペーン	1-4
ポータル管理のロードマップ	1-4
ポータルの管理方法	1-4
管理ツールの起動とログイン	1-6
WebLogic Portal Administration Tools の起動	1-6
E-Business Control Center の起動	1-7
ツールへのログイン	1-7
ポータル管理の手引き	1-8

第 1 部 ポータルの管理 - チュートリアル

第 2 章 チュートリアル - 管理ユーザの作成

ステップ 1: ユーザを追加する	2-2
ステップ 2: ユーザにポータル管理の資格を与える	2-5
ステップ 3: ユーザにポータル管理特権を与える	2-8
ステップ 4: 新しいポータル管理者としてログインする	2-11

第 3 章 チュートリアル - ポータルの管理

ステップ 1: 既存のポータルを表示する	3-1
----------------------------	-----

ステップ 2: スキンとレイアウトをポータルで選択できるようにする	3-3
ステップ 3: ポータル ページを作成してポートレットを追加する	3-6
ステップ 4: 変更したポータルの同期を取る	3-9
ステップ 5: 新しいスキン、レイアウト、ポートレットを使用する	3-12
ステップ 6: 変更したポータルを表示する	3-19

第 4 章 チュートリアル - ポータルとグループ ポータルの作成

ステップ 1: ポータルを作成してデプロイする	4-2
ステップ 2: デフォルトのポートレットを表示対象にする	4-11
ステップ 3: デフォルトのグループ ポータル サイトを表示する	4-16

第 5 章 チュートリアル - グループ ポータルの作成

ステップ 1: グループ ポータルの基になるグループを作成する	5-2
ステップ 2: 既存のポータルにグループ ポータルを作成する	5-9
ステップ 3: グループ ポータルをカスタマイズする	5-15
ステップ 4: グループ ポータル サイトを表示する	5-21

第 II 部 ポータルの管理

第 6 章 ユーザとグループの管理

始める前に : ユーザに対するセキュリティ	6-2
デフォルトの管理者とパスワードの変更	6-2
ユーザの作成と管理	6-3
ユーザの作成	6-4
ユーザの変更と削除	6-5
ユーザのパスワードの変更	6-5
ユーザのプロパティの変更	6-7
ユーザの削除	6-8
ユーザ グループの作成と管理	6-9
ユーザ グループの作成	6-10
ユーザ グループへのユーザの追加	6-11
グループからのユーザの削除	6-14
ユーザ グループの変更と削除	6-14
グループ メンバーの表示	6-14

グループのプロパティの変更	6-15
グループへのグループの追加	6-16
グループの削除	6-17
グループ ポータルの作成と管理	6-17
ステップ 1: グループ ポータルで使用するグループを作成する	6-18
ステップ 2: グループ ポータルを作成する	6-19
ステップ 3: グループ ポータルの管理者を設定する	6-23
管理ユーザの作成	6-23
WebLogic Server システム管理者の作成	6-24
WebLogic Server システム管理者の作成	6-24
WebLogic Server システム管理者の削除	6-25
Portal システム管理者の作成	6-25
ポータル システム管理者の作成	6-25
Portal システム管理者の削除	6-26
ポータル管理者の作成	6-26
ポータル管理者の作成	6-26
ポータル管理者の削除	6-28
グループ ポータル管理者の作成	6-29
グループ ポータル管理者の作成	6-29
グループ ポータル管理者からポータル管理者への変更	6-32
グループ ポータル管理者の削除	6-32
ページとポートレットへのアクセスを制御するためのグループの作成 ...	6-32
資格区分の作成	6-33
資格区分の変更と削除	6-37
顧客に合わせてコンテンツを提供するためのグループの作成	6-37
顧客セグメントの作成	6-38
顧客セグメントの変更と削除	6-38

第 7 章 ポータルとポートレットの属性の管理

ポータルの特性の変更	7-1
ポータルの特性定義の変更	7-2
一般的な特性の定義の変更	7-2
ポータルで利用可能な特性の変更	7-5
ポータル ページで利用可能な特性の変更	7-6
ポータルのルック アンド フィールドの変更	7-7

スキンの選択	7-8
ページの選択と順序設定	7-12
ページの属性の編集	7-14
ページのレイアウトの編集	7-16
ポータル ページ上のポートレットの選択と配置	7-17
ポートレットの特性の変更	7-19
ポートレットの特性定義の変更	7-19
ポートレットのルック アンド フィールドの変更	7-21
ポートレットの属性の編集	7-22
アプリケーションへの新規ポータル データの同期	7-25
グループ ポータルを使ったポータル アクセスの設定	7-26
ポータル ページに対する資格の設定	7-27
ポートレットに対する資格の設定	7-30

第 8 章 パーソナライゼーションと対話の管理

顧客に合わせたポータル コンテンツの提供	8-2
顧客に合わせた広告の提供	8-6

第 9 章 キャンペーンの実行

キャンペーンの前提条件	9-2
トリガの作成	9-3
コンテンツの作成	9-4
キャンペーンの定義	9-6
ステップ 1: キャンペーン ファイルの作成	9-7
ステップ 2: キャンペーンの全般情報の入力	9-8
ステップ 3: シナリオとアクションの作成	9-8
シナリオの作成	9-8
シナリオ アクションの作成	9-10
シナリオおよびアクションの変更と削除	9-23
ステップ 4: キャンペーンの開始 / 停止の条件の定義	9-23
キャンペーンの開始日時の設定	9-23
日時によるキャンペーンの停止	9-24
目標によるキャンペーンの停止	9-25
ステップ 5: キャンペーンの同期化	9-27

キャンペーンのデバッグと変更	9-28
キャンペーンのデバッグ	9-28
キャンペーンの変更	9-30
キャンペーンの削除	9-30
キャンペーンを非アクティブにする / 再度アクティブにする	9-31
目標達成により終了したキャンペーンの 再アクティブ化	9-31

第 10 章 Commerce サービスの管理

カタログの作成と管理	10-1
カタログ管理ツールの起動	10-3
カタログへのカテゴリの追加	10-3
カタログへのカテゴリの追加	10-3
既存のカテゴリ内でのサブカテゴリの作成	10-5
カタログへの商品の追加	10-6
カタログ内のカテゴリやアイテムの変更	10-8
アイテムのカテゴリへの割り当て	10-8
カテゴリとアイテムの属性の編集	10-10
カテゴリからのアイテムの削除 (除去)	10-14
カタログからのアイテムの削除	10-15
1 つまたは複数のカテゴリからの商品の削除 (除去)	10-15
カテゴリの削除	10-17
別のカテゴリへのアイテムの移動	10-18
顧客の注文情報の管理	10-19
注文の検索	10-19
注文ステータスの更新	10-22
顧客の支払情報の管理	10-24
支払の検索	10-24
トランザクションの認可	10-26
割引の管理	10-28
新しい割引と属性の定義	10-28
新しい割引を定義する	10-28
割引期間と総限度を設定する	10-40
割引の保存、確定、同期	10-41
保存、確定、同期	10-42

割引の保存と確定の要件	10-42
割引の保存	10-43
割引の確定	10-43
割引の同期	10-44
既存の割引や商品（アイテム）の検索	10-44
カタログのブラウズ	10-45
カタログの検索	10-47
既存の割引の検索	10-48
既存の割引の変更	10-50
アクティブステータスの制御と割引の削除	10-53
割引のアクティブ化と非アクティブ化	10-53
既存の割引の削除	10-54

第 11 章 システム管理

Configuration Wizard 後のタスク	11-1
サーバの起動と停止	11-2
WebLogic Portal サンプル ドメインの WebLogic Portal 起動と停止 ..	11-2
Configuration Wizard で作成したドメインの起動と停止	11-3
Windows サービスとしての WebLogic Portal の実行	11-5
PointBase について	11-5
Windows サービスとしてのインストール	11-5
Windows サービスとしてのアンインストール	11-6
E-Business Control Center の設定	11-6
データベース管理	11-12
サポートされるデータベース	11-12
PointBase について	11-12
PointBase の起動と停止	11-13
PointBase Console の起動	11-13
他のデータベースへの切り替え	11-14
ステップ 1: データベースのコンフィグレーション	11-14
ステップ 2: データベース環境に合わせた db_settings.properties の編 集	11-14
ステップ 3: サーバの起動	11-16
ステップ 4: WebLogic Server Console での接続プールとレルムの セットアップ	11-16

ステップ 5: サーバの停止	11-18
ステップ 6: 使用するデータベースのコメントを解除するための db_settings.properties の編集	11-18
ステップ 7: create_db の実行	11-18
ステップ 8: サーバの起動	11-19
ステップ 9: loadads および loaddocs の実行	11-19
ステップ 10: sync の実行	11-19
ステップ 11: Oracle の場合のみ - インデックスの再構築	11-19
データベース スキーマについて	11-20
バックアップと回復処理	11-20
パフォーマンス チューニング	11-21
起動時に利用可能なデータベース接続の調節	11-21
カタログ サイズ	11-22
キャンペーン	11-22
広告表示カウント バッファ サイズの拡張	11-23
Java 仮想マシン (JVM) の場所	11-24
JRockit Virtual Machine の使用	11-24
HotSpot Virtual Machine の使用	11-24
インターナショナルライズのパフォーマンスのチューニング	11-25
行動追跡データの永続化	11-26
ステップ 1: データ ストレージとテーブル構造の理解	11-27
リレーショナル データベース	11-27
データベース ディレクトリのパス	11-28
行動追跡用データベース スキーマ	11-29
EVENT データベース テーブル	11-30
EVENT_ACTION データベース テーブル	11-35
EVENT_TYPE データベース テーブル	11-36
制約とインデックス	11-37
ステップ 2: 行動追跡データベースの作成	11-37
開発環境のためのデータベースの作成	11-37
プロダクション環境用のデータベースの作成	11-38
ステップ 3: 行動追跡リスナを有効にする	11-39
ステップ 4: 行動追跡サービスのコンフィグレーション	11-40
データ ソースのコンフィグレーション (省略可能)	11-42

付録 A データベース スキーマ

Campaign データベース スキーマ	A-1
Campaign Manager 用データベース テーブルのエンティティ リレーションシップ ダイアグラム	A-2
BEA Campaign Manager を構成するテーブルのリスト	A-2
Campaign Manager データ ディクショナリ	A-2
SCENARIO_END_STATE データベース テーブル	A-3
イベント データベース スキーマ	A-3
データ ストレージ	A-4
リレーショナル データベース	A-4
データベース ディレクトリのパス	A-5
行動追跡用データベース スキーマ	A-6
EVENT データベース テーブル	A-6
EVENT_ACTION データベース テーブル	A-11
EVENT_TYPE データベース テーブル	A-12
制約とインデックス	A-13
カタログ用データベース スキーマ	A-13
コア プロダクト カatalog用テーブルのエンティティ リレーションシップ ダイアグラム	A-14
プロダクトカatalog用テーブル	A-15
CATALOG_ENTITY データベース テーブル	A-16
CATALOG_PROPERTY_KEY データベース テーブル	A-16
CATALOG_PROPERTY_VALUE データベース テーブル	A-17
WLCS_CATEGORY データベース テーブル	A-18
WLCS_PRODUCT データベース テーブル	A-22
WLCS_PRODUCT_CATEGORY データベース テーブル	A-26
WLCS_PRODUCT_KEYWORD データベース テーブル	A-26
プロダクト カatalog用テーブルに関する定義済みの制約	A-27
注文および割引用データベース スキーマ	A-29
注文および割引用テーブルのエンティティ リレーションシップ ダイアグラム	A-29
注文処理用データ ディクショナリ テーブル	A-32
DISCOUNT データベース テーブル	A-32
DISCOUNT_ASSOCIATION データベース テーブル	A-33
ORDER_ADJUSTMENT データベース テーブル	A-34

ORDER_LINE_ADJUSTMENT データベース テーブル	A-35
WLCS_CREDIT_CARD データベース テーブル	A-36
WLCS_CUSTOMER データベース テーブル	A-38
WLCS_ORDER データベース テーブル	A-39
WLCS_ORDER_LINE データベース テーブル	A-41
WLCS_SAVED_ITEM_LIST データベース テーブル	A-42
WLCS_SECURITY データベース テーブル	A-42
WLCS_SHIPPING_ADDRESS データベース テーブル	A-43
WLCS_SHIPPING_METHOD データベース テーブル	A-44
WLCS_TRANSACTION データベース テーブル	A-45
WLCS_TRANSACTION_ENTRY データベース テーブル	A-47
注文処理用データベース スキーマにおける定義済みの制約	A-48
パーソナライゼーション用データベース スキーマ	A-50
WebLogic Portal パーソナライゼーション用のエンティティ リレーション シップ ダイアグラム	A-51
WebLogic Portal パーソナライゼーション用テーブルのリスト	A-52
Personalization Server 用データ ディクショナリ	A-53
AD_BUCKET データベース テーブル	A-54
AD_COUNT データベース テーブル	A-55
DATA_SYNC_APPLICATION データベース テーブル	A-55
DATA_SYNC_ITEM データベース テーブル	A-56
DATA_SYNC_SCHEMA_URI データベース テーブル	A-57
DATA_SYNC_VERSION データベース テーブル	A-58
DOCUMENT データベース テーブル	A-58
DOCUMENT_METADATA データベース テーブル	A-59
ENTITLEMENT_RULESET データベース テーブル	A-60
ENTITY データベース テーブル	A-61
GROUP_HIERARCHY データベース テーブル	A-61
GROUP_SECURITY データベース テーブル	A-62
MAIL_ADDRESS データベース テーブル	A-62
MAIL_BATCH データベース テーブル	A-63
MAIL_BATCH_ENTRY データベース テーブル	A-63
MAIL_HEADER データベース テーブル	A-64
MAIL_MESSAGE データベース テーブル	A-64
PLACEHOLDER_PREVIEW データベース テーブル	A-65

PROPERTY_KEY データベース テーブル	A-65
PROPERTY_VALUE データベース テーブル	A-66
SAMPLE_UUP_INFO データベース テーブル	A-67
SEQUENCER データベース テーブル	A-68
USER_GROUP_CACHE データベース テーブル	A-68
USER_GROUP_HIERARCHY データベース テーブル	A-69
USER_PROFILE データベース テーブル	A-69
USER_SECURITY データベース テーブル	A-70
WEBLOGIC_IS_ALIVE データベース テーブル	A-70
定義済みの制約	A-71
ポータル用データベース スキーマ	A-74
ポータルおよびポートレット用テーブルのエンティティ リレーション シップ ダイアグラム	A-74
ポータル管理パッケージを構成するテーブルのリスト	A-76
ポータル管理用データ ディクショナリ	A-77
LAYOUT データベース テーブル	A-77
PORTAL データベース テーブル	A-78
PORTAL_P13N データベース テーブル	A-78
PORTAL_P13N_LAYOUT データベース テーブル	A-79
PORTAL_P13N_SKIN_POOL データベース テーブル	A-80
PORTAL_PAGE データベース テーブル	A-81
PORTAL_PAGE_P13N データベース テーブル	A-81
PORTAL_PAGE_P13N_LAYOUT_POOL データベース テーブル .. A-83	
PORTLET データベース テーブル	A-84
PORTLET_P13N データベース テーブル	A-84
PORTLET_PLACEHOLDER データベース テーブル	A-87
RESOURCE_GROUP_ADMIN データベース テーブル	A-87
SKIN データベース テーブル	A-88
定義済みの制約	A-89

索引

まえがき

『管理者ガイド』へようこそ。このマニュアルの他に、以下のリソースも活用されることをお勧めします。

オンラインマニュアルの参照 BEA 製品マニュアルは、BEA 社の Web サイトで公開しています。BEA Home ページで [製品のドキュメント] リンクをクリックするか、「e-docs」製品ドキュメント ページ (<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/>) に直接アクセスしてください。

マニュアルについてのフィードバック WebLogic Portal マニュアルについてのフィードバックをお寄せください。ご質問やコメントがあれば、電子メールで docsupport-jp@bea.com までお送りください。なお、お送りいただく電子メールには、WebLogic Portal リリース 7.0 のマニュアルをお使いであることを明記してください。

BEA WebSUPPORT への連絡 このバージョンの WebLogic Portal について質問がある場合、または WebLogic Portal のインストールや実行に問題がある場合には、BEA WebSUPPORT (<http://support.bea.com/welcome.jsp>) を通じて BEA カスタマ サポートにご連絡ください。製品パッケージに同梱のカスタマ サポートカードに記載されている連絡先にお問い合わせいただいても結構です。



第1章 BEA WebLogic ポータル管理の概要

『WebLogic Portal 管理者ガイド』へようこそ。ポータルの管理には、従来のシステム管理にはなかった作業が含まれています。また、ポータルの振る舞い、コンテンツ、および外見を制御する作業も含まれます。ポータル管理者は、ポータル Web サイトに必要なリソースを開発することはありませんが、このようなりソースを使ってポータルの保守と変更を行います。

このガイドでは、BEA WebLogic Portal で構築されたポータル Web サイトを管理する方法を説明します。管理作業としては、ユーザのセットアップと管理、グループポータルの作成と管理、ポータル属性の変更、パーソナライゼーション動作の作成、キャンペーンの作成、ポータルのロック アンド フィールドの変更などがあります。

ポータルの開発作業については、WebLogic Portal 『開発者ガイド』を参照してください。

この章では、以下の内容について説明します。

- [管理者のためのポータル入門](#)
- [ポータル管理のロードマップ](#)
- [ポータル管理の手引き](#)

管理者のためのポータル入門

ポータルとは、豊富な機能を備えた Web サイトです。ポータルは、企業のデータとアプリケーションに対する単一のアクセス ポイントを提供し、企業の情報を統合およびパーソナライズしたビューを、従業員や顧客やビジネス パートナに提示します。

ポータルを利用すると、複数の Web アプリケーションを単一の Web インタフェースに収めることができます。ポータルが備える機能を使えば、ポータルに表示される通常の Web コンテンツだけでなく、自己完結型のアプリケーションまたはコンテンツであるポートレットも、すべて 1 つの Web インタフェースで表示できます。

ポータルでは、それぞれが独自のコンテンツとポートレットを含む複数のページを作成し、タブを使ってページ間を移動できます。

ポータルの機能

完全に機能するポータルは、WebLogic Portal を使用するユーザによりよい印象を与えるさまざまな機能を備えています。同じように、多くの管理機能も、ポータルやポートレットのリソースの管理を容易にしてくれます。ここでは、このような機能の一部について説明します。

ユーザ管理

WebLogic Portal では、ユーザ（主としてサイトの訪問者で構成される）を作成し、必要に応じてユーザについての情報を保存できます。これにより、極めて正確に Web コンテンツを訪問者に合わせるために必要な詳細な情報が得られます。グループを作成し、それにユーザを追加することもできます。グループを利用すれば、グループごとにポータルの異なるビューを定義し（グループ ポータル）、訪問者が目にする Web サイトをグループごとにまったく異なるものであるかのようにすることができます。

また、WebLogic Portal には、訪問者の動的なグループを作成するためのツールとして、セグメント (Segment) と資格区分 (Entitlement Segment) が用意されています。性別、ブラウザの種類、日付といった特性のグループを作成することで、このような特性に一致するサイト訪問者は、動的にそのグループのメンバーにな

ります。セグメントは、訪問者をキャンペーンやパーソナライズされたコンテンツの対象にするために使用します。資格区分は、訪問者が見ることのできるページやポートレットを制御するために使用します。

グループポータル

ポータルは、個人ユーザ向けまたはグループ向けに設計されます。グループポータルを使うと、ポータルにアクセスできる訪問者を制限し、ポータルに対する委託管理をセットアップできます。1つのポータル内に複数のグループポータルを作成できます。複数のグループポータルでレイアウトやポートレットなどのポータルリソースを共有できる一方で、グループごとにグループポータルのコンフィグレーションを変えて、各グループのニーズに個別に対応することができます。ユーザはグループのメンバーとして個別に指定されるので、グループポータルでは静的な方式でのパーソナライゼーションが提供されます。

委託管理

WebLogic Portal のセキュリティサービスを利用すれば、レベルが異なる複数の管理者を作成し、それぞれに異なるアクセス範囲を割り当てることができます。また、他のユーザに管理タスクを委託できる管理者を作成することもできます。

ポータルとポートレットの管理

管理者は、BEA から提供されたり開発者によって作成されたりした既存のリソースを使って、ポータルのルックアンドフィールの変更、ポータルに表示されるページとポートレットの定義と調整、訪問者の種類によって異なるポータルのビュー（グループポータル）の定義、グループポータル内のページとポートレットへのアクセスの制御（資格区分による）などを行うことができます。

パーソナライゼーション

管理者は、コンテンツセレクトラ (Content Selector) とプレースホルダ (Placeholder) に対するルールを定義することで、ポータルに表示されるパーソナライズされたコンテンツをきめ細かく制御できます。コンテンツセレクトラは、コンテンツデータベースに格納されている特定の Web コンテンツを特定のサイト訪問者に対して提供するためのルールです。プレースホルダは、Web ページ

に表示される広告を制御するためのルールであり、同じユーザがサイトを訪問するたびに異なる広告を表示する広告ローテーションのメカニズムを実現できません。

キャンペーン

キャンペーンは、訪問者に合わせてコンテンツを提供するための強力なツールです。管理者は、特定の訪問者を 3 種類のアクションの対象にするキャンペーンシナリオを作成できます。たとえば、従業員には特定のコンテンツを提供し、訪問者には購入セッションでの割引を提供するか、または定義済みの電子メールメッセージを送信することができます。

ポータル管理のロードマップ

この節では、ポータルの管理および前節で説明した機能の実現に関するツールとプロセスについて説明します。

ポータルの管理方法

WebLogic Portal の管理作業のほとんどは、WebLogic Portal Administration Tools と E-Business Control Center という 2 種類のツールを使って行います。WebLogic Portal Administration Tools は、ポータルドメインが稼働しているときにブラウザで実行します。E-Business Control Center はローカルにインストールされて、ポータルリソースをオフラインで変更するために使用します。[図 1-1](#) は、これらのツールがポータル管理のワークフローにどのように組み込まれるのかを示したものです。ポータル管理の各ステージの詳細については、ロードマップに対応した番号の説明を参照してください。

図 1-1 ポータル管理のワークフロー



1. 開発プロセスにおいて、**ポータル リソース**を作成してサーバに格納します。以下のようなリソースがあります。
 - ポートレットで使用する JSP とグラフィックス
 - ページのレイアウトを定義する JSP
 - ポータルのスキンを構成するグラフィックスとカスケーディング スタイルシート
 - データベースまたはコンテンツ管理システムに保存されている Web コンテンツを選択するためのドロップダウン リスト

- 電子メールの JSP ファイル

管理者は、E-Business Control Center でこれらのリソースにアクセスし、パーソナライズされたコンテンツを訪問者に提供するファイルを作成したり、キャンペーンを制御したり、ポータルのルック アンド フィールドやコンテンツを定義したりすることができます。

2. E-Business Control Center でポータルのコンテンツと動作をコンフィグレーションした後、**データをサーバに送信して同期を取ります。**
3. キャンペーンやパーソナライゼーションの動作といった**一部のコンフィグレーション データは**、同期を取ると、ポータルで**自動的に有効になります。**
4. E-Business Control Center から同期を取った後は、**ポータルをセットアップし**ます。ポータルのセットアップの作業としては、ユーザとグループの管理、管理の委託、グループ ポータルの定義、訪問者が見ることのできるページとポートレットの決定、各グループ ポータルに対するポータルのルック アンド フィールドの変更、ページとポートレットの再配置と管理などがあります。これらの作業の結果は、ポータルにリアルタイムで反映されます。

管理ツールの起動とログイン

このガイドで示されている手順はすべて、WebLogic Portal Administration Tools または E-Business Control Center を使って行う必要があります。以下では、これらのツールを起動してツールにログインする方法を説明します。

WebLogic Portal Administration Tools の起動

ドメインに対して WebLogic Portal Administration Tools を起動するには：

ブラウザを開き、次の URL を入力します。

```
http://<hostname>:<port>/<enterprise_app_folder_name>Tools
```

<enterprise_app_folder_name> は、ドメインの beaApps フォルダの下にあります。

たとえば、サーバ自体でツールを起動する場合のデフォルトの URL は、次のとおりです。

```
http://localhost:7501/portalAppTools
```

E-Business Control Center の起動

E-Business Control Center は、実行するマシンごとにインストールする必要があります。E-Business Control Center を起動するには、[スタート | プログラム | BEA WebLogic Platform 7.0 | WebLogic Portal 7.0 | E-Business Control Center] を選択します。

E-Business Control Center を起動した後は、エンタープライズ アプリケーション (複数のポータルを含むことができます) に対応するプロジェクト ファイルを開く必要があります。E-Business Control Center でエンタープライズ アプリケーションのポータルに対して定義したすべてのメタデータとルールには、プロジェクト ファイルを通してアクセスできます。プロジェクト (.eaprcj) ファイルのデフォルトの場所は次のとおりです。

```
<your_domain>/beaApps/portalApp-project/portalApp-project
```

パスの最後の要素はプロジェクト ファイルです。E-Business Control Center を起動すると、前回最後に開いていたプロジェクト ファイルが自動的にロードされます。

E-Business Control Center からサーバに対する適切な接続をセットアップする方法については、「[E-Business Control Center の設定](#)」を参照してください。

ツールへのログイン

WebLogic Portal をインストールした後、ツールに最初にログインするときには、WebLogic Server システム管理者または WebLogic Portal システム管理者のユーザ名とパスワードが必要です。WebLogic Server のシステム管理者は、ドメイン全体に対するすべてのセキュリティ特権を持ち、WebLogic Server Console にログインしてそのツールを使用できます。WebLogic Portal のシステム管理者は、エンタープライズ アプリケーションに対するすべてのセキュリティ特権を持ちます。エンタープライズ アプリケーションは、複数のポータルを含むことができます。表 1-1 は、システム管理者のデフォルトのユーザ名とパスワードをまとめたものです。

表 1-1 デフォルトの管理者

ユーザ名	パスワード	解説
system	weblogic	ドメインにおけるすべての特権を持つ WebLogic Server システム管理者
weblogic	weblogic	
administrator	password	エンタープライズ アプリケーションにおけるすべての特権を持つ WebLogic Portal システム管理者。エンタープライズ アプリケーションは、複数のポータルを含むことができる。

管理者を新しく作成する方法については、「[管理ユーザの作成](#)」を参照してください。

注意： 同期などのために E-Business Control Center からサーバに接続するには、WebLogic Server または WebLogic Portal のシステム管理者でなければなりません。

ポータル管理の手引き

この節で説明するポータルとポートレットの基本的な背景情報を理解すれば、ポータルの管理を始めることができます。このガイドは、ポータル管理に含まれるさまざまな作業を確認したり実行したりできるように構成されています。

このガイドで説明する手順では、ポータルとポートレットを管理するために知っておく必要のある事がらが示されていますが、企業を十分にサポートするポータルにするためには、高度な計画立案も必要です。

次に示すのは、ポータルを管理する前に考慮する必要がある作業の一覧です。このリストは、新しいポータルを作成するための包括的な計画立案ガイドではありません。ただし、手始めとしての十分なガイドにはなるはずですが。

- ポータルで使用するデータベースを決定する。すべての新規ドメイン用のデフォルトとして、PointBase データベースが用意されています。デフォルト以外のデータベースを使用する場合は、データベースを切り替えるための手順が必要になります。
- ユーザとグループを定義して、ポータルの利用者を明らかにする。

- ポータルのコンポーネントつまりポータルで利用できるものを明らかにする。
- 内部閲覧用と外部閲覧用のポートレットを決定するための規則を作成する。この規則は、管理者がグループポータルを作成したり、資格ルールを設定したりするときに役立ちます。
- ポータル管理の役割と責務を明らかにする。つまり、誰がシステム管理者、ポータル管理者、およびグループポータル管理者になるのかを決定し、これらの管理者が行わなければならないことを明らかにします。
- 新しいポータルを開発する場合は、ポータルとポートレットのワイヤフレームを作成する。
- ポータルに機能を追加する前に、キャンペーンとパーソナライゼーションの方法を慎重に作成する。

以上で、ポータルの管理を開始する準備が整いました。以下のいずれかの節に進んでください。

- 新しいポータルドメイン、新しいポータル、新しいポートレットを作成する場合は、『開発者ガイド』の「新規ドメインへのポータルの新規作成」(<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wlp/docs70/dev/newdom.htm>)のチュートリアルを参照してください。
- ポータル管理をセットアップする場合は、第2章「チュートリアル - 管理ユーザの作成」のチュートリアルを参照してください。
- 既存のポータルを変更する場合は、第3章「チュートリアル - ポータルの管理」のチュートリアルを参照してください。
- 既存のポータルを管理する場合は、このガイドの第II部「ポータルの管理」で示されている手順に従ってください。

第 I 部 ポータルの管理 - チュートリアル

E-Business Control Center の管理者は、主な作業として、新しい管理者を作成したり、ポータルのロック アンド フィールドを変更したり、訪問者に合わせて 1 つのポータルから異なるビューを作成したりします。第 I 部のチュートリアルでは、これらの作業を構成する手順について説明します。

その後、『*管理者ガイド*』の後半では、ポータル管理に関わるさまざまな作業の実施手順について詳細に説明します。第 II 部の「[ポータルの管理](#)」を参照してください。

第 I 部では、以下の内容について説明します。

- [チュートリアル - 管理ユーザの作成](#)
- [チュートリアル - ポータルの管理](#)
- [チュートリアル - ポータルとグループ ポータルの作成](#)
- [チュートリアル - グループ ポータルの作成](#)

第2章 チュートリアル - 管理ユーザの作成

このチュートリアルでは、管理ユーザつまりポータル管理者を作成します。管理ユーザは、ポータル全体を管理するための特権を持っていますが、総合的な管理特権は WebLogic Portal システム管理者ほど多くありません。管理ユーザの作成が終われば、新しいポータル管理者として WebLogic Portal Administration Tools にログインできます。ポータル管理者としてログインすると、管理できる機能だけが表示されます。

このチュートリアルは、以下の手順について説明します。

- [ステップ 1: ユーザを追加する](#)
- [ステップ 2: ユーザにポータル管理の資格を与える](#)
- [ステップ 3: ユーザにポータル管理特権を与える](#)
- [ステップ 4: 新しいポータル管理者としてログインする](#)

ステップ 1: ユーザを追加する

このステップでは、WebLogic Portal にユーザを追加する方法を説明します。すべての管理特権を持つ既存の WebLogic Portal システム管理者としてログインします。

注意: ドメインと Portal Administration Tools が既に実行されている場合は、最初の 2 つのステップを省略できます。

1. 新しいドメインに対するサーバを起動してログインします。

Windows では、[スタート]メニューからドメインサーバを起動できます ([BEA WebLogic Platform 7.0 | User Projects | <新規ドメイン名> | Start Server] を選択)。

ドメイン起動スクリプトを使用することもできます。スクリプトのデフォルトの格納場所は、<BEA_HOME>\user_projects\<your_new_domain> フォルダです。

ログインのプロンプトが表示されたなら、適切なユーザ名とパスワードを入力します。デフォルトのユーザ名とパスワードは、**weblogic** と **weblogic** です。

2. まだ起動していない場合は、WebLogic Portal Administration Tools を起動します。ブラウザで、次の URL にアクセスします。

`http://<hostname>:<port>/portalAppTools`

ローカルマシンでサーバを実行している場合は、デフォルトの URL は `http://localhost:7501/portalAppTools` です。

プロンプトが表示されたなら、あらかじめ用意されている WebLogic Portal システム管理者としてログインします。

ユーザ名 : **administrator**

パスワード : **password**

3. WebLogic Portal Administration Tools のホーム ページで、[**ユーザ管理**] アイコンをクリックします ([図 2-1](#) を参照)。

図 2-1 Portal Administration Tools ホーム



4. [ユーザ管理] ページで、[ユーザ] バーの [create] をクリックします (図 2-2 を参照)。

図 2-2 [ユーザ] バーの [create] をクリックする



5. [新しいユーザの作成] ページで、新しいポータル管理者の名前とパスワードを指定します。この例では、[図 2-3](#) に示すような設定を使用します。

ユーザ名: **portaladmin**

パスワード: **password**

[ユーザタイプ] として [User] を選択し、[create] をクリックします。

図 2-3 ユーザを作成する



[create] をクリックすると、ページバナーの下に確認メッセージが表示され、ページ下部には新しいユーザの名前が表示されます。

6. ページ下部の [back] ボタンをクリックします。[ユーザ管理] ページに戻ります。

ステップ 2: ユーザにポータル管理の資格を与える

新しいユーザを作成したなら、管理者としての資格をユーザに与える必要があります。この作業は、WebLogic Portal システム管理者が行います。

1. [ユーザ管理] ページで、[**グループ**] リンクをクリックします ([図 2-4](#) を参照)。

図 2-4 グループにアクセスする



2. [グループ] ページで、「AdminEligible」というグループ名をクリックします ([図 2-5](#) を参照)。

図 2-5 「AdminEligible」をクリックする



1. AdminEligible のページで、[ユーザ] バーの [+/-] アイコンをクリックします (図 2-6 を参照)。

図 2-6 [+/-] をクリックする



2. [グループ検索結果の追加 / 削除] ページで、[ユーザ名] フィールドにアスタリスク (*) を入力し、[Enter] を押します。
3. [検索結果] から [グループの検索結果] リストに、「portaladmin」ユーザを移動します (図 2-7 を参照)。

図 2-7 AdminEligible グループにユーザを追加する



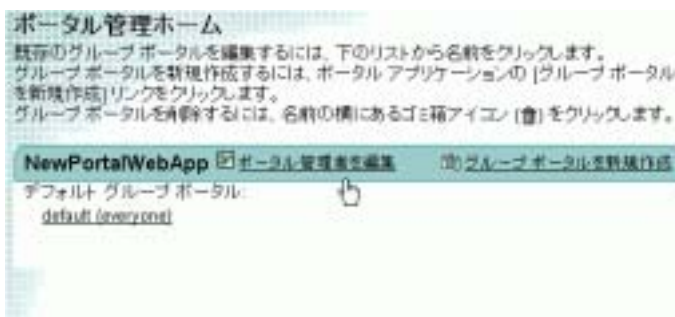
4. [save] をクリックします。ページ パナーの下に確認メッセージが表示されます。
5. ページ下部の [back] ボタンをクリックして AdminEligible のページに戻り、[finished] をクリックします。
6. ページ パナーの [home] アイコンをクリックし、WebLogic Portal Administration Tools のホーム ページに戻ります。

ステップ 3: ユーザにポータル管理特権を与える

AdminEligible グループにユーザを追加したなら、そのユーザをポータル管理者にできます。このステップでは、特定のポータル管理特権を設定する方法を説明します。

1. WebLogic Portal Administration Tools のホーム ページで、[**ポータル管理**] アイコンをクリックします。
2. [**ポータル管理ホーム**] ページで、[**ポータル管理者を編集**] リンクをクリックします ([図 2-8](#) を参照)。

図 2-8 [**ポータル管理者を編集**] をクリックする



3. [**ポータル管理者設定の編集**] ページで、[**管理者を新規作成**] をクリックします ([図 2-9](#) を参照)。

図 2-9 [管理者を新規作成] をクリックする



4. [ポータル管理者の新規作成] ページが表示されます。[**管理者資格のあるユーザ**] リストで「portaladmin」ユーザを選択し、[**ユーザを選択**] をクリックします (図 2-10 を参照)。

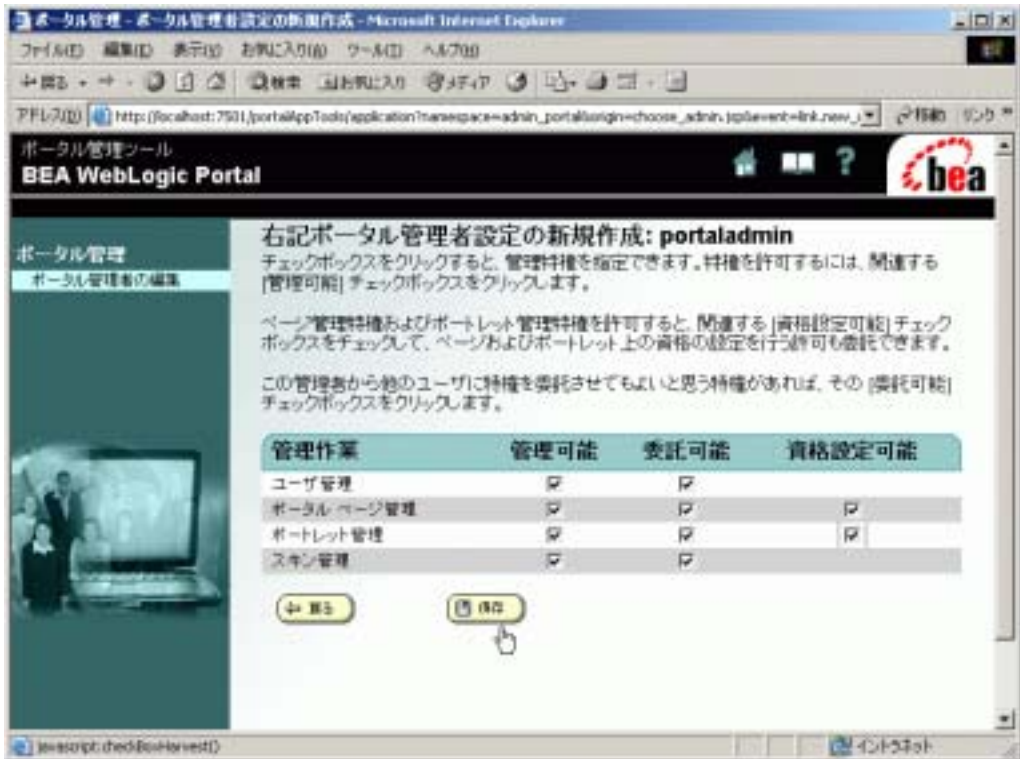
図 2-10 管理者資格のあるユーザを選択してポータル管理特権を設定する



5. [ポータル管理者設定の新規作成] ページで、[管理可能] カラムのすべてのチェックボックスをチェックします。これらのチェックボックスをチェックすると、新しいチェックボックスが表示されます。新たに表示されるすべてのチェックボックスにチェックマークを付けます (図 2-11 を参照)。

すべてのチェックボックスをチェックすると、そのポータル管理者には、ポータルにおける無制限の管理特権が与えられます。

図 2-11 ポータル管理特権を付与する



6. [保存] をクリックします。[ポータル管理者の新規作成] ページに戻ります。

ステップ 4: 新しいポータル管理者としてログインする

新しいユーザの管理特権をテストします。ブラウザを閉じてから再起動し、WebLogic Portal Administration Tools の URL (<http://localhost:7501/portalAppTools> など) にアクセスして、次のユーザ名とパスワードでログインします。

ユーザ名 : **portaladmin**

パスワード : **password**

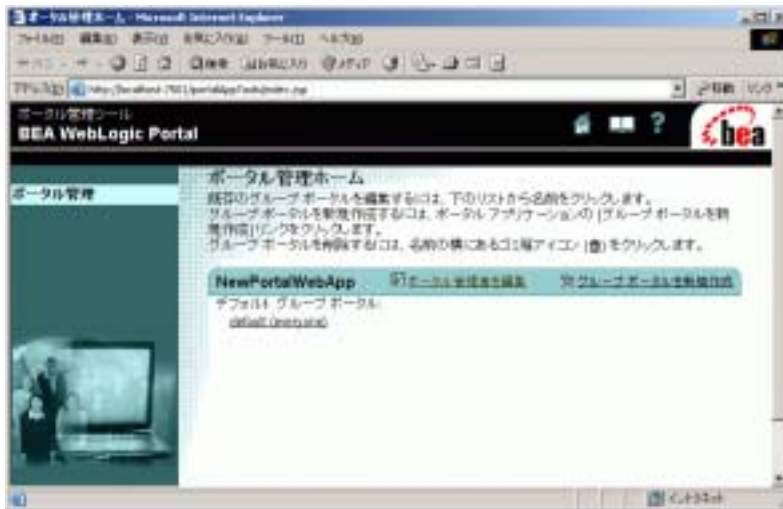
図 2-12 のようなログイン ウィンドウが表示されます。

図 2-12 新しいポータル管理者のユーザ名とパスワードを使ってログインする



新しいポータル管理者は、WebLogic Portal のシステム管理特権をすべて持っているわけではないので、WebLogic Portal Administration Tools のホーム ページ (図 2-1) は表示されません。代わりに、図 2-13 のような [ポータル管理ホーム] ページが表示されます。

図 2-13 [ポータル管理ホーム] ページ



以上で、ポータル管理者を正しく作成し、ポータル管理者としてログインすることができました。

注意： ポータル内のグループポータルに関する作業だけを行うことができる管理者を作成することもできます。グループポータルの管理をセットアップする方法の詳細については、第6章「ユーザとグループの管理」を参照してください。

第3章 チュートリアル - ポータルの管理

前のチュートリアルでは、ポータル管理者を作成しました。このチュートリアルでは、新しいポータル管理者を使って、既存のポータルのコンテンツとルックアンドフィールを変更します。作業が終了すると、ポータルを表示して変更を確認できます。

このチュートリアルは、WebLogic Portal 『開発者ガイド』の「新規ドメインへのポータルの新規作成」

(<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wlp/docs70/dev/newdom.htm>) から始まる大きなチュートリアルの一部です。このチュートリアルでは、『開発者ガイド』のチュートリアルで作成した新しいドメイン、ポータル、およびポートレットを使用します。

このチュートリアルでは、以下の手順について説明します。

- ステップ 1: 既存のポータルを表示する
- ステップ 2: スキンとレイアウトをポータルで選択できるようにする
- ステップ 3: ポータル ページを作成してポートレットを追加する
- ステップ 4: 変更したポータルの同期を取る
- ステップ 5: 新しいスキン、レイアウト、ポートレットを使用する
- ステップ 6: 変更したポータルを表示する

ステップ 1: 既存のポータルを表示する

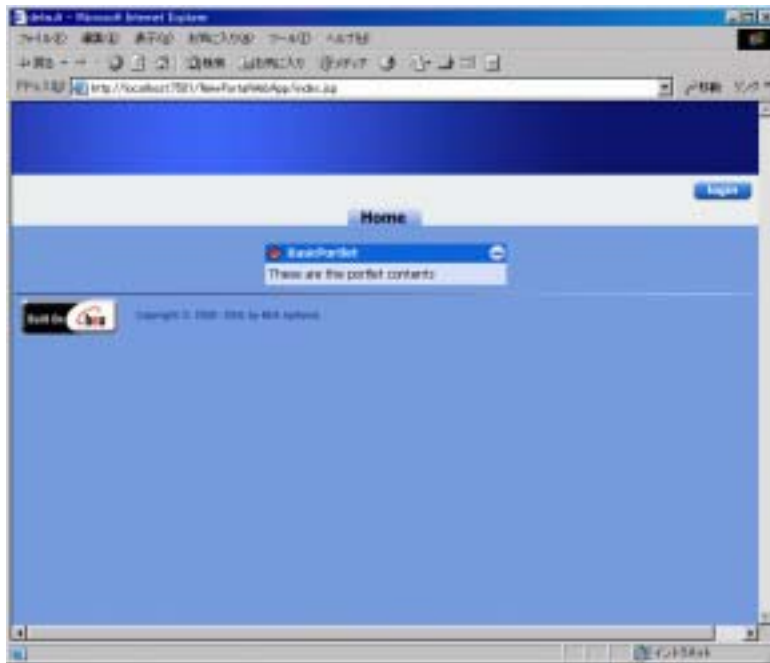
これから作成する変更バージョンと比較できるよう、現時点で作成されているポータルを表示します。

ブラウザで `http://<hostname>:<port>/<portalwebappname>/index.jsp` にアクセスします。ローカル マシンでサーバを実行し、一連の手順におけるサンプルデータを使用している場合は、URL は `http://localhost:7501/NewPWApp/index.jsp` のはずです。

ユーザ名「**administrator**」とパスワード「**password**」でログインします。

図 3-1 のように、ページ タブによって示される単一の「Home」ページが、既存ポータルのロック アンド フィールドです。

図 3-1 最初のチュートリアルで作成したポータルとポートレット



ステップ 2: スキンとレイアウトをポータルで選択できるようにする

「スキン」と「レイアウト」は、ポータルとポートレットの外観に影響を与える既存のリソースです。このステップでは、これらのリソースをポータルで選択できるようにします。

注意: 前の手順から引き続きポータル プロジェクト ファイルを開いたまま E-Business Control Center を実行している場合は、最初の 2 つのステップを省略できます。

1. E-Business Control Center を起動します。[スタート | プログラム | BEA WebLogic Platform 7.0 | WebLogic Portal 7.0 | E-Business Control Center] を選択します。
2. プロジェクト ファイルを開きます。この例の場合は **portalApp-project** です。[ファイル | プロジェクトを開く] を選択し、
<BEA_HOME>\user_projects\<your_new_domain>\beaApps\
portalApp-project\portalApp-project に移動します。図 3-2 を参照してください。

図 3-2 プロジェクト ファイルを開く



3. E-Business Control Center の [エクスプローラ] ウィンドウの [プレゼンテーション] タブをクリックします。

4. [**ポータル**] アイコンをクリックし、作成したポータルのファイルをダブルクリックします。この例では、「**NewPortalWebApp: ThisNewPortal**」ファイルです。図 3-3 を参照してください。

ThisNewPortal に対するエディタ ウィンドウが表示されます。

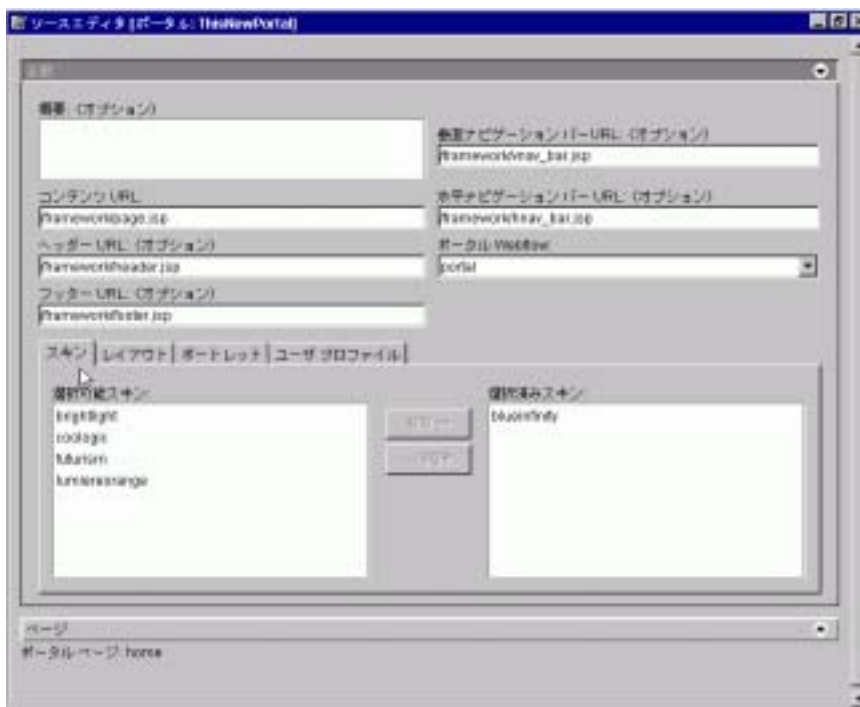
図 3-3 ポータル ファイルを開く



5. ポータルエディタ ウィンドウで、[**全般**] バーをクリックし、[**スキン**] タブをクリックします (図 3-4 を参照)。

ステップ 2: スキンとレイアウトをポータルで選択できるようにする

図 3-4 スキンを選択できるようにする



6. [**選択可能スキン**] リストで「**coologic**」スキンを選択し、[**追加**] をクリックして、[**選択済みスキン**] リストに移動します。
7. [**レイアウト**] タブをクリックし、「**fourcolumn**」レイアウトを [**選択済みレイアウト**] リストに移動します。
8. [**ポートレット**] タブをクリックし、すべてのポートレットが [**選択済みポートレット**] リストに設定されていることを確認します ([図 3-5](#) を参照)。

図 3-5 すべてのポートレットが [選択済みポートレット] リストに設定されていることを確認する



9. [全般]バーをクリックして閉じます。

ポータル ファイルは開いたままにします。

ステップ 3: ポータル ページを作成してポートレットを追加する

新しいポータル ページは、まだ何も書かれていない黒板のようなものです。このステップでは、新しいポータル ページを作成し、前のステップで選択できるようにしたレイアウトを追加して、ページで使用するポートレットを選択します。

1. ポータル エディタで [ページ] バーをクリックします (図 3-6 を参照)。

ステップ 3: ポータル ページを作成してポートレットを追加する

図 3-6 [ページ] バーをクリックする



2. [追加] をクリックします。[ページ定義] ウィンドウが表示されます (図 3-7 を参照)。

図 3-7 ページ定義を設定する



3. [**ポータルページ名**] フィールドに、ページの名前を入力します。この例では「 **My Page** 」などとしています。
4. 使用できるようにするレイアウトを、[**選択可能レイアウト**] リストから [**選択済みレイアウト**] リストに移動します。この例では、「 **threecolumn** 」レイアウトと「 **fourcolumn** 」レイアウトを移動します。複数のレイアウトを選択すれば、後でレイアウトを切り替えることができます。
5. [**選択可能ポートレット**] リストから [**選択済みポートレット**] リストに、使用するポートレットを移動します。この例では、「 **BasicPortlet** 」を移動します。
6. ウィンドウが [図 3-8](#) のようになっていることを確認し、[**OK**] をクリックします。新しいページの名前が、[ページ] ペインに表示されます。

図 3-8 変更後の [ページ定義] ウィンドウ



7. E-Business Control Center ツールバーの [**保存**] アイコンをクリックします ([図 3-9](#) を参照) 。

図 3-9 [保存]アイコン



ステップ 4: 変更したポータルの同期を取る

ポータルの新しいコンフィグレーションを使用するには、ハードドライブに格納されている E-Business Control Center のデータとサーバを同期させる必要があります。

1. E-Business Control Center で、同期の設定が正しいことを確認します。[**ツール** | **プロジェクトの設定**] を選択します。[プロジェクトの設定] ウィンドウが表示されます ([図 3-10](#) を参照)。

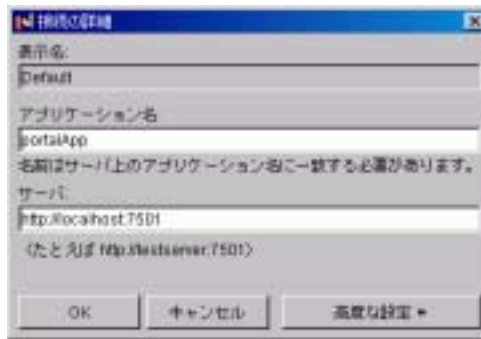
図 3-10 プロジェクトの設定を確認する



2. 以下のプロジェクト設定が正しいことを確認します。
 - a. [全般] タブでは、[アプリケーション ルート ディレクトリ] のパスが、**portalApp** エンタープライズ アプリケーション のディレクトリ `<BEA_HOME>\user_projects\<your_new_domain>\beaApps\portalApp` に設定されていることを確認します。この例でのディレクトリは `<BEA_HOME>\user_projects\myNewDomain\beaApps\portalApp` です。
 - b. [接続] タブでは、[接続を編集] をクリックし、「Default」接続を選択して、[編集] をクリックします。[アプリケーション名] フィールドに「portalApp」が設定されていて、[サーバ] フィールドに正しい「http://<hostname>:<port>」情報が設定されていることを確認します。ローカル マシンでサーバを実行している場合は、通常、「http://localhost:7501」と設定する必要があります (図 3-11 を参照)。

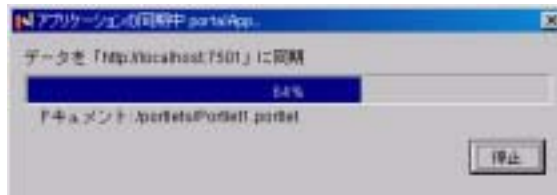
[接続の詳細] ウィンドウと [接続の編集] ウィンドウで、[OK] をクリックします。

図 3-11 接続の詳細を確認する



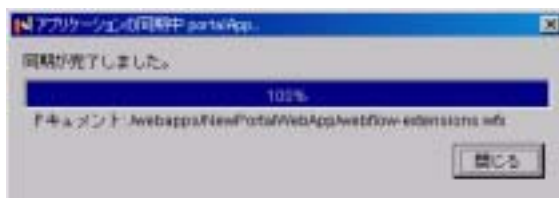
- c. [同期] タブで、[プロジェクトを検証する] と [アクティブなキャンペーンのリセット オプションを表示する] の選択を解除します。[OK] をクリックします。
3. E-Business Control Center ツールバーの [同期] ボタンをクリックします。E-Business Control Center が必要な処理タスクを実行します (図 3-12 を参照)。

図 3-12 進行中の同期処理



4. [アプリケーションの同期中] ウィンドウで同期の終了が示されたなら、[閉じる] をクリックします (図 3-13 を参照)。

図 3-13 同期の終了



ステップ 5: 新しいスキン、レイアウト、ポートレットを使用する

新しいスキン、レイアウト、ポートレット付きのポータル ページを含むようにポータルを変更したので、WebLogic Portal Administration Tools を使って、これらのリソースを用いてポータルを実際に変更してみます。変更を行うには、前の手順で作成したポータル管理者としてログインします（この例では **portaladmin** ）。

1. 開いているブラウザをすべて閉じから新しいブラウザを開き、`http://<hostname>:<port>/portalAppTools` という URL を指定して WebLogic Portal Administration Tools を起動します。ローカル マシンでサーバを実行している場合には、通常、URL は `http://localhost:7501/portalAppTools` です。
2. ログイン プロンプトに対し、作成したポータル管理者の適切なユーザ名とパスワードを入力します。この例では、次の情報を使用します（[図 3-14](#) を参照）。

ユーザ名 : **portaladmin**

パスワード : **password**

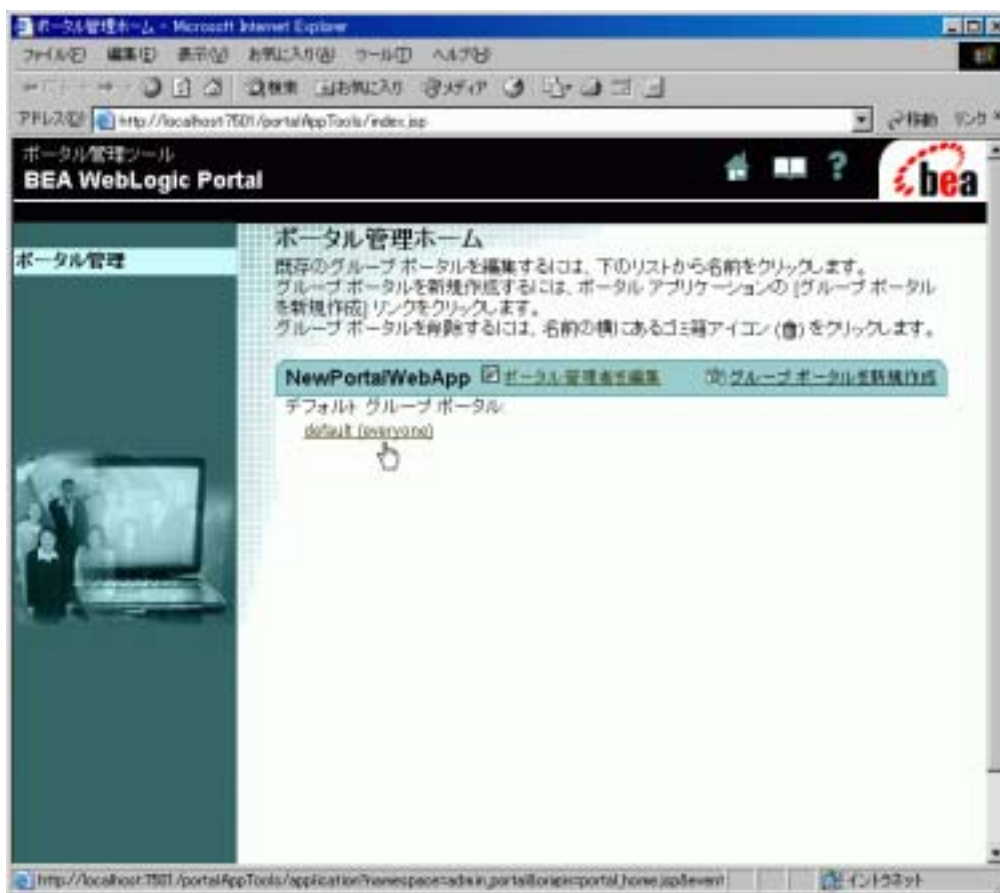
ステップ 5: 新しいスキン、レイアウト、ポートレットを使用する

図 3-14 作成したポータル管理者として Administration Tools にログインする



3. [ポータル管理ホーム] ページで、「**default (everyone)**」のリンクをクリックします (図 3-15 を参照)。

図 3-15 [ポータル管理ホーム] ページ



4. [グループポータル管理ホーム] ページで、[スキンを選択] をクリックします (図 3-16 を参照)。

図 3-16 [スキンを選択] をクリックする



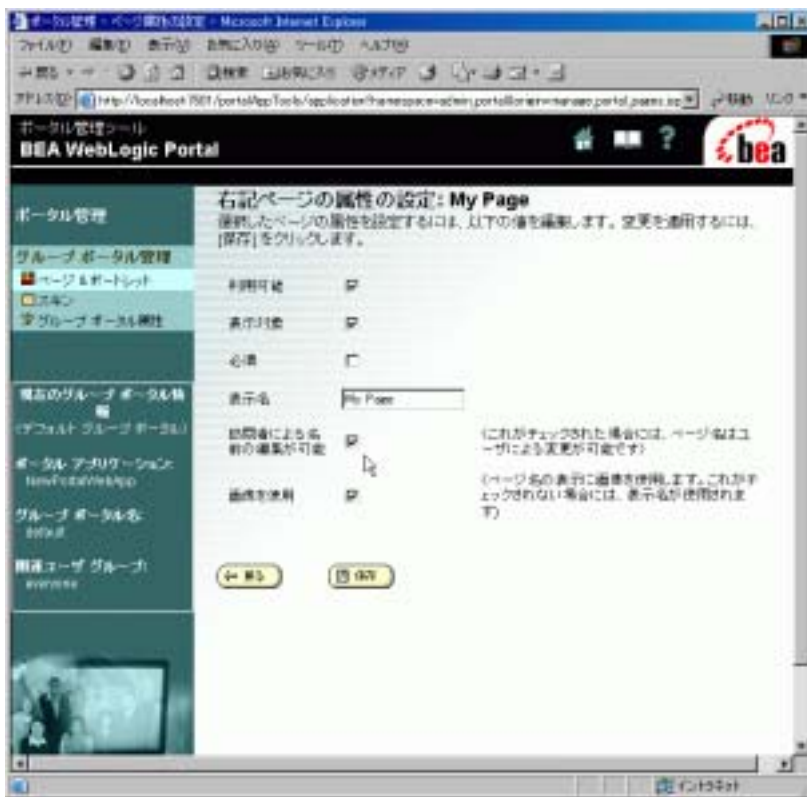
5. [スキンの選択] ページで、[未使用スキン] リストから [選択可能スキン] リストに「**coologic**」を移動します。
6. [選択可能スキン] リストで「**coologic**」を選択し、リストの下にある [デフォルトとして設定] ボタンをクリックして、「**coologic**」をデフォルトのスキンにします (図 3-17 を参照)。

図 3-17 デフォルト スキンを設定する



7. [**保存**] をクリックします。[グループ ポータル管理ホーム] ページに戻ります。
8. [**ページとポートレットを管理**] リンクをクリックします。
9. [ページおよびポートレット] ページで、[**未使用ページ**] リストの「**My Page**」を選択して、[**属性**] をクリックします。
10. [ページの属性の設定] ウィンドウで、以下のオプションを選択します (図 3-18 を参照)。
 - [**利用可能**]
 - [**表示対象**]
 - [**訪問者による名前の編集が可能**]

図 3-18 ページのオプションを設定する

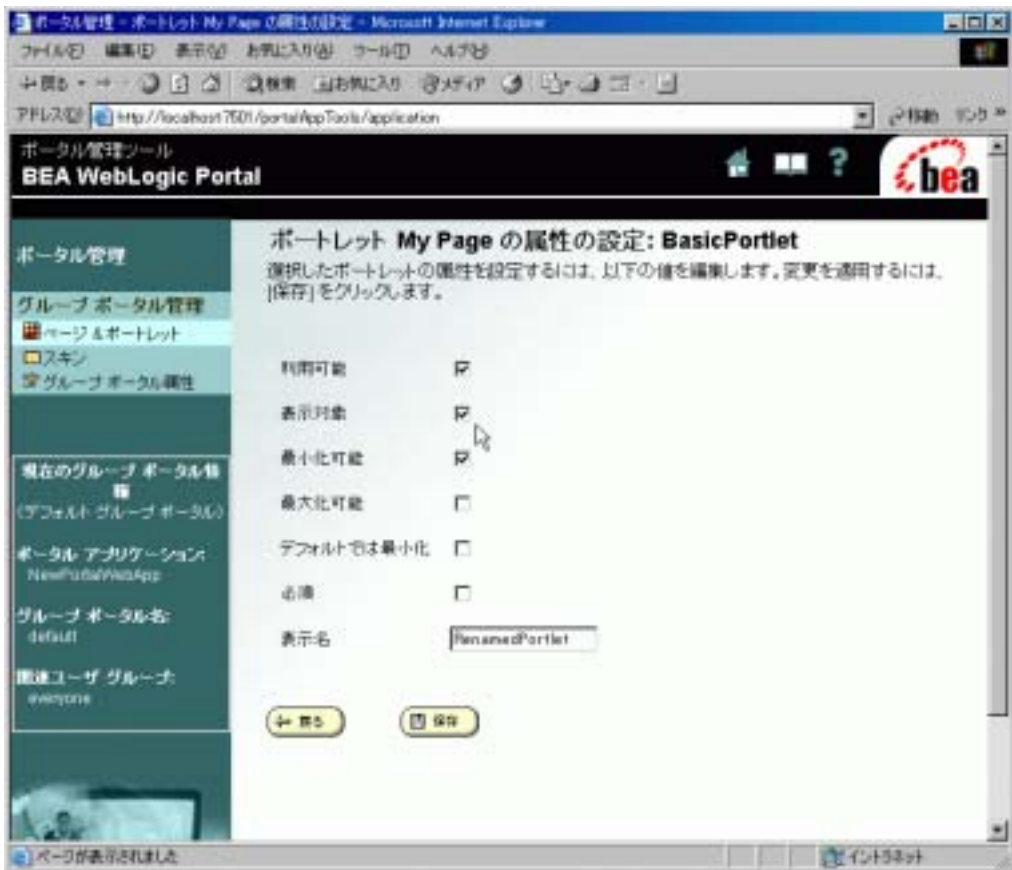


11. [**保存**] をクリックします。[**ページおよびポートレット**] ページに戻ります。
「 **My Page** 」が [**選択可能ページ**] リストに表示されていることを確認してください。
12. 「 **My Page** 」の隣の [**レイアウト**] をクリックします。
13. [**ページのレイアウトの選択**] ページで、[**未使用レイアウト**] リストから [**選択可能レイアウト**] リストに「 **fourcolumn** 」を移動し、[**保存**] をクリックします。
14. 「 **My Page** 」の隣の [**ポートレットの編集**] をクリックします。[**ポートレット**] リストで「 **BasicPortlet** 」を選択し、[**属性を設定**] をクリックします。

15. [ポートレット My Page の属性の設定] ページで、以下のオプションを設定します (図 3-19 を参照)。

- [利用可能]
- [表示対象]
- [表示名] を「Renamed Portlet」に変更

図 3-19 ポートレットを表示対象にする



16. [保存] をクリックし、表示されるページの下部にある [戻る] をクリックします。[ページおよびポートレット] ページに戻ります。

ポータルの変更は以上で終わりです。このチュートリアルでは、以下の変更を行いました。

- 「My Page」という名前のページをポータルに追加した。
- 新しいポータル ページにポートレットを追加して、タイトルを変更した。
- ポータルで使用するデフォルトのスキンを変更した。
- 後で切り替えることのできるレイアウトをポータル ページに追加した。

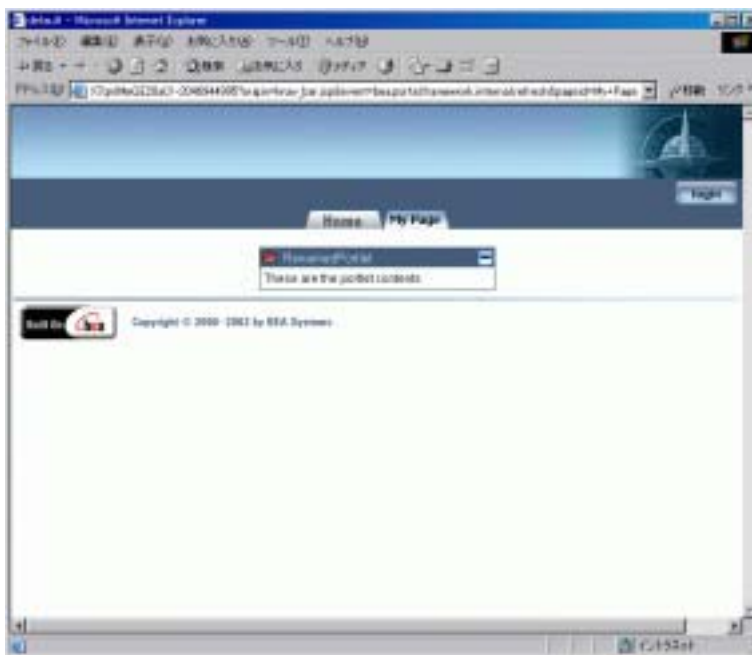
変更したポータルは表示できる状態になっています。

ステップ 6: 変更したポータルを表示する

ブラウザで `http://<hostname>:<port>/<webappName>/index.jsp` にアクセスします。ローカル マシンでサーバを実行している場合には、通常、URL は `http://localhost:7501/NewPWApp/index.jsp` です。

[図 3-20](#) は変更後のポータルの表示です。新しく「My Page」タブが追加されてポートレットの名前が変更された、新しいルック アンド フィールドを確認してください。このポータルと元のポータル ([図 3-1](#)) を比べてみてください。

図 3-20 変更後のポータルを表示する



このチュートリアルは以上で終了です。このチュートリアルでは、管理者がポータルの管理で利用できる方法をいくつか見てきました。グループポータルとグループポータル管理者の作成、キャンペーンの作成、訪問者へのパーソナライズされたデータの提供、従来のシステム管理者が行っていた作業など、管理者は他にもさまざまな作業を実行できます。

これらの作業の手順については、第 II 部「[ポータルの管理](#)」を参照してください。

第4章 チュートリアル - ポータルとグループポータルの作成

グループポータル (Group Portal) は、WebLogic Portal の最も便利な機能の 1 つです。ポータルには、多くのページとポートレットが含まれる可能性があります。一方で、すべてのポータル訪問者に対してすべてのページとポートレットを表示することが、常に適当または便利であるとは限りません。

グループポータルを使うと、ポータル訪問者用にポータルの異なるビューを多数作成することができます。各グループポータルは、固有のロックアンドフィールを備え、特定のページとポートレットを表示し、独自の管理者を持つことができます。これにより、異なる訪問者グループごとに、専任のグループポータル管理者によって管理されるカスタマイズされたポータルを提供できます。

グループポータルは、2種類の方法で作成できます。

- 新しいポータルを作成すると、デフォルトのグループポータルが自動的に作成されます。このチュートリアルでは、この方法を使用します。
- 既存のポータル内にグループポータルを作成できます。この方法については、[第5章「チュートリアル - グループポータルの作成」](#)を参照してください。

このチュートリアルでは、以下の手順について説明します。

- [ステップ 1: ポータルを作成してデプロイする](#)
- [ステップ 2: デフォルトのポートレットを表示対象にする](#)
- [ステップ 3: デフォルトのグループポータルサイトを表示する](#)

ステップ 1: ポータルを作成してデプロイする

新しいポータルを作成すると、デフォルトのグループ ポータルが自動的に作成されます。このステップでは、ポータルを作成することで新しいグループ ポータルを作成する方法を説明します。このチュートリアルでは、Portal Example ドメインにポータルを作成します。

1. [**スタート | プログラム | BEA WebLogic Platform 7.0 | WebLogic Portal 7.0 | Portal Examples | Portal Example | Launch Portal Server**] を選択してサーバを起動します。

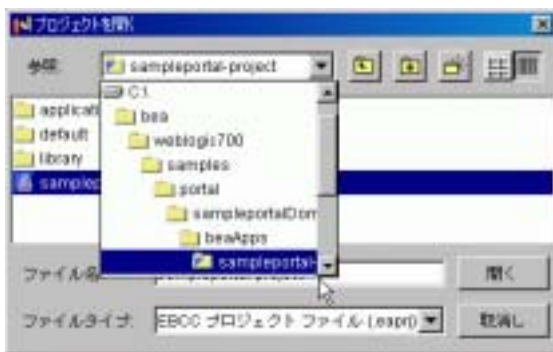
UNIX の場合は、

```
<BEA_HOME>/weblogic700/samples/portal/sampleportalDomain/  
startSamplePortal.sh を実行します。
```

「サーバが RUNNING モードで起動しました。」というメッセージがコマンドウィンドウに表示されたなら、サーバは稼働しています。

2. E-Business Control Center を開きます。1-7 ページの「[E-Business Control Center の起動](#)」を参照してください。
3. E-Business Control Center が起動したら、Portal Examples のプロジェクト ファイルを開きます。[**ファイル | プロジェクトを開く**] を選択し、
<BEA_HOME>weblogic700/samples/portal/sampleportalDomain/
beaApps/sampleportal-project/sampleportal-project ファイルを開きます ([図 4-1](#) を参照)。

図 4-1 プロジェクトファイルを開く



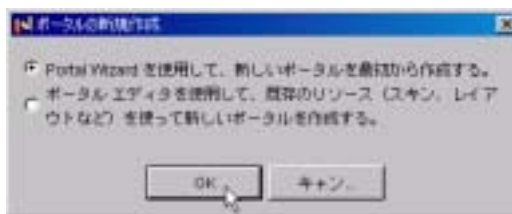
4. E-Business Control Center の [エクスプローラ] ウィンドウの [**プレゼンテーション**] タブをクリックします。
5. [エクスプローラ] ウィンドウの [**新規作成 | ポータル**] をクリックします (図 4-2 を参照) 。

図 4-2 [| ポータルの新規作成] ダイアログを開く



6. [ポータルの新規作成] ウィンドウで、[**Portal Wizard を使用して、新しいポータルを最初から作成する**] オプションを選択し (図 4-3 を参照)、[OK] をクリックします。

図 4-3 Portal Wizard オプション



7. Portal Wizard の最初のウィンドウでは、新しいポータルの名前を指定します (図 4-4 を参照)。このチュートリアルでは、「MyNewPortal」という名前を使用します。

図 4-4 新しいポータルの名前を指定する



8. ポータルは、Web アプリケーション内で稼働する必要があります。新しいポータルが稼働する Web アプリケーションを作成するには、[Web アプリケーション] フィールドの隣の [新規作成] をクリックします。[Portal Web アプリケーションの新規作成] ウィンドウが表示されます。
9. Web アプリケーションの名前を入力し、[OK] をクリックします。このチュートリアルでは、「mynewwebapp」という名前を使用します (図 4-5 を参照)。この名前は大文字と小文字が区別され、ポータルの URL として使用されます。[次へ] をクリックします。

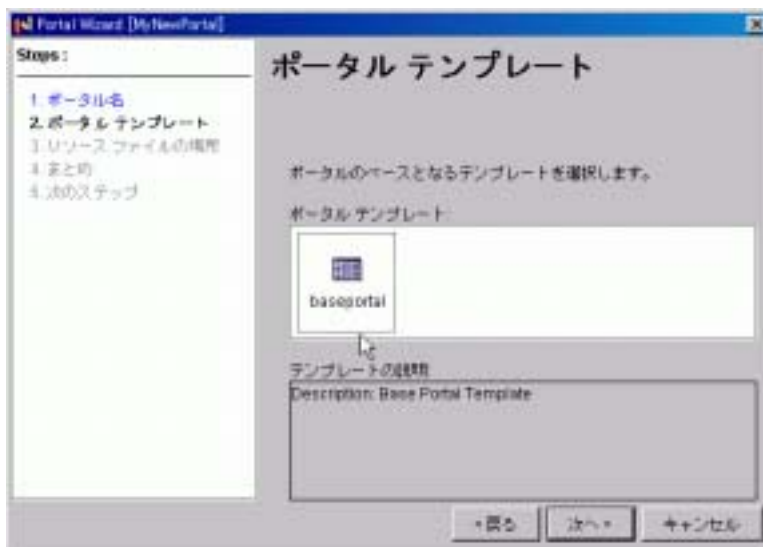
図 4-5 新しいポータル Web アプリケーションの名前を指定する



10. [ポータル テンプレート] ウィンドウでポータル テンプレートをクリックします (図 4-6 を参照)。[次へ] をクリックします。

テンプレートに基づいて、ポータルに必要なすべてのファイルが作成されます。

図 4-6 ポータルのテンプレートを選擇する



11. Web アプリケーションは、エンタープライズ アプリケーションのモジュールです。Web アプリケーションが使用する Enterprise JavaBeans などの共通リソースは、エンタープライズ アプリケーションのレベルで格納されます。[リソース ファイルの場所] ウィンドウで、エンタープライズ アプリケーションの場所が
`<BEA_HOME>\weblogic700\samples\portal\sampleportalDomain\beaApps\sampleportal` に設定されていることを確認します (図 4-7 を参照)。
12. [作成] をクリックします。

図 4-7 リソース ファイルの場所を選択する



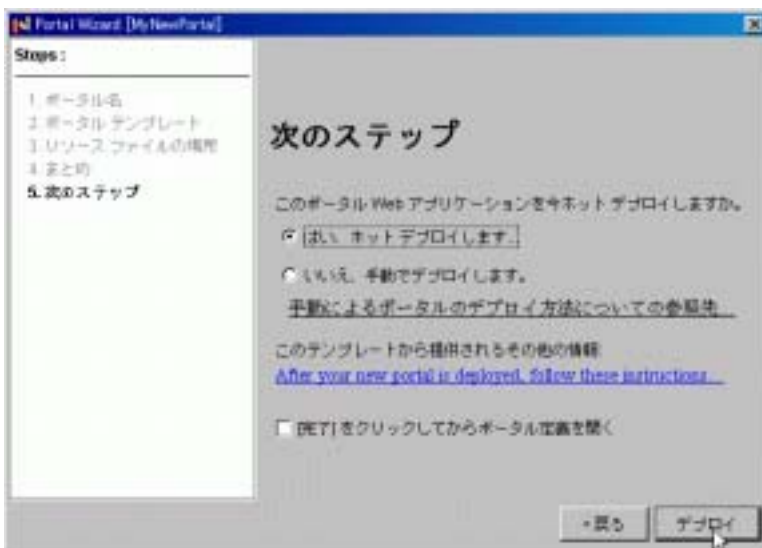
13. [まとめ] ウィンドウ (図 4-8) で [次へ] をクリックします。

図 4-8 まとめ



14. ポータル訪問者がポータルを見ることができるようにするためには、Web アプリケーションをサーバにデプロイする必要があります。[次のステップ] ウィンドウで [はい、ホット デプロイします] オプションを選択し、[デプロイ] をクリックします (図 4-9 を参照)。

図 4-9 新しいポータルをホット デプロイする



15. プロンプトが表示されたなら、WebLogic Server システム管理者のデフォルトのユーザ名とパスワード (weblogic/weblogic) を入力します (図 4-10 を参照)。

図 4-10 WebLogic Server システム管理者のユーザ名とパスワードを入力する



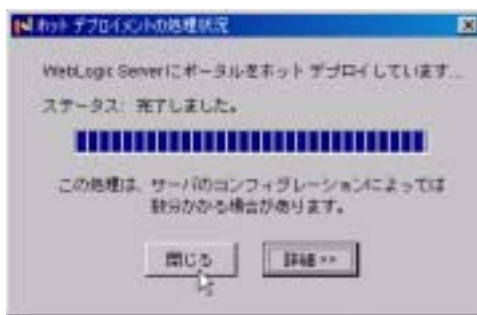
16. デプロイメント処理が実行されて、図 4-11 のウィンドウが表示されます。

図 4-11 ホット デプロイメント中の処理メッセージ



17. 新しいポータルが正しくデプロイされたなら（図 4-12 を参照）[閉じる] をクリックします。

図 4-12 ホット デプロイメントの正常終了メッセージ



注意： ログインが不正なためにホット デプロイが失敗した場合は、E-Business Control Center を閉じて再起動してください。プロジェクト ファイルが自動的に再ロードされます。新しいポータルを削除して作成し直し、正しくログインしてホット デプロイを再び行ってください。

ステップ 2: デフォルトのポータルを表示対象にする

Web アプリケーションのホット デプロイメントに成功したなら、ポータルに対する WebLogic Portal Administration Tools にアクセスできます。このステップでは、WebLogic Portal Administration Tools を使って、ポータル訪問者に対してデフォルト ポータルが表示されるようにします。

1. Windows では、[**スタート | プログラム | BEA WebLogic Platform 7.0 | WebLogic Portal 7.0 | Portal Examples | Portal Example | Start Portal Admin Tools**] を選択して、WebLogic Portal Administration Tools を起動します。

または、ブラウザで次の URL を入力します。

`http://localhost:7501/sampleportalTools`

<hostname>: <port> の部分は必要に応じて正しい値に変更してください。

2. ログインのプロンプトが表示されたなら、デフォルトの WebLogic Portal システム管理者としてログインします (`administrator/password`)。WebLogic Portal Administration Tools のホーム ページが表示されます ([図 4-13](#) を参照)。

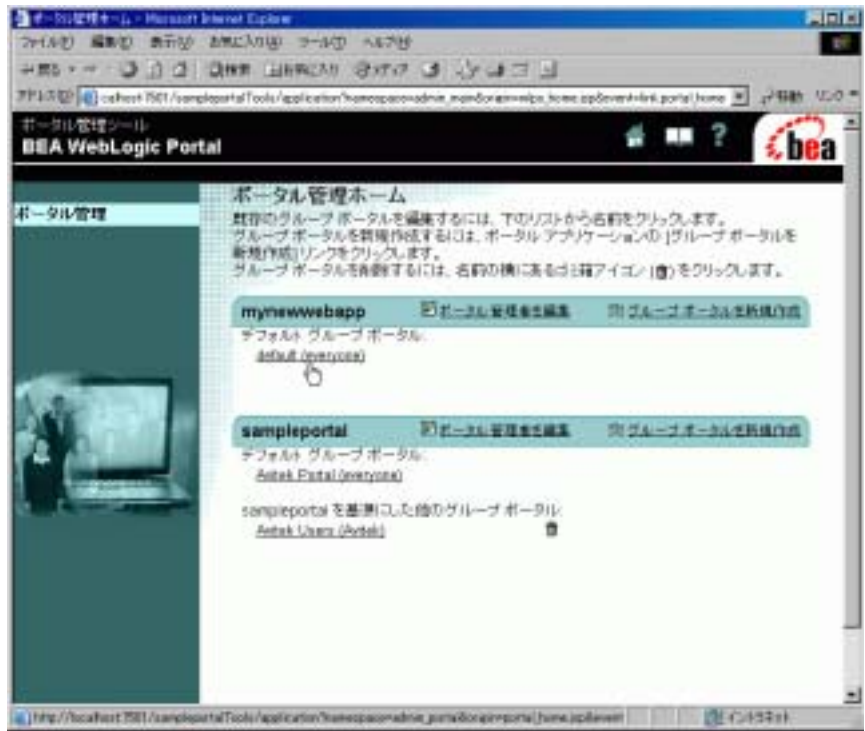
図 4-13 [ポータル管理] アイコンをクリックする



3. [ポータル管理] アイコンをクリックします。[ポータル管理ホーム] ページが表示されます。

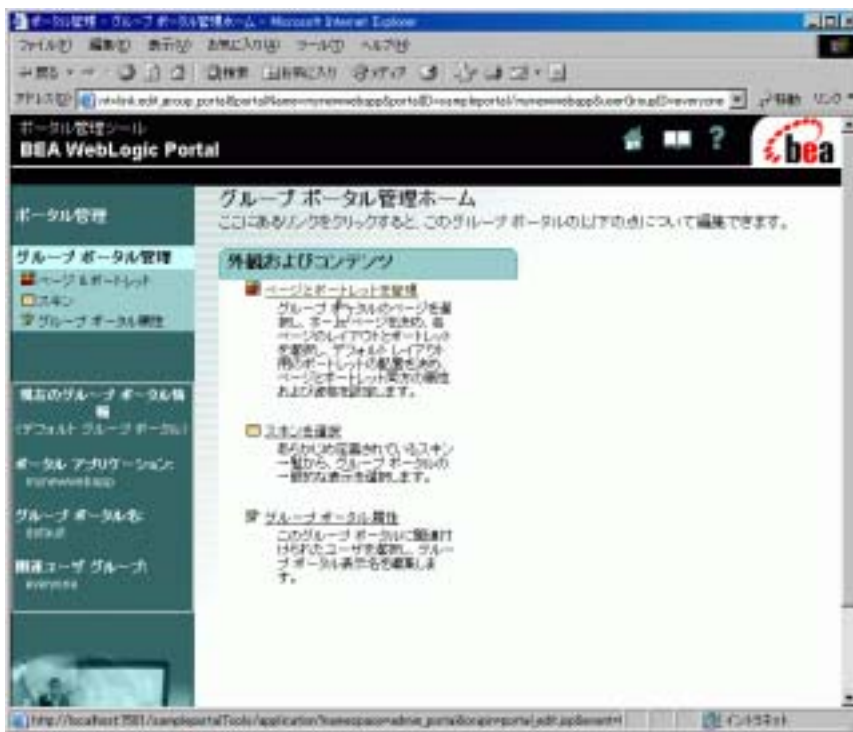
mynewwebapp Web アプリケーションと、デフォルト (everyone) のグループポータルが表示されます (図 4-14 を参照)。

図 4-14 新しいグループ ポータルが表示された [ポータル管理ホーム] ページ



4. 「default (everyone)」グループポータルのリンクをクリックします。[グループポータル管理ホーム] ページが表示されます (図 4-15 を参照)。

図 4-15 [グループ ポータル管理ホーム] ページ



デフォルトのグループ ポータルには、**everyone** ユーザ グループが関連付けられています。つまり、ログインしないでポータル Web サイトを訪れたすべてのユーザに対して、ポータルのデフォルト ビューが表示されます。[グループ ポータル管理ホーム] ページでは、グループ ポータルが使用するルック アンド フィール (スキンとレイアウト) を変更したり、グループ ポータルのページとポートレットを管理したり、グループ ポータルの管理者をセットアップしたりすることができます。

このチュートリアルでは、デフォルト ポートレットが表示されるようにします。

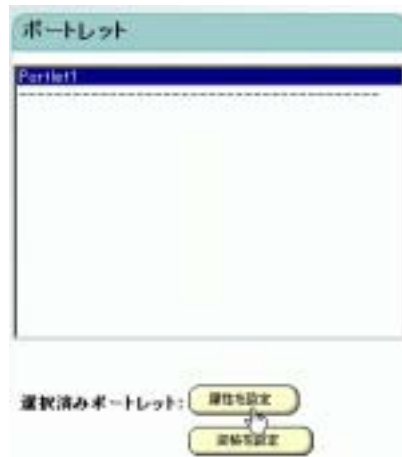
5. [**ページとポートレットを管理**] をクリックします。
6. 表示される [**ページおよびポートレット**] ページで、[**ポートレットの編集**] をクリックします ([図 4-16](#) を参照) 。

図 4-16 ホーム ページのポートレットを編集する



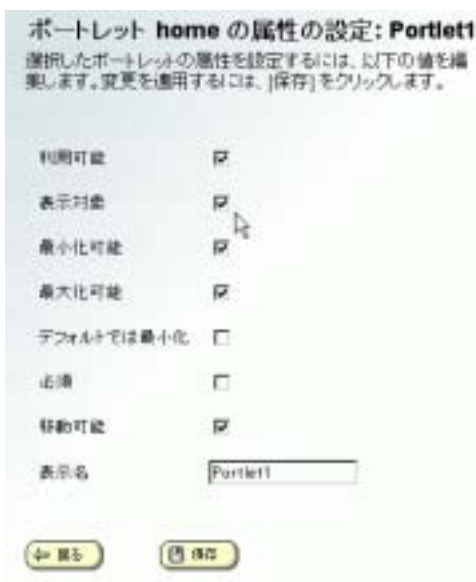
7. 表示される [ポートレットの資格と属性の編集] ページでは、「Portlet1」を選択して [属性を設定] をクリックします (図 4-17 を参照)。

図 4-17 ポートレットの属性を設定する



8. 表示される [ポートレット home の属性の設定] ページでは、[利用可能] オプションと [表示対象] オプションを選択し (図 4-18 を参照) [保存] をクリックします。

図 4-18 ポートレットを表示対象にする



この状態で、デフォルトのグループ ポータルを表示してみます。

ステップ 3: デフォルトのグループ ポータル サイトを表示する

作成した新しいポータルには、1つのページ、1つのデフォルト ポートレット、そしてデフォルトのスキンとレイアウトだけが含まれています。作成されたデフォルトのグループ ポータルは **everyone** グループに割り当てられているので、ログインしないでポータルを訪れるすべての訪問者に対し、デフォルト グループ ポータルのビューが表示されます。

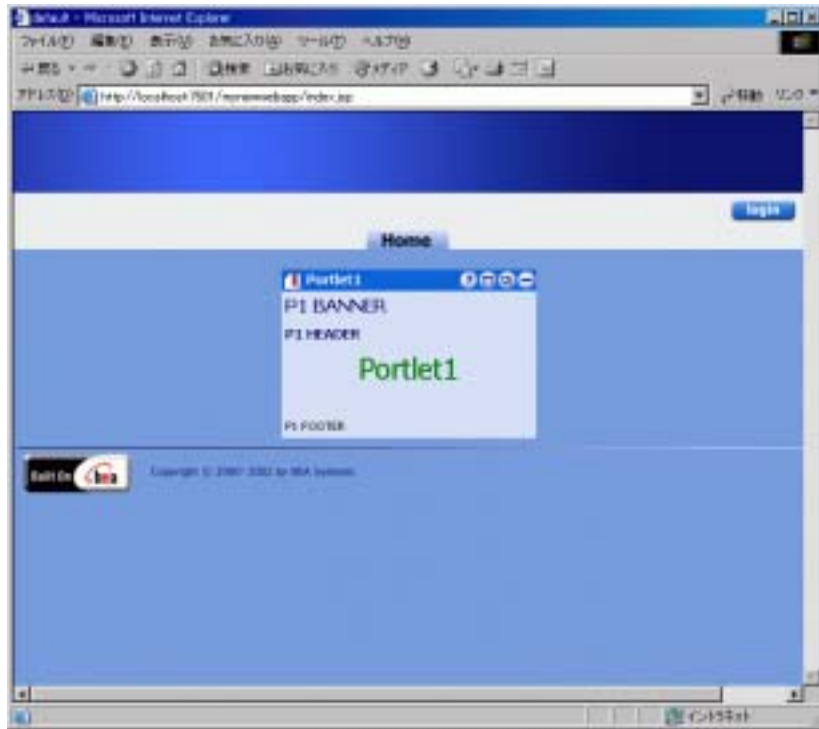
このポータルのデフォルト グループ ポータルのビューを見るには、ブラウザで次の URL を入力します。

<http://localhost:7501/mynewwebapp>

ステップ 3: デフォルトのグループ ポータル サイトを表示する

<hostname>:<port> の部分は必要に応じて正しい値に変更してください。ポータル
のデフォルト ビューが表示されます (図 4-19 を参照)。

図 4-19 デフォルトのグループ ポータル



第5章 チュートリアル - グループ ポータルの作成

ポータルには、多くのページとポートレットが含まれる可能性があります。一方で、すべてのポータル訪問者に対してすべてのページとポートレットを表示することが、常に適当または便利であるとは限りません。

グループ ポータルを使うと、ポータル訪問者用にポータルの異なるビューを多数作成することができます。各グループ ポータルは、固有のロック アンド フィールドを備え、特定のページとポートレットを表示し、独自の管理者を持つことができます。これにより、異なる訪問者グループごとに、専任のグループ ポータル管理者によって管理されるカスタマイズされたポータルを提供できます。

グループ ポータルは、2 種類の方法で作成できます。

- 既存のポータル内にグループ ポータルを作成できます。このチュートリアルでは、この方法を使用します。Portal Example にグループ ポータルを追加します。
- 新しいポータルを作成すると、デフォルトのグループ ポータルが自動的に作成されます。この方法については、[第4章「チュートリアル - ポータルとグループ ポータルの作成」](#)を参照してください。

このチュートリアルでは、以下の手順について説明します。

- [ステップ 1: グループ ポータルの基になるグループを作成する](#)
- [ステップ 2: 既存のポータルにグループ ポータルを作成する](#)
- [ステップ 3: グループ ポータルをカスタマイズする](#)
- [ステップ 4: グループ ポータル サイトを表示する](#)

ステップ 1: グループ ポータルの基になるグループを作成する

既存のポータルにグループ ポータルを作成するには、グループ ポータルと既存のユーザ グループを関連付ける必要があります。その後、そのユーザ グループに属する訪問者がログインすると、グループ ポータルのビューで定義されているポータルの体裁とコンテンツが表示されます。

このステップでは、新しいグループを作成してユーザを追加し、そのグループに基づいてグループ ポータルを作成する方法について説明します。

1. [**スタート | プログラム | BEA WebLogic Platform 7.0 | WebLogic Portal 7.0 | Portal Examples | Portal Example | Launch Portal Server**] を選択してサーバを起動します。

UNIX の場合は、

```
<BEA_HOME>/weblogic700/samples/portal/sampleportalDomain/  
startSamplePortal.sh を実行します。
```

「サーバが RUNNING モードで起動しました。」というメッセージがコマンドウィンドウに表示されたなら、サーバは稼働しています。

2. WebLogic Portal Administration Tools を起動します。Windows の場合は、[**スタート | プログラム | BEA WebLogic Platform 7.0 | WebLogic Portal 7.0 | Portal Examples | Portal Example | Start Portal Admin Tools**] を選択します。

UNIX の場合は、ブラウザで次の URL を入力します。

```
http://localhost:7501/sampleportalTools
```

<hostname> : <port> の部分は、必要に応じて正しい値に変更してください。

3. ログインのプロンプトが表示されたなら、デフォルトの WebLogic Portal システム管理者としてログインします (administrator/password)。WebLogic Portal Administration Tools のホーム ページが表示されます ([図 5-1](#) を参照)。

ステップ 1: グループ ポータルの基になるグループを作成する

図 5-1 [ユーザ管理] アイコンをクリックする



4. [ユーザ管理] アイコンをクリックします。[ユーザ管理] ホーム ページが表示されます (図 5-2 を参照)。

図 5-2 [ユーザ管理] ホーム ページ



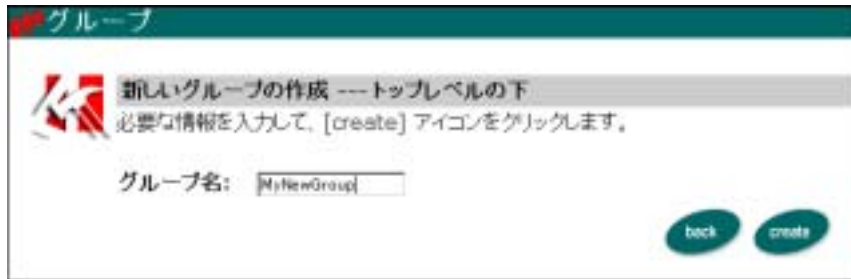
5. [グループ] バーの [create] をクリックします。[グループ] ページが表示されます。
6. [グループ] ページの下端にある [**トップレベルにサブグループを追加する**] の隣の [+] アイコンをクリックします (図 5-3 を参照) 。

図 5-3 グループを追加する



7. 表示される [新しいグループの作成] ページで、グループの名前を入力し、[create] をクリックします。このチュートリアルでは、「MyNewGroup」という名前を使用します (図 5-4 を参照) 。 ページ上部に確認メッセージが表示されます。

図 5-4 新しいグループを作成する



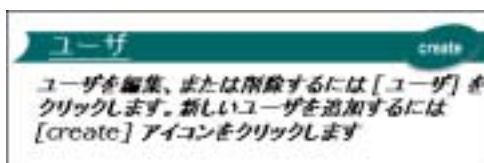
8. ページ下部の [back] アイコンをクリックして、[グループ] ページに戻ります。リストに新しいグループが表示されます (図 5-5 を参照)。

図 5-5 新しいグループが表示される



9. 次に、ユーザを作成して新しいグループに追加します。[グループ] ページの下部にある [Finished] をクリックして、[ユーザ管理] ホーム ページに戻ります。
10. [ユーザ管理] ホーム ページで、[ユーザ] バーの [create] をクリックします (図 5-6 を参照)。

図 5-6 新しいユーザを作成する



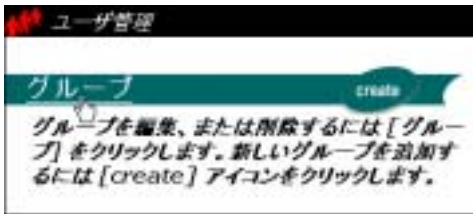
11. 表示される [新しいユーザの作成] ページで、新しいユーザの**ユーザ名**と**パスワード**を入力し、**ユーザタイプ**として「User」を選択して、[create] をクリックします (図 5-7 を参照)。ユーザ名とパスワードでは、大文字と小文字が区別されます。このチュートリアルでは、ユーザ名とパスワードとして「myuser」と「password」を使用します。

図 5-7 新しいユーザのユーザ名とパスワードを入力する



12. [create] をクリックします。ページ上部に確認メッセージが表示されます。
13. ページ下部の [back] アイコンをクリックして、[ユーザ管理] ホームページに戻ります。
14. 次に、新しいユーザを新しいグループに追加します。[グループ] リンクをクリックします (図 5-8 を参照)。

図 5-8 グループにアクセスする



15. 表示される [グループ] ページで、「MyNewGroup」のリンクをクリックします (図 5-9 を参照)。

図 5-9 新しいグループを編集する



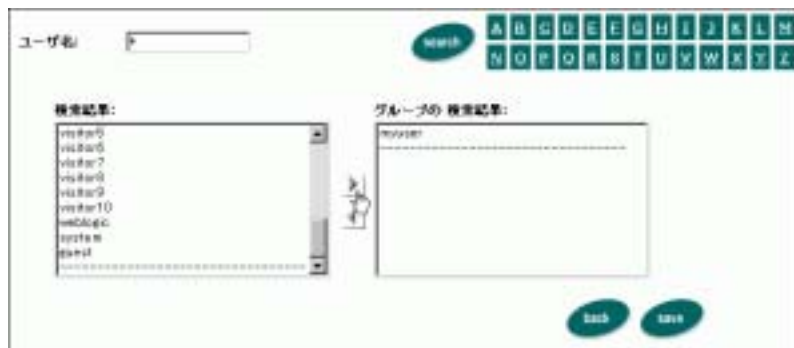
16. 表示される [グループ : MyNewGroup] ページで、[ユーザ] バーの [+/-] アイコンをクリックします (図 5-10 を参照)。

図 5-10 [+/-] アイコンをクリックする



17. 表示される [グループ検索結果の追加 / 削除] ページで、[ユーザ名] フィールドにアスタリスク (*) を入力し、[search] をクリックします。ユーザのリストが [検索結果] リストに表示されます。
18. [検索結果] リストで「myuser」を選択し、右矢印をクリックして、ユーザを [グループの検索結果] リストに移動します (図 5-11 を参照)。

図 5-11 新しいユーザを追加する



19. [save] をクリックします。ページ上部に確認メッセージが表示されます。
20. ページ上部の [home] アイコンをクリックし、WebLogic Portal Administration Tools のホーム ページに戻ります。

ステップ 2: 既存のポータルにグループ ポータルを作成する

ユーザ グループを作成したので、そのグループを基にしてグループ ポータルを作成できます。

1. WebLogic Portal Administration Tools ホーム ページで、[**ポータル管理**] アイコンをクリックします ([図 5-12](#) を参照)。[ポータル管理ホーム] ページが表示されます。

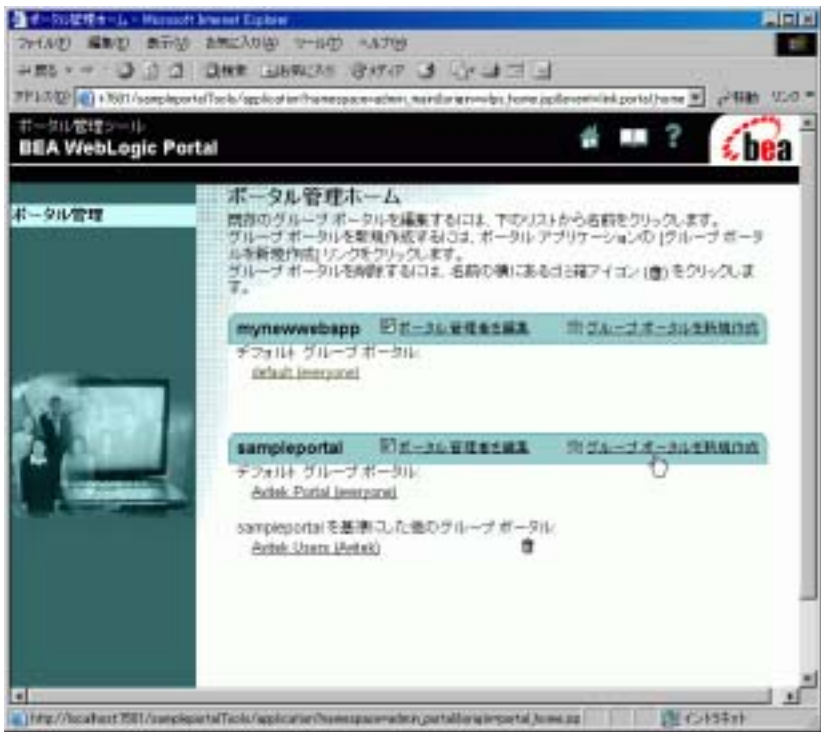
図 5-12 [ポータル管理] アイコンをクリックする



[ポータル管理ホーム] ページ ([図 5-13](#) を参照) には、デプロイされているすべての Web アプリケーション (ポータル) が表示されます。各 Web アプリケーションの下には、それぞれに対して定義されているグループ ポータルのリストが表示されます。この例では、前のチュートリアルで mynewwebapp ポータルを作成しました。

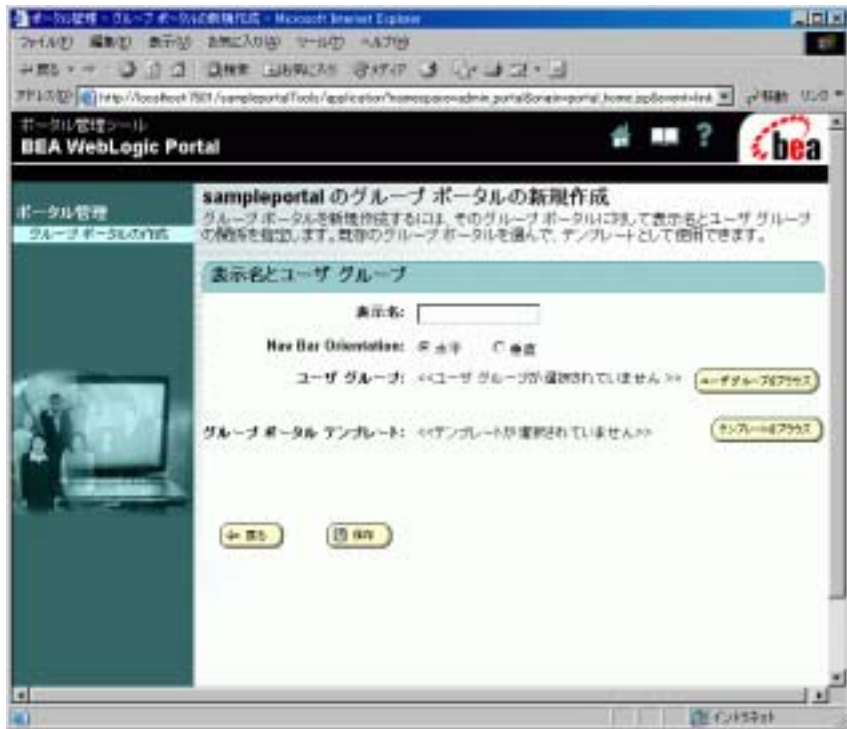
ただし、このチュートリアルでは、sampleportal ポータルにグループ ポータルを追加します。

図 5-13 [ポータル管理ホーム] ページ



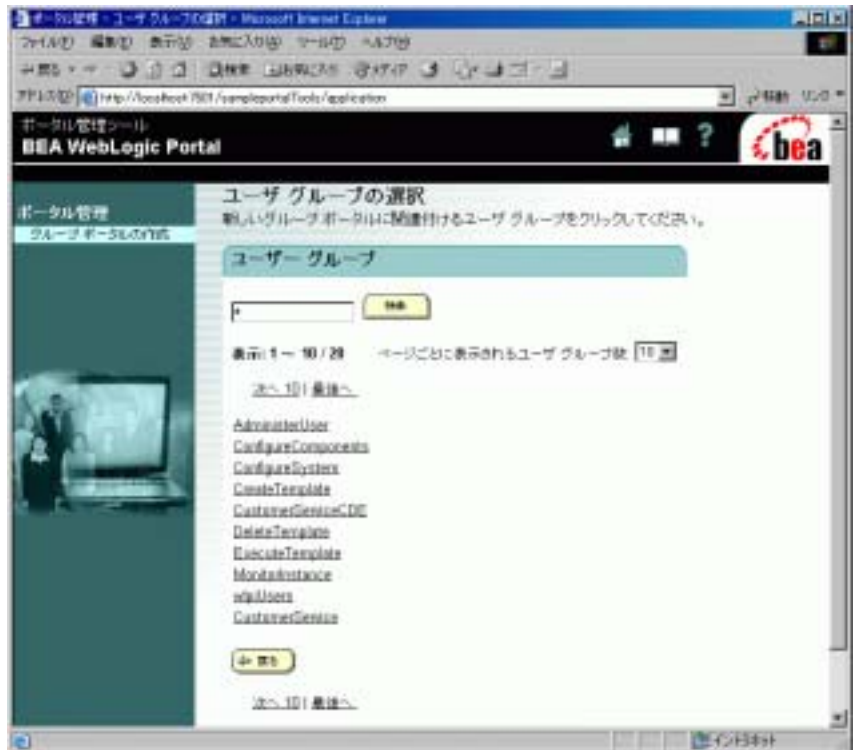
2. 「sampleportal」バーの [グループポータルを新規作成] をクリックします。 [グループポータルの新規作成] ページが表示されます (図 5-14 を参照)。

図 5-14 新しいグループ ポータルを作成する



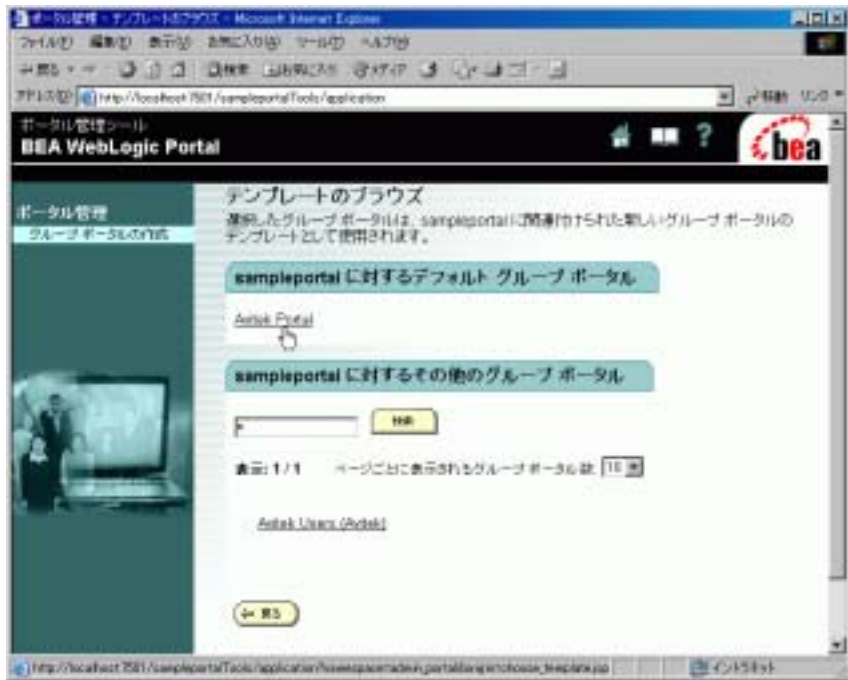
3. [**表示名**] フィールドにグループ ポータルの名前を入力します。このチュートリアルでは、「**My New Group Portal**」と入力します。
4. 次に、前のステップで作成したユーザグループとグループ ポータルを関連付けます。[**ユーザグループをブラウズ**] をクリックします。[ユーザグループの選択] ページが表示されます (図 5-15 を参照)。

図 5-15 ユーザグループとグループポータルを関連付ける



5. [ユーザーグループの選択] ページには、最初の 10 グループだけが表示されています。すべてのグループを表示するには、[ページごとに表示されるユーザーグループ数] フィールドで「50」を選択します。ページが更新されて、すべてのグループが表示されます。
6. リストの「MyNewGroup」をクリックします。グループが選択されて、[グループポータルの新規作成] ページが表示されます。
7. 次に、新しいグループポータルを作成するためのテンプレートとして、既存のグループポータルを選択します。[テンプレートをブラウズ] をクリックします。[テンプレートのブラウズ] ページが表示されます (図 5-16 を参照)。

図 5-16 グループ ポータルのテンプレートを選択する



8. [デフォルト グループ ポータル] セクションで、「Avitek Portal」を選択します。テンプレートが選択されて、[グループ ポータルの新規作成] ページが表示されます。
9. [保存] をクリックして、新しいグループ ポータルを保存します (図 5-17 を参照)。

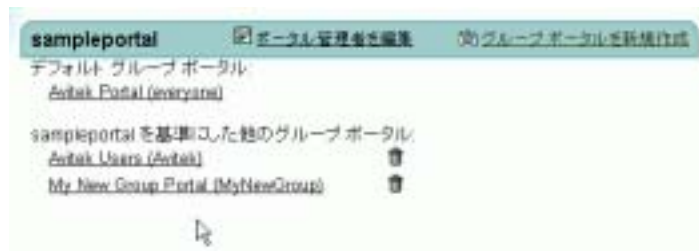
注意: [資格をコピー] オプションを指定すると、グループ ポータル テンプレートに対して定義されている資格を、新しいグループ ポータルで使用できます。資格は、グループ ポータル メンバーがアクセスできるページとポートレットをさらに制限します。

図 5-17 グループ ポータルを保存する



[ポータル管理ホーム] ページに戻り、新しいグループ ポータルの名前が表示されます (図 5-18 を参照)。

図 5-18 新しいグループ ポータル



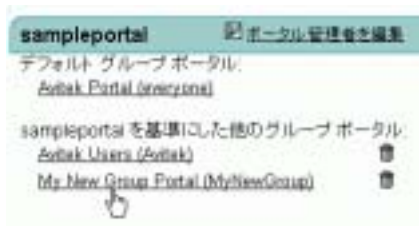
MyNewGroup に属する訪問者がログインすると、My New Group Portal で定義されているポータルのビューが表示されます。

ステップ 3: グループ ポータルをカスタマイズする

このステップでは、My New Group Portal を変更して、ポータルの異なるビューを定義します。グループ ポータルに属する訪問者がログインすると、ポータルの変更後のビューが表示されます。

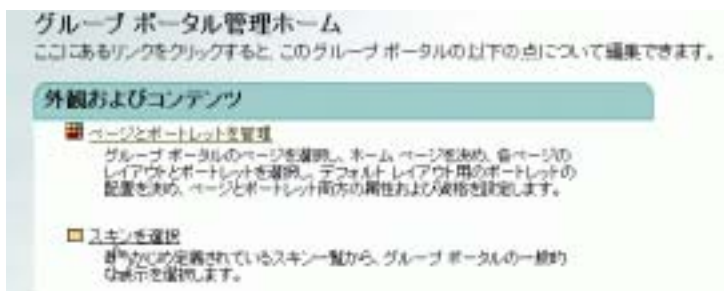
1. 最初に、スキンを変更することで、このグループ ポータルに対するポータルのルック アンド フィールを変更します。[ポータル管理ホーム] ページで、「My New Group Portal」をクリックします (図 5-19 を参照)。

図 5-19 新しいグループ ポータルを変更する



2. 表示される [グループ ポータル管理ホーム] ページで、[スキンを選択] をクリックします (図 5-20 を参照)。

図 5-20 グループポータルのスキンを変更する



- 表示される [スキンの選択] ページの [選択可能スキン] リストで「lumiereorange」を選択し、[デフォルトとして設定] をクリックします (図 5-21 を参照)。lumiereorange スキンの前にアスタリスクが表示され、デフォルトスキンであることが示されます。

図 5-21 デフォルトスキンを変更する



- [保存] をクリックします。[グループポータル管理ホーム] ページが表示されます。

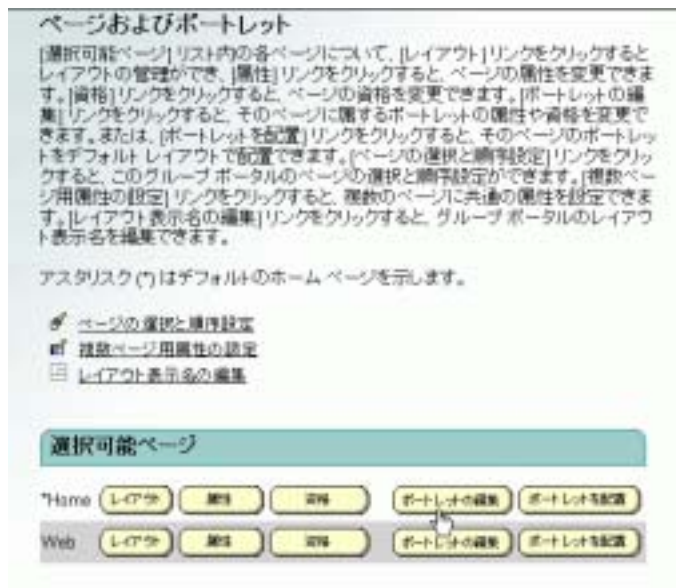
ステップ 3: グループ ポータルをカスタマイズする

- 次に、グループ ポータルのホーム ページに表示されるポートレットを決定します。最初に、すべてのポートレットをホーム ページで利用不能にした後、表示するポートレットだけを利用できるようにします。

[グループ ポータル管理ホーム] ページで、[ページとポートレットを管理] をクリックします。[ページおよびポートレット] ページが表示されます。

- [選択可能ページ] 領域で、[Home] 行の [ポートレットの編集] をクリックします (図 5-22 を参照)。

図 5-22 ポートレットを編集する



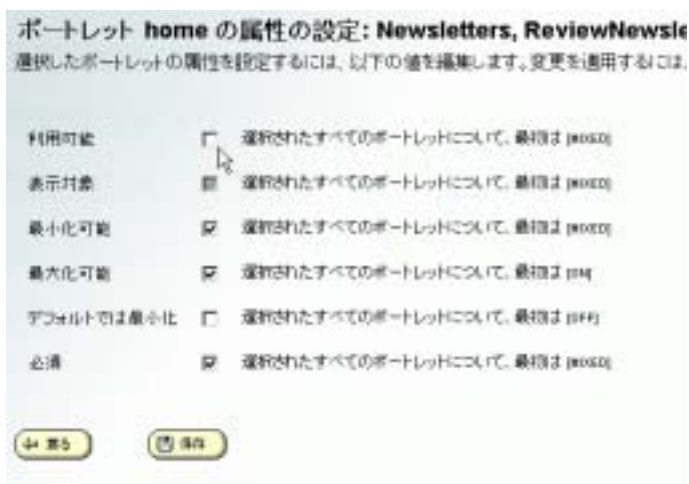
- 表示される [ポートレットの資格と属性の編集] ページで、リストのポートレットをすべて選択します (図 5-23 を参照)。ポートレットをすべて選択するには、リストの最初のポートレットを選択した後、[Shift] を押しながらリストの最後のポートレットを選択します。

図 5-23 利用不能にするためにすべてのポートレットを選択する



8. [**属性を設定**] をクリックします。
9. 表示される [ポートレット home の属性の設定] ページで、[利用可能] オプションの選択を解除し (図 5-24 を参照) [**保存**] をクリックします。

図 5-24 ポートレットをホーム ページで利用不能にする



10. ホーム ページで利用できるポートレットがなくなったので、利用できるようにするポートレットだけを選択します。[ポートレットの資格と属性の編集] ページで、[Ctrl] を押しながら以下のポートレットを選択します (図 5-25 を参照)。

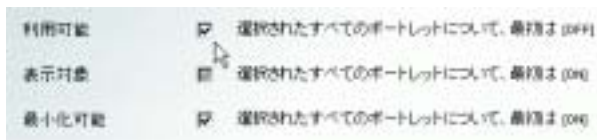
- MyToDo
- PrimaryCampaign
- CustomerService

図 5-25 ホーム ページで使用するポートレットを選択する



11. [**属性を設定**] をクリックします。[ポートレット home の属性の設定] ページが表示されます。
12. [**利用可能**] オプションを選択し (図 5-26 を参照)、[**保存**] をクリックします。

図 5-26 グループ ポータルでポートレットを利用できるようにする



13. 表示される [ポートレットの資格と属性の編集] ページで、ページ下部にある [**戻る**] ボタンをクリックし、[ページおよびポートレット] ページに戻ります。
14. グループ ポータルでポートレットを利用できるようにしたので、ホームページ上でポートレットがどのように配置されるのかを確認します。[選択可能ページ] 領域で、[Home] 行の [**ポートレットを配置**] をクリックします (図 5-27 を参照)。

図 5-27 ポートレットをホーム ページに配置する



15. 情報ダイアログ ボックスが表示されたなら、[OK] をクリックします。
16. [ポートレットの配置] ページで、グループ ポータルのホーム ページに表示されるポートレットのデフォルト位置を確認します (図 5-28 を参照)。

図 5-28 ポートレットの位置を確認する



17. [保存] をクリックします。
- この状態で、新しいグループ ポータルを表示してみます。

ステップ 4: グループ ポータル サイトを表示する

新しいグループ ポータルの作成とコンフィグレーションが終わったので、新しいグループ ポータル サイトを表示できます。最初にポータルの URL に移動してデフォルトのグループ ポータルにアクセスした後、作成した新しいユーザとしてログインすれば、ユーザがアクセスできるグループ ポータルが表示されます。

1. ブラウザで、次の URL を入力します。

`http://localhost:7501/sampleportal`

<hostname>:<port> の部分は、必要に応じて正しい値に変更してください。
デフォルトのグループ ポータルが表示されます (図 5-29 を参照)。スキン
(ページのデザイン) とポートレットに注目してください。

図 5-29 デフォルトのグループ ポータル



- 次に、作成した新しいユーザとしてログインします。新しいユーザは作成した MyNewGroup ユーザグループのメンバーであり、MyNewGroup は新しいグループ ポータルに割り当てられているので、ログインすると新しいグループ ポータルが表示されます。

[login] をクリックし、ユーザ名とパスワードとして `myuser/password` を入力します。新しいグループ ポータルが表示されます (図 5-30 を参照)。

図 5-30 新しいグループ ポータル



ホームページのスキンとポートレットを注目してください。このチュートリアルでコンフィグレーションしたものになっているはずです。

[web] タブをクリックすると、[web] ページには別のポートレットが表示されます。これは、ポートレットを変更したのは [home] ページに対してだけで、[web] ページについては変更していないためです。[web] ページのポートレットを変更するには、5-15 ページの「ステップ 3: グループ ポータルをカスタマイズする」の手順を繰り返し、[Web] 行の [**ポートレットの編集**] と [**ポートレットを配置**] をクリックしてください (図 5-22 を参照)。

第 II 部 ポータルの管理

開発者が、ポータルおよびそのグラフィックス、コンテンツ、スキン、ポートレットなどのリソースを作成したなら、これらのリソースを使って、ポータルの管理や変更、パーソナライゼーション機能の作成、キャンペーンの開発、システム管理作業などを行うことができます。第 II 部では、従来のシステム管理作業に加えて、このような作業を実行する手順についても説明します。

第 II 部では、以下の内容について説明します。

- [ユーザとグループの管理](#)
- [ポータルとポートレットの属性の管理](#)
- [パーソナライゼーションと対話の管理](#)
- [キャンペーンの作成](#)
- [Commerce サービスの管理](#)
- [システム管理](#)
- [データベーススキーマ](#)

第6章 ユーザとグループの管理

WebLogic Portal では、ユーザはポータルへの訪問者または管理者です。

ポータル Web サイトへの訪問者としてのユーザには、特定の Web ポータルのコンテンツを表示または使用したり、ポータルのビューをパーソナライズしたりするための権限を与えることができます。

また、ユーザは、WebLogic Portal の管理者である場合もあります。与えられる権限の種類により、管理者は、新しいポータルの作成、訪問者や他の管理者の権限の変更、ポータルに表示されるさまざまな属性の変更を行うことができます。管理者の種類とその権限属性については、[6-23 ページの「管理ユーザの作成」](#)を参照してください。

ユーザは、グループ (Group) に分類し、カスタマイズしたポータルのビューを提供できる点でも重要です。グループポータル (Group Portal) とは、あるユーザグループに対して定義されたポータルの特定のビューのことです。1つのポータル Web アプリケーション内には、複数のグループポータルを作成できます。グループポータルでは、レイアウトやポートレットなどのポータルリソースを共有できる一方で、グループごとにコンフィグレーションを変えて、それぞれのニーズに個別に対応することができます。

注意： WebLogic Portal では、既存の WebLogic Portal データベース内、または LDAP サーバなどの外部システム内に既に存在しているユーザとグループを使用できます。ユーザとグループが既に設定されている場合は、この章の「ユーザの作成と管理」および「ユーザグループの作成と管理」で説明されている作業を省略できます。

この章では、以下の内容について説明します。

- [始める前に：ユーザに対するセキュリティ](#)
- [ユーザの作成と管理](#)
- [ユーザグループの作成と管理](#)
- [グループポータルの作成と管理](#)
- [管理ユーザの作成](#)

- ページとポートレットへのアクセスを制御するためのグループの作成
- 顧客に合わせてコンテンツを提供するためのグループの作成

始める前に：ユーザに対するセキュリティ

この節では、管理ツールを起動してログインできる管理ユーザについて説明します。

LDAP サーバなどの外部セキュリティ システムを使用してユーザを管理する場合は、そのシステムで認証セキュリティをコンフィグレーションする必要があります。外部セキュリティ レルムとの統合については、『開発者ガイド』の「ポータルへのセキュリティの追加」

(<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wlp/docs70/dev/securty.htm>) を参照してください。

デフォルトの管理者とパスワードの変更

次に示すのは、新しいドメインの作成時に作成されるデフォルトの管理者とパスワードです。ここで説明する手順に従って、これらのパスワードを変更して管理のセキュリティを確実にした後、必要に応じて追加の管理者を作成します。

表 6-1 デフォルトの管理者

ユーザ	パスワード	解説
system	weblogic	ドメインにおけるすべての特権を持つ WebLogic Server システム管理者
weblogic	weblogic	
administrator	password	エンタープライズ アプリケーションにおけるすべての特権を持つ WebLogic Portal システム管理者。エンタープライズ アプリケーションは、複数のポータルを含むことができる。

ユーザの作成と管理

この節では、WebLogic Portal Administration Tools の**ユーザ管理**ツールを使って、ユーザを作成および管理する手順について説明します。WebLogic Server Console およびグループ ポータルでも、ユーザを作成および管理できます。

注意： WebLogic Server Console には WebLogic Server システム管理者だけがログインでき、[**セキュリティ | レalm | Compatibility Realm**] 領域でユーザの作成と管理を行います。

この節で説明する手順では、WebLogic Portal システム管理者またはユーザ管理特権を持つポータル管理者またはグループ ポータル管理者として、ユーザが WebLogic Portal Administration Tools にログインできることを前提としています。詳細については、[6-23 ページの「管理ユーザの作成」](#)を参照してください。

この節では、以下の内容について説明します。

- [ユーザの作成](#)
- [ユーザの変更と削除](#)

ユーザの作成

ユーザを作成すると、ユーザはドメインに保存されて、自動的にそのドメインのすべてのアプリケーションで利用できるようになります。

新しいユーザの作成は、以下の手順で行います。

1. WebLogic Portal Administration Tools を起動します。1-6 ページの「WebLogic Portal Administration Tools の起動」を参照してください。
2. [管理ツール ホーム ページ] で、[ユーザ管理] アイコンをクリックします。
[ユーザ管理] ホーム ページが表示されます (図 6-1)。

図 6-1 [ユーザ管理] ホーム ページ



3. [ユーザ] バーの [create] をクリックします。
4. [新しいユーザの作成] ページで、ユーザ名とパスワードを入力します。

ユーザ名では大文字と小文字が区別されます。また、「system」または「guest」というユーザを作成することはできません。これらは、WebLogic Server で予約されている名前です。

[**ユーザタイプ**] では、プロファイルタイプを選択します。ユーザは、このプロファイルタイプのインスタンスになります。これにより、システムは統合ユーザプロファイルタイプの明示的プロパティにアクセスできるので、ユーザを削除するとデータが適切にクリーンアップされます。

5. [**create**] をクリックします。ページバナーの下に確認メッセージが表示されて、ページの下部には新しいユーザが表示されます。
6. 必要に応じて、さらにユーザを作成します。
7. ページ下部にある [**back**] をクリックして、[ユーザ管理] ホームページに戻ります。

ユーザの変更と削除

この節では、以下の内容について説明します。

- [ユーザのパスワードの変更](#)
- [ユーザのプロパティの変更](#)
- [ユーザの削除](#)

ユーザのパスワードの変更

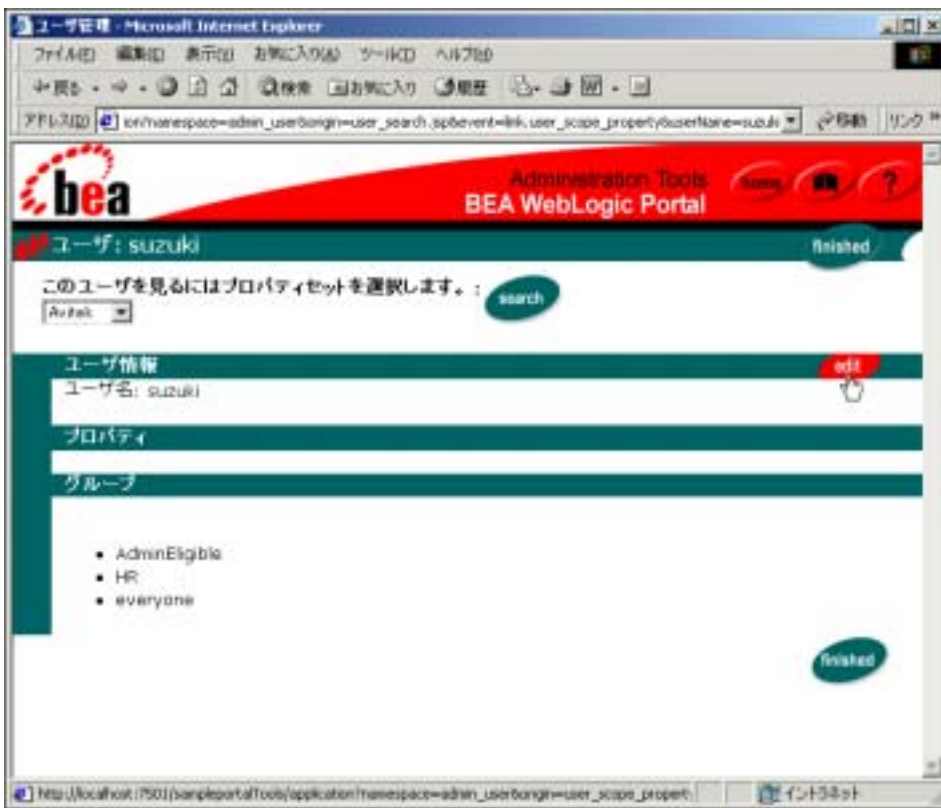
ユーザのパスワードの変更は、以下の手順で行います。

1. WebLogic Portal Administration Tools を起動します。手順については [1-6 ページの「WebLogic Portal Administration Tools の起動」](#) を参照してください。
2. [管理ツール ホーム ページ] で、[**ユーザ管理**] アイコンをクリックします。[ユーザ管理] ホーム ページが表示されます ([図 6-1](#))。
3. [ユーザ管理] ホーム ページで [**ユーザ**] ラベルをクリックします。
4. [ユーザの検索] ページで、ユーザ名の先頭文字をクリックして、パスワードを変更するユーザを検索します。

あるいは、[**ユーザ名**]フィールドに、ユーザの名前、アスタリスクを含む部分名(「jo*」など) またはアスタリスク(*)だけを入力し、[**search**]をクリックします。

5. 表示されるユーザのリストで、目的のユーザの名前をクリックします。
6. [ユーザ:<ユーザ名>]ページ(図6-2)で、[**edit**]をクリックします。

図6-2 ユーザのパスワードの変更



7. [ユーザ情報の編集]ページで、新しいパスワードを入力して[**save**]をクリックします。ページバナーの下に確認メッセージが表示されます。

ユーザのプロパティの変更

ユーザが備えている特性つまりプロパティは、パーソナライズされたコンテンツをユーザに提供するために使用されます。アドレス情報、雇用の詳細、個人的関心、投資の特徴といったプロパティは、たとえば、WebLogic Portal Administration Tools の編集可能フィールドとして表示されます。

このようなプロパティとそのデフォルト値は、開発プロセスにおいて定義されます。詳細については、『開発者ガイド』の「ユーザ プロファイルの実装」(<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wlp/docs70/dev/usrgpr.htm>) を参照してください。

ユーザのプロパティの変更は、以下の手順で行います。

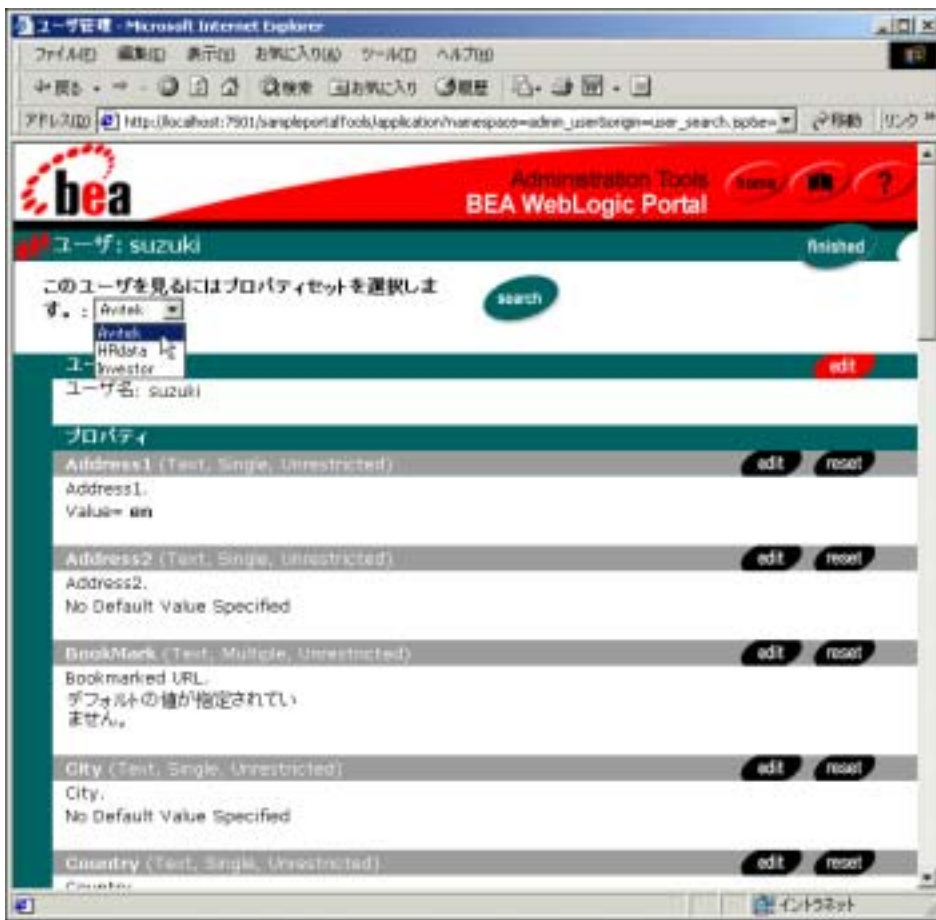
1. アプリケーションに対して WebLogic Portal Administration Tools を起動し、ログインします。1-6 ページの「WebLogic Portal Administration Tools の起動」を参照してください。
2. [管理ツール ホーム ページ] で、[ユーザ管理] アイコンをクリックします。[ユーザ管理] ホーム ページが表示されます (図 6-1)。
3. [ユーザ管理] ホーム ページで [ユーザ] ラベルをクリックします。
4. [ユーザの検索] ページで、ユーザ名の先頭文字をクリックして、プロパティを変更するユーザを検索します。

あるいは、[ユーザ名] フィールドに、ユーザの名前、アスタリスクを含む部分名 (「jo*」など)、またはアスタリスク (*) だけを入力し、[search] をクリックします。

5. 表示されるユーザのリストで、目的のユーザの名前をクリックします。
6. [ユーザ:<ユーザ名>] ページの [このユーザを見るにはプロパティ セットを選択します] フィールドでは、表示または変更するプロパティの種類を選択できます。変更するユーザ プロパティを含むプロパティ セットを選択し、[search] をクリックします。

選択したプロパティ セットに対するプロパティがページに表示されます (図 6-3 を参照)。

図 6-3 変更するプロパティ セットの選択



7. 値を変更するプロパティのバーにある [edit] をクリックします。
8. [プロパティ値の編集] ページで値を変更し、[save] をクリックします。

ユーザの削除

ドメインからユーザを削除すると、そのドメインに存在するすべてのアプリケーションからユーザが削除されます。その後、認証が必要な場合は、そのユーザはポータルにサインインできなくなります。

ドメインからのユーザの削除は、以下の手順を行います。

1. WebLogic Portal Administration Tools を起動します。1-6 ページの「WebLogic Portal Administration Tools の起動」を参照してください。
2. ユーザがポータルまたはグループ ポータルの管理者の場合は、ポータルまたはグループ ポータルの管理メンバーシップからユーザを削除します。6-28 ページの「ポータル管理者の削除」または 6-32 ページの「グループ ポータル管理者の削除」の手順に従ってください。
3. [管理ツール ホーム ページ] で、[ユーザ管理] アイコンをクリックします。[ユーザ管理] のホーム ページが表示されます (図 6-1)。
4. [ユーザ管理] ホーム ページで [ユーザ] ラベルをクリックします。
5. [ユーザの検索] ページで、ユーザ名の先頭文字をクリックして、削除するユーザを検索します。
あるいは、[ユーザ名] フィールドに、ユーザの名前、アスタリスクを含む部分名 (「jo*」など) またはアスタリスク (*) だけを入力し、[search] をクリックします。
6. 表示されるユーザのリストで、削除するユーザの名前の隣にある **削除** アイコン ([X]) をクリックし、確認ウィンドウで [OK] をクリックします。

ユーザ グループの作成と管理

WebLogic Portal のグループは、単一のカテゴリにおける共通の特性でユーザを編成するための手段を提供します。グループにユーザを追加することで、管理者はグループ ポータルを作成できます。グループ ポータルは、ポータルのコンテンツに対する訪問者のアクセスを制御します。また、グループは、電子メールの一括送信、セキュリティのセットアップ、グループ特性の管理などの作業に対する単一のエントリ ポイントを、開発者に提供します。

この節では、以下の内容について説明します。

- [ユーザ グループの作成](#)
- [ユーザ グループへのユーザの追加](#)
- [グループからのユーザの削除](#)

- ユーザグループの変更と削除

ユーザグループの作成

ユーザグループの作成は、以下の手順で行います。

1. WebLogic Portal Administration Tools を起動します。1-6 ページの「WebLogic Portal Administration Tools の起動」を参照してください。
2. [管理ツール ホーム ページ] で、[ユーザ管理] アイコンをクリックします。[ユーザ管理] ホーム ページが表示されます (図 6-1)。
3. [ユーザ管理] ホーム ページで、[グループ] バーの [create] をクリックします。
4. [グループ] ページの下部にある [+] アイコンをクリックします (図 6-4 を参照)。[新しいグループの作成] ページが表示されます。

親グループの特性を継承するサブグループとして新しいグループを作成する場合は、親グループの隣にある矢印アイコンをクリックし、そのグループの下に表示される [+] アイコンをクリックします。サブグループに追加したユーザは、自動的に親グループのメンバーにもなります。

図 6-4 新しいグループの作成



5. [新しいグループの作成] ページで、グループの名前を入力し、[create] をクリックします。

グループの名前では大文字と小文字が区別され、空白または他の予約文字は使用できません。

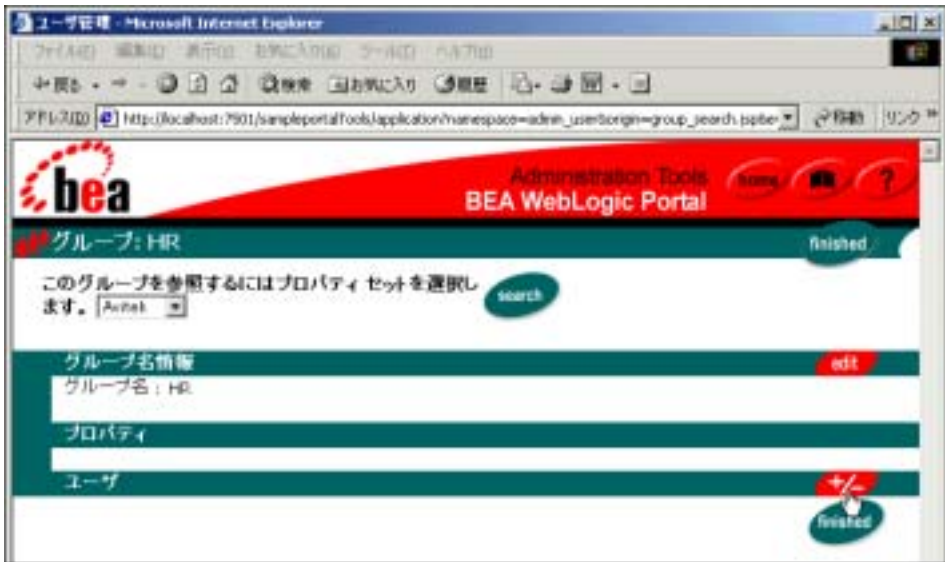
6. ページ下部の [back] アイコンをクリックして [グループ] ページに戻ると、新しいグループが表示されます。新しいグループがサブグループの場合は、親グループの隣にある矢印アイコンをクリックすると、新しいグループが表示されます。

ユーザ グループへのユーザの追加

グループへのユーザの追加は、以下の手順で行います。

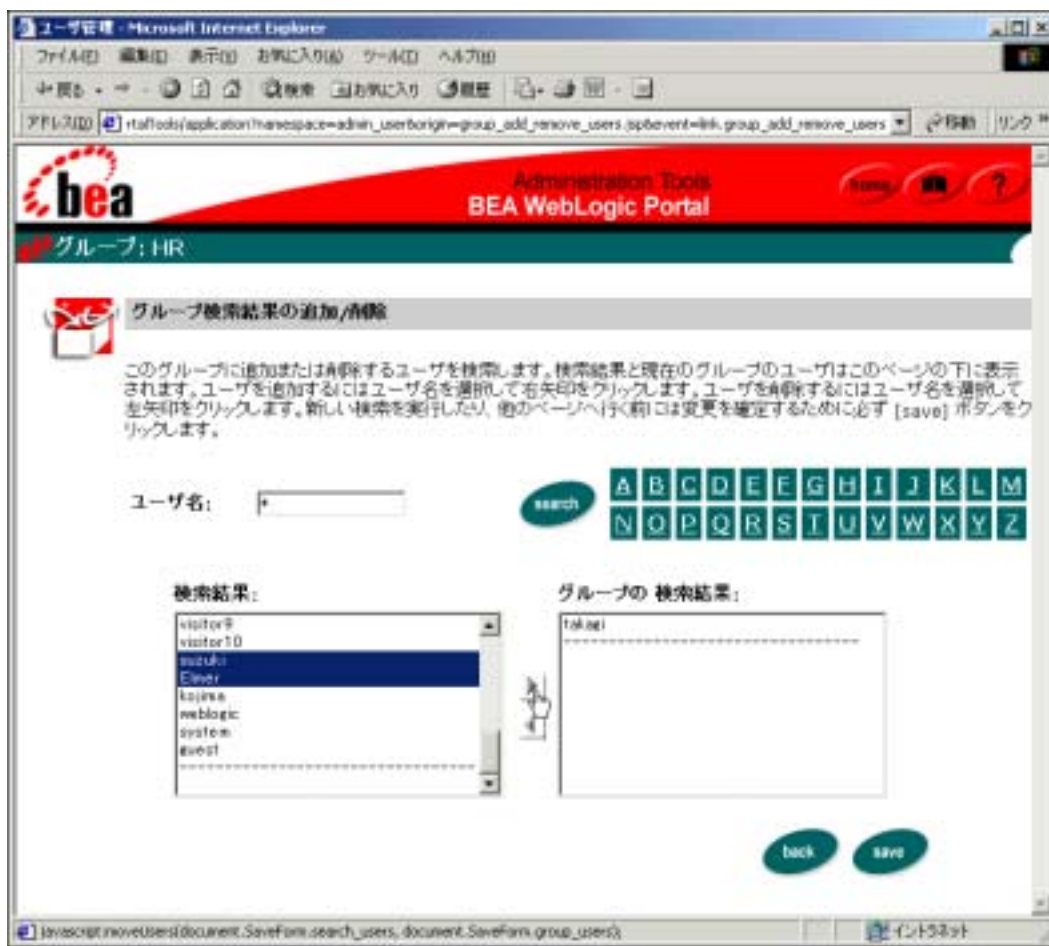
1. WebLogic Portal Administration Tools を起動します。1-6 ページの「WebLogic Portal Administration Tools の起動」を参照してください。
2. [管理ツール ホーム ページ] で、[ユーザ管理] アイコンをクリックします。[ユーザ管理] ホーム ページが表示されます (図 6-1)。
3. [ユーザ管理] ホーム ページで [グループ] リンクをクリックします。
4. [グループ] ページで、ユーザを追加するグループの名前をクリックします。グループがサブグループの場合は、親グループの隣にある矢印アイコンをクリックして、目的のグループを表示します。
5. グループのページで、[ユーザ] バーの [+/-] アイコンをクリックします (図 6-5 を参照)。場合によっては、アイコンを表示するためにページの下までスクロールする必要があります。

図 6-5 グループの編集



6. [グループ検索結果の追加 / 削除] ページで、ユーザ名の先頭文字をクリックして、グループに追加するユーザを検索します。
あるいは、[ユーザ名] フィールドに、ユーザの名前、アスタリスクを含む部分名 (「sch*」など) またはアスタリスク (*) だけを入力し、[search] をクリックします。
7. 表示される [検索結果] リストでグループに追加するユーザを選択し、矢印アイコンをクリックして、ユーザを [グループの検索結果] リストに移動します (図 6-6 を参照)。

図 6-6 グループへのユーザの追加



8. [save] をクリックします。ページバナーの下に確認メッセージが表示されます。
9. ページ下部にある [back] をクリックして、グループのページに戻ります。

グループからのユーザの削除

グループからユーザを削除しても、ドメインからユーザは削除されません。ユーザはドメインに存在し続け、関連付けられている他のグループのメンバーとして残ります。他のグループからユーザを削除するには、この手順を繰り返す必要があります。ドメインからユーザを削除する手順については、[6-8 ページの「ユーザの削除」](#)を参照してください。

グループからユーザを削除するには、[6-11 ページの「ユーザグループへのユーザの追加」](#)で説明したものと同一手順を使用します。[グループ検索結果の追加/削除] ページ ([図 6-6](#)) の処理で、[グループの検索結果] リストから [検索結果] リストにユーザを移動します。

ユーザグループの変更と削除

この節では、以下の内容について説明します。

- [グループのメンバーの表示](#)
- [グループのプロパティの変更](#)
- [グループへのグループの追加](#)
- [グループの削除](#)

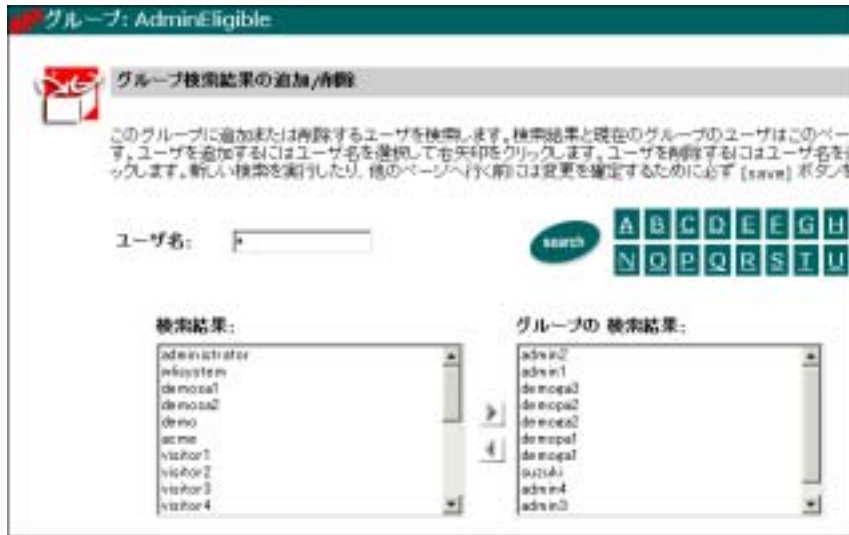
グループメンバーの表示

グループのメンバーの表示は、以下の手順で行います。

1. WebLogic Portal Administration Tools を起動します。[1-6 ページの「WebLogic Portal Administration Tools の起動」](#)を参照してください。
2. [管理ツール ホーム ページ] で、[ユーザ管理] アイコンをクリックします。[ユーザ管理] ホーム ページが表示されます ([図 6-1](#)) 。
3. [ユーザ管理] ホーム ページで [グループ] リンクをクリックします。
4. [グループ] ページで、メンバーを表示するグループの名前をクリックします。グループがサブグループの場合は、親グループの隣にある矢印アイコンをクリックして、目的のグループを表示します。

5. グループのページで、[ユーザ] バーの [+/-] アイコンをクリックします ([図 6-5](#))。
6. [グループ検索結果の追加/削除] ページで、[ユーザ名] フィールドにアスタリスク (*) を入力し、[search] をクリックします。
[グループの検索結果] リスト ([図 6-7](#)) に、そのグループのメンバーが表示されます。

図 6-7 グループのメンバーの表示



グループのプロパティの変更

グループは、ユーザと同じように、グループが利用できる共通の特性つまりプロパティを備えています。グループの特性の変更は、[6-7 ページの「ユーザのプロパティの変更」](#)と同じ手順で行います。ただ、プロパティの値を変更するグループの名前をクリックする点が異なります。

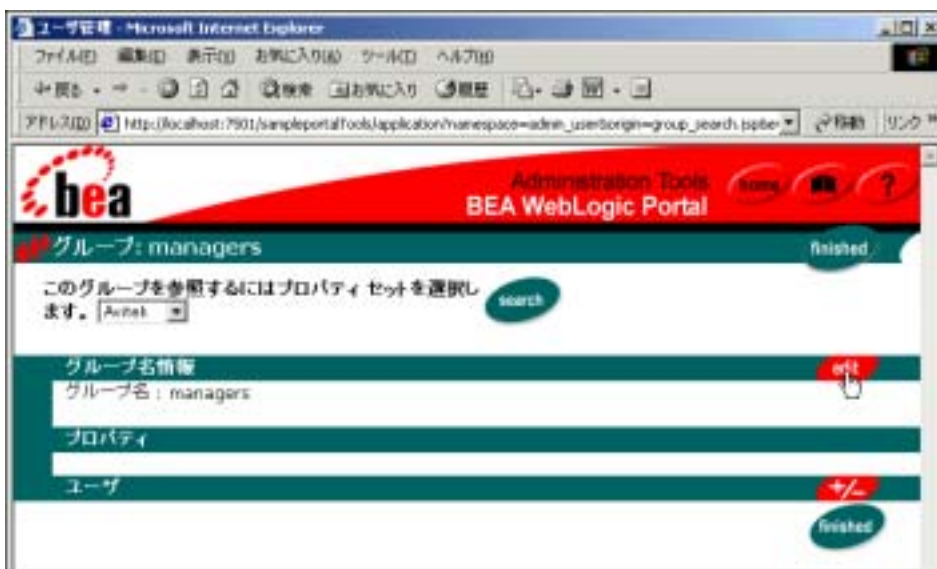
グループへのグループの追加

グループにグループを追加することは、ファイルシステムにおけるサブディレクトリの作成に相当します。WebLogic Portal では、サブグループは、それが追加されたグループのプロパティ値を自動的に継承し、サブグループに属するユーザは、自動的に親グループのメンバーになります。

最初にグループを作成する時点で別のグループに追加する方法については、6-10 ページの「[ユーザグループの作成](#)」で説明されています。グループを作成した後でサブグループにする場合は、以下の手順で行います。

1. WebLogic Portal Administration Tools を起動します。1-6 ページの「[WebLogic Portal Administration Tools の起動](#)」を参照してください。
2. [管理ツール ホーム ページ] で、[ユーザ管理] アイコンをクリックします。[ユーザ管理] ホーム ページが表示されます (図 6-1)。
3. [ユーザ管理] ホーム ページで [グループ] リンクをクリックします。
4. [グループ] ページで [edit] をクリックします (図 6-8)。

図 6-8 グループの編集



5. [グループの変更] ページで、親グループの隣にある**矢印**アイコンをクリックし、下に表示される [+] アイコンをクリックして、グループをサブグループとして追加します。

ページ バナーの下に確認メッセージが表示されます。

グループをトップ レベルに移動するには、ページ下部にある [**グループをトップレベルへ移動**] の隣の [+] アイコンをクリックします。

グループの削除

グループを削除すると、実際に削除されるのはグループだけで、グループ内のユーザは削除されません。グループを削除するときは、そのグループが基になっているグループ ポータルがないことを確認してください。また、既に作成されているコードでグループが使用されている可能性があるため、グループを削除するときは開発チームと調整する必要があります。

1. WebLogic Portal Administration Tools を起動します。1-6 ページの「[WebLogic Portal Administration Tools の起動](#)」を参照してください。
2. [管理ツール ホーム ページ] で、[**ユーザ管理**] アイコンをクリックします。[ユーザ管理] ホーム ページが表示されます ([図 6-1](#))。
3. [ユーザ管理] ホーム ページで [**グループ**] リンクをクリックします。
4. [グループ] ページで、グループ名の隣にある**削除**アイコン [X] をクリックし、確認ウィンドウで [OK] をクリックします。

名前の隣に**削除**アイコンが表示されていないグループは BEA 提供のグループであり、削除することはできません。

グループ ポータルの作成と管理

グループ ポータルとは、あるユーザ グループに対して定義されたポータルの特定のビューのことです。1 つのポータル内に複数のグループ ポータルを作成できます。グループ ポータルでは、レイアウトやポートレットなどのポータル リソースを共有できる一方で、グループごとにコンフィグレーションを変えて、それぞれのニーズに個別に対応することができます。

たとえば、1つのポータルの中に、管理者用に作られたポートレットと従業員用に作られたポートレットを収めることができます。そして、管理者用ポートレットだけを表示するグループポータルと、従業員用ポートレットだけを表示するグループポータルを定義できます。管理者は管理者グループポータルのメンバーになるので、ログインすると管理者関連のポートレットを見ることができます。管理者以外の従業員は管理者グループポータルのメンバーではないので、ログインしても管理者関連のポートレットを見ることはありません。個々のグループポータルは、独自のグループ管理者を置くことのできる単一の管理単位です。

WebLogic Portal でユーザグループを作成した後（[6-10 ページの「ユーザグループの作成」](#)を参照）、グループポータルを作成して、ポータルやポートレットに対するそのグループ固有のアクセスを許可します。

グループポータル内ではただ1つのグループを使用できます。ただし、使用する単一のグループは、サブグループを含んでいてもかまいません。すべてのサブグループは、そのグループポータルのメンバーと見なされます。

この節では、以下の内容について説明します。

- [ステップ 1: グループポータルで使用するグループを作成する](#)
- [ステップ 2: グループポータルを作成する](#)
- [ステップ 3: グループポータルの管理者を設定する](#)

ステップ 1: グループポータルで使用するグループを作成する

グループポータルを作成するには、グループポータルに割り当てるグループが必要です。グループが既にある場合は、その1つを使ってグループポータルを定義できます。

グループポータルで使用するグループを作成する必要がある場合は、[6-10 ページの「ユーザグループの作成」](#)の手順を実行した後、[6-11 ページの「ユーザグループへのユーザの追加」](#)の手順を実行します。

グループポータルを管理するユーザをグループに必ず追加してください。グループポータルの管理者は、AdminEligible グループのメンバーでもなければなりません。

ステップ 2: グループ ポータルを作成する

グループ ポータルの作成は、以下の手順で行います。

1. WebLogic Portal Administration Tools を起動します。1-6 ページの「WebLogic Portal Administration Tools の起動」を参照してください。
2. [管理ツール ホーム ページ] で、[ポータル管理] アイコンをクリックします。[ポータル管理ホーム] ページが表示されます (図 6-9)。
3. [ポータル管理ホーム] ページで、[グループ ポータルを新規作成] をクリックします (図 6-9)。

図 6-9 グループ ポータルの作成



4. [グループ ポータルの新規作成] ページでは、グループ ポータルの名前を入力し、ポータルのナビゲーション バーを垂直または水平のどちらにするかを選択します (図 6-10)。

図 6-10 グループ ポータルの設定



5. ユーザが属するグループおよびグループ ポータルに対するサブグループを選択するには、[**ユーザーグループをブラウズ**] をクリックします。[ユーザーグループの選択] ページが表示されます (図 6-11)。

図 6-11 グループポータルへのユーザグループの割り当て



- [ユーザグループの選択] ページでは、目的のグループの名前をクリックします。[グループポータルの新規作成] ページに戻ります。
目的のグループ名が表示されていない場合は、ページ下部の[次へ]リンクをクリックするか、または[ページごとに表示されるユーザグループ数]の値を変更します(図 6-11)。
- 新しいグループポータルの基になるテンプレートとして、既存のグループポータルを選択します。[グループポータルの新規作成] ページの[テンプレートをブラウズ]をクリックし、テンプレートとして使用するグループポータルの名前をクリックします。[グループポータルの新規作成] ページに戻ります。

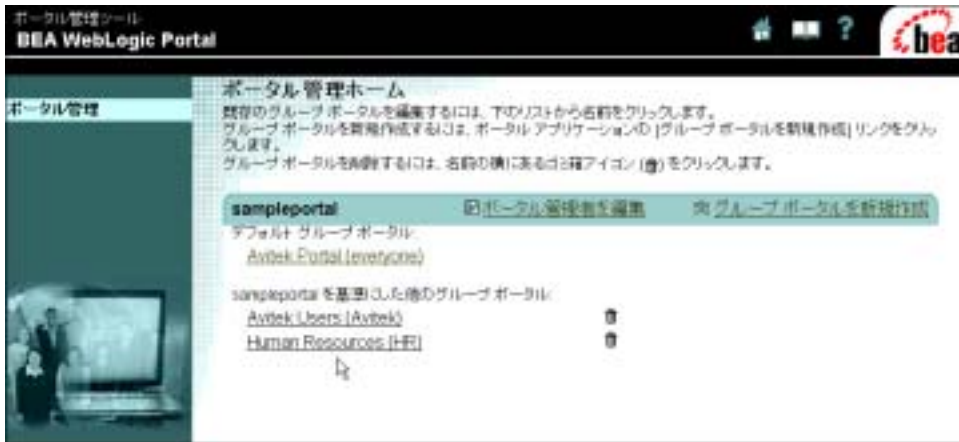
[グループポータルの新規作成] ページに表示される 2 つのオプションを使えば、資格とグループ管理者をテンプレートのグループポータルからコピーできます (図 6-12)。

図 6-12 資格とグループ管理者をコピーするためのオプション



8. [保存] をクリックします。[ポータル管理ホーム] ページに戻ると、新しいグループポータルが表示されます (図 6-13)。

図 6-13 新しいグループポータルの表示



資格区分については、6-32 ページの「ページとポートレットへのアクセスを制御するためのグループの作成」および 7-26 ページの「グループポータルを使ったポータルアクセスの設定」を参照してください。

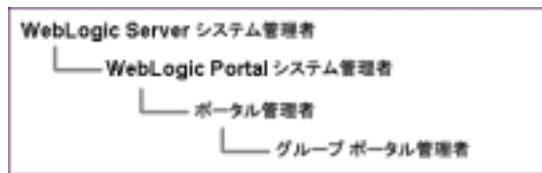
ステップ 3: グループ ポータルの管理者を設定する

グループ ポータルの管理者をセットアップする方法については、[6-29 ページの「グループ ポータル管理者の作成」](#)を参照してください。

管理ユーザの作成

WebLogic Portal の管理者には 4 つのレベルがあり、[図 6-14](#) で示すような管理階層を形成しています。

図 6-14 管理階層



- **WebLogic Server システム管理者**は、ドメインにおける管理特権をすべて持ち、WebLogic Server Console ツールを使用できます。これには、WebLogic Portal Administration Tools および E-Business Control Center のサーバサイド機能の利用も含まれます。
- **WebLogic Portal システム管理者**は、複数のポータルを含むことのできるエンタープライズ アプリケーションにおける管理特権をすべて持ちます。WebLogic Portal Administration Tools および E-Business Control Center のサーバサイド機能もすべて利用できます。
- **ポータル管理者**は、WebLogic Portal Administration Tools を使って単一のポータルを管理するための管理特権の全部または一部を持ちます。デフォルトでは、E-Business Control Center のサーバサイド機能を利用することはできません。
- **グループ ポータル管理者**は、WebLogic Portal Administration Tools を使ってポータル内のグループ ポータルを管理するための管理特権の全部または一部を持ちます。デフォルトでは、E-Business Control Center のサーバサイド機能を利用することはできません。

この節では、以下の内容について説明します。

- [WebLogic Server システム管理者の作成](#)
- [Portal システム管理者の作成](#)
- [ポータル管理者の作成](#)
- [グループポータル管理者の作成](#)

WebLogic Server システム管理者の作成

ドメインでの管理特権をすべて持つ WebLogic Server システム管理者の作成は、以下の手順で行います。この手順を実行するには、WebLogic Server システム管理者の特権が必要です。

- [WebLogic Server システム管理者の作成](#)
- [WebLogic Server システム管理者の削除](#)

WebLogic Server システム管理者の作成

1. サーバが稼働している状態で、WebLogic Server Console を起動します。ブラウザで、次の URL を入力します。

```
http://<hostname>:<port>/console
```

たとえば、サーバマシン自体を使用している場合は、デフォルトの URL は `http://localhost:7501/console` です。

2. WebLogic Server システム管理者としてログインします。
3. 必要であれば、ユーザを作成します。Console の左ペインで、[**セキュリティ | レルム | Compatibility Realm | ユーザ**] を選択し、新しいユーザを作成します。
4. [**セキュリティ | レルム | Compatibility Realm | グループ**] を選択します。
5. 「Administrators」グループをクリックします。
6. [**名前**] フィールドにユーザの名前（大文字と小文字が区別される）を入力し、[**適用**] をクリックします。

以上で、ユーザは WebLogic Server システム管理者になります。

WebLogic Server システム管理者の削除

管理者を削除しても、ユーザ自身は削除されません。Administrators グループのメンバーシップからユーザが除去されるだけです。

WebLogic Server Console の [**セキュリティ | レルム | Compatibility Realm | グループ**] で「**Administrators**」ユーザ名をクリックし、削除するユーザの隣のチェックボックスを選択して、[**適用**] をクリックします。

Portal システム管理者の作成

エンタープライズ アプリケーション（複数のポータル）での管理特権をすべて持つ Portal システム管理者の作成は、以下の手順で行います。この手順を実行するには、WebLogic Server または Portal のシステム管理者の特権が必要です。

- [ポータル システム管理者の作成](#)
- [Portal システム管理者の削除](#)

ポータル システム管理者の作成

1. WebLogic Portal Administration Tools を起動します。1-6 ページの「[WebLogic Portal Administration Tools の起動](#)」を参照してください。
2. Portal システム管理者としてログインします。必要であれば、ユーザを作成します。6-4 ページの「[ユーザの作成](#)」を参照してください。
3. ユーザを **SystemAdministrator** グループに追加します。6-11 ページの「[ユーザグループへのユーザの追加](#)」を参照してください。

以上で、ユーザは Portal システム管理者になります。

Portal システム管理者の削除

管理者を削除しても、ユーザ自身は削除されません。管理者グループのメンバーシップからユーザが除去されるだけです。

ポータルシステム管理者を削除するには、ユーザを SystemAdministrator グループから削除します。6-14 ページの「グループからのユーザの削除」を参照してください。

ポータル管理者の作成

単一のポータルの管理特権を全部または一部だけ持つポータル管理者の作成は、以下の手順で行います。この手順を実行するには、システム管理またはポータルユーザ管理の特権が必要です。

- [ポータル管理者の作成](#)
- [ポータル管理者の削除](#)

ポータル管理者の作成

1. WebLogic Portal Administration Tools を起動します。手順については [1-6 ページの「WebLogic Portal Administration Tools の起動」](#)を参照してください。
2. WebLogic Portal システム管理者またはユーザ管理特権を持つポータル管理者としてログインします。
3. ユーザがシステムにまだ存在していない場合は、ユーザを追加します。 [6-4 ページの「ユーザの作成」](#)を参照してください。
4. ユーザを AdminEligible グループに追加します。 [6-11 ページの「ユーザグループへのユーザの追加」](#)を参照してください。
5. [ポータル管理ホーム] ページ ([図 6-13](#)) で、[**ポータル管理者を編集**] をクリックします。
6. [ポータル管理者設定の編集] ページで、[**管理者を新規作成**] をクリックします。
7. [ポータル管理者の新規作成] ページで、[**管理者資格のあるユーザ**] リストからユーザを選択し、[**ユーザを選択**] をクリックします ([図 6-15](#)) 。

[昇格可能なグループ管理者] リストで既存のグループ ポータル管理者を選択して、ポータル管理者に昇格させることもできます。

図 6-15 ポータル管理者の選択

8. [ポータル管理者設定の新規作成] ページで、ポータル管理者に与える特権のオプションを [管理可能] カラムで選択します (図 6-16)。

オプションを選択すると、新しいオプションが設定できるようになります。

- [委託可能] – ポータル管理者は、他のポータル管理者およびグループポータル管理者に管理特権を委託できます。
- [資格設定可能] – ポータル管理者は、特定の資格区分に属する訪問者が見ることのできるページとポートレットを指定できます。

図 6-16 ポータル管理者の特権の設定



9. [保存] をクリックします。

新しいポータル管理者が WebLogic Portal Administration Tools にログインすると、[ポータル管理ホーム] ページが直接表示されます。そこでは、ポータル管理者が持っている特権に対応する部分だけを変更できます。

ポータル管理者の削除

管理者を削除しても、ユーザ自身は削除されません。管理者グループのメンバーシップからユーザが除去されるだけです。

ポータル管理者の削除は、以下の手順で行います。

1. WebLogic Portal Administration Tools を起動します。手順については [1-6 ページの「WebLogic Portal Administration Tools の起動」](#) を参照してください。

2. [ポータル管理ホーム] ページで、[ポータル管理者を編集] をクリックします。
3. [ポータル管理者] リストで、削除するポータル管理者を選択し、[ユーザを選択] をクリックします。
4. [ポータル管理者設定の編集] ページで [管理者を削除] をクリックし、確認ウィンドウで [OK] をクリックします。

グループポータル管理者の作成

グループポータルを作成する際には（6-19 ページの「ステップ 2: グループポータルを作成する」を参照）既存のグループポータルの管理者をコピーし、新しいグループポータルで使用できます。別のグループポータル管理者をセットアップしたり、グループポータル管理者を追加したりする場合は、以下の手順で行います。

注意： 以下の手順を実行するには、システム管理特権またはユーザ管理特権が必要です。

ポータル管理者として既に割り当てられているユーザを、それより管理特権が限定されたグループ管理者として割り当てることはできません。

- [グループポータル管理者の作成](#)
- [グループポータル管理者からポータル管理者への変更](#)
- [グループポータル管理者の削除](#)

グループポータル管理者の作成

1. WebLogic Portal Administration Tools を起動します。手順については、[1-6 ページの「WebLogic Portal Administration Tools の起動」](#)を参照してください。
2. WebLogic Portal システム管理者またはユーザ管理特権を持つ管理者としてログインします。
3. ユーザがシステムにまだ存在していない場合は、ユーザを追加します。[6-4 ページの「ユーザの作成」](#)を参照してください。

4. **AdminEligible** グループにユーザを追加し、ユーザがグループ ポータルに割り当てられているグループのメンバーであることを確認します。6-11 ページの「**ユーザグループへのユーザの追加**」を参照してください。
5. [ポータル管理ホーム] ページ (図 6-13) で、目的のグループ ポータルの名前をクリックします。
6. [グループ ポータル管理ホーム] ページで、[**Group Admins の編集**] をクリックします (図 6-17)。

図 6-17 グループ管理者の編集



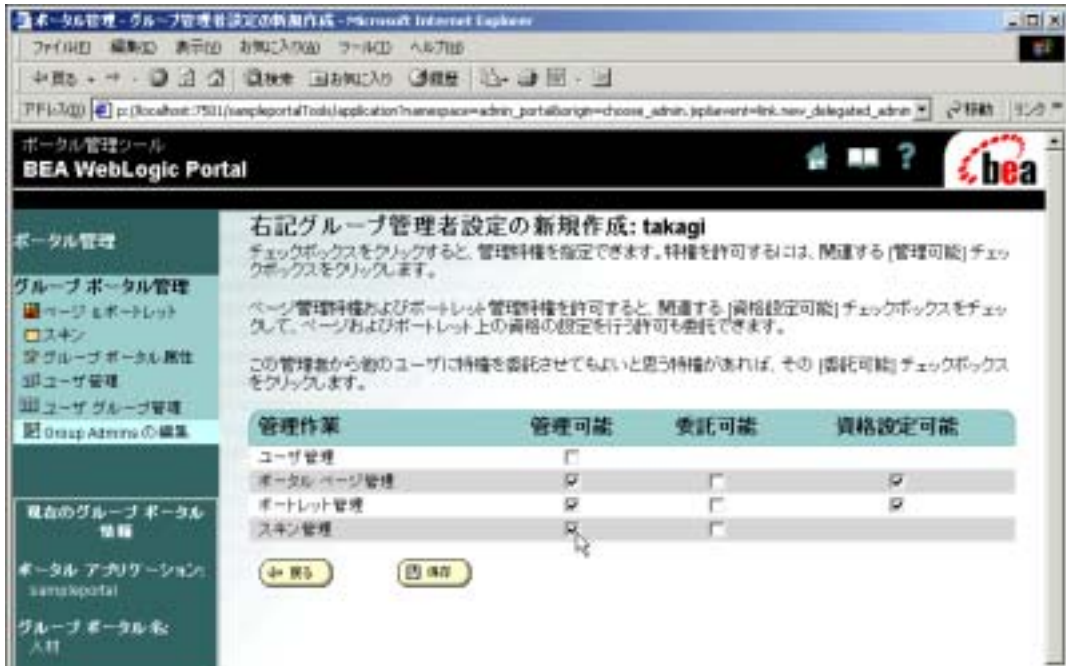
7. [グループ管理者設定の編集] ページで、[**管理者を新規作成**] をクリックします。
8. [グループ管理者の新規作成] ページで、[**管理者資格のあるユーザ**] リストからユーザの名前を選択し、[**ユーザを選択**] をクリックします。
9. [グループ管理者設定の新規作成] ページで、グループ管理者に与える特権に対するオプションを [**管理可能**] カラムで選択します (図 6-18)。

オプションを選択すると、新しいオプションが設定できるようになります。

- [**委託可能**] – グループ管理者は、他のグループ管理者に管理特権を委託できます。

- [資格設定可能] – グループ管理者は、特定の資格区分に属する訪問者が見ることのできるページとポートレットを指定できます。

図 6-18 グループ管理者の特権の設定



10. [保存] をクリックします。

新しいグループ管理者が WebLogic Portal Administration Tools にログインすると、[ポータル管理ホーム] ページが直接表示されます。ここでは、そのグループ管理者が管理できるグループポータル内で、管理者が持っている特権で管理可能な部分だけを変更できます。

グループポータル管理者がユーザ管理特権と委託特権を持っている場合は、[グループポータル管理ホーム] ページの左側にあるリンクを使って、ユーザを作成し、グループポータル管理者にすることができます。

グループ ポータル管理者からポータル管理者への変更

6-26 ページの「ポータル管理者の作成」の手順に従ってください。

グループ ポータル管理者の削除

管理者を削除しても、ユーザ自身は削除されません。管理者グループのメンバーシップからユーザが除去されるだけです。

グループ ポータル管理者の削除は、以下の手順で行います。

1. WebLogic Portal Administration Tools を起動します。手順については、[1-6 ページの「WebLogic Portal Administration Tools の起動」](#)を参照してください。
2. [ポータル管理ホーム] ページで、削除する管理者を含むグループ ポータルの名前をクリックします。
3. [Group Admins の編集] をクリックします ([図 6-17](#))。
4. [グループ管理者] リストで削除するグループ管理者を選択し、[ユーザを選択] をクリックします。
5. [グループ管理者設定の編集] ページで [管理者を削除] をクリックし、確認ウィンドウで [OK] をクリックします。

ページとポートレットへのアクセスを制御するためのグループの作成

資格区分 (Entitlement Segment) と呼ばれるグループを定義して使用することで、訪問者がポータルで見ることのできるページとポートレットを指定できます。資格区分は、ユーザのグループではなく、訪問者の性別、使われているブラウザの種類、日付や時刻の情報といった特性のグループ分けです。特性に当てはまる訪問者は、自動的かつ動的にその資格区分のメンバーになり、管理者が指定したページとポートレットだけを見ることができます。

この節では、以下の内容について説明します。

- 資格区分の作成
- 資格区分の変更と削除

資格区分の作成

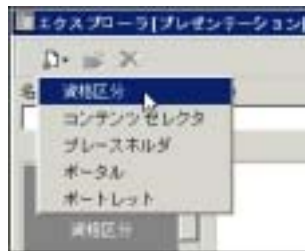
1. E-Business Control Center を起動します。手順については、[1-7 ページの「E-Business Control Center の起動」](#)を参照してください。

たとえば、新しいドメインを作成すると作成されるデフォルトの portalApp プロジェクト ファイルは、次の場所にあります。

```
<BEA_HOME>\user_projects\<your_domain>\beaApps\  
portalApp-project\portalApp-project
```

2. E-Business Control Center の [エクスプローラ] ウィンドウの [プレゼンテーション] タブをクリックし、[**新規作成 | 資格区分**] を選択します ([図 6-19](#))。資格区分のエディタ ウィンドウが表示されます。

図 6-19 新しい資格区分の作成



3. 新しい資格区分の概要を入力します。
4. [**編集**] をクリックします。
5. [**資格区分**] ウィンドウでは、資格区分を定義する特性を設定できます。資格区分で定義されている条件を満たす訪問者は、その資格区分のメンバーになり、特定のページとポートレットにだけアクセスできます。

[**条件**] ペインでは、資格区分を定義する特性の種類を選択します ([図 6-20](#))。

訪問者の特性および HTTP のセッションとリクエストの特性は、E-Business Control Center の [サイト インフラストラクチャ] タブの [ユーザ プロファ

イル]、[リクエスト]、[セッション]の各ツールを使って、開発者が定義します。

図 6-20 資格区分の特性の設定



6. 選択したすべての条件の種類に対し、ハイパーリンクの設定されたテキストが [アクション] ペインに表示されます。

条件に対する値を設定するには、個々のハイパーリンクをクリックします。たとえば、[訪問者が特定の特性を備えている] 条件を選択し、[特性] のハイパーリンクをクリックすると、資格区分を定義する訪問者の特性を選択できます (図 6-21)。

図 6-21 訪問者の特性の選択



7. プロパティを選択して [追加] をクリックした後、[訪問者特性値] ウィンドウでプロパティの値を設定します (図 6-22)。

図 6-22 特性の値の選択



8. 値を選択した後、[追加] をクリックします。複数の値が許されるプロパティの場合は、必要な値をすべて追加し、ウィンドウ下部の [該当するアイテムは「いずれか」の値条件句に一致すればよい] オプションまたは [該当するアイテムは「すべて」の値条件句に一致しなければならない] オプションを選択します。
9. [OK] をクリックします。
10. [訪問者特性] ウィンドウ (または他の種類のプロパティのウィンドウ) で [OK] をクリックします。
11. [資格区分] ウィンドウで、定義されていないアクションをクリックして値を設定します。
12. [資格区分] ウィンドウで [OK] をクリックします。
13. E-Business Control Center ツールバーの [保存] をクリックし、資格区分の名前を指定します。
[エクスプローラ] ウィンドウで [資格区分] ツールをクリックすると、新しい資格区分の名前がリストに表示されます。

14. 訪問者が見ることのできるページとポートレットを、資格区分を使って制御するには、E-Business Control Center からサーバに資格区分を同期する必要があります。

E-Business Control Center ツールバーの [同期] ボタンをクリックし、プロンプトが表示されたら、WebLogic Portal システム管理者としてログインします。

資格区分の変更と削除

資格区分を変更または削除するときは、その資格区分を使用するグループポータルに影響があることに留意して行ってください。

変更 – 資格区分を変更するには、E-Business Control Center の [エクスプローラ] ウィンドウで [資格区分] ツールを選択し、変更する資格区分の名前をダブルクリックして、[資格区分] ウィンドウの [編集] をクリックします。変更後には必ず同期を取ります。

削除 – 資格区分を削除するには、E-Business Control Center の [エクスプローラ] ウィンドウで [資格区分] ツールを選択し、削除する資格区分を選択して、[エクスプローラ] ツールバーの [削除] をクリックします。確認ウィンドウでは [はい] をクリックします。変更後には必ず同期を取ります。

変更または削除を行った後は、E-Business Control Center ツールバーの [同期] ボタンをクリックしてデータの同期を取ります。プロンプトが表示されたら、WebLogic Portal システム管理者としてログインします。

顧客に合わせてコンテンツを提供するためのグループの作成

セグメント (Segment) と呼ばれるグループを定義して使用することで、訪問者に合わせて Web コンテンツやキャンペーンを提供できます。セグメントは、ユーザのグループではなく、訪問者の性別、使われているブラウザの種類、日付や時刻の情報といった特性のグループ分けです。特性に当てはまる訪問者は、自動的

かつ動的にその資格区分のメンバーになり、管理者が指定した特定の Web コンテンツを表示されたり、管理者が作成したキャンペーン アクションの対象になったりします。

この節では、以下の内容について説明します。

- [顧客セグメントの作成](#)
- [顧客セグメントの変更と削除](#)

顧客セグメントの作成

1. E-Business Control Center を起動します。手順については、[1-7 ページの「E-Business Control Center の起動」](#)を参照してください。

たとえば、新しいドメインを作成すると作成されるデフォルトの portalApp プロジェクト ファイルは、次の場所にあります。

```
<BEA_HOME>\user_projects\<your_domain>\beaApps\  
portalApp-project\portalApp-project
```

2. E-Business Control Center の [エクスプローラ] ウィンドウの [ビジネス ロジック] タブをクリックし、[**新規作成 | セグメント**] をクリックします。セグメントのエディタ ウィンドウが表示されます。
3. これ以降の手順は、資格区分を作成する場合と同じです。[6-33 ページの「資格区分の作成」](#)を参照してください。

顧客セグメントの変更と削除

セグメントを変更または削除するときは、作成されているコンテンツ セレクタ やキャンペーンが影響を受ける可能性があることに留意して行ってください。

セグメントの変更と削除に関する手順と考慮事項は、資格区分の場合と同じです。[6-37 ページの「資格区分の変更と削除」](#)を参照してください。

第7章 ポータルとポートレットの属性の管理

WebLogic Portal に用意されている一連の管理およびカスタマイズ用のツールを利用すれば、ポータル Web サイトの動作、コンテンツ、ユーザとの対話などのポータル属性を指定できます。

ポータルとポートレットの属性を扱うには、E-Business Control Center と WebLogic Portal Administration Tools という 2 種類のツールが必要です。ポータルとポートレットの外見と動作を定義するには、E-Business Control Center を使用します。これらのリソースを定義した後は、WebLogic Portal Administration Tools を使ってリソースのコンフィグレーションを行います。ツールが連携する仕組みの詳細については、[1-4 ページの「ポータルの管理方法」](#)を参照してください。

この章では、既存のポータルを変更する方法について説明します。E-Business Control Center と WebLogic Portal Administration Tools を使うと、以下の作業を行うことができます。

- [ポータルの特性の変更](#)
- [ポートレットの特性の変更](#)
- [アプリケーションへの新規ポータル データの同期](#)
- [グループ ポータルを使ったポータル アクセスの設定](#)

ポータルの特性の変更

ポータルの特性は、ポータルにアクセスした訪問者に対してポータルが与える印象のうち、ポータルの外見と動作に関する部分です。視覚的な特性の例としては、ポータル ページのレイアウト、スキン、ヘッダーのグラフィックスなどが

あります。動作に関する特性の例としては、ポートレットをポップアップ ウィンドウとして表示するのか、元のウィンドウ内の小さなウィンドウとして表示するのかの指定などがあります。

意図したポータルの特性を定義するには、E-Business Control Center を使用します。このツールを使って選択および定義した特性は、WebLogic Portal Administration Tools による管理で利用できるようになります。

E-Business Control Center で定義した実行時特性を管理するには、WebLogic Portal Administration Tools を使用します。このツールを使うと、定義済みのレイアウト、ポータル、ポートレットから実際にユーザに対して使用するものを指定できます。

- [ポータルの特性定義の変更](#)
- [ポータルのルック アンド フィールの変更](#)

ポータルの特性定義の変更

ポータルの特性を定義するには、E-Business Control Center を使用します。

この節で説明する手順はすべて、E-Business Control Center のポータル エディタを使って行います。

この節では、以下の内容について説明します。

- [一般的な特性の定義の変更](#)
- [ポータルで利用可能な特性の変更](#)
- [ポータル ページで利用可能な特性の変更](#)

一般的な特性の定義の変更

ポータルの一般的な特性としては、ヘッダーとフッターのグラフィックス、コンテンツ、アイコンのグラフィックスなどがあります。

ポータルのデフォルトも設定します。ポータルのデフォルトはカラー スキームや HTML レイアウトなどの特性で、ポータルが WebLogic Portal Administration Tools でまだコンフィグレーションされていない場合の、訪問者に対する表示を決定します。

ポータルの一般的な特性の定義の変更は、以下の手順で行います。

1. E-Business Control Center を開きます。1-7 ページの「E-Business Control Center の起動」を参照してください。
2. [エクスプローラ] ウィンドウ下部の [プレゼンテーション] タブをクリックし、[ポータル] アイコンをクリックします。

図 7-1 E-Business Control Center の [エクスプローラ] ペイン



3. 編集するポータルを選択します。ポータル エディタが表示されます。

図 7-2 ポータル エディタ



4. ポータル エディタで、[全般] タブをクリックします。ポータル エディタの [全般] ペインが表示されます。

図 7-3 ポータル エディタの [全般] ペイン



5. ポータル エディタの [全般] ペインでは、以下の属性を変更できます。

注意： URL は、WebLogic Portal サーバ上にある JSP へのファイル システム ディレクトリ パスでなければなりません。このデータを同期させると、適切な JSP がインクルードとして (include 文で) ポートレットに挿入されます。これらのディレクトリの位置は、組織ごとに決定されます。

属性	解説
[概要]	ポータルの説明。

属性	解説
[コンテンツ URL]	ポータルに表示されるコンテンツの URL。
[ヘッダー URL]	ポータルのヘッダー コンテンツとして使用する JSP の URL。
[フッター URL]	ポータルのフッター コンテンツとして使用する JSP の URL。
[垂直ナビゲーション バー URL (オプション)]	ポータルに垂直ナビゲーション バーを表示する場合は、その URL を指定。
[水平ナビゲーション バー URL (オプション)]	ポータルに水平ナビゲーション バーを表示する場合は、その URL を指定。
[ポータル Webflow]	ポータルの作成時には、新しいポータルを定義済みの Webflow に関連付ける必要がある。ほとんどの場合は、portal Webflow を選択する。

ポータルで利用可能な特性的変更

ポータルで利用可能なスキン、ページ、レイアウト、およびユーザ プロファイルを選択するには、E-Business Control Center を使用します。E-Business Control Center でこれらの特性が選択されていれば、WebLogic Portal Administration Tools を使って、選択済みの特性のうちポータルで実際に使用するものを指定できます。

利用できる特性的変更は、次の手順で行います。

1. E-Business Control Center を開きます。1-7 ページの「[E-Business Control Center の起動](#)」を参照してください。
2. [エクスプローラ] ウィンドウ下部の [**プレゼンテーション**] タブをクリックし、[**ポータル**] アイコンをクリックします。
3. 編集するポータルを選択します。ポータル エディタが表示されます。
4. ポータル エディタで、[**全般**] タブをクリックします。ポータル エディタの [全般] ペインが表示されます。
5. [全般] ペインで、[**ポートレット**] タブをクリックします。

6. 選択可能なポートレットと選択済みのポートレットのリストが表示されます。

図7-4 ポートレットの選択



7. そのポータルで利用できるようにするポートレットを選択します。どちらかのウィンドウでポートレット名を強調表示にして、[追加] ボタンまたは[削除] ボタンをクリックすれば、ポートレットを移動できます。選択済みのカテゴリにポートレットを追加すると、そのポートレットはポータルで利用できるようになり、WebLogic Portal Administration Tools でコンフィグレーションできます。
8. 以下の各タブで、以上の手順を繰り返します。
 - [スキン]: そのポータルで利用できるようにするスキンを選択します。スキンは、訪問者に対してポータルが表示されるときのビジュアルスタイル (アイコンや色など) に影響を与えます。
 - [レイアウト]: そのポータルのコンフィグレーションで利用できるレイアウトを選択します。
 - [ユーザプロフィール]: そのポータルのコンフィグレーションで利用できるユーザプロフィールを選択します。

ポータル ページで利用可能な特性の変更

ポータルの各ページで利用できる画像、レイアウト、およびポートレットを選択するには、ポータル管理ツールを使用します。E-Business Control Center でこれらの特性を選択してあれば、WebLogic Portal Administration Tools を使って、選択済みの特性のうちページで実際に使用するものを指定できます。

利用できる特性の変更は、次の手順で行います。

1. E-Business Control Center を開きます。1-7 ページの「E-Business Control Center の起動」を参照してください。
2. [エクスプローラ] ウィンドウ下部の [プレゼンテーション] タブをクリックし、[ポータル] アイコンをクリックします。
3. 編集するポータルを選択します。ポータル エディタが表示されます。
4. ポータル エディタ ウィンドウで、[ページ] タブをクリックします。ポータル エディタの [ページ] ペインが表示されます。
5. 編集するページを選択し、[編集] をクリックします。[ページ定義] ウィンドウが表示されます。
6. ページに対する以下の属性を変更できます。

属性	解説
[ポータル ページ名]	ページの名前。
[デフォルト画像名]	デフォルトとして表示する画像のパス。
[ロールオーバー画像名]	このページを表すロールオーバー画像のパス。
[選択時画像名]	ページが選択された場合に表示する画像のパス。
[選択可能レイアウト]	そのページで使用できるレイアウトのリスト。
[選択可能ポートレット]	そのページに追加できるポートレットのリスト。

7. ページを削除するには、目的のページを選択して [削除] をクリックします。そのページはポータルで利用できなくなります。

ポータルのルック アンド フィールの変更

E-Business Control Center を使ってポータルの特性を定義し、利用できるようにしておけば、WebLogic Portal Administration Tools を使って特性をコンフィグレーションし、ポータル訪問者に提示することができます。

この節では、以下の内容について説明します。

- [スキンの選択](#)
- [ページの選択と順序設定](#)
- [ページの属性の編集](#)
- [ページのレイアウトの編集](#)
- [ポータル ページ上のポートレットの選択と配置](#)

スキンの選択

E-Business Control Center で定義済みの利用可能なスキンから選択することで、ポータルの外見を指定できます。スキンはHTMLコードとグラフィックスの集合で、ポータルにスキンを適用すると、色やフォントといったポータルの外見が影響を受けます。ポータルに対して選択されているスキンは、訪問者がポータルをパーソナライズするときに使用できます。

WebLogic Portal Administration Tools を使ってポータルに対するスキンを選択するには、以下の手順を実行します。

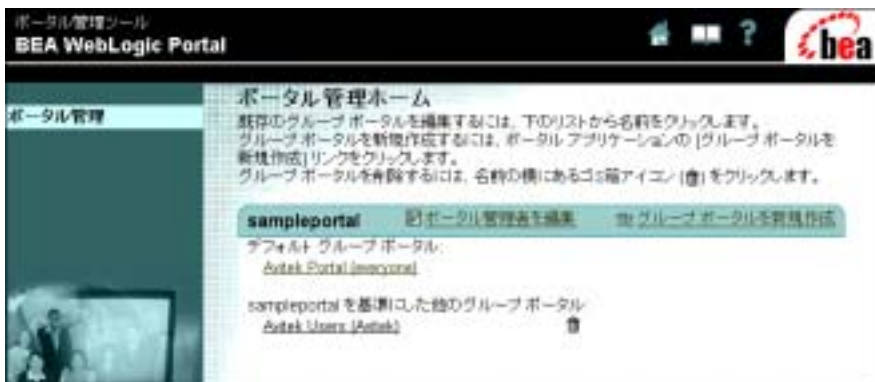
1. WebLogic Portal Administration Tools を起動します。[1-6 ページの「WebLogic Portal Administration Tools の起動」](#)を参照してください。Portal Administration Tools のホーム ページが表示されます。

図 7-5 Portal Administration Tools のホーム ページ



2. [ポータル管理] アイコンをクリックします。[ポータル管理ホーム] ページが表示されます。

図 7-6 [Portal Management Home ポータル管理ホーム] ページ



3. 編集するポータルをクリックします。[グループポータル管理ホーム] ページが表示されます。

図7-7 [グループポータル管理ホーム] ページ



4. [**スキンを選択**] をクリックします。[スキンの選択] ページに、未使用のスキンと選択可能なスキンのリストが表示されます。アスタリスク (*) が付いているのはデフォルトスキンです。

図 7-8 [スキンの選択] ページ



5. スキンをサムネイル表示するには、目的のスキンを強調表示させます。そのスキンのサムネイル画像が、[選択済みスキンのプレビュー] という見出しの下に表示されます。
6. 新しいデフォルト スキン（訪問者が変更する前のポータルで表示されるスキン）を設定するには、目的のスキンを強調表示にし、[**デフォルトとして設定**] をクリックします。新しいデフォルト スキンに、アスタリスク (*) が付きます。
7. スキンを選択して**左**または**右**の矢印をクリックすることで、[選択可能スキン] リストと [未使用スキン] リストの間でスキンを移動できます。スキンが選択可能であるということは、訪問者がポータルをパーソナライズする際にそのスキンを選択できることを意味します。
8. 設定が終了したら、[保存] をクリックします。

ページの選択と順序設定

選択可能なページのリストからポータルで使用するページを選択するには、WebLogic Portal Administration Tools を使用します。

ページを選択可能にすると、訪問者がポータルをパーソナライズする際に、そのページを選択して順序を設定できます。ページは、クリック可能なタブで表されます。

図 7-9 訪問者に対して表示されるときタブ付きページ



ポータルのページの選択と順序設定は、以下の手順で行います。

1. WebLogic Portal Administration Tools を起動します。1-6 ページの「[WebLogic Portal Administration Tools の起動](#)」を参照してください。
2. WebLogic Portal Administration Tools のホーム ページで、[**ポータル管理**] アイコンをクリックします。[ポータル管理ホーム] ページが表示されます。
3. 編集する **グループ ポータル** をクリックします。[グループ ポータル管理ホーム] ページが表示されます。
4. [グループ ポータル管理ホーム] ページで、[**ページとポートレットを管理**] をクリックします。[ページおよびポートレット] ページが表示されます ([図 7-10](#))。

図 7-10 [ページおよびポートレット] ページ



- a. [**ページの選択と順序設定**] をクリックします。[**ページの選択と順序設定**] ページに、選択可能なページと未使用のページのリストが表示されます (図 7-11)。アスタリスク (*) が付いているのは、ホーム (デフォルト) ページです。

図 7-11 [ページの選択と順序設定] ページ



- b. 新しいデフォルト ホーム ページを設定するには、目的のページを強調表示にして、[**ホームに設定**] をクリックします。新しいデフォルト ホーム ページが、アスタリスク (*) で示されます。
- c. ページ名を選択して左または右の矢印をクリックすることで、[選択可能ページ] リストと [未使用ページ] リストの間でページを移動できます。
- d. [選択可能ページ] リストでページを選択して上または下の矢印をクリックすることで、ページの順序を変更できます。これにより、ポータル訪問者に対して表示されるページ タブの順序が決まります。
- e. 設定が終了したら、[保存] をクリックします。

ページの属性の編集

ページの属性は、Web サイトへの訪問者に対してページが示す特性または動作です。たとえば、ユーザがパーソナライズしたポータルからそのページを削除できるかどうかということは、ページ属性の例です。

ページ属性の設定は、以下の手順で行います。

1. WebLogic Portal Administration Tools を起動します。1-6 ページの「[WebLogic Portal Administration Tools の起動](#)」を参照してください。
2. WebLogic Portal Administration Tools のホーム ページで、[**ポータル管理**] アイコンをクリックします。[ポータル管理ホーム] ページが表示されます。

3. 編集する**グループポータル**をクリックします。[グループポータル管理ホーム]ページが表示されます。
4. [グループポータル管理ホーム]ページで、[**ページとポートレットを管理**]をクリックします。[ページおよびポートレット]ページが表示されます。
5. [ページおよびポートレット]ページで、編集するページの[**属性**]をクリックします。[ページの属性の設定]ページが表示されます。

図 7-12 [ページの属性の設定]ページ



6. 以下の属性を設定します。

属性	解説
[利用可能]	訪問者がページを利用できる。
[表示対象]	ページは、訪問者に対してデフォルトで必ず表示される。
[必須]	そのページは訪問者に対して常に表示される。つまり、パーソナライズしたポータルからそのページを削除することはできない。
[表示名]	ページの表示名。サイトへの訪問者に対してその名前が表示される。
[訪問者による名前の編集が可能]	このボックスを選択すると、訪問者がポータルをパーソナライズする際に、ページの名前を変更できる。

属性	解説
[画像を使用]	このボックスを選択すると、ページ名の表示に画像が使用される。選択しないと、上記の表示名が使用される。

7. 設定が終了したら、[**保存**] をクリックします。

ページのレイアウトの編集

E-Business Control Center で選択可能として設定されているレイアウトのリストから選択することで、ページのレイアウトを変更できます。

ページのレイアウトの変更は、以下の手順で行います。

1. WebLogic Portal Administration Tools を起動します。1-6 ページの「[WebLogic Portal Administration Tools の起動](#)」を参照してください。
2. ホーム ページで [**ポータル管理**] アイコンをクリックします。[ポータル管理ホーム] ページが表示されます。
3. 編集する **グループ ポータル** をクリックします。[グループ ポータル管理ホーム] ページが表示されます。
4. [グループ ポータル管理ホーム] ページで、[**ページとポートレットを管理**] をクリックします。[ページおよびポートレット] ページが表示されます。
5. [ページおよびポートレット] ページで、編集するページの [**レイアウト**] をクリックします。[ページのレイアウトの選択] ページに、未使用のレイアウトと選択可能なレイアウトのリストが表示されます。

図 7-13 [ページのレイアウトの選択] ページ



6. 未使用または選択可能のカテゴリでレイアウトを選択し、矢印をクリックしてレイアウトを移動します。
7. 設定が終了したら、[保存] をクリックします。

ポータル ページ上のポートレットの選択と配置

ページで表示するポートレットを選択し、ページ内での表示位置を調整できます。

ページ内でのポートレットの配置は、以下の手順で行います。

1. WebLogic Portal Administration Tools を起動します。1-6 ページの「[WebLogic Portal Administration Tools の起動](#)」を参照してください。
2. WebLogic Portal Administration Tools のホーム ページで、[**ポータル管理**] アイコンをクリックします。[ポータル管理ホーム] ページが表示されます。
3. 編集する **グループ ポータル** をクリックします。[グループ ポータル管理ホーム] ページが表示されます。
4. [グループ ポータル管理ホーム] ページで、[**ページとポートレットを管理**] をクリックします。[ページおよびポートレット] ページが表示されます。

5. [ページおよびポートレット] ページで、編集するページの [**ポートレットを配置**] をクリックします。[**ポートレットの配置**] ページでは、[**選択可能ポートレット**] リストにはページで選択可能なポートレットが表示され、[**デフォルトレイアウトでの表示対象ポートレットの位置**] リストにはページで現在表示されるポートレットが表示されます。

図 7-14 [**ポートレットの配置**] ページ



6. ページで表示するポートレットを選択したり、表示対象のポートレットを削除したりするには、**選択可能**セクションまたは**表示対象**セクションで目的のポートレットを選択し、**左矢印**または**右矢印**をクリックしてポートレットを移動します。
7. ページでのポートレットの表示方法を変更するには、**表示対象**セクションで目的のポートレットを選択し、ページ下部にある矢印を使って、上下左右にポートレットを移動します。

図 7-15 **ポートレット移動矢印**による、ページ内のポートレットの再配置



8. 設定が終了したら、[**保存**] をクリックします。

ポートレットの特性の変更

ポータルの特性と同様に、ポートレットの特性は、ポートレットにアクセスした訪問者にポートレットが与える印象のうち、ポートレットの外見と動作に関する部分です。ポートレットの特性としては、訪問者に表示されるデフォルトのコンテンツや、ポートレットでオンライン ヘルプを表示するかどうかの指定などがあります。

E-Business Control Center を使って、目的のポートレットの特性を定義し、WebLogic Portal Administration Tools で管理できる特性を選択および定義します。その後、WebLogic Portal Administration Tools を使用すれば、E-Business Control Center で定義した実行時特性を管理できます。

この節では、ポートレットの特性の変更方法に関する以下の内容について説明します。

- [ポートレットの特性定義の変更](#)
- [ポートレットのルック アンド フィールドの変更](#)

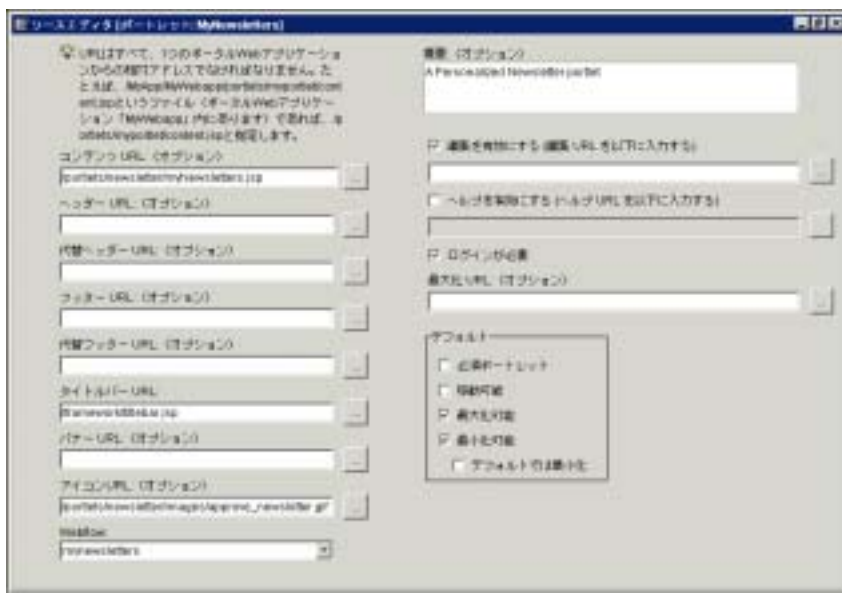
ポートレットの特性定義の変更

ポートレットで利用できるリソースを定義および変更するには、E-Business Control Center のポートレット エディタを使用します。ポートレットのデフォルトも設定できます。デフォルトとは、ポートレットを最小化できるかどうかの指定などの特性で、WebLogic Portal Administration Tools でポートレットがまだコンフィグレーションされていない場合に、訪問者に対して表示されます。

ポートレットの定義の変更は、以下の手順で行います。

1. E-Business Control Center を開きます。1-7 ページの「[E-Business Control Center の起動](#)」を参照してください。
2. [エクスプローラ] ウィンドウ下部の [[プレゼンテーション](#)] タブをクリックし、[[ポートレット](#)] アイコンをクリックします。
3. 編集するポートレットを選択します。ポートレット エディタが表示されません。

図 7-16 ポートレット エディタ



4. ポートレット エディタでは、以下のフィールドの情報を変更できます。

属性	解説
[概要]	ポートレットの簡単な説明。
[コンテンツ URL]	デフォルトで表示する JSP の URL。
[ヘッダー URL]	デフォルトで表示するヘッダー JSP の URL。
[代替ヘッダー URL]	ページが最大化されたときにデフォルトで使用する必要のあるヘッダーの URL。
[フッター URL]	デフォルトのフッター JSP の URL。
[代替フッター URL]	最大化された状態で使用する URL。
[タイトルバー URL]	デフォルトのタイトルバー JSP の URL。
[バナー URL]	バナー JSP の URL。
[アイコン URL]	タイトルバー アイコンの画像の URL。

属性	解説
[編集 URL]	ポートレット エディタ JSP の URL。
[ヘルプ URL]	ポートレット ヘルプ JSP の URL。
[最大化 URL]	最大化された本体の JSP の URL。
[Webflow]	ポートレットの Webflow (使用する場合)
[編集を有効にする]	訪問者がポータルでポートレットのコンテンツを編集できる場合は、このチェックボックスを選択する。
[ヘルプを有効にする]	訪問者が利用できる独立したヘルプ ファイルがポートレットにある場合は、このチェックボックスを選択する。
[ログインが必要]	デフォルト グループ ポータルでこのポートレットを表示できないようにする場合は、このチェックボックスを選択する。
[必須ポートレット]	このポートレットを訪問者に対して必ず提示し、訪問者が削除できないようにするかどうかを指定する。
[最大化可能]	訪問者がこのポートレットを最大化できるかどうかを指定する。
[移動可能]	このポートレットを移動可能なウィンドウとして開くことができるかどうかを指定する。
[最小化可能]	訪問者がこのポートレットを最小化できるかどうかを指定する。
[デフォルトでは最小化]	訪問者がページを表示したときに、このポートレットをデフォルトで最小化して表示するかどうかを指定する。

5. 設定が終了したら、[保存] をクリックします。

ポートレットのルック アンド フィールドの変更

E-Business Control Center を使ってポートレットの特性を定義し、利用できるようにすれば、WebLogic Portal Administration Tools を使って特性をコンフィグレーションし、ポータル訪問者に提示することができます。

この節では、以下の内容について説明します。

- [ポートレットの属性の編集](#)
- [ポータル ページ上のポートレットの選択と配置](#)

ポートレットの属性の編集

E-Business Control Center でページに対して選択したポートレットのリストを使えば、ページでのポートレットの表示方法を選択できます。

1. WebLogic Portal Administration Tools を起動します。1-6 ページの「[WebLogic Portal Administration Tools の起動](#)」を参照してください。
2. ホーム ページで [**ポータル管理**] アイコンをクリックします。そのグループポータルに対する [ポータル管理ホーム] ページが表示されます。
3. 編集する **グループポータル** をクリックします。[グループポータル管理ホーム] ページが表示されます。
4. [グループポータル管理ホーム] ページで、[**ページとポートレットを管理**] をクリックします。[ページおよびポートレット] ページが表示されます。
5. [ページおよびポートレット] ページで、編集するページの [**ポートレットの編集**] をクリックします。[ポートレットの資格と属性の編集] ページが表示されます。

図 7-17 [ポートレットの資格と属性の編集] ページ



6. 目的のポートレットを選択し、[**属性を設定**] をクリックします。[ポートレットの属性の設定] ページが表示されます。

図 7-18 [ポートレットの属性の設定] ページ



7. 以下の属性を設定できます。

属性	解説
[利用可能]	訪問者がポートレットを利用できるかどうかを指定する。
[表示対象]	ポートレットがデフォルトで訪問者に表示されるかどうかを指定する。
[最小化可能]	訪問者がポートレットを最小化できるかどうかを指定する。
[最大化可能]	訪問者がポートレットを最大化できるかどうかを指定する。
[デフォルトでは最小化]	ポートレットをデフォルトで最小化するかどうかを指定する。
[必須]	このページを訪れた訪問者に対してこのポートレットを常に表示するかどうかを指定する。つまり、ページからこのポートレットを削除することはできない。
[表示名]	デフォルトで表示されるポートレットの名前。

8. 設定が終了したら、[保存] をクリックします。

アプリケーションへの新規ポータルデータの同期

E-Business Control Center でポータルやポートレットを変更すると、新しく定義された特性を表すメタデータが作成されます。ポータルに変更を適用するには、データをアプリケーションに同期させる必要があります。

注意： WebLogic Portal Administration Tools での変更はすべて実行時に行われて、直ちに更新されます。

E-Business Control Center のデータと運用サーバの同期を取るには、以下の手順を実行します。

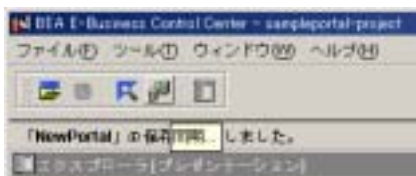
1. ホストサーバを起動し、E-Business Control Center を開きます。1-7 ページの「E-Business Control Center の起動」を参照してください。
2. E-Business Control Center のトップメニューで [ツール] をクリックし、[プロジェクトの設定] を選択します。

図 7-19 接続の詳細



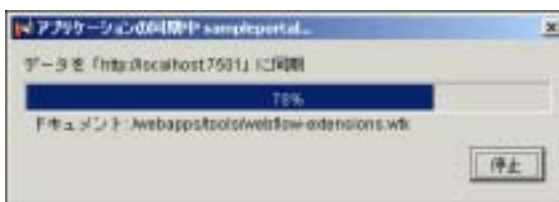
3. 図 7-19 で示されている接続の詳細を確認し、[OK] をクリックします。
4. E-Business Control Center のトップメニューの [同期] アイコンをクリックし、新しいポータルをサーバに同期させます。

図 7-20 同期



5. E-Business Control Center は、アプリケーション内のファイルを検証し、同期の進行を示すバーを表示します (図 7-21)。

図 7-21 同期の進行状況を示すバー



6. データの同期が終了したら、[閉じる] をクリックします。

グループ ポータルを使ったポータル アクセスの設定

ポータルに対する訪問者のアクセスを設定するには、グループ ポータルを作成します。ポータルにグループを割り当てた後、そのグループに対して資格を設定することで、どのユーザがポータルのどの部分にアクセスできるのかを指定します。

グループ ポータルを作成し、資格区分を定義する方法の詳細については、[6-17 ページの「グループ ポータルの作成と管理」](#)を参照してください。

ポータルに割り当てるグループを作成し、資格区分を定義したなら、WebLogic Portal Administration Tools を使って、ポータル、ページ、およびポートレットに対する資格区分を指定できます。

ポータル ページに対する資格の設定

定義済みの資格区分に対して異なるレベルのパーミッションと権限を設定するには、WebLogic Portal Administration Tools を使用します。たとえば、資格区分「Developer」にはページを削除するための権限を与え、資格区分「Administrator」は同じページの表示アクセスだけに制限することができます。

ページに対する資格の指定は、以下の手順で行います。

1. WebLogic Portal Administration Tools を起動します。[1-6 ページの「WebLogic Portal Administration Tools の起動」](#)を参照してください。
2. ホーム ページで [**ポータル管理**] アイコンをクリックします。[ポータル管理ホーム] ページが表示されます。
3. 編集する **グループ ポータル** をクリックします。[グループ ポータル管理ホーム] ページが表示されます。
4. [グループ ポータル管理ホーム] ページで、[**ページとポートレットを管理**] をクリックします。[ページおよびポートレット] ページが表示されます。

図 7-22 [ページおよびポートレット] ページ



5. [ページおよびポートレット] ページで、編集するページの [資格] をクリックします。[資格の設定] ページが表示されます。

図 7-23 [資格の設定] ページ



6. ページの資格区分を追加または削除するには、[**資格区分を追加 / 削除**] をクリックします。[資格区分の追加 / 削除] ページでは、[全資格区分] カラムには利用可能なすべての資格区分が表示され、[選択済み資格区分] カラムには選択されている区分が表示されます。

図 7-24 [資格区分の追加 / 削除] ページ



7. 目的の区分を選択し、**左**または**右**の矢印を使って区分を追加または削除します。
8. 設定が終了したら、[**保存**] をクリックします。[資格の設定] ページが表示されます。

9. 選択した資格区分について以下の権限を指定できます。

権限	定義
[表示対象]	ラジオ ボタンをチェックして、その資格区分のメンバーに対するこのページの表示を許可するか否かを指定する。
[削除可能]	ラジオ ボタンをチェックして、その資格区分のメンバーにポータル ページの非表示設定を許可するか否かを指定する。

10. 設定が終了したら、[保存] をクリックします。

ポートレットに対する資格の設定

ページと同様に、定義済みの資格区分に対して異なるレベルのパーミッションと権限を設定できます。

ポートレットに対する資格区分の設定は、以下の手順で行います。

1. WebLogic Portal Administration Tools を起動します。1-6 ページの「[WebLogic Portal Administration Tools の起動](#)」を参照してください。
2. ホーム ページで [**ポータル管理**] アイコンをクリックします。[ポータル管理ホーム] ページが表示されます。
3. 編集する **グループ ポータル** をクリックします。[グループ ポータル管理ホーム] ページが表示されます。
4. [グループ ポータル管理ホーム] ページで、[**ページとポートレットを管理**] をクリックします。[ページおよびポートレット] ページが表示されます。
5. [ページおよびポートレット] ページで、編集するページの [**ポートレットの編集**] をクリックします。[ポートレットの資格と属性の編集] ページが表示されます。

図 7-25 [ポートレットの資格と属性の編集] ページ



6. 目的のポートレットを選択し、[**資格を設定**] をクリックします。[ポートレットの資格の設定] ページが表示されます。

図 7-26 [ポートレットの資格の設定] ページ



7. 各グループに対して以下の資格を設定できます。

権限	定義
[表示対象]	ラジオ ボタンをチェックして、その資格区分のメンバーにポートレットの表示を許可するか否かを指定する。
[編集可能]	ラジオ ボタンをチェックして、その資格区分のメンバーにポートレットの編集を許可するか否かを指定する。
[削除可能]	ラジオ ボタンをチェックして、その資格区分のメンバーにポートレットの非表示設定を許可するか否かを指定する。

8. 設定が終了したら、[保存] をクリックします。

第8章 パーソナライゼーションと対話の管理

特定のユーザに合わせてコンテンツを作成すれば、見込みのある利用者に対して製品や Web コンテンツを販売することができます。たとえば、近々予定されている地方選挙についてのコンテンツを提供するポータルでは、訪問者のアクセスを投票日以前に限定できます。また、コマースポータルで以前にミステリの書籍をオンライン購入したことのある訪問者に対して、新刊ミステリ小説の広告を表示することができます。

パーソナライゼーション機能を利用すれば、パーソナライズされたサイトの維持管理に必要な作業を大幅に軽減できます。ユーザは、それぞれの属性に基づいてユーザセグメントに分類されます（詳細については [6-38 ページの「顧客セグメントの作成」](#) を参照）。パーソナライゼーションはルールに基づくので、ユーザセグメントはユーザ属性の変更を自動的に反映します。

注意： パーソナライゼーションにおけるルールとその役割の詳細については、『開発者ガイド』（<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wlp/docs70/dev/index.htm>）を参照してください。

管理者は、パーソナライゼーションツールを使用してコンテンツをユーザにマップし、訪問者がポータルのコンテンツを利用する時間を充実したものにしたり、できる限りよい印象を与えることができます。この章では、以下の内容について説明します。

- [顧客に合わせたポータルコンテンツの提供](#)
- [顧客に合わせた広告の提供](#)

顧客に合わせたポータル コンテンツの提供

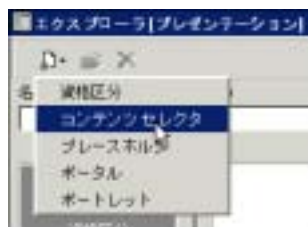
コンテンツ セレクタのメカニズムを利用すると、訪問者に対して特定のコンテンツを提供する条件を定義できます。コンテンツ セレクタ エディタを使って、対象とする訪問者のタイプを定義し、その訪問者にふさわしいコンテンツを表示します。

コンテンツ セレクタをトリガする条件は、BEA E-Business Control Center を使って定義します。その後、訪問者に提供するコンテンツを取り出すクエリを定義します。

E-Business Control Center を使ったコンテンツ セレクタの定義は、以下の手順で行います。

1. E-Business Control Center を開きます。手順については、[1-7 ページの「E-Business Control Center の起動」](#)を参照してください。
2. [**プレゼンテーション**] タブをクリックします。
3. [**エクスプローラ**] ペインの [**コンテンツ セレクタ**] アイコンをクリックします。既存のコンテンツ セレクタが、エクスプローラの右ペインに表示されます。

図 8-1 E-Business Control Center の [新規作成] メニューの [コンテンツ セレクタ] を選択



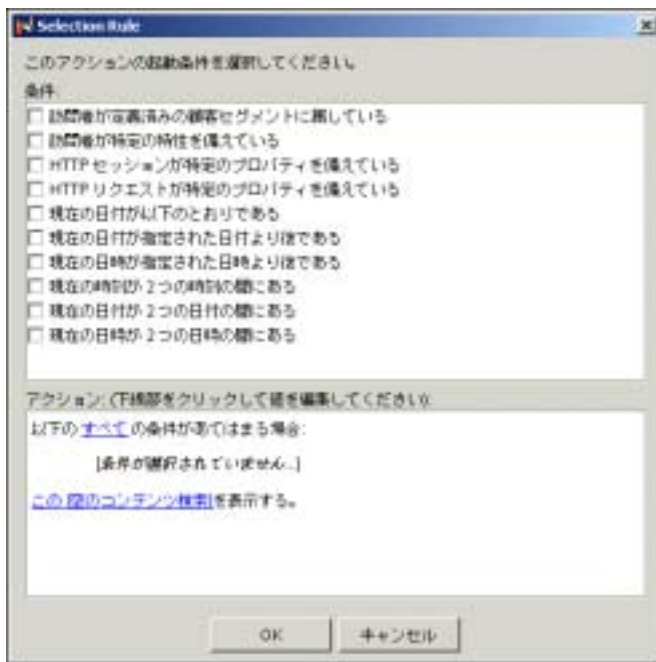
4. [**新規作成**] をクリックして、[**コンテンツ セレクタ**] を選択します。コンテンツ セレクタ エディタが表示されます。

図 8-2 コンテンツ セレクタ エディタ



5. [Edit] をクリックし、Selection Rule エディタを開きます。

図 8-3 Selection Rules エディタ



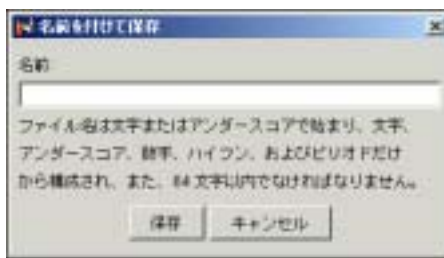
6. コンテンツ セレクタを起動するために使用する各条件の先頭のチェックボックスをクリックします。選択した各条件に対し、関連するアクションが [アクション] ペインに追加されます。
7. [アクション] ペインでは、以下の設定を行います。
 - a. 条件の適用方法を指定します。デフォルト値の [すべて] は、コンテンツセレクタを起動するにはすべての条件が真でなければならないことを意味します。[すべて] をクリックすると [いずれか] に変わります。これは、条件のどれか 1 つでも真であればコンテンツ セレクタを起動することを意味します。
 - b. 次に、条件リストの下線が付いたテキストをクリックして、各条件に対する値を設定します。たとえば、[訪問者が定義済みの顧客セグメントに属している] という条件を選択した場合は、[訪問者が顧客セグメント [顧客セグメント] に属している] というアクションが表示されます。「[顧客セグメント]」をクリックして、[顧客セグメントの選択] ダイアログボックスを表示します。

図 8-4 [顧客セグメントの選択] ダイアログ ボックス



- c. 訪問者が属していなければならない顧客セグメントを選択し、[追加]をクリックして、[選択済みセグメント] リストに移動します。必要なセグメントをすべて追加したら、[OK]をクリックします。
 - d. 選択した条件ごとにステップ b を繰り返します。
 - e. 選択したすべての条件に対して値を設定したら、[OK]をクリックします。[Selection Rule] ダイアログ ボックスが閉じます。
8. E-Business Control Center で [ファイル] メニューを開き、[名前を付けて保存] を選択します。[名前を付けて保存] ダイアログ ボックスが表示されます。

図 8-5 [名前を付けて保存] ダイアログ ボックス



9. [名前] フィールドにコンテンツ セレクタの名前を入力し、[保存] をクリックします。新しいコンテンツ セレクタが、エクスプローラのコンテンツ セレクタ リストに表示されます。

10. 設定が終了したら、ツールバーの[同期]アイコンをクリックし、新しい情報を運用サーバに保存します。このとき、接続の設定が正しいことを確認してください。詳細については、[11-6 ページの「E-Business Control Center の設定」](#)を参照してください。

図 8-6 [同期] ボタン



顧客に合わせた広告の提供

広告プレースホルダ (Ad Placeholder) を使うと、想定した訪問者に合わせてコンテンツを提供できます。たとえば、大工道具と材料をオンラインで販売する Web サイトで、ガーデニング用の道具の広告をいくつか作成し、セール期間中に Web サイトにアクセスした訪問者に対して表示する、といった使い方ができます。E-Business Control Center に用意されているツールを使えば、広告プレースホルダを作成するだけでなく、JSP ページのプレースホルダに表示するガーデニング用具の広告を決定するクエリも作成できます。

注意： 広告プレースホルダは、キャンペーン シナリオ作成の非常に重要な要素です。キャンペーンに関連して広告を使用する方法については、[9-6 ページの「キャンペーンの定義」](#)を参照してください。

この節では、E-Business Control Center でプレースホルダ ファイルを作成し、そのプレースホルダにデフォルト クエリを設定する方法について説明します。

広告プレースホルダ ファイルの作成は、以下の手順で行います。

1. E-Business Control Center を開きます。手順については、[1-7 ページの「E-Business Control Center の起動」](#)を参照してください。
2. [**プレゼンテーション**] タブをクリックします。
3. [**エクスプローラ**] ペインの [**プレースホルダ**] アイコンをクリックします。既存のプレースホルダが、エクスプローラの右ペインに表示されます。

4. [**新規作成 | プレースホルダ**] を選択します。プレースホルダ エディタが表示されます。

図 8-7 プレースホルダ エディタ



5. プレースホルダの説明を入力します。
6. [**新規作成**] をクリックして、デフォルト広告クエリを定義します。プレースホルダ ファイルにデフォルト クエリが1つもないと、プレースホルダ ファイルは不完全であると判断されます（不完全ではあっても、プレースホルダ ファイルを保存することはできます）。[**接続セットアップ**] ウィンドウが表示されます。
7. [**表示名**] フィールドで既存の接続を選択し、管理者から通知されているユーザ名とパスワードを入力します。[**広告検索**] ウィンドウが表示されます。

図 8-8 [広告検索] ウィンドウ



8. [広告検索] ウィンドウで以下の設定を行います。
 - a. クエリ条件を記述するプロパティ セットおよび対応するプロパティを選択します。
 - b. [**追加**] をクリックして、選択したパラメータに対する記述子を定義します。[広告検索値] ウィンドウが表示されます。

図 8-9 [広告検索値] ウィンドウ



- c. 使用する比較を選択し、対応する値を入力します。比較では、値が「等しい」か、「より大きい」か、などを定義します。比較するプロパティによっては、選択可能な値のリストが [値] ボックスに表示されます。

注意： プロパティ値にテキストを入力する必要がある場合は、ワイルドカード文字 (* および ?) と共に [が右のパターンに一致] 比較演算を使用できます。ファイル名に基づくクエリをセットアップし、[が右のパターンに一致] 比較演算を使用する場合、クエリ結果ではファイル名の前にパス情報が常に付くので、クエリはアスタリスク (*) で始めるようにします。

- d. [**追加**] をクリックして、比較方法と値を追加します。複数の値を追加するには、前記の手順を繰り返します。
- e. クエリの作成が終了したら、[広告検索値] ウィンドウの [**OK**] をクリックします。[広告検索] ウィンドウに戻ります。
9. [広告検索] ウィンドウでは、[**追加**] をクリックして複数の記述子を追加します。終了したら、[**OK**] をクリックしてプレースホルダ エディタに戻ります。
10. 既存のデフォルト広告クエリの優先順位を変更するには、そのクエリの [**表示の優先順位**] カラムをクリックして、優先順位を選択します。

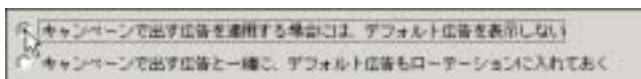
[表示の優先順位] により、プレースホルダ内の他のクエリの優先順位との関係で、そのクエリの実行される可能性が決まります。

注意： クエリに対して優先順位を定義しないと、プレースホルダは、クエリ結果のリストからランダムに選択して表示します。

11. キャンペーン広告クエリも含まれている場合に広告プレースホルダがデフォルト広告クエリを使わないようにするには、[キャンペーンで出す広告を適用する場合には、デフォルト広告を表示しない] オプションを選択します。

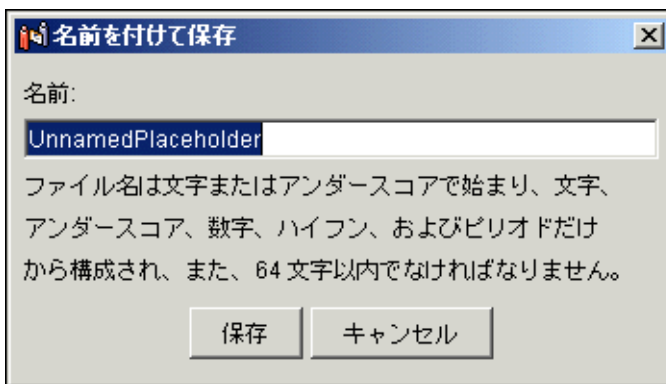
デフォルト広告クエリとキャンペーン広告クエリの両方からプレースホルダに選択させる場合は、[キャンペーンで出す広告と一緒に、デフォルト広告もローテーションに入れておく] オプションを選択します。このオプションを選択すると、キャンペーンの一環として指定された広告がプレースホルダに表示される機会が減る可能性があります。

図 8-10 プレースホルダ エディタでのデフォルト クエリ オプションの設定



12. メイン ツールバーの [保存] アイコンをクリックします。[名前を付けて保存] ウィンドウが表示されます。

図 8-11 [名前を付けて保存] ウィンドウ



13. [名前を付けて保存] ウィンドウでは、プレースホルダの名前を入力して [保存] をクリックします。プレースホルダの名前は、JSP に既に存在する名前、またはこれから JSP で指定する名前にします。名前は、ビジネス エンジニアに確認してください。

14. 設定が終了したら、ツールバーの[同期]アイコンをクリックし、新しい情報を運用サーバに保存します。このとき、接続の設定が正しいことを確認してください。詳細については、[11-6 ページの「E-Business Control Center の設定」](#)を参照してください。

図 8-12 [同期]アイコン



第9章 キャンペーンの実成

キャンペーンでは、サイトの訪問者に対して、それぞれにあわせてパーソナライズした3種類のアクション、すなわち、ページやポートレット上での個別のWebコンテンツの表示、割引の提示、事前に定義しておいた電子メールメッセージの自動送信の3つを使用して、ねらいを定めることができます。

WebLogic Portal が提供する数あるパーソナライゼーション ツールのなかでも、パーソナライズされたアクションを使用して訪問者を絞り込むためのオプションが最も多いのがキャンペーンです。他の WebLogic Portal パーソナライゼーション ツールで行うのと同じようにパーソナライゼーションをトリガする以外に、キャンペーンでは、別の方法でアクションをトリガすることができます。それが、開発者が、ショッピングカート内の商品の内容や数量に基づき、または訪問者を無作為に選択して、作成したカスタム イベントを使用する方法です。

キャンペーンは、より正確に訪問者を絞り込むだけでなく、ブラウジングセッションでは、複数のアクションをトリガし、しかも同時に複数のアクションをトリガすることもできます。

たとえば、訪問者が特定のアイテムをショッピングカートまたは注文に追加すると、その訪問者には、絞り込んだ広告をポートレットに入れて見せ、注文の割引を行い、さらに自動的に電子メールメッセージを送ることができます。そのキャンペーンでは、他の訪問者には割引を行うけれども広告の表示や電子メールの送信は行わない、というように定義することもできます。他の例を挙げると、「人事イントラネット」ページで社員が「自由登録」ボタンをクリックすると、ポートレットにはCEOからの短いビデオクリップが流され、401Kプランの新しい基金の説明が電子メールで自動的に送られてくるというものです。

実際のキャンペーン機能を見るには、WebLogic Portal Commerce Templates サンプルを起動して、既存のキャンペーンを修正してください。

この章では、以下の内容について説明します。

- [キャンペーンの前提条件](#)
- [キャンペーンの定義](#)
- [キャンペーンのデバッグと変更](#)

- キャンペーンを非アクティブにする / 再度アクティブにする

キャンペーンの前提条件

キャンペーンの用途の広さと力は、キャンペーンを構成する要素によってもたらされます。E-Business Control Center のなかでキャンペーンを作成する前に、開発者と一緒以下前提となる要素を作成する必要があります。これらの要素は、以下の基本カテゴリに分けられ、それぞれの名前は整理する目的でのみ表示されます。

- 「トリガ」は、ユーザのプロパティやイベントなど、キャンペーンのアクションを引き起こすものです。
- 「コンテンツ」は、アクションがトリガされると訪問者が見たり受けたりする Web コンテンツ、割引または電子メール メッセージです。

キャンペーンの目に見える結果（ページやポートレットに表示された絞り込まれた Web コンテンツ、割引、電子メール メッセージ）は別として、キャンペーンの機能は訪問者にはそれとはわかりません。キャンペーンの機能は、それぞれのサイトの特定の部品のなかで、JSP タグ、イベント、または、ルールやプロパティの形で統合されています。イベントは、JSP 内で作られて使われ、ルールやプロパティは、E-Business Control Center のなかで定義され、サーバとの同期を通じてポータルで使用可能になります。

キャンペーンをサポートするためにすでに作成されている適切なインフラストラクチャを使用して、開発者がそれぞれのポータル ページやポートレットにそのインフラストラクチャを組み込みます。たとえば、ショッピング カートを使用している場合、割引の利用や表示のサポートをそのショッピング カート JSP に組み込む必要があります。

以下の節では、E-Business Control Center でのキャンペーン定義に先立って作成しておかなければならないトリガとコンテンツについて説明します。

トリガの作成

訪問者がサイトを利用する際、いくつかの条件を定義しておいて、そこからキャンペーンアクションをトリガすることができます。表 9-1 にあるリンクに従って、使用するキャンペーントリガを作成します。多くの場合、トリガを設定することは、コーディングと JSP の作業を伴う開発タスクです。開発タスクは、各指示へのリンクに含まれています。

日付、時刻、訪問者のランダム サンプリングだけを基準にキャンペーンアクションをトリガしたい場合は、この節は省略してもかまいません。

表 9-1 キャンペーン トリガの作成

タスク	解説	参照
ユーザ プロパティとユーザ プロファイル プロパティの作成	ユーザについてストアされている特定の情報に基づいて、キャンペーンアクションをトリガする。キャンペーンアクションを作成する際、このタスクは[訪問者が特定の特性を備えている]オプションにマップされます。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ このガイドの 6-3 ページの「ユーザの作成と管理」 ◆ http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wlp/docs70/dev/usrgrp.htm にある『開発者ガイド』の「ユーザ プロファイルの実装」の章の「プロパティ セット定義の作成」 ◆ このガイドの 6-7 ページの「ユーザのプロパティの変更」。
セグメントの作成	特定のセグメントに属するユーザに基づいて、キャンペーンアクションをトリガする。キャンペーンアクションを作成する際、このタスクは[訪問者が定義済みの顧客セグメントに属している]オプションにマップされます。	このガイドの 6-37 ページの「顧客に合わせてコンテンツを提供するためのグループの作成」

表 9-1 キャンペーントリガの作成 (続き)

タスク	解説	参照
カスタム イベントの作成	マウスのクリックやユーザ登録などのイベントの発生に基づいて、キャンペーン アクションをトリガする。WebLogic Portal には、定義済みのイベントセットが付属しており、使用可能。キャンペーン アクションを作成する際、このタスクはイベントを扱うオプションにマップされます。	http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wlp/docs70/dev/evnttrak.htm にある『開発者ガイド』の「イベントおよび行動追跡」の章
HTTP セッションとリクエストのプロパティの作成	文字コード化方式や使用するブラウザのタイプなど、HTTP セッションとリクエストのプロパティを基に、キャンペーン アクションをトリガする。キャンペーン アクションを作成する際、このタスクは HTTP のセッションやリクエストのオプションにマップされます。	http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wlp/docs70/dev/usrgpr.htm にある『開発者ガイド』の「ユーザ プロファイルの実装」の章の「プロパティセット定義の作成」
カタログの作成とショッピング カートの設定	ショッピング カートの中身や価値に基づいて、キャンペーン アクションをトリガする。キャンペーン アクションを作成する際、このタスクはショッピング カートのオプションにマップされます。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wlp/docs70/dev/commerce.htm にある『開発者ガイド』の「Commerce サービスのセットアップ」の章の「プロダクト カatalogのサポート」 ◆ このガイドの第 10 章「Commerce サービスの管理」

コンテンツの作成

キャンペーンを作成する前に、キャンペーンで使用する Web コンテンツとプレースホルダ、割引、電子メール メッセージを作成する必要があります。これらの作成に関する詳細は、表 9-2 にあるリンク先に従ってください。説明へのリンクには、どれが開発タスクで、どれが管理タスクなのかも含まれています。

キャンペーン内でグラフィックスを使用するには、コンテンツ管理システムを WebLogic Portal に接続するか、WebLogic Portal の標準コンテンツ管理サーバを使用する必要があります。コンテンツ管理システムに接続したら、E-Business Control Center でドロップダウン リストから Web コンテンツ メタデータを使用して、Web コンテンツを JSP 上のプレースホルダに置くクエリを定義します。

表 9-2 キャンペーン コンテンツの作成

タスク	解説	参照
コンテンツ メタデータの設定、コンテンツのロード、プレースホルダの作成	訪問者に対して、キャンペーンの一部としてパーソナライズされた Web コンテンツを表示するには、その Web コンテンツを作成してデータベースまたはコンテンツ管理システムに格納する必要があります。グラフィックス プロパティは、クエリを定義するために E-Business Control Center で利用可能になっていなければなりません。また、プレースホルダも、JSP と E-Business Control Center で定義されていなければなりません。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ コンテンツ： http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wlp/docs70/dev/conmgmt.htm にある『開発者ガイド』の「ポータル コンテンツ管理」 ◆ コンテンツ： http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wlp/docs70/dev/cmpaign.htm にある『開発者ガイド』の「Campaign サービスのセットアップ」の章の「コンテンツ管理システムへの広告のロード」 ◆ プレースホルダ： http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wlp/docs70/dev/p13n.htm にある『開発者ガイド』の「パーソナライゼーションおよび対話管理のセットアップ」 ◆ プレースホルダ：このガイドの 8-6 ページの「顧客に合わせた広告の提供」
割引の作成	キャンペーンで割引を使用するには、E-Business Control Center にすでに定義され、キャンペーン割引になっている必要があります。	このガイドの 10-28 ページの「割引の管理」
電子メール メッセージの作成	開発者は、管理者がキャンペーンで使用する電子メール メッセージを作成し、ストアします。	http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wlp/docs70/dev/cmpaign.htm にある『開発者ガイド』の「Campaign サービスのセットアップ」の章の「パーソナライズされたキャンペーン用電子メールの作成」

キャンペーンの定義

これまでの節で説明したように、キャンペーンで使用する要素すべてを作成すると、E-Business Control Center でのキャンペーン定義の用意が整います。作成するキャンペーン定義では、トリガをコンテンツにマップするルールを提供しません。

適切なキャンペーン インフラストラクチャと定義済みのキャンペーン ルールを使用して、E-Business Control Center からサーバにキャンペーンを同期化すると、キャンペーンがアクティブになります。

キャンペーンは、設定した条件に基づいて開始、終了します。たとえば、7月1日にキャンペーンを同期化しても、キャンペーンの開始日が「7月4日以降」であれば、キャンペーンは7月4日になるまでは開始されません。

キャンペーンを作成する際、テスト環境で作成し同期化して、プロダクションサイトにデプロイする前に、バグを解決する必要があります。

注意： キャンペーンは、キャンペーンとは独立して作成されたブレースホルダ、割引、セグメント、イベント、カタログの詳細、およびさまざまなプロパティ セットから成り立っているため、そのうちのいずれかを変更すると、キャンペーンに影響する可能性があります。これら独立した項目のいずれかに対する変更については、開発者と調整してください。

この節では、以下の項目を含む、キャンペーンの定義について説明します。

- [ステップ 1: キャンペーン ファイルの作成](#)
- [ステップ 2: キャンペーンの全般情報の入力](#)
- [ステップ 3: シナリオとアクションの作成](#)
- [ステップ 4: キャンペーンの開始 / 停止の条件の定義](#)
- [ステップ 5: キャンペーンの同期化](#)

ステップ 1: キャンペーン ファイルの作成

E-Business Control Center でキャンペーンを定義すると、キャンペーンのルールが XML ファイルにストアされます。キャンペーン ファイルは、以下の手順で作成します。

1. E-Business Control Center を開きます。1-7 ページの「E-Business Control Center の起動」を参照してください。
2. エンタープライズ アプリケーション用の E-Business Control Center プロジェクト ファイルを開きます。新しいドメインでは、デフォルトのプロジェクト ファイルは次のとおりです。
`<ドメイン>/beaApps/portalApp-project/portalApp-project`
3. E-Business Control Center の [エクスプローラ] ウィンドウの [ビジネス ロジック] タブをクリックします。
4. E-Business Control Center の [エクスプローラ] ウィンドウのツールバーで、[図 9-1](#) に示すように、[新規作成 | キャンペーン] をクリックします。新しいキャンペーン エディタ ウィンドウが表示されます。

図 9-1 新しいキャンペーン ファイルの作成



5. [ファイル | 名前を付けて保存] を選択して、表示された [キャンペーンに関する問題] ダイアログ ボックスで [OK] をクリックします。
6. [名前を付けて保存] ウィンドウで、新しいキャンペーンの名前を入力し、[保存] をクリックします。[エクスプローラ] ウィンドウに新しいキャンペーン名が表示されます。
7. キャンペーンを定義するには、以下の手順で行います。

プロセスの始めにファイルを作成して保存すると、ファイルが不完全であっても、キャンペーンを定義するとその作業を保存することができます。

ステップ 2: キャンペーンの全般情報の入力

1. キャンペーン エディタで、[全般]バーをクリックします。
2. 必須の[キャンペーン スポンサー]と[概要]情報を入力して、キャンペーンを記述します。
3. 任意に、[目標の概要]を入力して、キャンペーンの成功を説明します。
4. [全般]バーをクリックして、領域を閉じます。

キャンペーン スポンサーとは、キャンペーンの委託元である人または組織のことです。E-Business Control Center では、[エクスプローラ]ウィンドウで[キャンペーン検索]アイコンをクリックすると、キャンペーン スポンサーを検索キーの一部として使用し、検索することができます。アイコンは、[ビジネス ロジック]タブでのみ使用できます。

ステップ 3: シナリオとアクションの作成

キャンペーンには1つ以上のシナリオが含まれます。シナリオには、アクションが含まれ、アクションでは、キャンペーンの動作を定義します。シナリオを使用して、アクションの論理グループを作成します。たとえば、すべての電子メールアクションが含まれるシナリオを作成したり、給付を受けるための自由登録など、共通の目標をサポートする別のタイプのアクションが含まれるシナリオを作成することができます。

シナリオの作成

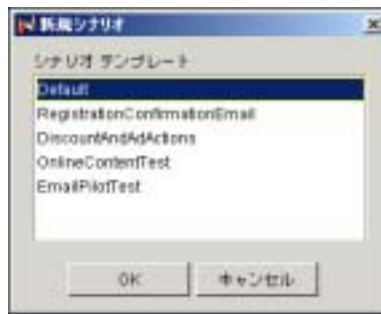
以下の手順に従って、シナリオを作成します。

1. キャンペーン エディタ ウィンドウで、[シナリオ]バーをクリックします。
2. [新規シナリオ]をクリックします。[新規シナリオ]ウィンドウが表示され、[図 9-2](#) に示すようなシナリオ テンプレートのリストが表示されます。次の一覧は、各シナリオの説明です。

- Default 空のテンプレート。
- RegistrationConfirmationEmail - 登録した訪問者に対する登録確認の電子メールの送信方法を示す。
- DiscountAndAdActions - 割引広告を表示し、関連する割引アクションをそれに組み合わせる。
- OnlineContentTest - 確率的分岐 (probability-based branching) を用いてコンテンツ効果を試算する。
- EmailPilotTest - 3種類の異なる電子メールメッセージをパイロットテストする。

既存のシナリオをコピーしてシナリオを作成したい場合には、[シナリオ] リスト内の既存シナリオ名をクリックして選択したあと、[コピー] をクリックします。そのシナリオのコピーが、そのアクションと共に [シナリオ] リストに表示されます。そのあと、[編集] をクリックして、そのシナリオを適宜変更することができます。

図 9-2 シナリオ テンプレート



3. [デフォルト] テンプレートを選択し、[OK] をクリックします。図 9-3 に示すような [シナリオ プロパティ] ウィンドウが表示されます。

図9-3 [シナリオ プロパティ] ウィンドウ



4. シナリオの名前と概要を入力します。
5. 1つ以上のセグメントのメンバーがサイトを訪問したときに、シナリオ内のすべてのキャンペーン アクションをトリガする場合、[**セグメントを選択**] をクリックして、セグメントを選択し、[**OK**] をクリックします。
6. [**OK**] をクリックします。
7. 確認ウィンドウで [**OK**] をクリックします。シナリオ名は、選択したセグメント名と一緒にシナリオ リストに表示されます。
8. シナリオ内にアクションを作成します。

シナリオ アクションの作成

シナリオを作成したら、アクションを追加する必要があります。シナリオに追加できるアクションには、広告アクション、電子メールアクション、割引アクションの3つのタイプがあります。

この節では、以下の内容について説明します。

■ 広告アクション

- 電子メールアクション
- 割引アクション

注意： アクションを作成したら、その後アクションを作成する際には、すでに作成したアクションを複製することにより、作成時間を節約できます。そのためには、複製したいアクションを選択し、[**コピー**] ボタンをクリックします。

広告アクション

広告アクションを作成する際、ページやポートレットに表示する適切な Web コンテンツを、コンテンツ管理システムから選択する条件を定義します。クエリを定義することになるので、クエリは Web コンテンツのセットを複数返す場合があります。WebLogic Portal に多数返されるコンテンツのなかから 1 つ選択させるのではなく、Web コンテンツの特定の 1 つを絞り込みたい場合には、求めるコンテンツそのものを取り出せるようにクエリを厳密に定義します。

このタイプのアクションを作成する場合、実行中のサーバにログインできなければなりません。

以下の手順に従って、広告アクションを作成します。

1. アクションの追加先となるシナリオの名前を選択します。
2. [**新規アクション | 広告**] をクリックします。図 9-4 に示すような [新規の広告アクション] ウィンドウが表示されます。

図9-4 [新規の広告アクション] ウィンドウ



3. [新規の広告アクション] ウィンドウの[条件]部に表示されているチェックボックスをクリックして、広告が表示される条件を選択します。選択した条件を記述するテキストが、ウィンドウの[アクション]部に表示されます。前提となるタスクに対応する条件を表9-1に示します。
4. 選択した条件ごとに、ウィンドウの[アクション]部に表示される、かっこ ([]) で囲まれたすべてのハイパーリンクテキストについて、当てはまる値を指定する必要があります。ハイパーリンクテキストをクリックして、適切な値を設定します。
たとえば、[訪問者が特定の特性を備えている]を選択すると、[訪問者がこれらの[特性]を備えている]という条件文のハイパーリンクになった[特性]テキストに対して値を指定する必要があります。

- 複数の条件を選択した場合、[以下のすべての条件があてはまる場合] オプションを設定します。[すべて]という言葉をクリックすると、[いずれか] に変わります。[いずれか] オプションを使用すると、条件のうちのどれか1つに一致するだけでアクションをトリガします。

次のステップは、表 9-2 で説明したコンテンツとプレースホルダの前提となるタスクが完了しているかどうかによって異なります。

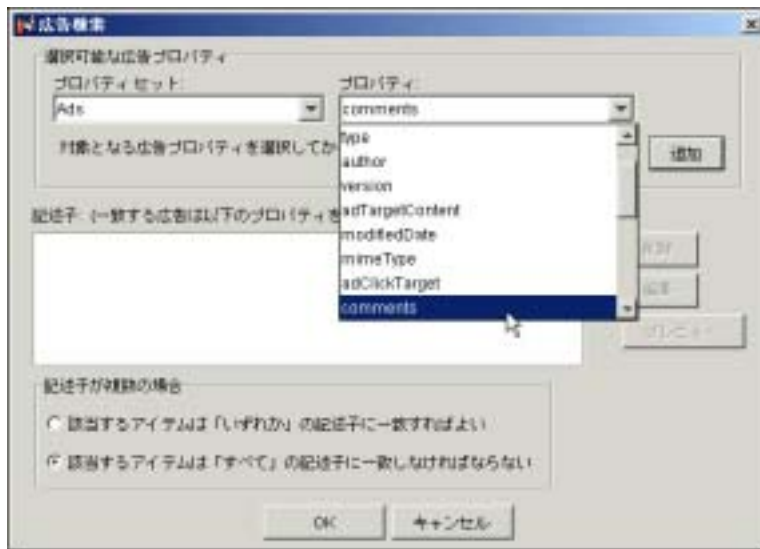
- ここで、コンテンツ管理システムからどの Web コンテンツを取り出して表示するかを決めるクエリを定義します。[空の広告検索] をクリックします。

ログインするよう表示される場合、デフォルトでは WebLogic Server システム管理者または WebLogic Portal システム管理者としてログインする必要があります。

[広告検索] ウィンドウが表示されます。

- [広告検索] で、図 9-5 に示すように、Web コンテンツのプロパティ セットとクエリ用のプロパティを選択します。

図 9-5 クエリで使用するためのプロパティの選択



- [追加] をクリックします。[広告検索値] ウィンドウが表示されます。

9. [広告検索値] ウィンドウで、プロパティと適切なオプションを設定します。値を追加したら、[追加] をクリックします。値の追加を終了したら、適切な [値条件句が複数の場合] オプションを設定し、[OK] をクリックします。[広告検索] ウィンドウの [説明] リストに値が表示されます。
10. 追加のプロパティや値が必要であれば追加します。
11. [広告検索] ウィンドウで、適切な [記述子が複数の場合] オプションを選択します。[該当するアイテムは「いずれか」の記述子に一致すればよい] オプションを選択すると、クエリからは設定した値のどれかに一致する Web コンテンツが返されます。[該当するアイテムは「すべて」の記述子に一致しなければならない] を選択すると、表示する Web コンテンツはどれも、すべての条件に一致しなければならないため、クエリから返されるものを絞り込みます。
12. [OK] をクリックします。クエリが定義されました。
13. 次に、クエリに対してあらかじめ定義されているプレースホルダを1つ以上選択して、ページやポートレットのどこに Web コンテンツを表示するかを決定します。[このプレースホルダ] をクリックします。図 9-6 に示すような [プレースホルダの選択] ウィンドウが表示されます。

図 9-6 [プレースホルダの選択] ウィンドウ



14. [プレースホルダの選択] ウィンドウで、Web コンテンツを表示することになるプレースホルダ (複数可) を [選択済みプレースホルダ] リストに移動し、[OK] をクリックします。

15. 選択したプレースホルダを他のキャンペーン アクションで使用する場合、[**望ましい広告表示優先順位の選択**] オプションを設定して、表示する Web コンテンツに対する相対的優先順位を設定します。[**Normal**] リンクをクリックして、優先順位を変更します。
 他のシナリオやキャンペーンによってプレースホルダに置かれているクエリを自動的に削除することにより、Web コンテンツがプレースホルダに表示される機会を増やすこともできます。これを行うには、[**他の広告はどれも削除しない**] をクリックして、適切なクエリ削除オプションを設定します。
16. キャンペーン終了以前に、Web コンテンツをプレースホルダに表示するのを止めたい場合は、[**キャンペーンが終了するまで**] をクリックして、終了日時を設定します。
 設定する日時は、それぞれの時間帯の日時です。他の時間帯に属する訪問者の場合、サイトの時間帯にあわせて Web コンテンツの有効期限がきます。
17. たとえば、訪問者が登録を行ったときにだけ表示するというように、シナリオの実行を訪問者 1 人につき 1 回だけにする場合、[**このアクションがいったん実行されたら、この訪問者に対してはシナリオを再び実行しない**] オプションを選択します。
18. [**OK**] をクリックします。[**新規の広告アクション**] ウィンドウが閉じます。キャンペーン エディタ ウィンドウには、[図 9-7](#) に示したように、シナリオ名の下に選択した条件とそれに対応するアクションが表示されます。

図9-7 新しいシナリオ



電子メール アクション

電子メール アクション（トリガされたときに訪問者に自動的に電子メールを送信するアクション）を指定するには、その一環として、作成済みの電子メールメッセージを参照する必要があります。詳細については、[表 9-2](#) の前提となるタスクを参照してください。

このタイプのアクションを作成する場合、実行中のサーバにログインできなければなりません。

以下の手順に従って、電子メール アクションを作成します。

1. アクションの追加先となるシナリオの名前を選択します。
2. [**新規アクション | 電子メール**] をクリックします。[図 9-8](#) に示すような [新規の電子メール アクション] ウィンドウが表示されます。

図 9-8 [新規の電子メールアクション] ウィンドウ



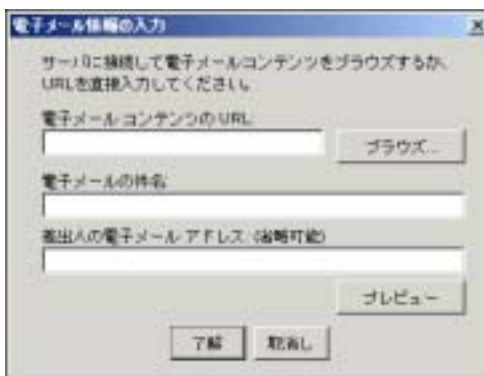
3. [新規の電子メールアクション] ウィンドウの [条件] 部に表示されているチェック ボックスをクリックして、電子メールを送信する条件を選択します。選択した条件を記述するテキストが、ウィンドウの [アクション] 部に表示されます。
前提となるタスクに対応する条件を表 9-1 に示します。
4. 選択した条件ごとに、ウィンドウの [アクション] 部に表示される、かっこ ([]) で囲まれたすべてのハイパーリンク テキストについて、当てはまる値を指定する必要があります。ハイパーリンク テキストをクリックして、適切な値を設定します。
たとえば、[訪問者が特定の特性を備えている] を選択すると、[訪問者がこれらの [特性] を備えている] という条件文のハイパーリンクになった [特性] テキストに対して値を指定する必要があります。

5. 複数の条件を選択した場合、[**以下のすべての条件があてはまる場合**] オプションを設定します。[**すべて**] という言葉をクリックすると、[**いずれか**] に変わります。[**いずれか**] オプションを使用すると、条件のうちのどれか1つに一致するだけでアクションをトリガします。
6. 次に、送信する電子メールメッセージを選択します。[**サーバの URL**]、[**件名**] または [**送信者のアドレス**] をクリックします。

ログインするよう表示される場合、デフォルトでは WebLogic Server システム管理者または WebLogic Portal システム管理者としてログインする必要があります。

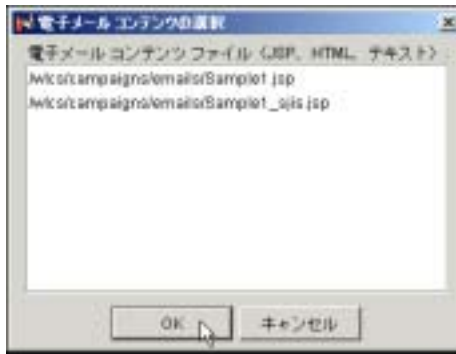
図 9-9 に示すような [電子メール情報の入力] ウィンドウが表示されます。

図 9-9 [電子メール情報の入力] ウィンドウ



7. [電子メール コンテンツの URL] フィールドで、[**ブラウズ**] をクリックします。図 9-10 に示すように、[電子メール コンテンツの選択] ウィンドウで、使用する電子メール ファイルを選択し、[**OK**] をクリックします。

図 9-10 [電子メール コンテンツの選択] ウィンドウ



8. [電子メール情報の入力] ウィンドウで、電子メールの件名、および必要であれば差出人の電子メール アドレスを、それぞれ該当するフィールドに入力します。訪問者のユーザ プロファイルに電子メール情報がストアされている場合、そのアドレス宛てに電子メールが送られます。

注意： 電子メール メッセージを見るために [プレビュー] をクリックすると、ユーザ ID を聞いてきます。これはログインの要件ではありません。入力する名前は、プレビューの挨拶の行に表示される名前となります。

9. [OK] をクリックします。
10. たとえば、訪問者が登録を行ったときにだけ表示するというように、シナリオの実行を訪問者 1 人につき 1 回だけにする場合、[このアクションがいったん実行されたら、この訪問者に対してはシナリオを再び実行しない] オプションを選択します。
たとえば、指定された顧客が何回サイトを訪れようと、また当該条件に何回一致しようと、その顧客が受け取る電子メールが 1 通だけになるようにしたい場合には、このオプションを選択します。
11. [OK] をクリックします。[新規の電子メール アクション] ウィンドウが閉じます。キャンペーン エディタ ウィンドウには、シナリオ名の下に選択した条件とそれに対応するアクションが表示されます。

割引アクション

割引アクションは、一定の条件を満たす場合に購入セッション中の訪問者に割引を提供します。たとえば、訪問者が特定のアイテムをショッピングカートに入れたり、特定の日時にログインした場合に、その訪問者は割引を受けられます。

割引アクションを指定するには、その一環として、定義済み割引のリストから割引を選択する必要があります。使用する割引は、あらかじめ定義してあるかどうか確認してください。詳細については、[表 9-2](#) の前提となるタスクを参照してください。

以下の手順に従って、割引アクションを作成します。

1. アクションの追加先となるシナリオの名前を選択します。
2. [**新規アクション | 割引**] をクリックします。[図 9-11](#) に示すような [新規の割引アクション] ウィンドウが表示されます。

図 9-11 [新規の割引アクション] ウィンドウ



3. [新規の割引アクション] ウィンドウの [条件] 部に表示されているチェックボックスをクリックして、割引が提供される条件を選択します。選択した条件を記述するテキストが、ウィンドウの [アクション] 部に表示されます。
前提となるタスクに対応する条件を表 9-1 に示します。
4. 選択した条件ごとに、ウィンドウの [アクション] 部に表示される、かっこ ([]) で囲まれたすべてのハイパーリンク テキストについて、当てはまる値を指定する必要があります。ハイパーリンク テキストをクリックして、適切な値を設定します。
たとえば、[訪問者が特定の特性を備えている] を選択すると、[訪問者がこれらの [特性] を備えている] という条件文のハイパーリンクになった [特性] テキストに対して値を指定する必要があります。

- 複数の条件を選択した場合、[**以下のすべての条件があてはまる場合**] オプションを設定します。[**すべて**] という言葉をクリックすると、[**いずれか**] に変わります。[**いずれか**] オプションを使用すると、条件のうちのどれか 1 つに一致するだけでアクションをトリガします。
- 次に、使用する割引を選択します。[**割引**] または [**説明**] をクリックします。[図 9-12](#) に示すような [**割引の選択**] ウィンドウが表示されます。

図 9-12 [割引の選択] ウィンドウ



- [**割引の選択**] ウィンドウで、使用する割引を選択し、任意にその割引に対する説明（省略可能）を入力します。

割引の説明は、ショッピングカート JSP でこれをサポートしている場合には、その割引を受ける顧客に表示されます。

- [**OK**] をクリックします。
- たとえば、訪問者が登録を行ったときにだけ表示するというように、シナリオの実行を訪問者 1 人につき 1 回だけにする場合、[**このアクションがいったん実行されたら、この訪問者に対してはシナリオを再び実行しない**] オプションを選択します。

たとえば、顧客が何回サイトを訪れようと、また当該条件に何回一致しようと、登録時にだけ割引を受けたい場合には、このオプションを選択します。

- [OK] をクリックします。[新規の割引アクション] ウィンドウが閉じます。キャンペーン エディタ ウィンドウには、シナリオ名の下に選択した条件とそれに対応するアクションが表示されます。

シナリオおよびアクションの変更と削除

シナリオまたはアクションを変更するには、キャンペーン エディタ ウィンドウのなかで変更するものをダブルクリックし、その属性を変更します。

シナリオまたはアクションを削除するには、キャンペーン エディタ ウィンドウのなかで削除するものを選択し、[削除] をクリックします。

ステップ 4: キャンペーンの開始 / 停止の条件の定義

キャンペーン開始日時を設定でき、また、キャンペーンの停止を日時に指定したり、またはキャンペーンの一定の目的を達成した時点で停止することができます。キャンペーンの目標は、Web コンテンツの表示回数や、それがクリックされた回数で決定します。

注意： 設定する日時は、それぞれの時間帯の日時です。他の時間帯に属する訪問者に対しては、サイトの時間帯にあわせてキャンペーンの開始 / 停止が行われます。

キャンペーンの開始 / 停止と割引の開始 / 停止を揃えたい場合があるでしょう。

キャンペーンの開始日時の設定


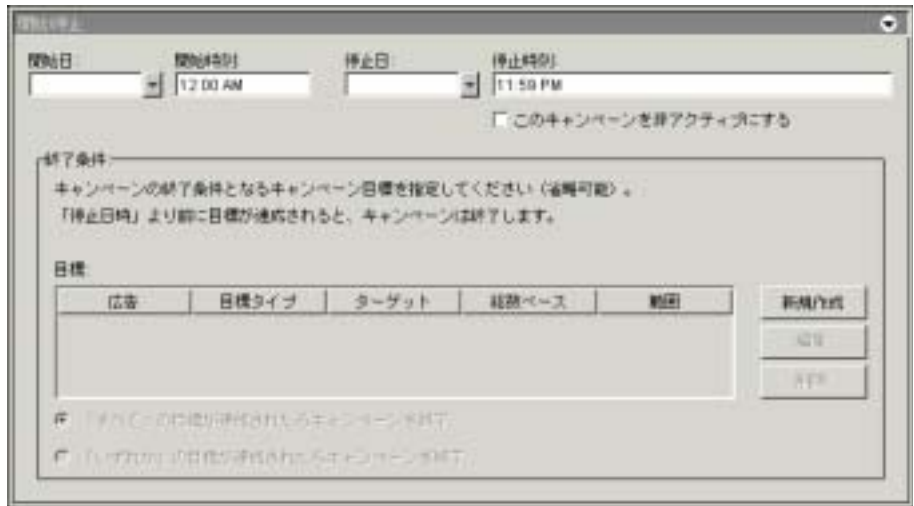
-  9-13 に示したように、キャンペーン エディタ ウィンドウで、[開始 / 停止] バーをクリックします。

図9-13 キャンペーンの[開始/停止]ペイン



2. [開始日] フィールドの下矢印キーをクリックして、図9-14に示したように、キャンペーンの開始日を設定します。
3. [開始時刻] を入力します。

図9-14 キャンペーン開始日の設定



日時によるキャンペーンの停止

[開始/停止] ペイン (図9-13) で、[停止日] および [停止時刻] を入力します。

目標によるキャンペーンの停止

シナリオで広告アクションを使用する予定があり、Web コンテンツに関する一定の目標が達成されたらキャンペーンを終了したい場合には、停止日以前でも目標を成した時点でキャンペーンを停止することができます。

キャンペーン終了条件の指定は、Web コンテンツに関連するインプレッション（ビュー）の回数、Web コンテンツのクリックスルー回数、あるいはその両者の組み合わせに基づいて行うことができます。

次の手順に従って、一定数のインプレッションまたはクリックスルーが発生した時点でキャンペーンを停止します。

1. [開始/停止]ペインの[終了条件]領域で[新規作成]をクリックします。[図 9-15](#) に示すような[目標の詳細]ウィンドウが表示されます。

図 9-15 [目標の詳細]ウィンドウ

2. [目標タイプ] フィールドで、この終了条件を [広告インプレッション] と [広告クリックスルー] のどちらに基づいて指定するのを選択します。
3. [ターゲット数] フィールドに、目標達成に必要なインプレッションまたはクリックスルーの数を入力します。

- 次に、インプレッションまたはクリックスルーをカウントするのに使用する Web コンテンツを選択します。[**広告を指定してください。**] 領域で、[**広告 ID を取得**] をクリックします。図 9-16 に示すような [広告 ID を取得] ウィンドウが表示されます。

このウィンドウでは、定義しておいたシナリオと広告クエリにのみアクセスできます。

図 9-16 [広告 ID の取得] ウィンドウ



- [**このキャンペーン内の当てはまるシナリオ**] フィールドで、求める Web コンテンツを表示するような広告クエリを含むシナリオを選択します。
- [**広告検索**] フィールドで、求める Web コンテンツを取得するようなクエリの番号を選択します。
- [**広告 ID を取得**] ボタンをクリックします。クエリで取得した Web コンテンツが [広告 ID] ペインに表示されます。

ログインするよう表示される場合、デフォルトでは WebLogic Server システム管理者または WebLogic Portal システム管理者としてログインする必要があります。

- キャンペーン終了条件に使用する Web コンテンツを選択して、[**OK**] をクリックします。

9. 必要に応じて、終了条件に使用したい Web コンテンツすべてが表示されるまで、ここまでのステップを繰り返します。
注意： 広告 ID をリストから削除したい場合には、該当する広告 ID を選択し [削除] をクリックします。
10. [ターゲット数] フィールドに入力した数に達したかどうかの判定を [トラッキングリスト内の全広告] の合計に基づいて行うのか、それとも [トラッキングリスト内の指定された任意の広告] のクリックスルー数またはインプレッション数に基づいて行うのかを、[目標の詳細] ウィンドウの [ターゲットベース] 領域で選択します。
11. [ターゲット範囲] 領域では、広告のカウントをこのキャンペーン内だけで行うのか、それとも複数のキャンペーンにわたって行うのかを選択します。
12. [OK] をクリックします。
注意： 目標を変更するには、[開始/停止] ペインで目標を選択して [編集] をクリックします。目標を削除するには、目標を選択し [削除] をクリックします。
13. 複数の目標を設定する場合、ウィンドウ下部で適切な [キャンペーンを終了] を設定します。
14. キャンペーンを保存します。

ステップ 5: キャンペーンの同期化

キャンペーンの作成、変更、削除を行った後、その変更を反映させるために E-Business Control Center からサーバに対して同期化する必要があります。図 9-17 に示すように、E-Business Control Center ツールバーにある [同期] ボタンをクリックします。ログインするよう表示される場合、WebLogic Server システム管理者または WebLogic Portal システム管理者としてログインする必要があります。

図 9-17 サーバへの同期化



E-Business Control Center をサーバと接続するための設定の詳細については、[11-6 ページの「E-Business Control Center の設定」](#)を参照してください。

キャンペーンのデバッグと変更

作成の済んだキャンペーンをテストする際には、キャンペーンをリセットして、初めてデプロイされた状態で動作させると好都合です。そうすると、キャンペーンをどのように変更すればよいか分かりやすいでしょう。

キャンペーンのデバッグ

E-Business Control Center には、デバッグを主目的としたオプション機能が用意されており、それを利用すれば以下の操作を行えます。

- 設定済みの広告をローテーションから外す
- 広告インプレッションと広告クリックスルーのカウンタを初期化する
- 「訪問者ごとに1回実行する」タイプのシナリオをリセットする
- 保留になっている電子メールを削除する

以下の手順に従って、キャンペーン状態をリセットします。この手順を使用するには、WebLogic Server システム管理者または WebLogic Portal システム管理者として実行中のサーバにログインすることが必要です。

1. E-Business Control Center で [ツール | キャンペーンのリセット] を選択します。[図 9-18](#) に示すような [キャンペーン状態のリセット] ウィンドウが表示されます。

図 9-18 [キャンペーン状態のリセット] ウィンドウ



2. [アクティブなキャンペーン] リストで、リセットしたいキャンペーンを選択します。

終了したキャンペーンでもアクティブとみなされ、リスト内に表示されることがあります。キャンペーンが [アクティブなキャンペーン] リストに表示されないのは、そのキャンペーンの [開始 / 停止] ペインで **[このキャンペーンを非アクティブにする]** オプションを選択してある場合だけです。

3. 選択したキャンペーンに当てはまるリセット オプションを選択します。
4. リセットしたいすべてのキャンペーンについて、以上の手順を繰り返します。
5. [OK] をクリックします。

ログインするよう表示される場合、デフォルトでは WebLogic Server システム管理者または WebLogic Portal システム管理者としてログインする必要があります。

6. [キャンペーンのクリア] ウィンドウが表示され、リセットの進行状況が表示されます。
7. リセットが完了すると、[キャンペーンのクリア] ウィンドウにその旨表示されるので、[OK] をクリックします。これで、キャンペーンのデバッグを開始することができます。

同期後に [キャンペーン状態のリセット] ウィンドウを自動的に表示するように E-Business Control Center を設定することもできます。これを行うには、[**ツール** | **プロジェクトの設定**] を選択します。[同期] タブで、[**アクティブなキャンペーンのリセット オプションを表示する**] オプションを選択し、[OK] をクリックします。こうすれば、同期を行うたびに、同期が完了したとき [同期中] ステータス表示ウィンドウで [閉じる] ボタンをクリックすると、[キャンペーン状態のリセット] ウィンドウが表示され、そこでキャンペーンの状態を初期化できるようになります。

キャンペーンの変更

キャンペーンを変更するには、E-Business Control Center のエクスプローラ ウィンドウで [**キャンペーン**] アイコンをクリックし、変更するキャンペーンをダブルクリックします。キャンペーンを保存し、E-Business Control Center のツールバーにある [**同期**] ボタンをクリックして、行った変更を必ず同期化してください。

E-Business Control Center をサーバと接続するための設定の詳細については、[11-6 ページの「E-Business Control Center の設定」](#)を参照してください。

キャンペーンの削除

キャンペーンを削除する前に、削除に代わる以下の案について考えてください。

- シナリオまたはアクションの削除
- キャンペーン为非アクティブ化
- キャンペーンの開始 / 停止条件の変更

キャンペーンを削除するには、E-Business Control Center のエクスプローラ ウィンドウの [**キャンペーン**] アイコンをクリックし、削除するキャンペーンを選択して、エクスプローラ ウィンドウのツールバーにある [**削除**] アイコンをクリックします。

キャンペーンを非アクティブにする / 再度アクティブにする

キャンペーンは、いったん保存されると、アクティブとみなされます。つまり、同期後は、指定した開始日時と停止日時の間で適切な条件が満たされていれば実行できる状態になっています。

何らかの理由で、アクティブなキャンペーンを実行できなくなったり、指定した停止日時より前（または、キャンペーンに終了目標が設定されている場合には、それらの終了目標が達成される前）に実施中のキャンペーンを停止したい場合には、以下の手順に従います。

1. キャンペーンを開きます。
2. [開始/停止]ページの[このキャンペーンを非アクティブにする]チェックボックスを選択します。
3. 警告ダイアログボックスが表示されたら、その中の[OK]をクリックします。
4. キャンペーンを保存します。
5. E-Business Control Center ツールバーの[同期]ボタンをクリックして、サーバとの同期をとります。

キャンペーンを再びアクティブにしたいくなったらいつでも、[開始/停止]ページで[このキャンペーンを非アクティブにする]オプションの選択を解除し、確認プロンプトに対して[OK]をクリックしたあと、キャンペーンを保存して同期化します。

目標達成により終了したキャンペーンの再アクティブ化

キャンペーンが目標達成により終了日時より前に終了した場合には、目標達成と終了の原因となった広告インプレッションや広告クリックスルーをリセットすることで、そのキャンペーンを再度アクティブにすることができます。

この手順を使用するには、WebLogic Server システム管理者または WebLogic Portal システム管理者として実行中のサーバにログインする必要があります。

1. E-Business Control Center で [**ツール | キャンペーンのリセット**] を選択します。図 9-18 に示すような [キャンペーン状態のリセット] ウィンドウが表示されます。
2. [アクティブなキャンペーン] リストで、リセットしたいキャンペーンを選択します。
3. [**広告のインプレッションとクリックスルーのカウントをクリアする**] オプションを選択します。
4. [**OK**] をクリックします。
5. キャンペーンの状態をリセットした後、E-Business Control Center ツールバーの [**同期**] ボタンをクリックして、再アクティブ化するキャンペーンについて、再度同期化する必要があります。

第 10 章 Commerce サービスの管理

WebLogic Portal Commerce ツールを使用して、効果的かつ効率的に製品を販売することができます。開発者がプロダクト カタログ データベースを作成し、その検証が済むと、そのカタログを訪問者が使用するための管理を開始できます。プロダクト カタログ管理ツールは、カタログ アイテムの表示方法の管理や変更を簡単に行えるよう用意されたものです。

WebLogic Portal で提供するコマース サービスには、カタログ サービス、注文 サービス、顧客支払サービス、割引サービスなど、いくつかの種類があります。

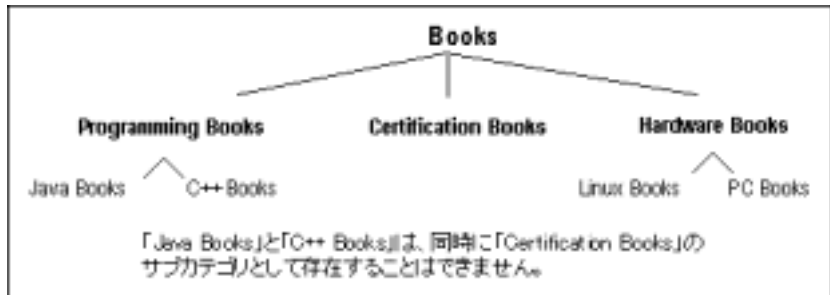
この章では、以下の内容について説明します。

- [カタログの作成と管理](#)
- [顧客の注文情報の管理](#)
- [顧客の支払情報の管理](#)
- [割引の管理](#)

カタログの作成と管理

WebLogic Portal のカタログ管理ツールを通じて、カタログ アイテムを分かりやすく提示するためカテゴリに分類することができます。これらのカテゴリは、プロダクト カタログ内で階層構造になっています。

図 10-1 カテゴリとサブカテゴリ



カタログは、以下のような要素から構成されています。

- **ルートディレクトリ**。このサンプルでは、ルートは「Books」と呼ばれています。これがカタログ全体の親ディレクトリです。このルートには、カテゴリを持たせなくてもよいし、また、多数持たせることもできます。
- **カテゴリ**。カテゴリが、すでに階層内のトップレベルのカテゴリである場合は、その親カテゴリはカタログのルートカテゴリです。カテゴリは、カテゴリ相互の関係によって、親、子、兄弟のカテゴリになります。兄弟カテゴリとは、同じ階層レベルのカテゴリです。親カテゴリと子カテゴリは、階層のなかで相互に上下関係にあるカテゴリです。

カテゴリは、階層パスの外に置くことはできません。「Java Books」というサブカテゴリは、「Programming Books」や「Certification Books」というカテゴリのサブカテゴリにはなれません。

- **カタログアイテム**。カタログアイテムは、販売する商品を表し、複数のカテゴリに入れてもよいし、あるいはどのカテゴリにも属さないままでもかまいません。

上記のサンプルでは、Java 認証関連本を「Certification Books」と「Java Books」両方のカテゴリに入れることができます。

1つのカテゴリ内であるアイテムを削除すると、それがすでに他のカテゴリに属していれば、そのカテゴリにそのまま残ります。また、あるアイテムが属するすべてのカテゴリを削除すると、そのアイテムはカタログ内で隔離された「カテゴリに属さない商品」カテゴリに移ります。(こうした**カテゴリに属さない商品**を「**孤立商品**」という場合もあります。)このような商品は、通常のようにカテゴリをたどっても表示されませんが、「カテゴリに属さない商品」を定期的にチェックして、孤立商品になっていないか確認してください。

カタログ管理ツールの起動

1. WebLogic Portal Server を起動してから、WebLogic Portal Administration Tools を起動します。1-6 ページの「[管理ツールの起動とログイン](#)」を参照してください。
2. Portal Administration Tools ホーム ページで、[**カタログ管理**] アイコンをクリックします。

カタログへのカテゴリの追加

以下のステップは、プロダクト カタログに対するデータの追加方法を説明したものです。カタログには、開発者によって大量のデータがロードされていることを前提としています。

- [カタログへのカテゴリの追加](#)
- [カタログへの商品の追加](#)

カタログへのカテゴリの追加

カタログにカテゴリを追加するには、以下の手順を実行します。

1. WebLogic Portal サーバが動作し、管理ツールが起動していることを確認します。1-6 ページの「[管理ツールの起動とログイン](#)」を参照してください。
2. [管理ツール ホーム ページ] で、[**カタログ管理**] アイコンをクリックします。[カタログ管理] ページが表示されます。

図 10-2 [カタログ管理] ページ



3. [カタログ管理] ページで、[カテゴリ] グラフィック上の [create] ボタンをクリックします。[カテゴリ] ページが表示されます。

図 10-3 [カテゴリ] ページ



4. 階層の現在のレベルで新しいカテゴリを追加するには、[カテゴリ] ページで、**赤枠で囲まれた白のプラス記号アイコン**をクリックします。図 10-4 は、プラス記号のアイコンをクリックすると表示される [新しいサブカテゴリの作成] ページです。

図 10-4 [新しいサブカテゴリの作成] ページ

5. 必要な情報を入力します。必須フィールドには、アスタリスク (*) が付いています。
6. フィールド値を入力したら、[create] ボタンをクリックして新しいカテゴリを作成します。ページ先頭に確認メッセージが表示されます。
7. [カテゴリの作成] ページの下部にある [back] ボタンをクリックします。[カテゴリ階層] ページに、新しいカテゴリが表示されます。

既存のカテゴリ内でのサブカテゴリの作成

8. カテゴリ名の左横にある赤い矢印をクリックします。カテゴリを展開して、既存のすべてのカテゴリが表示されます。
9. [Add a subcategory to X X X X] とあるテキストの横のプラス記号アイコンをクリックします。

10. [カテゴリの作成] ページが表示され、必要な情報を入力して、[create] をクリックします。

上記手順を繰り返して、カテゴリやサブカテゴリをさらに追加作成します。

カタログへの商品の追加

カタログに表示する商品を追加するには、次の手順を実行します。

1. WebLogic Portal サーバが動作し、管理ツールが起動していることを確認します。詳細については、[1-6 ページの「管理ツールの起動とログイン」](#)を参照してください。
2. [管理ツール ホーム ページ] で、[**カタログ管理**] アイコンをクリックします。
3. [カタログ管理] メイン画面で、[アイテム] の方の [create] をクリックします。[新しいアイテムの作成] ページが表示されます。

図 10-5 [新しいアイテムの作成] ページ

- 商品アイテムの各フィールドを編集します。必須フィールドには名前の横にアスタリスク (*) が付いており、以下のものがあります。SKU はユニークな識別子です。

5. [create] ボタンをクリックして、新しいアイテムを作成します。[アイテム] ページに、確認メッセージが表示されます。

カタログ内のカテゴリやアイテムの変更

アイテムとカテゴリをいったん作成したら、以下の作業を行うことができます。

- アイテムのカテゴリへの割り当て
- カテゴリとアイテムの属性の編集
- カテゴリからのアイテムの削除（除去）
- カタログからのアイテムの削除
- 1 つまたは複数のカテゴリからの商品の削除（除去）
- カテゴリの削除
- 別のカテゴリへのアイテムの移動

アイテムのカテゴリへの割り当て

1. WebLogic Portal サーバが動作し、管理ツールが起動していることを確認します。詳細については、1-6 ページの「管理ツールの起動とログイン」を参照してください。
2. [管理ツール ホーム ページ] で、[**カタログ管理**] をクリックします。
3. [カタログ管理] ページで、[**カテゴリ**] リンクをクリックします。
4. [カテゴリ階層] の表示領域で、商品の追加先のカテゴリまたはサブカテゴリをチェックしてください。カテゴリを展開してそのサブカテゴリを表示するには、カテゴリ名の左横にある **赤い矢印** をクリックします。（現在のカテゴリの下線の付いた名前をクリックすると、[カテゴリの編集] ページになります。
5. アイテムを追加するカテゴリまたはサブカテゴリの下線の付いたリンクをクリックします。図 10-6 は、サンプルの [カテゴリの編集 : Java Books] 画面の上部です。

図 10-6 [カテゴリの編集] ページ



6. [このカテゴリに割り当てられているアイテムを変更するには、ここをクリックしてください。] の文中のリンクをクリックします。図 10-7 とよく似た画面が表示されます。サンプル ページでは、カテゴリには現在のところ何もアイテムが割り当てられていません。

図 10-7 [カテゴリに割り当てられているアイテムの変更] ページ



7. [カテゴリに割り当てられているアイテム] テキスト ボックスに、すでにこのカテゴリに入っているアイテムが表示されます。(しかしこのサンプルでは、[Java Books] カテゴリにはアイテムはありません。)追加または削除したいアイテムを検索し、その検索結果が左側のテキスト ボックスに表示されます。

検索方法には、キーワード ベースの検索と、クエリ ベースの検索の 2 通りあります。

- [キーワード] 入力ボックスに、削除する商品に関連付けられているキーワードを入力し、その横の [search] クリックします。
- 以下に、クエリのサンプルを示します。

```
price > 100 && price <= 300
name like 'A*'
```

```
!(price > 100) || (msrpAmount >= 300)
modifiedDate < now
```

図 10-8 [カテゴリに割り当てられているアイテムの変更] ページでのキーワードの検索結果の例



8. アイテムをカテゴリに割り当てるには、アイテムを選択してから、右矢印をクリックして、アイテムを [カテゴリに割り当てられたアイテム] ボックスに移します。
9. カテゴリに対するどのような変更も、[**save**] ボタンをクリックしてコミットする必要があります。その後で次の検索を行うか、このページを終了します。

カテゴリとアイテムの属性の編集

既存のカテゴリとアイテムの属性を編集するには、カタログ管理ツールを使います。この節では以下の作業について説明します。

- [カテゴリの属性の編集](#)
- [商品アイテムの属性の編集](#)
- [アイテムの出荷体制の変更](#)

カテゴリの属性の編集

カテゴリの属性を編集するには、以下の手順に従います。

1. WebLogic Portal サーバが動作し、管理ツールが起動していることを確認します。詳細については、[1-6 ページの「管理ツールの起動とログイン」](#)を参照してください。
2. [管理ツール ホーム ページ] で、[**カタログ管理**] アイコンをクリックします。

3. [カタログ管理] ページで、[**カテゴリ**] をクリックします。
4. [カテゴリ] ページで、カテゴリとサブカテゴリの階層構造をたどっていくか、または、検索の入力ボックスにカテゴリ ID を入力することにより、変更したいカテゴリを見つけることができます。
5. 変更するカテゴリが表示されたら、カテゴリの名前をクリックします。図 10-9 は、「Java Books」をクリックした結果、表示されるページの一部です。

図 10-9 [**カテゴリの編集: Java Books**] サンプルのページ

6. このページでは、カテゴリの属性の追加、変更、削除が行えます。
警告: カテゴリ固有の ID は修正できません。カテゴリ ID を変更する必要がある場合は、そのカテゴリ自体をいったん削除し、別の固有の ID で新しくカテゴリを作り直します。
7. カテゴリの属性を編集した後、[save] ボタンをクリックします。変更内容をコミットせずにページを終了するには、[back] ボタンをクリックします。

商品アイテムの属性の編集

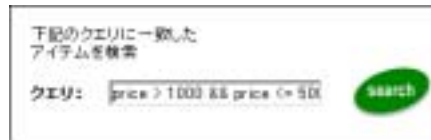
1. WebLogic Portal サーバが動作し、管理ツールが起動していることを確認します。詳細については、1-6 ページの「[管理ツールの起動とログイン](#)」を参照してください。
2. [管理ツール ホーム ページ] で、[**カタログ管理**] アイコンをクリックします。
3. [カタログ管理] メイン ページで、[**アイテム**] グラフィックの下線が付いた [**アイテム**] ボタンをクリックします。
4. [アイテムの検索] ページで、商品アイテムを検索します。
 アイテムのキーワードの 1 つを入力するか、クエリ ベースの検索式を入力するか、孤立商品の検索を行って、商品アイテムを見つけ出します。

- キーワードは、そのアイテムに関連付けられているとわかっているキーワードを入力し、[search] をクリックします。
- 以下に、クエリのサンプルを示します。

```
price > 10 && price <= 50
name like 'H*'
!(price > 20) || (msrpAmount >= 30)
modifiedDate < now
```

☒ 10-10 は、`price > 1000 && price <= 5000` の式による検索結果を示しています。

図 10-10 クエリ ベースの検索による商品アイテム検出の例



- または、テキスト [**どのカテゴリにも所属していないアイテムを検索**] の横にある [search] ボタンをクリックします。カテゴリに割り当てられたことのないアイテムや、割り当てられたカテゴリが削除されたアイテムが表示されます。

下線の付いた [Next] ボタンまたは [Previous] ボタンが表示されている場合には、それをクリックして、他のアイテムも表示します。

5. アイテムをクリックして、そのアイテムの属性を編集します。☒ 10-11 は、Java 関連書籍の検索結果を示したものです。

図 10-12 [アイテムの在庫] ページの例

アイテム

アイテムの在庫

必要な情報を入力して[save]アイコンをクリックしてください。

アイテム名: Simon Roberts Java 2 Guide

在庫あり: Yes No

出荷予定日: Ship in 24 hours

コメント:

9. [Yes] または [No] をクリックして、特定の商品アイテムの在庫があるかどうかを示します。出荷にかかる時間を示す文字列も入力できます（Web サイトの訪問者に対して、商品の詳細ページでこの文字列を表示できます）。アイテムの在庫に関するその他のコメントも入力できます。
10. [アイテムの在庫] ページで何か変更した場合は、[save] ボタンをクリックします。何も変更していない場合は、[back] ボタンをクリックします。

カテゴリからのアイテムの削除（除去）

すでに説明したように、アイテムは、1 つまたは複数のカテゴリに割り当てることができます。管理ツールを使用して、以下のことができます。

- アイテムをカタログから完全に削除する。
- アイテムを、1 つのカテゴリから削除するが、別のカテゴリへの割り当てはそのまましておく。
- アイテムを 1 つのカテゴリずつ、最終的にすべてのカテゴリから削除し、孤立商品（どのカテゴリにも属さないでデータベースにそのまま残っている商品）にする。

カタログからのアイテムの削除

[カタログ管理]操作の実行は、Webサイトの利用がピークではないときに行います。WebLogic Portal Administration Tools を使用して、アイテムを削除したり、カテゴリからアイテムを外したりすると、そのアイテムレコードは自動的にWebサイトから削除され、その後はWebサイトの訪問者に利用可能な、カテゴリ分けされたアイテムが正しく表示されるようになります。

アイテムを削除するには、以下の手順に従います。

1. WebLogic Portal サーバが動作し、WebLogic Portal Administration Tools が起動していることを確認します。詳細は、[1-6 ページの「管理ツールの起動とログイン」](#)を参照してください。
2. [管理ツール ホーム ページ]で、[カタログ管理]アイコンをクリックします。
3. [カタログ管理]メイン ページで、下線の付いた[アイテム]リンクをクリックします。
4. [アイテムの検索]ページで、キーワードまたはクエリを使用してアイテムを検索します。
5. [検索結果]リストに、削除したいアイテムが表示されたら、アイテム名の右側にある赤の [X] アイコンをクリックします。

警告： 赤の [X] アイコンをクリックすると、恒久的な削除操作がただちに実行されます。確認ページは表示されません。

1 つまたは複数のカテゴリからの商品の削除（除去）

アイテムの削除（割り当ての解除）は、1 度に 1 カテゴリずつ行います。すべてのカテゴリからアイテムを削除しても、アイテムはそのまま Commerce データベースの中に残り、カテゴリに属さない商品、すなわち、孤立商品としてフラグがたてられます。

以下の手順を開始する前に、アイテムを削除しようとしている各カテゴリの名前を正確に把握しておいてください。カタログの Web アプリケーションを実行して、カテゴリの階層構造をたどり、アイテム名を見つけることができます。

1. WebLogic Portal サーバが動作し、管理ツールが起動していることを確認します。詳細については、1-6 ページの「[管理ツールの起動とログイン](#)」を参照してください。
2. [管理ツール ホーム ページ] で、[**カタログ管理**] アイコンをクリックします。
3. [**カタログ管理**] ページで、下線の付いた [**カテゴリ**] リンクをクリックします。
4. [**カタログ階層**] の表示領域で、アイテムを削除するカテゴリまたはサブカテゴリをクリックします。サブカテゴリがある場合に、現在のカテゴリを展開してそれを表示するには、カテゴリ名の左横にある赤い矢印をクリックします。
5. カテゴリまたはサブカテゴリの階層が表示されたら、下線の付いたリンクをクリックします。
6. [**カテゴリの編集** : < カテゴリ名 >] ページで、[**このカテゴリに割り当てられているアイテムを変更するには、ここをクリックしてください。**] という文中のリンクをクリックします。

☒ 10-13 はサンプル ページです。

図 10-13 カテゴリからのアイテムの削除



7. 削除するアイテムを選択したら、**左矢印**をクリックして、そのアイテムをカテゴリから削除します。
8. ページの下方にある [**save**] ボタンをクリックして、変更を確定します。また、そのページで行った更新をキャンセルするには、ページの下方にある [**back**] ボタンをクリックします。

カテゴリの削除

カテゴリを削除すると、サブカテゴリがある場合にはそれも一緒に削除されます。そのカテゴリやサブカテゴリに属し、他の既存のカテゴリには割り当てられていないアイテムがあれば、「孤立商品」となり、カタログ内には残されて、他のカテゴリに割り当て直すことができます。

既存のサブカテゴリを他のカテゴリ下に移したい場合には、先にそのようにしておきます。

カテゴリの削除は、次の手順で行います。

1. WebLogic Portal サーバが動作し、管理ツールが起動していることを確認します。詳細については、[1-6 ページの「管理ツールの起動とログイン」](#)を参照してください。
2. [管理ツール ホーム ページ] で、[**カタログ管理**] アイコンをクリックします。
3. [**カタログ管理**] ページで、[カテゴリ] グラフィック上の 下線の付いた [**カテゴリ**] をクリックします。
4. 次のうちの 1 つを行って、修正するカテゴリを指定します。
 - カテゴリ ID を検索入力ボックスに入力する。Commerce データベースのカタログテーブルに用意されているサンプルデータでは、カテゴリ ID は、カテゴリ名先頭の英字 1 文字です。
 - カテゴリおよびサブカテゴリの階層構造をたどる。

[図 10-14](#) は、カテゴリ ID で検索した後の結果を表示する [カテゴリ] ページの一部です。

図 10-14 カテゴリの検索結果の例



5. 削除したいカテゴリの右側にある赤の [X] アイコンをクリックします。

警告： カテゴリにサブカテゴリがある場合は、それも含めてすべてが削除されるので注意してください。

別のカテゴリへのアイテムの移動

別のカテゴリへのアイテムの移動は、次の手順で行います。

- アイテムを別のカテゴリに割り当てる。この操作方法は、[10-8 ページの「アイテムのカテゴリへの割り当て」](#)を参照してください。
- アイテムを現在のカテゴリから削除する。この操作方法は、[10-15 ページの「1 つまたは複数のカテゴリからの商品の削除（除去）」](#)を参照してください。

顧客の注文情報の管理

このサービスで、顧客のショッピングカートに入っているアイテムの受付から最終的な注文確認に至るまで、顧客の注文プロセスに必要なすべてのタスクを処理できます。

この節では、以下の内容について説明します。

- 注文の検索
- 注文ステータスの更新

注文の検索

注文管理ツールにアクセスするには、[管理ツール ホーム ページ]の[注文管理]アイコンをクリックします。[注文の検索]ページが表示されます(図 10-15)。

図 10-15 [注文の検索]ページ



1. 以下のいずれかを行います。
 - 顧客 ID による検索 : [顧客 ID] フィールドに ID を入力します。
 - 注文 ID による検索 : [注文 ID] フィールドに ID を入力します。

- 期間による検索 : 日付の範囲は、[図 10-16](#) に示すように、日付選択カレンダー ツールを使用して指定します。

図 10-16 日付選択カレンダー ツール



2. 範囲を入力し、[save] をクリックします。選択した日付は [From] フィールドと [To] フィールドに表示されます。
3. [search] ボタンをクリックします。

注意： 検索結果には、日付範囲の境界も含まれます。たとえば、2002 年の 7 月 22 日から 2002 年の 8 月 24 日までの間の注文を検索すると、7 月 22 日の注文と、8 月 24 日の注文も検索結果に含まれます。

4. 対応する [search] ボタンをクリックします。
5. ページの上部に、検索で見つかった注文数を表すメッセージが表示されま

顧客 ID による検索の例を図 10-17 に示します。[注文リスト]には、注文 ID、注文日、注文金額が表示されます。

図 10-17 顧客 ID による注文検索結果の例

ID	作成日	価格	顧客 ID
1	2801-02-01	JPY 6,490.00	@mscufesfer
2	2801-02-01	JPY 24,248.80	@mscufesfer

- 特定の注文の詳細（注文商品、配送情報、税額など）を参照するには、ハイパーリンクになっている [注文 ID] をクリックして、[注文状況] ページ（[図 10-18](#) 参照）をロードします。

図 10-18 [注文状況] ページの例



7. [注文状況] ページの下方の [back] ボタンをクリックすると、[注文の検索] ページに戻ります。

注文ステータスの更新

[注文リスト] ページで、ハイパーリンクになった [注文 ID] をクリックすると、[注文状況] ページ (図 10-19 参照) が表示されます。ここでは、注文ステータスの変更方法について説明します。

図 10-19 [注文状況] ページの例



1. [注文状況] リストの **ドロップダウン** 矢印をクリックします。
2. 新しいステータスを選択し、[OK] をクリックします。

新しいステータスが入力されると、[注文状況] リストに表示されるオプションが更新されます。これらのオプションは、注文ステータスのシーケンスに基づいて更新されます。たとえば、変更前の [注文状況] リストに次のようなオプションが表示されていたとします。

- Authorized
- Cancelled
- Rejected

ここでステータスを [Authorized] に変更すると、[注文状況] リストには次のようなオプションが表示されます。

- Backordered
- Cancelled
- Shipped

顧客の支払情報の管理

Portal Administration Tools を使用して、支払を検索し、必要に応じて支払情報のトラブルシューティングを行うことができます。この節では、以下の内容について説明します。

- 支払の検索
- トランザクションの認可

支払の検索

1. WebLogic Portal Administration Tools を起動します。1-6 ページの「管理ツールの起動とログイン」を参照してください。
2. [管理ツール ホーム ページ] で、[支払管理] アイコンをクリックします。[支払の検索] ページ (図 10-20 参照) が表示されます。

図 10-20 [支払の検索] ページ



3. 検索条件を入力します。
 - 顧客 ID による検索 - [顧客 ID] フィールドに顧客 ID を入力します。


- 支払処理状況による検索 - [処理状況] プルダウン メニューからステータスを選択します。
4. [search] ボタンをクリックします。
 5. ページの上部に、その処理状況の支払数を表すメッセージが表示されます。


図 10-21 顧客 ID による支払検索結果の例



顧客 democustomer の '2' 件の支払処理を確認しました。

支払の検索

このページを使って現在のクレジットカードの支払処理を検索できます。顧客もIDは処理状況による検索が可能です。

顧客で検索

顧客 ID:

search

処理状況で検索

処理状況:

search

支払処理の履歴

日付	支払処理 ID	金額	処理状況	クレジットカード	新しい確認
2001-02-01	1001020362194 8,499.00	8,499.00	Retry	xxxxxxxxx1111	Authorize
2001-02-01	2001020395400 24,249.00	24,249.00	Retry	xxxxxxxxx1111	Authorize

back

トランザクションの認可

[支払処理の履歴] セクション (検索実行後に [支払の検索] ページの下側に表示されるもの。 [図 10-21](#) を参照。) には、各支払トランザクションの情報が表示されます。これには、日付、トランザクション ID、支払金額、支払ステータスと、トランザクションを完了するために使われたマスクされたクレジットカードのバージョンが表示されます。

[表 10-1](#) に、支払ステータスの値の説明を示します。

表 10-1 支払ステータスの値

ステータス	解説
Authorized	トランザクションが正常に認可されて、登録および決済を待っている状態。
MarkedForSettle	(登録された後) 決済のために、トランザクションがバッチ化された状態。
PendingSettle	トランザクションの決済プロセスが起動されている状態。
Settled	トランザクションの決済が完了した状態。
Rejected	トランザクションの認可が拒否された状態。
Retry	トランザクションが記録されたが、認可が成功していないか、または延期されている状態。

注意： 販売側が、支払トランザクションに関連するお金を取得するには、トランザクションの認可、登録、決済が行われなければなりません。トランザクションのステータスに応じて、[支払処理の履歴] セクションの最終行に、テキストフィールドと関連するボタンが表示されます。これを利用すると、トランザクションのステータスを手動で変更できます。

1. 注文のステータスが「Retry」に設定されていると、[Authorize] ボタンが表示されます ([図 10-22](#))。

図 10-22 [Authorize] ボタンが表示された [支払処理の履歴]



2. [Authorize] ボタンをクリックします。WebLogic Portal 製品は、Payment Web サービスに接続して、販売者に代わって、顧客の口座からクレジット金額を確保します。

支払の認可を延期するようにサーバを設定したり、システム障害のために Payment サービスが利用できない場合は、トランザクションが Retry 状態になります。このような場合は、関連する支払トランザクションが Authorized に設定されるまで、注文を完了することはできません。

割引の管理

割引は、アイテムに対して永続的または一時的な値下げを行ったり、追加購入、特定の日までの購入その他、割引になる条件を付けて顧客に購入を促すことができます。

この節では、割引の管理に関して以下のことから説明します。

- [新しい割引と属性の定義](#)
- [割引の保存、確定、同期](#)
- [既存の割引や商品（アイテム）の検索](#)
- [既存の割引の変更](#)
- [アクティブステータスの制御と割引の削除](#)

新しい割引と属性の定義

この節では、以下の内容について説明します。

- [新しい割引を定義する](#)
- [割引に関する全般的情報を指定する](#)
- [割引条件を指定する](#)
- [割引期間と総限度を設定する](#)

新しい割引を定義する

指定できる割引には 3 種類あります。

- **商品ごとの割引**：個々の商品ごとに与えられる割引
- **セット割引**：特定の商品をまとめたときに与えられる割引
- **注文割引**：1 回の注文に対して与えられる割引

新しい割引を定義するには、以下の手順に従います。

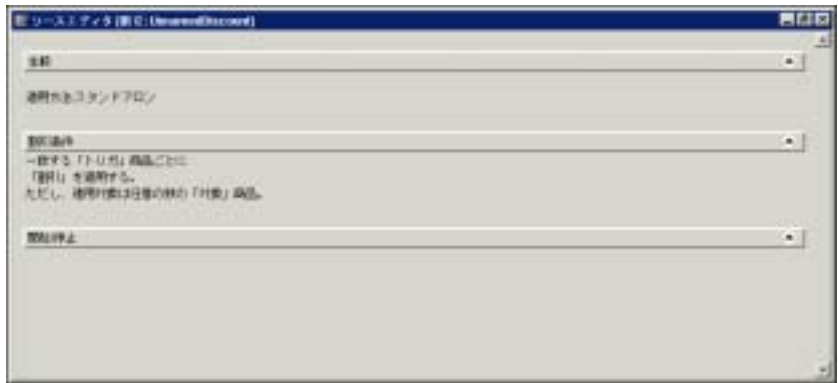
1. まだ起動していない場合には、E-Business Control Center を起動します。1-7 ページの「E-Business Control Center の起動」を参照してください。画面左側に [エクスプローラ] パネルが表示されます。

図 10-23 新しい割引の作成の選択



2. [エクスプローラ] ウィンドウで、[ビジネス ロジック] タブをクリックします。([割引] アイコンをクリックすると、既存の割引の一覧を見ることができます。)
3. [**新規作成**] ボタンをクリックし、[**割引**] を選択します。

図 10-24 [割引エディタ]



4. 図 10-24 に示すような [割引エディタ] ウィンドウが表示されます。以下の 4 節で説明する手順に従ってください。割引の作成に必要なステップを順に説明していきます。
- 10-30 ページの「割引に関する全般的情報を指定する」
 - 10-31 ページの「割引条件を指定する」
 - 10-40 ページの「割引期間と総限度を設定する」
 - 10-41 ページの「割引の保存、確定、同期」

割引に関する全般的情報を指定する

1. 割引エディタで、[全般] バーをクリックします。[全般] ペインが開きます。

図 10-25 割引エディタの[全般]ペイン



2. 作成するのは [**スタンドアロン**] 割引か [**キャンペーン**] 割引かを選択します。
[**スタンドアロン**] を選択した場合、概要フィールドには、顧客向けに割引の説明を入力するとよいでしょう。ページ的设计 (Java Server Pages) でこのフィールドの情報を表示するようにすれば、割引を受ける顧客に表示されません。
3. [**優先順位**] フィールドに数値を入力することで、割引の優先順位を指定します。
4. [**概要**] テキスト領域に割引の概要を入力します。
5. ペインを閉じるには、[**全般**] バーをクリックします。

割引条件を指定する

1. [**割引条件**] バーをクリックします。[**割引条件**] ペインが開きます。

図 10-26 割引エディタの [割引条件] ペイン



2. [**商品ごとの割引**]、[**セット割引**]、[**注文割引**] に対応するラジオ ボタンを選択します。
3. 前のステップで選択した割引タイプに応じて、以下の各節で説明している手順に従います。
 - **A) 商品ごとの割引**
 - **B) セット割引**
 - **C) 注文の割引**

A) 商品ごとの割引

「商品ごとの割引」は、個々の商品に与えられる割引です。割引条件を定義するには、割引条件エディタを使用して、以下の手順を実行します。

1. 割引条件エディタで、[**トリガの追加**] ボタンをクリックします。[トリガ商品の指定] ウィンドウが表示されます。

図 10-27 [トリガ商品の指定] ウィンドウ

トリガ商品の指定

以下の商品の「いずれか」がショッピングカートに入っている場合に割引を提供する。

任意の商品 (SKU または商品カテゴリに無関係)

特定の商品 (SKU または商品カテゴリで選択)

カテゴリをドロップス

カテゴリを選択して特定の商品 アイテムおよびカテゴリを指定し、以下の入力フィールドにそれらを入力します。

SKU

国 (注文当たりの割引 有効)

国 (注文当たりの割引 無効)

最低必要な購入数量: 1

OK キャンセル

- ラジオ ボタンの [任意の商品] が [特定の商品] のいずれかをクリックして、割引トリガ オプションを選択します。

たとえば、[任意の商品] オプションを選択した場合には、ショッピングカートに*いずれか*の商品アイテムが入っていれば（その商品が何であるかに関係なく）顧客は割引を受ける資格があります。一方、[特定の商品] オプションを選択した場合には、（SKU 番号や商品カテゴリで）指定される商品がショッピングカートに入っている顧客だけに割引を受ける資格があります。

- 前のステップで [特定の商品] を選択した場合には、以下の手順に従って、どの商品が割引をトリガするかを指定する必要があります。
 - ドロップダウン リストから [SKU] が [カテゴリ] のいずれかを選択します。
 - プロダクト カタログに登録されている SKU またはカテゴリを該当するフィールドに入力します。

- c. [追加] ボタンをクリックします。指定されたトリガ商品がその下のテキスト領域に表示されます。トリガ商品として使用したい商品ごとに、このプロセスを繰り返します。

注意：（SKU またはカテゴリのいずれかによって）複数のトリガ商品を指定した場合、その商品のいずれかが顧客のショッピングカートに入っていることにより、その顧客に割引を受ける資格が与えられます。言い換えれば、複数のトリガ商品が [割引条件] リスト内の同じ行に表示される場合、それらは選択肢とみなされます。

- ラジオ ボタンの [限度] か [限度なし] のいずれかを選択して、割引の注文限度を指定します。注文限度は、注文ごとの割引適用回数の上限を指定するものです。
- 注文限度を指定した場合、対応するフィールドに**限度値**を入力します。
- 必要であれば、[最低限必要な購入数量] フィールド内の値を 1 から別の数値に変更します。注文限度は、最低限必要な購入数量以上でなければなりません。
- [OK] をクリックします。[トリガ商品の指定] ウィンドウが閉じ、[割引条件] リスト内に表示されている最初の条件句が選択内容を反映するように変わります。
ステップ 1 ~ 6 を繰り返して、その他のトリガを指定できます。
- [割引の追加] ボタンをクリックします。[割引値の指定] ウィンドウが表示されます。

図 10-28 [割引値の指定] ウィンドウ



- 割引値を選択し、商品の割引率（パーセント）、割引額、あるいは価格を該当するフィールドに入力します。「%」や通貨をフィールドに入力する必要はありません。割引は、[割引率（%）]、[割引額]、[割引後の価格] から選択できます。

10. 必要に応じて、対応するドロップリストから通貨タイプを選択します。カタログにある商品や送料に使用している通貨タイプと同じものを選択するようにしてください。
11. **[OK]** をクリックします。[割引値の指定] ウィンドウが閉じ、[割引条件] リスト内に表示されている 2 番目の条件句が選択内容を反映するように変わります。
12. **[対象の追加]** をクリックします。[対象商品の指定] ウィンドウが開きます。

図 10-29 [対象商品の指定] ウィンドウ



13. 割引をトリガしたのと同じ商品 (ステップ 2 および 3 で指定したもの)、任意の商品、および特定の商品の中から割引対象を選択します。
14. 前のステップで [特定の商品] を選択した場合には、以下の手順に従って、割引の適用対象となる商品を指定する必要があります。
 - a. ドロップダウン リストから [SKU] か [カテゴリ] のいずれかを選択します。

- b. プロダクト カタログに登録されている SKU またはカテゴリを該当するフィールドに入力します。
 - c. [**追加**] ボタンをクリックします。指定された対象商品がその下のテキスト領域に表示されます。対象商品として使用したい商品ごとに、このプロセスを繰り返します。
15. ステップ 13 で [**任意の商品**] または [**特定の商品**] を選択した場合には、[**制限事項**] を選択します。一定の数以内の対象商品に割引を適用するか、それともちょうど一定の数の対象商品に適用することができます。どちらのオプションを選ぶ場合でも、適切なフィールドに数値を入力します。
 16. [**OK**] ボタンをクリックします。[対象商品の指定] ウィンドウが閉じ、[割引条件] リスト内に表示されている 3 番目の条件句が選択内容を反映するように変わります。ステップ 13 ~ 15 を繰り返して、その他の対象商品を指定できます。
 17. [割引条件] ペインを閉じるには、[**割引条件**] バーをクリックします。

B) セット割引

「セット割引」は、商品をまとめたものに対する割引です。セット割引を定義するには、以下の手順に従います。

1. 割引条件エディタで、[セット割引] のラジオ ボタンを選択します。
2. ラジオ ボタンの [**限度**] か [**限度なし**] のいずれかを選択して、割引の注文限度を指定します。
3. 注文限度を指定した場合、対応するフィールドに限度値を入力します。
4. [**トリガの追加**] ボタンをクリックします。[トリガセットの指定] ウィンドウが表示されます。

図 10-30 [トリガ セットの指定] ウィンドウ

トリガ セットの指定

数量を指定する:
[2] 指定された数量から成るセットでトリガ商品を購入する場合に、割引が提供されます。

トリガ商品
 任意の商品 (SKU または 商品カテゴリに無関係)
 特定の商品 (SKU または 商品カテゴリで選択)

ドロップダウンリスト

SKU

追加

削除

OK キャンセル

5. セットを構成する商品の数をフィールドに入力します。これは、割引を受ける資格を得るために必要な購入商品の数です。
6. 対応するラジオ ボタンをクリックして、割引のトリガ方法を指定します。割引のトリガとして選択できるのは、任意の商品のセットか特定の商品のセットです。
7. 前のステップで **[特定の商品]** を選択した場合には、以下の手順に従って、どの商品が割引をトリガするかを指定する必要があります。
 - a. ドロップダウン リストから [SKU] か [カテゴリ] のいずれかを選択します。
 - b. プロダクト カタログに登録されている SKU またはカテゴリを該当するフィールドに入力します。
 - c. **[追加]** ボタンをクリックします。指定されたトリガ商品がその下のテキスト領域に表示されます。トリガ商品として使用したい商品ごとに、このプロセスを繰り返します。

8. **[OK]** ボタンをクリックします。[トリガ セットの指定] ウィンドウが閉じ、[割引条件] リスト内に表示されている最初の条件句が選択内容を反映するように変わります。ステップ 2 ~ 6 を繰り返して、その他のトリガを指定できます。
9. **[割引の追加]** ボタンをクリックします。[割引値の指定] ウィンドウが表示されます。
10. 割引値を選択します。割引は、**[割引率(%)]**、**[割引額]**、**[割引後の価格]** を選択できます。該当するフィールドに、商品の割引率(パーセント)、割引額、あるいは価格を入力します。
11. 必要に応じて、対応するドロップリストから通貨タイプを選択します。カタログにある商品や送料に使用している通貨タイプと同じものを選択するようにしてください。
12. **[OK]** をクリックします。[割引値の指定] ウィンドウが閉じ、[割引条件] リスト内に表示されている 2 番目の条件句が選択内容を反映するように変わります。
13. **[対象の追加]** をクリックします。[対象商品の指定] ウィンドウが開きます。
14. 割引をトリガしたのと同じ商品(ステップ 4 および 5 で指定したもの)、任意の商品、および特定の商品の中から割引対象を選択します。
15. 前のステップで **[特定の商品]** を選択した場合には、以下の手順に従って、割引の適用対象となる商品を指定する必要があります。
 - a. ドロップダウン リストから **[SKU]** か **[カテゴリ]** のいずれかを選択します。
 - b. プロダクト カタログに登録されている SKU またはカテゴリを該当するフィールドに入力します。
 - c. **[追加]** をクリックします。指定された対象商品がその下のテキスト領域に表示されます。対象商品として使用したい商品ごとに、このプロセスを繰り返します。
16. **[任意の商品]** または **[特定の商品]** を選択した場合には、**[制限事項]** を選択します。一定の数以内の対象商品に割引を適用するか、それともちょうど一定の数の対象商品に適用することができます。どちらのオプションを選ぶ場合でも、適切なフィールドに数値を入力します。

17. **[OK]** をクリックします。[対象商品の指定] ウィンドウが閉じ、[割引条件] リスト内に表示されている 3 番目の条件句が選択内容を反映するように変わります。ステップ 11 ~ 15 を繰り返して、その他の対象商品を指定できます。
18. [割引条件] ペインを閉じるには、**[割引条件]** バーをクリックします。

C) 注文の割引

「注文割引」は、1 回の注文に対して与えられる割引です。[注文割引] タイプを選択した場合には、以下の手順に従って割引の詳細を指定します。

1. **[トリガの追加]** をクリックします。[トリガ小計の指定] ウィンドウが表示されます。

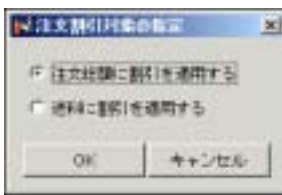
図 10-31 [トリガ小計の指定] ウィンドウ



2. 注文の小計が一定の条件を満たすときに割引をトリガするのか、それともどの注文にも割引を適用するのかを指定します。[注文の小計] を選択した場合には、ドロップダウン リストと該当するフィールドを使って、比較演算子と小計値を指定します。
注意：通貨記号をフィールドに入力する必要はありません。
3. **[OK]** をクリックします。[トリガ小計の指定] ウィンドウが閉じ、[割引条件] リスト内に表示されている最初の条件句が選択内容を反映するように変わります。
4. **[割引の追加]** をクリックします。[割引値の指定] ウィンドウが表示されます。
5. 割引値を選択し、それぞれ該当するフィールドに、商品の割引率（パーセント）、割引額、あるいは価格を入力します。割引は、**[割引率（%）]**、**[割引額]**、**[割引後の価格]** を選択できます。

- 必要に応じて、対応するドロップリストから通貨タイプを選択します。カタログにある商品や送料に使用している通貨タイプと同じものを選択するようにしてください。
- [OK] ボタンをクリックします。[割引値の指定] ウィンドウが閉じ、[割引条件] リスト内に表示されている 2 番目の条件句が選択内容を反映するよう変わります。
- [**対象の追加**] ボタンをクリックします。[注文割引対象の指定] ウィンドウが表示されます。

図 10-32 [注文割引対象の指定] ウィンドウ



- ラジオ ボタンで [注文総額に割引を適用する] と [送料に割引を適用する] のどちらに割引を適用するかを選択します。
- [OK] ボタンをクリックします。[注文割引対象の指定] ウィンドウが閉じ、[割引条件] リスト内に表示されている 3 番目の条件句が選択内容を反映するよう変わります。
- [割引条件] ペインを閉じるには、[割引条件] バーをクリックします。

割引期間と総限度を設定する

- [開始/停止] バーをクリックします。[開始/停止] ペインが開きます。

図 10-33 [開始/停止] ウィンドウ

2. 指定されたフィールドに、**割引の開始日、開始時刻、停止日、および停止時刻**を入力します。
3. ラジオ ボタンの [**総度**] が [**総度なし**] のいずれかを選択して、総限度を指定します。
4. 総限度を選択したら、対応するフィールドに**総度値**を入力します。
5. ペインを閉じるには、[**開始/停止**] バーをクリックします。

割引の保存、確定、同期

割引を作成して定義したら、この節で説明する手順に従って、システム内に保存してください。

- [保存、確定、同期](#)
- [割引の保存と確定の要件](#)
- [割引の保存](#)

- [割引の確定](#)
- [割引の同期](#)

保存、確定、同期

この節では、割引の保存、確定、同期の違いを説明します。

- *割引の保存*は、他のあらゆるソフトウェア プログラムでいうファイルの保存と同様です。割引の保存では、ローカル ファイル システムに割引を保存します。割引の定義が完成していても、そうでなくても保存できます。唯一必要なことは、ユニークな名前を付けることです。
- *割引の確定*は、[優先順位]、[停止日]、[停止時刻]、[この割引を非アクティブにする] というオプションを除く、割引定義のすべての部分を変更できないようにします。割引を確定する前に、割引の定義は完成していなければなりません。E-Business Control Center では、不完全な割引を確定することはできません。
- *割引の同期*は、[同期セットアップ] ウィンドウで指定されたサーバに割引 ファイルをコピーします。同期化により、エンタープライズ アプリケーションにその割引がデプロイされます。まだ確定されていない割引を同期しても、機能しません。

割引の保存と確定の要件

割引を保存するのに必要な情報はユニークな名前だけです。一方、割引を確定するには、必ず以下の情報をそれぞれ指定する必要があります。

- 割引名
- 割引の適用方法 (スタンドアロンまたはキャンペーン)
- 割引優先順位 (1 ~ 20)
- 総限度
- 開始日時 / 停止日時
- 割引トリガ商品
- 割引対象商品

- 割引値（割引率、割引額、割引後の価格）

割引の保存

割引を保存するには、以下の手順に従います。

図 10-34 [保存] アイコン



1. E-Business Control Center のツールバーで [保存] アイコンをクリックします。
[名前を付けて保存] ウィンドウが表示されます。
2. [名前を付けて保存] ウィンドウで、割引に対してユニークな名前を入力します。新しい割引の名前は、[エクスプローラ] ウィンドウの [割引] リストに表示されます。

割引の確定

割引を確定するには、以下の手順に従います。

1. 割引が開いていることを確認します。まだ起動していない場合には、E-Business Control Center を起動します。詳細については、[1-7 ページの「E-Business Control Center の起動」](#)を参照してください。
2. [ビジネス ロジック] タブをクリックして、[割引] アイコンを選択し、既存の割引をクリックすると、[割引エディタ] ウィンドウが開きます。
3. [割引エディタ] ウィンドウの [開始/停止] ペインを開きます。
4. [この割引を確定する] チェック ボックスを選択します。

警告： 定義している割引が、求めるとおりのものであると確定できる場合でなければ、[この割引を確定する] ボックスをチェックしないでください。割引定義が確定した後は、その割引に対する修正はごく限られた部分にしかできません。割引の確定 / 同期後に修正可能な項目に関する詳細は、[10-50 ページの「既存の割引の変更」](#)を参照してください。[開始/停止] ペインにはいつでも戻ることができ、時を改めて割引を確定できることを忘れないでください。

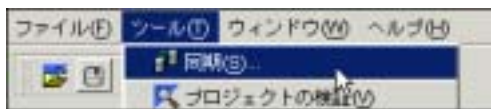
5. **[保存]** をクリックして、割引を保存します。

割引の同期

割引を同期する前に、割引の定義が完成し、[開始/停止] ペインにある [この割引を確定する] チェックボックスがチェックされていて、その割引が保存されていることを確認します。この要件が満たされていないと、その割引は機能しません。

割引の同期をとるには、E-Business Control Center で [ツール | 同期] メニューオプションを選択します。同期は、周到な計画とプロセスを要する重要なステップです。

図 10-35 [同期] メニュー オプション



警告： 複数の開発者が、1つのエンタープライズアプリケーションに対して同時にデータを同期させると、他人の仕事を上書きしたり、互換性のないデバッグ困難な変更セットを作成してしまう可能性があります。このような事態を回避するには、アプリケーションの別々のインスタンスに対して同期させます。

既存の割引や商品（アイテム）の検索

この節では、以下の内容について説明します。

- [カタログのブラウズ](#)
- [カタログの検索](#)
- [既存の割引の検索](#)

カタログのブラウズ

[カタログ ブラウザ] のブラウズ機能により、カテゴリあるいは特定のアイテムをカタログから選択できます。複数のアイテムまたはカテゴリを選択できます。

1. まだ起動していない場合には、E-Business Control Center を起動します。詳細については、[1-7 ページの「E-Business Control Center の起動」](#)を参照してください。
2. E-Business Control Center の [エクスプローラ] ウィンドウの [ビジネス ロジック] タブをクリックします。
3. 割引を作成または編集します。[**新規作成**] アイコンをクリックして [**割引**] を選択するか、[**割引**] アイコンを選択し、既存の割引をダブルクリックして、割引をオープンします。
4. [**割引条件**] バーをクリックし、[**トリガの追加**] または [**対象の追加**] をクリックし、[**特定の商品**] ラジオ ボタンを選択します。ウィンドウは、[図 10-36](#) のようになります。

図 10-36 カatalogのブラウズ機能にアクセスするウィンドウ



5. [カタログ ブラウザ] を開くため、[**カタログをブラウズ**] ボタンをクリックします ([10-45 ページの「カタログのブラウズ」](#)参照)。

図 10-37 ブラウズ機能へのログイン



6. [ログオン] ダイアログ ウィンドウで、**ユーザー名とパスワード**を入力し、[**接続**] ボタンをクリックします。[**カタログ ブラウザ**] が開きます。

図 10-38 [**カタログ ブラウザ**]



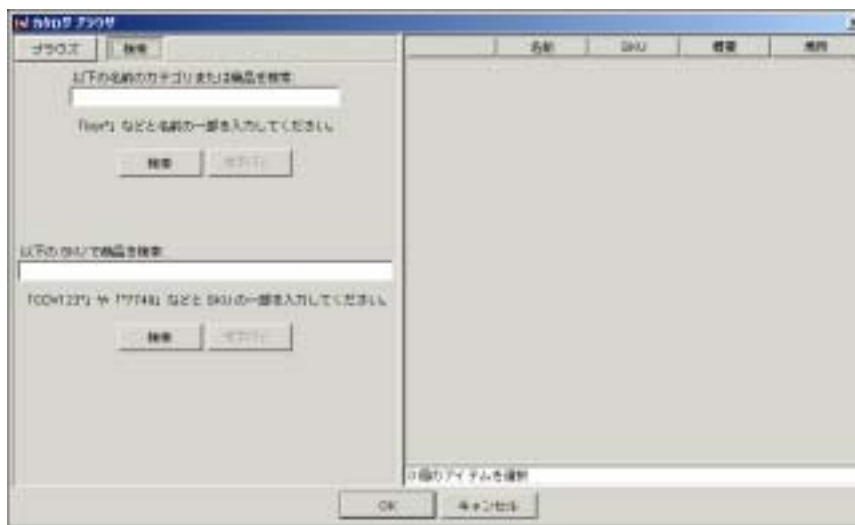
7. 左のナビゲーション ペインで、割引定義またはキャンペーン定義に追加したい商品を含むカテゴリまたは商品カテゴリに移動します。
8. 右のペインで、1 つ以上のカテゴリまたは商品を選択します。
9. [**OK**] ボタンをクリックします。その商品またはカテゴリが割引定義またはキャンペーン定義に追加されます。

カタログの検索

カタログ ブラウザの検索機能により、特定の商品またはカテゴリをカタログから検索できます。正確な SKU がわからない場合には、ワイルドカード (*) を使って商品を検索できます。

1. まだ起動していない場合には、E-Business Control Center を起動します。詳細については、[1-7 ページの「E-Business Control Center の起動」](#)を参照してください。
2. [カタログ ブラウザ] を開くため、[カタログをブラウズ] ボタンをクリックします ([10-45 ページの「カタログのブラウズ」](#)参照)。
3. [検索] ボタンをクリックします。[検索] ウィンドウが開きます。

図 10-39 [検索] ウィンドウ



4. **カテゴリ**または **SKU** を対応するフィールドに入力し、[検索] ボタンをクリックします。ワイルドカード検索をするにはアスタリスク (*) を使用します。
5. 左ペインに検索リストが表示されたら、左ペインから希望する**カテゴリ**または **SKU** を選択します。

6. [OK] をクリックします。その商品またはカテゴリが割引定義またはキャンペーン定義に追加されます。

既存の割引の検索

割引を多数定義した場合には、[割引] リストに目を通すだけでは、特定の割引を見つけるのに時間がかかってしまうおそれがあります。そのため、WebLogic Portal には、既存の割引を名前でフィルタ処理するメカニズムが用意されています。

名前フィルタを使って既存の割引を見つけるには、以下の手順に従います。

1. まだ起動していない場合には、E-Business Control Center を起動します。詳細については、[1-7 ページの「E-Business Control Center の起動」](#)を参照してください。

図 10-40 [フィルタ]アイコンが強調表示された[エクスプローラ]ウィンドウ



2. E-Business Control Center の [エクスプローラ] ウィンドウの [ビジネス ロジック] タブをクリックします。
3. [ビジネス ロジック] タブの [エクスプローラ] ウィンドウにある [**割引**] アイコンをクリックします。[割引] ビューが有効になり、割引のリストが [割引] リストに表示されます。
4. [**名前フィルタ**] フィールドに、探したい割引の名前を入力します。
5. [**フィルタ**] アイコンをクリックします。入力したテキストで始まる名前を持つ割引が [割引] リストに表示されます。
6. 割引の全リスト表示に戻すには、[**すべてのオブジェクトを表示**] アイコンをクリックします。

既存の割引の変更

既存の割引を表示したり変更することもできます。割引がまだ確定されていない場合には、その割引に関する情報はどれでも変更できます。しかし、割引がすでに確定されている場合には、変更できる情報は以下のものだけです。

- 割引優先順位
- 割引停止日時
- 作動状態

割引が確定済みかどうかにかかわらず、変更するには割引をオープンする必要があります。既存の割引を変更のためオープンするには、以下の手順に従います。

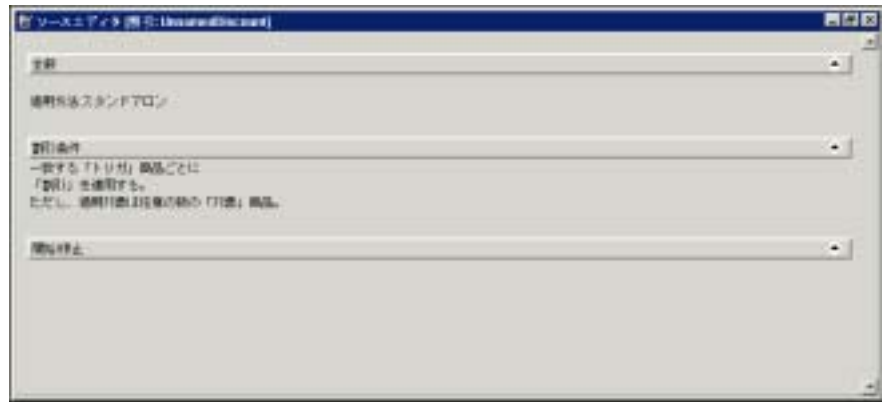
1. まだ起動していない場合には、E-Business Control Center を起動します。詳細については、[1-7 ページの「E-Business Control Center の起動」](#)を参照してください。
2. 割引が表示されていない場合は、[割引] ビューに切り替えます。
(E-Business Control Center の [エクスプローラ] ウィンドウで、[**ビジネスロジック**] タブをクリックします。[**割引**] アイコンをクリックします。割引のリストが [割引] リストに表示されます。)

図 10-41 割引がリストされた [エクスプローラ] ウィンドウ



3. 変更したい割引の名前をクリックします。その割引が強調表示されます。
4. [エクスプローラ] ツールバーに表示されている [開く] アイコンをクリックします。[割引エディタ] が開きます。

図 10-42 [割引エディタ]



5. オープンした割引がまだ確定されていない場合には、その割引定義は、割引名以外どの部分でも変更できます。10-28 ページの「[新しい割引と属性の定義](#)」を参照してください。
6. オープンした割引がすでに確定されている場合には、以下の指示に従います。
 - 割引優先順位を変更するには、[**全般**] ペインを開き、そこで [**優先順位**] フィールドに新しい優先順位を入力します。
 - 割引停止日時を変更するには、[**開始/停止**] ペインを開き、そこで [**停止日**] フィールド / [**停止時刻**] フィールドに新しい停止日 / 停止時刻を入力します。
 - 割引を非アクティブにするには、[**開始/停止**] ペインを開き、そこで [**この割引を非アクティブにする**] チェック ボックスをクリックします。
7. 変更内容を保存するには、E-Business Control Center ツールバーで [**保存**] をクリックします。

警告： 変更対象の割引がプロモーション用キャンペーンで使用中の場合には、変更内容を割引に保存すると、その割引を参照するすべてのシナリオアクションが影響を受けます。変更内容は所属組織で決められている方針に沿ったものでなければならず、その変更は必ず WebLogic Portal に正しく入力してください。

アクティブ ステータスの制御と割引の削除

この節では、以下の内容について説明します。

- [割引のアクティブ化と非アクティブ化](#)
- [既存の割引の削除](#)

割引のアクティブ化と非アクティブ化

割引は、いったん同期されると、アクティブとみなされます。言い換えれば、同期された割引は Web サイト上で作動しているのです。

割引の非アクティブ化

割引の提供を停止するには、以下の手順に従います。

1. まだ起動していない場合には、E-Business Control Center を起動します。詳細については、[1-7 ページの「E-Business Control Center の起動」](#)を参照してください。
2. E-Business Control Center の [エクスプローラ] ウィンドウの [**ビジネスロジック**] タブをクリックします。
3. 割引を編集します。[**割引**] アイコンを選択し、既存の割引をダブルクリックして、割引エディタを開きます。
4. [**開始/停止**] ペインを開き、[**この割引を非アクティブにする**] チェックボックスをチェックします。
5. 割引を [**保存**] します ([10-43 ページの「割引の保存」](#) を参照)。
6. 割引を [**同期**] します ([10-44 ページの「割引の同期」](#) を参照)。

割引が非アクティブにされた時点で顧客の注文がすでにその割引に関連付けられている場合には、システムは依然としてその割引を提供します。ただし、その割引が新たに提供されることはありません。

割引の再アクティブ化

割引の再アクティブ化は、次の手順で行います。

1. まだ起動していない場合には、E-Business Control Center を起動します。詳細については、[1-7 ページの「E-Business Control Center の起動」](#)を参照してください。
2. E-Business Control Center の [エクスプローラ] ウィンドウの [**ビジネス ロジック**] タブをクリックします。
3. [**割引**] アイコンを選択し、既存の割引をダブルクリックして、割引エディタを開きます。
4. [**開始 / 停止**] ペインを開き、[**この割引を非アクティブにする**] チェックボックスをクリックして、チェックマークを外します。
5. 割引を [**保存**] します ([10-43 ページの「割引の保存」](#) を参照)。
6. 割引を [**同期**] します ([10-44 ページの「割引の同期」](#) を参照)。再びアクティブになります。

注意： 割引を非アクティブにしても、確定済みの割引に課せられた変更の制限は解消されません。

既存の割引の削除

割引に関連付けられている処理中の商品や顧客の注文がない場合には、WebLogic Portal を使って、既存の割引を削除することもできます。

警告： BEA では、割引の有効期限が切れる (すなわち、割引に関連付けられている終了日時に達する) までと、割引に関連付けられている注文の決済がすべて済むまでは割引を削除しないように心がけることを推奨しています。さらに、削除を行うときはいつも、間違った割引を選択していないことと、本当にその割引を削除してもよいことを必ず確認してください。割引は、いったん削除されると復元できません。

既存の割引を削除するには、以下の手順に従います。

1. まだ起動していない場合には、E-Business Control Center を起動します。詳細については、[1-7 ページの「E-Business Control Center の起動」](#)を参照してください。
2. E-Business Control Center の [エクスプローラ] ウィンドウの [**ビジネス ロジック**] タブをクリックします。
3. 削除したい **割引の名前** をクリックします。

4. [エクスプローラ] ツールバーに表示されている [削除] アイコンをクリックすると、割引が削除されます。

図 10-43 [削除] アイコン



第 11 章 システム管理

WebLogic Portal でのシステム管理は、バックアップと回復処理などの従来のシステム管理タスクと、データベースの切り替えやクラスタ化された環境のコンフィグレーションの手助けなど、WebLogic Portal に必要なタスクを呼び出します。

この節では、以下の内容について説明します。

- Configuration Wizard 後のタスク
- サーバの起動と停止
- E-Business Control Center の設定
- データベース管理
- バックアップと回復処理
- パフォーマンス チューニング
- 行動追跡データの永続化

Configuration Wizard 後のタスク

Configuration Wizard を使用して、クラスタ化された WebLogic Portal ドメインを作成すると、ドメインを作成した後で行わなければならない作業がいくつかあります。

<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/platform/docs70/template/wlptemp.html#1008419> の「WebLogic Portal ドメイン テンプレート」を参照してください。

サーバの起動と停止

この節では、WebLogic Portal サーバの起動と停止について説明しますが、Configuration Wizard を使用して WebLogic Portal ドメインを作成したという前提で話を進めます。

WebLogic Portal サーバの起動と停止を行うスクリプトはすべて、WebLogic Portal ドメイン ディレクトリに置かれます。以下の節では、さまざまなサーバ コンフィギュレーションで、そのサーバの起動と停止を行うためのスクリプトとコマンドライン引数を示します。

この節では、Windows サービスとしての WebLogic Portal サーバの起動についても説明します。

この節では、以下の内容について説明します。

- [WebLogic Portal サンプル ドメインの WebLogic Portal 起動と停止](#)
- [Configuration Wizard で作成したドメインの起動と停止](#)
- [Windows サービスとしての WebLogic Portal の実行](#)

WebLogic Portal サンプル ドメインの WebLogic Portal 起動と停止

[表 11-1](#) は、BEA が提供する WebLogic Portal サンプル アプリケーションの起動スクリプトと停止スクリプトのある場所を示したものです。

Windows では、以下の基本となる [スタート]メニュー パスを使用して、これらのサンプル サーバを [スタート]メニューから起動することもできます。

[[スタート](#) | [プログラム](#) | [BEA WebLogic Platform 7.0](#) | [WebLogic Portal 7.0](#) | [Portal Examples](#) | ...]

表 11-1 サンプル サーバの起動と停止

サンプル	場所とスクリプト
Portal Example	<BEA_HOME>\weblogic700\samples\portal\sampleportalDomain\ ◆ startSamplePortal.bat または startSamplePortal.sh ◆ stopSamplePortal.bat または stopSamplePortal.sh
Commerce Templates	<BEA_HOME>\weblogic700\samples\portal\wlcsDomain\ ◆ startWLCS.bat または startWLCS.sh ◆ stopWLCS.bat または stopWLCS.sh
Personalization Examples	<BEA_HOME>\weblogic700\samples\portal\p13nDomain\ ◆ startP13N.bat または startP13N.sh ◆ stopP13N.bat または stopP13N.sh

サンプル サーバは、ログインしなくても起動できます。

注意: また、コマンド ウィンドウの [閉じる] アイコンをクリックすれば、サーバを停止できます。

Configuration Wizard で作成したドメインの起動と停止

表 11-1 に Configuration Wizard で作成した WebLogic Portal ドメインの起動 / 停止のスクリプトを示します。起動 / 停止のスクリプトのデフォルト位置は、<BEA_HOME>\user_projects\portalDomain です。

Windows サーバにドメインを作成し、ウィザードのオプション選択で [スタート] メニューにショートカットを作成することを選択した場合は、[スタート] メニューからサーバを起動できます。デフォルトのショートカット位置は、[**スタート | プログラム | BEA WebLogic Platform 7.0 | User Projects | <ドメイン名> | Start Portal Server**] です。

表 11-2 さまざまなサーバ コンフィグレーションによるサーバの起動と停止

サーバのコンフィグレーション	スクリプト
シングル サーバ (スタンドアロンサーバ)	startPortal.bat / startPortal.sh stopPortal.bat / stopPortal.sh
管理対象サーバを持つ管理サーバ および クラスタ化した管理対象サーバを持つ管理サーバ	<p>管理サーバ startPortal.bat / startPortal.sh stopPortal.bat / stopPortal.sh</p> <p>管理対象サーバ startManagedPortal.bat / startManagedPortal.sh コマンドライン引数として、管理対象サーバ名と管理サーバの URL を使用する。Windows と UNIX での使用例： startManagedPortal.bat managedServer1 http://localhost:7501 sh startManagedPortal.sh managedServer1 http://localhost:7501 管理対象サーバの停止には、WebLogic Server Console を使用する。</p>
管理対象サーバ (管理サーバ コンフィグレーションを持つ)	<p>startPortal.bat / startPortal.sh stopPortal.bat / stopPortal.sh</p> <p>別の起動方法 : サーバ名と管理 URL を指定すれば、startManagedPortal.bat または startManagedPortal.sh も使用可能。Windows と UNIX での使用例： startManagedPortal.bat managedServer1 http://localhost:7501 sh startManagedPortal.sh managedServer1 http://localhost:7501</p>

ログインのプロンプトが表示されたら、WebLogic Server のシステム管理者としてログインします。デフォルトのユーザ名とパスワードは、以下のとおりです。

- system/weblogic (「system」でログインし、パスワードは「weblogic」)
- weblogic/weblogic (「weblogic」でログインし、パスワードは「weblogic」)

ユーザに WebLogic Server システム管理者権限を与えるには、WebLogic Server Console ツールを使用して、ユーザをそのドメインの **Administrators** グループに追加します。詳細については、[6-24 ページの「WebLogic Server システム管理者の作成」](#)を参照してください。

注意： また、コマンドウィンドウの [閉じる] アイコンをクリックすれば、サーバを停止できます。

Windows サービスとしての WebLogic Portal の実行

Windows NT または 2000 のサービスとして WebLogic Portal を実行し、Windows サーバを起動する際に、WebLogic Portal ドメインを自動的に起動することができます。この方法は、プロダクション モードでは推奨されませんが、開発モードでは推奨できません。

PointBase について

Windows サービスとしてサーバを起動する場合、PointBase データベース サーバは自動的に起動されません。そのため、次のいずれかの操作を行う必要があります。

- 他のデータベース タイプに切り替える ([11-14 ページの「他のデータベースへの切り替え」](#)参照) または
- Windows サービスとしてサーバを起動する前に PointBase を起動する。

Windows サービスとしてのインストール

最も確実なのは、サーバを通常どおりに起動し、正常に起動したことを確認してから、Windows サービスとしてインストールすることです。

コマンドラインで、コマンドライン引数の先頭に、`-installService` を指定します。例：

- `startPortal.bat -installService` または

- `startManagedPortal.bat -installService myServer1 http://localhost:7501`

表 11-1 および 表 11-2 にある起動スクリプトはすべて、指定したサーバを Windows サービスとしてインストールする機能をサポートしています。

Windows サービスとしてのアンインストール

インストールしてあるサービスを削除するには、コマンドライン引数として代わりに `-uninstallService` を使用します。例：

- `startPortal.bat -uninstallService` または
- `startManagedPortal.bat -uninstallService myServer1 http://localhost:7501`

E-Business Control Center の設定

E-Business Control Center は、ローカル マシン上で実行されるアプリケーションです。E-Business Control Center の機能の多くは、サーバとの接続を必要としません。しかし、サーバとのデータの同期やパーソナライゼーションやキャンペーン ロジックを作成するためのサーバサイド リソースへのアクセスなど、機能によっては 1 つまたは複数のサーバに接続する必要があります。

Configuration Wizard を実行して新しいドメインを作成した後、E-Business Control Center はサーバ マシン上で実行されている E-Business Control Center を使用してシングル サーバ環境で実行するよう正しくコンフィギュレーションされます。

この節では、特に、サーバ以外のマシンで E-Business Control Center を実行している場合や、マルチサーバ環境を使用している場合に、E-Business Control Center がサーバに接続して同期できるようにするためのガイドラインを説明します。

多くの管理手順では、E-Business Control Center のツールバーにある [同期] ボタンをクリックして、サーバと E-Business Control Center の同期を行う必要があります。以下の手順は、[同期] ボタンをクリックしたときに、同期が正常に行われるようにするものです。

1. <BEA_HOME>\weblogic700\ebcc\bin ディレクトリにある ebcc コマンドを使用して、E-Business Control Center を起動します。

Windows マシンでは、[**スタート | プログラム | BEA WebLogic Platform 7.0 | WebLogic Portal 7.0 | E-Business Control Center**] でも起動できます。

2. エンタープライズ アプリケーションのプロジェクト ファイルを開きます。

Configuration Wizard を使用して WebLogic Portal ドメインを作成した場合、このプロジェクト ファイルのデフォルト位置は、<ドメイン>\beaApps\portalApp-project\portalApp-project です。

サンプル アプリケーションのいずれかのプロジェクト ファイルを開く場合、そのプロジェクト ファイルの位置は、

<BEA_HOME>\weblogic700\samples\portal\<ドメイン>\beaApps\
<アプリケーション名>-project\ です。

3. [**ツール | プロジェクトの設定**] を選びます。
4. [図 11-1](#) に示すように、[**プロジェクトの設定**] ウィンドウの [**全般**] タブの下部にある [**アプリケーションルート ディレクトリ**] に、サーバ上のエンタープライズ アプリケーションのフォルダが設定されていることを確認します。

図 11-1 エンタープライズ アプリケーション ディレクトリへのパス設定



5. [**接続**] タブで、[**接続を編集**] をクリックして、データ同期および他の機能に対するサーバサイド接続を定義します。[**接続の編集**] ウィンドウが表示されます。

クラスタ内で WebLogic Portal を実行している場合、または、サーバサイドリソースを複数のサーバに格納している場合は、複数の接続を定義する必要があります。

注意： クラスタの場合は、管理サーバまたは独立した同期サーバに対して同期を行う必要があり、他のサーバサイドリソースも管理対象サーバ上に置かなければなりません。

6. 図 11-2 に示すように、新しい接続を作成するには、[**新規作成**] をクリックし、[**接続の詳細**] ウィンドウで接続の詳細を設定します。既存の接続を変更するには、変更する接続を選択して [**編集**] をクリックします。

- [**表示名**] フィールド：接続の名前を入力します。
- [**アプリケーション名**] フィールド：portalApp など、エンタープライズアプリケーション フォルダの名前を入力します。
- [**サーバ**] フィールド：http://admin:7501 など、「http://<ホスト名>:<ポート>」の形式でサーバのベース URL を入力します。

図 11-2 サーバ接続の作成



7. [OK] をクリックします。
8. 他に必要な接続があれば、追加作成します。定義が終了したら、[接続の編集] ウィンドウで、[OK] をクリックします。
9. [プロジェクトの設定] ウィンドウの [接続] タブで、使用する接続を選択します。

接続が 1 つだけあればよい場合は、[タスクごとに別個の接続を使用する] オプションの選択を解除し、使用する接続を [汎用接続] フィールドで選択します。

複数の接続が必要な場合は、[タスクごとに別個の接続を使用する] オプションを選択し、図 11-3 に示すように、各フィールドで適切な接続を選択します。

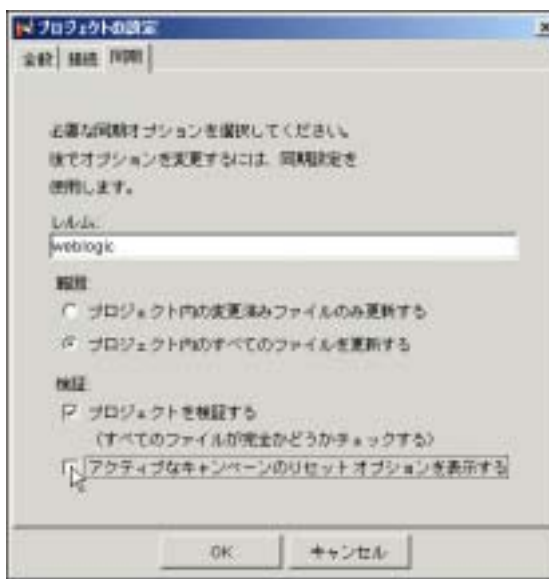
図 11-3 複数の接続の設定



10. [OK] をクリックします。
11. [プロジェクトの設定] ウィンドウの [同期] タブで、以下の情報を入力します。
 - [レルム] フィールド: 必ず「weblogic」とします。
 - [範囲]: [プロジェクトに変更済みファイルのみ更新する] オプションを使用すると、同期に要する時間を短縮できます。
 - [検証]: [プロジェクトを検証する] オプションを指定すると、同期を実行する前に E-Business Control Center ファイルが解析され、不完全または無効なファイルが通知されるので、同期を中断できます。

[アクティブなキャンペーンのリセット オプションを表示する] オプションを指定すると、発生している可能性のある広告、クリックスルー カウント、その他のキャンペーン活動をクリアできます。デバッグのためにキャンペーンをリセットするには、このオプションを使用します。

図 11-4 同期オプションの設定



12. [OK] をクリックします。

データベース管理

この節では、以下の内容について説明します。

- サポートされるデータベース
- PointBase について
- 他のデータベースへの切り替え
- データベース スキーマについて

サポートされるデータベース

このリリースでサポートされるデータベースについては、<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/platform/docs70/support/index.html> の『サポート対象プラットフォーム』を参照してください。

PointBase について

PointBase は、BEA が提供するデフォルトのデータベースです。BEA が提供するサンプルドメイン用に使用され、Configuration Wizard でドメインを作成する際に使用されるデフォルトのデータベースです。

PointBase は、それ自身のサーバ上で実行されます。アプリケーションが PointBase にアクセスするためには、PointBase サーバが実行されていることが必要です。アプリケーション実行のために WebLogic Portal サーバを起動すると、PointBase サーバも自動的に起動します。

注意： Windows サービスとして WebLogic Portal を実行している場合、PointBase は自動的に起動しません。詳細については、[11-5 ページの「Windows サービスとしての WebLogic Portal の実行」](#)を参照してください。

PointBase の起動と停止

メンテナンスのために、WebLogic Portal サーバを実行しないで PointBase データベースを起動する場合、または Windows サービスとして WebLogic Portal を実行しているために手動で PointBase を起動する必要がある場合は、以下の手順で起動します。

1. コマンド ウィンドウで、<BEA_HOME>\weblogic700\portal\bin\`<オペレーティング システム>` にディレクトリを変更します。
2. 以下のコマンドを実行します。

```
startPBServer.bat <ドメインへのパス>\db_settings.properties
```

または、

```
sh startPBServer.sh <ドメインへのパス>\db_settings.properties
```

このとき、<ドメインへのパス> は、db_settings.properties ファイルが置かれているドメイン ディレクトリへの絶対パスです。

PointBase を停止するには、起動スクリプトと同じディレクトリから、スクリプト stopPBServer.bat または stopPBServer.sh を実行します。

PointBase Console の起動

PointBase には Console ツールがあり、PointBase データベースの表示や管理を行うことができます。PointBase Console を起動するには、以下の手順に従います。

注意： Windows システムでは、各 WebLogic Portal サンプル ドメインのための PointBase Console を起動する [スタート] メニューのショートカットが用意されています。

1. コマンド ウィンドウで、<BEA_HOME>\weblogic700\portal\bin\`<オペレーティング システム>` にディレクトリを変更します。
2. 以下のコマンドを実行します。

```
startPBConsole.bat <ドメインへのパス>\db_settings.properties
```

または、

```
sh startPBConsole.sh <ドメインへのパス>\db_settings.properties
```

このとき、<ドメインへのパス> は、db_settings.properties ファイルが置かれているドメイン ディレクトリへの絶対パスです。

他のデータベースへの切り替え

この節では、デフォルトの PointBase から Oracle など他のサポート対象のデータベースへと切り替える際の手順を説明します。Configuration Wizard を使用して作成したドメインには、PointBase データベースが含まれています。

ステップ 1: データベースのコンフィグレーション

デフォルトの PointBase データベースから、他のサポート対象のデータベースに切り替える前に、データベースのコンフィグレーションが必要です。コンフィグレーションの詳細については、以下の場所にある各種データベース用の README.html ファイルを参照してください。

```
<BEA_HOME>\weblogic700\portal\db\<データベース タイプ>\<バージョン>\admin
```

ステップ 2: データベース環境に合わせた db_settings.properties の編集

ドメイン ディレクトリで、db_settings.properties ファイルを開き、使用しているデータベース タイプに合わせて、@...@ 変数を実際の値に変更して、ファイルを保存します。

例として、[コードリスト 11-1](#) に、db_settings.properties ファイルの Oracle セクションの修正前後の様子を示してあります。

コードリスト 11-1 db_settings.properties ファイル

修正前:

```
#-----Oracle Thin Driver-----#  
#  
#@IF_USING_ORACLE_THIN@
```

```
#database=ORACLE_THIN
#db_version=817
#jdbcdriver=oracle.jdbc.driver.OracleDriver
#server=@ORACLE_NET_SERVICE_NAME@
#port=@ORACLE_PORT@
#dblogin=@ORACLE_USER@
#dbpassword=@ORACLE_PASSWORD@
#connection=jdbc:oracle:thin:@@ORACLE_SERVER:@ORACLE_PORT@:
@ORACLE_SID@
#@ENDIF_USING_ORACLE_THIN@
```

修正後：

```
#-----Oracle Thin Driver-----#
#
#database=ORACLE_THIN
#db_version=817
#jdbcdriver=oracle.jdbc.driver.OracleDriver
#server=MY817SVC
#port=1521
#dblogin=WEBLOGIC
#dbpassword=WEBLOGIC
#connection=jdbc:oracle:thin:@myhost:1521:MY817SID
#@ENDIF_USING_ORACLE_THIN@
```

注意：今はまだ、このファイルのどの行も（#を使用して）コメント化したり、コメントを解除したりしないでください。後のステップで行います。

db_version の値によって使用する DDL が制御されるので、正確な番号を設定することが重要です。表 11-3 に、各データベースタイプに対して使用する db_version の番号を示してあります。

注意：表 11-3 には、現在サポートされていないデータベースを示してあります。現在サポート対象となっているデータベースについては、<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/platform/docs70/support/index.html> の『サポート対象プラットフォーム』を参照してください。

表 11-3 db_version の設定値

データベースのバージョン	使用する db_version 番号
DB2 7.0	7
ORACLE 8.1.6	817
ORACLE 8.1.7	817
ORACLE 9i	817
POINTBASE 4.2	42
Microsoft SQL Server 7	7
Microsoft SQL Server 2000	2000
SYBASE 12.0	12
SYBASE 12.5	125

ステップ 3: サーバの起動

サーバを起動します。11-2 ページの「サーバの起動と停止」を参照してください。

ステップ 4: WebLogic Server Console での接続プールとレールのセットアップ

このステップでは、ドメイン フォルダの db_settings.properties ファイルをオープンし、このファイルの値を WebLogic Server Console にコピーします。

1. WebLogic Server 稼動中に、ブラウザで URL `http://<ホスト名>:<ポート>/console` にアクセスして、WebLogic Server Console を起動します。

たとえば、WebLogic Server がインストールされているマシン上で作業している場合は、`http://localhost:7501/console` にアクセスします。

2. WebLogic Server のシステム管理者のユーザ名とパスワードを入力します (デフォルトでは `weblogic/weblogic`)。
3. Console で、[< ドメイン> | サービス | JDBC | 接続プール] を選択します。
4. **[commercePool]** をクリックし、`db_settings.properties` ファイルから値を貼り付けて編集します。表 11-4 を参考にしてください。
5. **[適用]** をクリックしてから、ハイパーリンクになっているフィールドをクリックするか、別のサブ タブに移動します。
6. **[dataSyncPool]** をクリックし、`db_settings.properties` ファイルから値を貼り付けて編集します。表 11-4 を参考にしてください。
7. **[適用]** をクリックしてから、ハイパーリンクになっているフィールドをクリックするか、別のサブ タブに移動します。

表 11-4 Oracle または MSSQL のシン ドライバを使用するための接続プール値

タブ	フィールド	値
[全般]	[URL]	使用しているデータベース タイプに応じて、 <code>db_settings.properties</code> ファイルにある <code>connection=</code> から値をコピーする。
	[ドライバクラス名]	使用しているデータベース タイプに応じて、 <code>db_settings.properties</code> ファイルにある <code>connection=</code> から値をコピーする。
	[プロパティ (key=value)]	<code>user=WEBLOGIC</code> 物理的データベース接続を作成するために JDBC Driver に渡すプロパティのリストを入力する。プロパティは、使用するデータベース ドライバによって異なります。たとえば、Oracle シン ドライバを使用する場合は、「user」キーだけが必須です。MS SQL を使用する場合は、「user」キーと「server」キーが必須です。どのプロパティを使用するかについては、使用するドライバのマニュアルを参照してください。
	[ACL 名]	空欄にしておく。
	[パスワード]	[変更] をクリックします。システムパスワードを 2 回入力します。サンプル アプリケーションを実行している場合は、「WEBLOGIC」と入力します。

8. Console で、[< **ドメイン名**> | **互換性レルム** | **レルム** | **wlcsRealm**] に移動します。
9. [データベース] タブで、[表 11-4](#) に示したように、前のステップで入力したのと同じ [ドライバクラス名] と [URL] を入力します。
10. [適用] をクリックします。
11. [パスワード] フィールドで、[変更] をクリックし、システム パスワードを 2 回入力します。サンプル アプリケーションを実行している場合は、「WEBLOGIC」と入力します。
12. [適用] をクリックします。
13. [続行] をクリックします。
14. [スキーマ] タブの [スキーマ プロパティ (key=value)] フィールドで、[表 11-4](#) で説明したように、前のステップで入力したのと同じプロパティを入力します。
15. [適用] をクリックします。

ステップ 5: サーバの停止

サーバを停止します。[11-2 ページの「サーバの起動と停止」](#)を参照してください。

ステップ 6: 使用するデータベースのコメントを解除するための db_settings.properties の編集

db_settings.properties ファイルを開き、使用するデータベース用のプロパティのコメントを解除（各行先頭の # を削除）し、PointBase データベース用の設定をコメント化（拡張の先頭に # を付加）して、ファイルを保存します。

ステップ 7: create_db の実行

ドメイン フォルダにある create_db スクリプトを実行して、データベースを作成し、データを登録します。create_db.log に書き込まれた出力に致命的エラーがないことを確認します。

ステップ 8: サーバの起動

サーバを起動します。11-2 ページの「サーバの起動と停止」を参照してください。

ステップ 9: loadads および loaddocs の実行

コンテンツとメタデータのロードは、次の手順で行います。

1. ドメイン フォルダにある loadads スクリプトを実行します。
2. ドメイン フォルダにある loaddocs スクリプトを実行します。

ステップ 10: sync の実行

ドメイン フォルダにある sync コマンドを実行し、新しいデータベース データでサーバを更新します。

以上でセットアップは完了です。それぞれのデータベースに対して Portal アプリケーションを起動して実行できるようになりました。

ステップ 11: Oracle の場合のみ - インデックスの再構築

create_db スクリプトは、WebLogic Portal ドメインのインデックスをデフォルトの表領域 (WEBLOGIC_DATA) に格納します。WEBLOGIC_INDEX 表領域のインデックスの再構築は、以下の手順で行います。

1. コマンド ウィンドウで、以下のディレクトリに移動します。

```
<PORTAL_HOME>/db/oracle/817/admin
```

2. 次のコマンドを実行し、SQL*Plus セッションを開始します。

```
sqlplus username/password@net_service_name
```

ここで、username は Oracle ユーザ アカウント名 (デフォルトでは、WEBLOGIC)、password は Oracle ユーザ アカウントのパスワード (デフォルトでは、WEBLOGIC)、net_service_name はその Oracle データベースに対して定義した ネット サービス名です。

3. 次のコマンドを実行してインデックスを再構築します。

@rebuild_indexes.sql

データベース スキーマについて

WebLogic Portal で提供されるテクノロジーのより良いカスタマイズや拡張のためにデータベースを再構築する方法については、「データベース スキーマ」の項を参照してください。

データベース スキーマのすべてを網羅したリファレンスは、[付録 A「データベース スキーマ」](#)を参照してください。

バックアップと回復処理

WebLogic Portal のバックアップと回復は、他のデータに対して使用したのと同じ手順で行います。以下にガイドラインをいくつか挙げておきます。

- サーバ上で <BEA_HOME> バックアップを行います。
 - 管理対象サーバが管理サーバを単純にレプリケートするだけのクラスタを実行している場合は、管理サーバだけをバックアップします。管理サーバのデータは、管理対象サーバに再度レプリケートできます。
 - 管理対象サーバごとにデータが異なるような管理対象サーバを使用する管理サーバを実行している場合は、すべてのサーバを <BEA_HOME> バックアップします。
- E-Business Control Center データと J2EE リソースをソース制御に格納して、ソース制御データベースをバックアップします。
- 使用する DBMS のベンダが推奨する方法に従って、WebLogic Portal のデータベースをバックアップします。
- 定期的に復元テストを行って、バックアップが信頼できる状態であることを確認します。

パフォーマンス チューニング

以下のガイドラインに従って、アプリケーションのパフォーマンス向上を図ってください。

この節では、以下の内容について説明します。

- [起動時に利用可能なデータベース接続の調節](#)
- [カタログ サイズ](#)
- [キャンペーン](#)
- [広告表示カウント バッファ サイズの拡張](#)
- [Java 仮想マシン \(JVM\) の場所](#)
- [JRockit Virtual Machine の使用](#)
- [HotSpot Virtual Machine の使用](#)
- [インターナショナルライズのパフォーマンスのチューニング](#)

起動時に利用可能なデータベース接続の調節

Web サイトのデータベース プールのパフォーマンスを最適化する手順は、以下のとおりです。

1. Web ブラウザで次の URL を入力して、WebLogic Server Administration Console を起動します。

```
http://< ホスト名 >:< ポート >/console
```

たとえば、admin という名前のホスト上でサーバを起動し、リスン ポートとしてポート 7001 を使用する場合、次の URL を入力します。

```
http://admin:7001/console
```

2. WebLogic Server システム管理者としてログインします。
3. **[JDBC | 接続プール]** を選択します。
4. **[JDBC 接続]** ページで、**[commercePool]** をクリックします。

5. [commercePool] ページで [接続] タブをクリックし、以下の設定を行います。
 - a. [初期容量] の値を、[最大容量] と同じ値まで増やします。
 - b. [ログイン遅延時間(秒)] を 0 に変更します。
 - c. [縮小可] オプションをオフにします。
 - d. [適用] をクリックします。
6. [テスト] タブをクリックし、[リザーブされたときに接続をテスト] チェックボックスをオフにします。
7. [適用] をクリックします。
8. サーバを再起動します。11-2 ページの「サーバの起動と停止」を参照してください。

データベース接続プールの詳細については、WebLogic Server Console のオンラインヘルプを参照してください。

カタログ サイズ

カタログ テーブルに入っている商品アイテムとそれぞれの属性の数は、特にカタログ検索の場合、応答時間に大きな影響を与えることがあります。商品の検索は、ブラウジングの重要な側面であることから、この商品情報の処理に見合った大きさのデータベースにすることが重要です。

キャンペーン

以下の要因が、キャンペーンや関連する項目のパフォーマンスに影響します。

イベント参照 シナリオ ルールは常に、特定のイベントに依存するように作成する。このようにすると、シナリオ ルールで参照するイベント タイプを基に最適化することができます。

無関係なイベントの発生回避 できる限り、無関係なイベントの発生を回避する。Campaign サービスは、すべてのイベントをリスンする必要があります。イベントを使用して、サイト上で発生する重要な事象を知らせます。

広告表示カウント バッファ サイズの拡張

Campaign サービスは、表示カウントを使って、キャンペーンの最終目標が達成されたかどうかを判断します。シナリオ アクションの結果として広告プレースホルダが表示する広告を発見するたびに、Campaign サービスは表示カウントを更新します。

デフォルトでは、1 つ以上のシナリオ アクションの結果として広告プレースホルダにより発見された表示広告が 10 件に達するまで、Campaign サービスはデータベースの表示カウントを更新しません。Campaign サービスがこの表示カウント バッファをデータベースにフラッシュする前にサーバがクラッシュすると、最大でバッファに入っている表示カウント数までの表示カウント更新情報を、失う可能性があります。

WebLogic Server Console では、以下の手順を使って、Campaign サービスがデータベースを更新するまでにメモリに格納される表示カウントの数を指定できます。

1. Web ブラウザで次の URL を入力して WebLogic Server Administration Console を起動します。

```
http://<ホスト名>:<ポート>/console
```

たとえば、admin という名前のホスト上でサーバを起動し、リスン ポートとしてポート 7001 を使用する場合、次の URL を入力します。

```
http://admin:7001/console
```

2. WebLogic Server システム管理者としてログインします。
3. [**デプロイメント | アプリケーション | <アプリケーション> | サービス コンフィグレーション | 広告サービス**] を選択します。
4. [**表示フラッシュ サイズ**] フィールドの値を変更します。トラフィックの多いサイトでは、この値を 50 ~ 100 の範囲まで増やしてください。
5. [**適用**] をクリックします。

Java 仮想マシン (JVM) の場所

クラスタ環境はロード バランシングとフェイルオーバの両方に関して利点がありますが、アプリケーションのスケラビリティに影響があるので、クラスタノードの場所を考慮することが重要です。シングルマシンに複数の IP アドレスを割り当てた場合、HTTP セッションデータのレプリケーションがネットワークを移動する必要がないため、スケラビリティが向上します。ただし、フェイルオーバが重要な場合（たとえば、顧客のショッピングカートが失われてはならない場合）は、これはお薦めできません。複数のマシンで Java 仮想マシン (JVM) を実行してフェイルオーバを保証した場合、アプリケーションのスケラビリティにはマイナスの影響があります。

JRockit Virtual Machine の使用

BEA WebLogic JRockit は、非常に優れたパフォーマンスを備えた仮想マシンです。JRockit は、大規模なエンタープライズ サーバサイドで Java アプリケーションを実行するために設計されたもので、I/O、メモリ管理、マルチスレッドを使用するテクノロジーを備えています。

JRockit の詳細とダウンロードについては、

<http://www.beasys.co.jp/products/weblogic/jrockit> を参照してください。JRockit のマニュアルについては、<http://edocs.bea.com/> を参照してください。

HotSpot Virtual Machine の使用

HotSpot は、JDK 1.3 のパフォーマンスを向上させます。HotSpot の実装は、オペレーティングシステムによって異なります。HotSpot は VM を最適化したもので、いくつかのバリエーションがあります。

HotSpot のバリエーションは、以下のオプションを使って設定します。これらのオプションは、コマンド内の他のオプションより先に指定しなければなりません。

- `-hotspot` – Java HotSpot クライアント VM を呼び出します。
- `-server` – Java HotSpot サーバ VM を呼び出します。

サーバ起動時にホットスポットを呼び出すには、使用する起動スクリプトに以下に示す行のいずれかを追加します。

```
set JAVA_VM=-hotspot または  
set JAVA_VM=-server
```

WebLogic Portal は、PointBase および `-hotspot` クライアント用にコンフィグレーションされます。適切なオプションを使用することにより、さまざまなバージョンの HotSpot に切り替えることができます。各プラットフォームでサポートされているバリエーションの一覧については、<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/platform/docs70/support/index.html> の『サポート対象プラットフォーム』を参照してください。

HotSpot に関する詳細は、<http://java.sun.com/products/hotspot> を参照してください。

インターナショナルライズのパフォーマンスのチューニング

<i18n> JSP タグを使用してインターナショナルライズされたコンテンツを提供するときは、リソースバンドルにおけるコンテンツの更新を WebLogic Portal がチェックする頻度を指定できます。

<BEA_HOME>\weblogic700\portal\weblogiccommerce.properties ファイルで、`i18n.bundle.reload.seconds` プロパティに適切な値を設定します。例：

```
# i18n タグに対するリソースバンドルについてのタイムアウトを変更するための  
# パーソナライゼーション コンフィグレーション  
#  
i18n.bundle.reload.seconds=300
```

デフォルト値は 300 秒 (5 分) です。この値を変更する際には、柔軟性とパフォーマンスのバランスを考慮します。リソースバンドルのコンテンツが頻繁に変化する場合は、この値を小さくすることで、WebLogic Portal がコンテンツを頻繁に更新するようになります。ただし、パフォーマンスは低下します。リソースバンドルのコンテンツが比較的安定している場合は、86400 (24 時間) のように大きな値を指定することで、パフォーマンスを向上させることができます。

行動追跡データの永続化

オンラインの訪問者が Web サイトとどのようにやり取りしているかを記録するために、イベント情報をデータベースに記録することができます。この種のイベントは、行動追跡イベントと呼ばれます。データ分析システムや e マーケティングシステムでは、これらのイベントをオフラインで分析して、訪問者の行動およびトランザクションに関するデータを評価することができます。分析によって得た情報は、パーソナライゼーション ルールの作成と最適化、商品ラインアップの見直し、双方向的なマーケティング キャンペーンの立案などに利用できます。この節では、イベント データをログに記録して分析で利用するために必要な作業およびデータベース スキーマについて説明します。各ステップは、以下に挙げたとおりです。

ステップ 1: データ ストレージとテーブル構造の理解

ステップ 2: 行動追跡データベースの作成

ステップ 3: 行動追跡リスナを有効にする

ステップ 4: 行動追跡サービスのコンフィグレーション

ステップ 1: データ ストレージとテーブル構造の理解

行動追跡データの記録用データベースのセットアップと使用を開始する前に、行動追跡がリレーショナル データベースを使用する方法についての背景情報を多少知っておく必要があります。行動追跡データを永続化する最初のステップは、行動追跡データベースのスキーマとテーブルの構造を理解することです。この情報は、サードパーティ ベンダにとっても、データ解析に使用する行動追跡データの抽出に関して有益なものです。

以下の節では、行動追跡データの永続化に関して説明します。

- [リレーショナル データベース](#)
- [データベース ディレクトリのパス](#)
- [行動追跡用データベース スキーマ](#)
- [EVENT データベース テーブル](#)
- [EVENT_ACTION データベース テーブル](#)
- [EVENT_TYPE データベース テーブル](#)
- [制約とインデックス](#)

リレーショナル データベース

リレーショナル データベースは、論理構造と物理構造の両方を持ちます。論理的には、1 つまたは複数のデータベースを定義できます。各データベースには 1 つまたは複数のテーブルおよびインデックスを定義でき、各テーブルには複数のカラムおよび行を定義できます。データベースの論理構造は、ベンダ間でおおむね共通しています。一方、データベースの物理構造はベンダごとに大きく異なります。物理構造は本質的に、データが格納されるディスク ドライブ上の領域を定義します。各データベース環境は、独自の用語と実装を使用して、オペレーティング システム レベルでデータを格納します。たとえば、同じ概念に対して Oracle では表領域 (*tablespace*) という用語を使用し、Microsoft SQL Server ではファイル グループ (*filegroup*) という用語を使用します。

推奨事項 データベース構造を定義する際、データベース管理者は個別のテーブルの位置に注意を払う必要があります。テーブルの中には、あまり更新されない静的なものもあれば、多数の行が断続的に追加および削除される動的なものもあります。また、頻繁に読み取られるテーブルもあれば、あまり読み取られないテーブルもあります。個々のテーブルは、その利用状況に適した物理位置に配置することが理想的です。WebLogic Portal で最も頻繁に利用されるテーブルのいくつかは、行動追跡に使われるものです。1 人の訪問者がサイト内を行き来するアクティビティによって、複数のテーブル エントリが生成される場合があります。したがって、これらのテーブルはコンピュータ内の最も高速なドライブ上に配置することをお勧めします。

経験を積んだデータベース管理者は、インストールされたデータベースの状況をモニタし、設定を調整して最適なパフォーマンスを得るための多くのテクニックを身に付けています。管理者を置かずにデータベースを運用していて、サイトに関するほかの仕事で手一杯であるような場合は、十分な技術を持ったデータベース管理者を置いてシステムの定期的なメンテナンスを行う必要があります。

データベース ディレクトリのパス

デフォルトのデータベース ディレクトリのパスは次のとおりです。

```
<BEA_HOME>\weblogic700\portal\db\vendor\db_version\...
```

たとえば、UNIX 上で Oracle 8.1.7 を使用している場合、パスは次のようになります。

```
<BEA_HOME>/weblogic700/portal/db/oracle/817/...
```

スクリプト WebLogic Portal に関連するデータだけでなく、行動追跡イベントのデータを記録するために必要なデータベース スキーマのセットアップを支援するスクリプトも用意されています。データベースには、注文、カタログ、商品、ポータル、ポートレットなどに関するさまざまな情報データが記録されます。スクリプトの詳細については、[11-37 ページの「ステップ 2: 行動追跡データベースの作成」](#)を参照してください。

Oracle データベースの場合、WebLogic Portal 関連のデータを格納するため作成される表領域は、WEBLOGIC_DATA および WEBLOGIC_INDEX です。

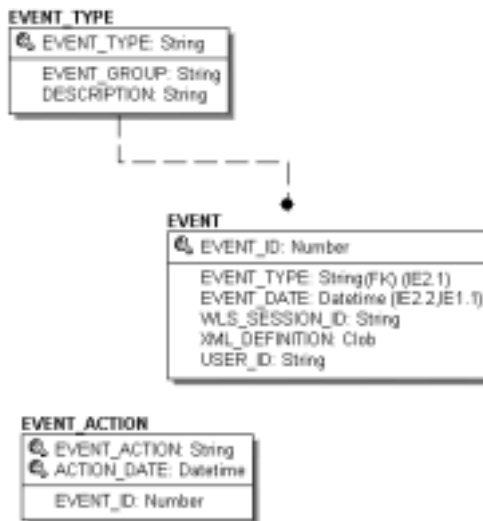
注意： WEBLOGIC_DATA と WEBLOGIC_INDEX は、BEA が提供するスクリプトによって作成される表領域の名前です。特定の命名規則を適用する場合、それに合わせて表領域の名前を変更できます。

行動追跡に使われる表領域の名前は `WEBLOGIC_EVENT_DATA` です。この表領域には、行動追跡関連のすべての表、インデックス、および制約が格納されます。データが大量になる可能性があるため、この表領域は注意深く監視する必要があります。

行動追跡用データベース スキーマ

行動追跡データを格納するための 3 種類のテーブルが用意されています。`EVENT` テーブルには、すべてのイベント データが格納されます。`EVENT_ACTION` テーブルには、記録されたイベント データに対してサードパーティのツールが実行するアクションが記録されます。`EVENT_TYPE` テーブルは、`EVENT` テーブルに格納されるイベント タイプおよびイベント カテゴリを参照します。[図 11-5](#) に、行動追跡用データベースの論理エンティティ リレーションシップ ダイアグラムを示します。

図 11-5 行動追跡用データベースのエンティティ リレーションシップ ダイアグラム



EVENT データベース テーブル

表 11-5 は、EVENT テーブルのメタデータについての説明です。このテーブルには、すべての行動追跡イベントのデータが格納されます。EVENT テーブルには 6 つのカラムがあります。各カラムは特定のイベント要素に対応します。EVENT テーブルのカラムのうち 5 つには、すべてのイベントタイプに共通するデータが格納されます。XML_DEFINITION カラムには、これら 5 つのカラムの全情報に加えて、イベントタイプごとにユニークなイベントデータが格納されます。

このテーブルで定義されている制約については、[11-37 ページの「制約とインデックス」](#)を参照してください。

主キーは EVENT_ID です。

表 11-5 EVENT テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
APPLICATION	VARCHAR (30)	NOT NULL	イベントを作成したアプリケーション。

表 11-5 EVENT テーブルのメタデータ (続き)

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
EVENT_ID	NUMBER	NOT NULL	システムが生成し、レコード ID として使われるユニークな番号。このフィールドはテーブルの主キーである。
EVENT_TYPE	VARCHAR(30)	NOT NULL	呼び出されたイベントを識別する文字列 ID。
EVENT_DATE	DATE	NOT NULL	当該イベントの発生日時。
WLS_SESSION_ID	VARCHAR(254)	NOT NULL	WebLogic Server 側で生成されるユニークな数値で、セッションに割り当てられる。
XML_DEFINITION	CLOB	NULL	各イベントタイプの特定のイベント情報を含む XML ドキュメント。情報は CLOB (Character Large Object) 形式で格納される。表 11-6 を参照してください。
USER_ID	VARCHAR(50)	NULL	セッションおよびイベントと関連付けられるユーザ ID。ユーザがまだログインしていない場合、このカラムは NULL になる。

XML ドキュメントは、イベントタイプごとに固有の形式で作成されます。各イベントタイプに対応するデータ要素は、EVENT テーブルの XML_DEFINITION カラムに記憶されます。これらの要素集合の一覧を表 11-6 に示します。

表 11-6 XML_DEFINITION カラムのデータ要素

イベント	データ要素
<p>AddToCartEvent スキーマ: <BEA_HOME>\weblogic700\portal\lib\commerce\ejb\ebusiness.jar、 tracking-add-to-cart-1_0_1.xsd</p>	<p>application event-date event-type session-id user-id sku quantity unit-list-price currency application-name</p>
<p>BuyEvent スキーマ: <BEA_HOME>\weblogic700\portal\lib\commerce\ejb\ebusiness.jar、 tracking-buy-1_0_1.xsd</p>	<p>application event-date event-type session-id user-id sku quantity unit-price currency application-name order-line-id</p>
<p>CampaignUserActivityEvent スキーマ: <BEA_HOME>\weblogic700\portal\lib\campaign\ejb\campaign.jar、 tracking-campaign-user-activity-1_0_1.xsd</p>	<p>application event-date event-type session-id user-id campaign-id scenario-id</p>

表 11-6 XML_DEFINITION カラムのデータ要素 (続き)

イベント	データ要素
<p>ClickCampaignEvent</p> <p>スキーマ: <BEA_HOME>\weblogic700\portal\lib\campaign\ejb\campaign.jar、 tracking-click-campaign-1_0_1.xsd</p>	<p>application event-date event-type session-id user-id document-type document-id campaign-id scenario-id application-name placeholder-id</p>
<p>ClickContentEvent</p> <p>スキーマ: <BEA_HOME>\weblogic700\portal\lib\p13n\ejb\events.jar、 tracking-click-content-1_0_1.xsd</p>	<p>application event-date event-type session-id user-id document-type document-id</p>
<p>ClickProductEvent</p> <p>スキーマ: <BEA_HOME>\weblogic700\portal\lib\commerce\ejb\ebusiness.jar、 tracking-click-product-1_0_1.xsd</p>	<p>application event-date event-type session-id user-id document-type document-id sku category-id application-name</p>
<p>DisplayCampaignEvent</p> <p>スキーマ: <BEA_HOME>\weblogic700\portal\lib\campaign\ejb\campaign.jar、 tracking-display-campaign-1_0_1.xsd</p>	<p>application event-date event-type session-id user-id document-type document-id campaign-id scenario-id application-name placeholder-id</p>

表 11-6 XML_DEFINITION カラムのデータ要素 (続き)

イベント	データ要素
<p>DisplayContentEvent スキーマ: <BEA_HOME>\weblogic700\portal\lib\p13n\ejb\events.jar、 tracking-display-content-1_0_1.xsd</p>	<p>application event-date event-type session-id user-id document-type document-id</p>
<p>DisplayProductEvent スキーマ: <BEA_HOME>\weblogic700\portal\lib\commerce\ejb\ebusiness.jar、 tracking-display-product-1_0_1.xsd</p>	<p>application event-date event-type session-id user-id document-type document-id sku category-id application-name</p>
<p>PurchaseCartEvent スキーマ: <BEA_HOME>\weblogic700\portal\lib\commerce\ejb\ebusiness.jar、 tracking-purchase-cart-1_0_1.xsd</p>	<p>application event-date event-type session-id user-id total-price order-id currency application-name</p>
<p>RemoveFromCartEvent スキーマ: <BEA_HOME>\weblogic700\portal\lib\commerce\ejb\ebusiness.jar、 tracking-remove-from-cart-1_0_1.xsd</p>	<p>application event-date event-type session-id user-id sku quantity unit-price currency application-name</p>

表 11-6 XML_DEFINITION カラムのデータ要素 (続き)

イベント	データ要素
RuleEvent スキーマ: <BEA_HOME>\weblogic700\portal\lib\p13n\ejb\events.jar、 tracking-rule-1_0_1.xsd	application event-date event-type session-id user-id ruleset-name rule-name
SessionBeginEvent スキーマ: <BEA_HOME>\weblogic700\portal\lib\p13n\ejb\events.jar、 tracking-session-begin-1_0_1.xsd	application event-date event-type session-id user-id
SessionEndEvent スキーマ: <BEA_HOME>\weblogic700\portal\lib\p13n\ejb\events.jar、 tracking-session-end-1_0_1.xsd	application event-date event-type session-id user-id
SessionLoginEvent スキーマ: <BEA_HOME>\weblogic700\portal\lib\p13n\ejb\events.jar、 tracking-session-login-1_0_1.xsd	application event-date event-type session-id user-id
UserRegistrationEvent スキーマ: <BEA_HOME>\weblogic700\portal\lib\p13n\ejb\events.jar、 tracking-user-registration-1_0_1.xsd	application event-date event-type session-id user-id

EVENT_ACTION データベース テーブル

表 11-7 は、EVENT_ACTION テーブルのメタデータについての説明です。このテーブルには、記録されたイベント データに対してサードパーティのツールが実行するアクションが記録されます。これは静的なテーブルです。

主キーは、EVENT_ACTION と ACTION_DATE です。

表 11-7 EVENT_ACTION テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
EVENT_ACTION	VARCHAR(30)	NOT NULL	実行されるイベント アクション。 BEGIN EXPORT や END EXPORT など。 このフィールドはテーブルの主キーの 1 つである。
ACTION_DATE	DATE	NOT NULL	当該イベントの発生日時。このフィールドはテーブルの主キーの 1 つである。
EVENT_ID	NUMBER	NULL	実行されるイベント アクションと関連付けられるイベントの ID。

EVENT_TYPE データベース テーブル

表 11-8 は、EVENT_TYPE テーブルのメタデータについての説明です。このテーブルは、EVENT テーブルに格納されるイベント タイプとイベント カテゴリを参照します。これは静的なテーブルです。

このテーブルで定義されている制約については、11-37 ページの「制約とインデックス」を参照してください。

主キーは EVENT_TYPE です。

表 11-8 EVENT_TYPE テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
EVENT_TYPE	VARCHAR(30)	NOT NULL	システムが生成し、レコード ID として使われるユニークな番号。このフィールドはテーブルの主キーである。
EVENT_GROUP	VARCHAR(10)	NOT NULL	イベント タイプと関連付けられるイベント カテゴリ グループ。
DESCRIPTION	VARCHAR(50)	NULL	EVENT_TYPE カラムのイベント タイプの説明。

注意: カスタム イベントを記録するには、このテーブルにエントリを作成する必要があります。カスタム イベントのレコードがこのテーブルに存在しない場合、そのイベントを EVENT テーブルに永続化することはできません。

制約とインデックス

EVENT テーブルと EVENT_TYPE テーブルの EVENT_TYPE カラムの間には、単一の外部キー制約が存在します。前に述べたように、カスタム イベントのレコードが EVENT_TYPE テーブルに存在しない場合、そのイベントを EVENT テーブルに永続化することはできません。

各テーブルの主キー以外に、EVENT テーブルに 2 つのインデックスが存在します。一方のインデックスは EVENT.EVENT_DATE カラムに対するもので、もう一方のインデックスは EVENT.EVENT_TYPE カラムと EVENT.EVENT_DATE カラムの組み合わせです。

ステップ 2: 行動追跡データベースの作成

BEA では、行動追跡に使うスキーマとテーブルを作成するスクリプトを、PointBase を除くすべてのデータベースについて提供しています。(PointBase については、行動追跡データベース オブジェクトはすでに存在しています。create_db.bat/sh を実行すると、オブジェクトが再作成されます。)このステップは、以下の環境でのデータベース構造について説明します。

- [開発環境のためのデータベースの作成](#)
- [プロダクション環境用のデータベースの作成](#)

開発環境のためのデータベースの作成

開発環境においては、行動追跡イベントを記録するためのデータベースまたは表領域を、WebLogic Portal 用に使われるデータベースまたは表領域と分離する必要はなく、それによって得られる利点もありません。したがって、行動追跡用のデータベース オブジェクトを、これらの製品のデータベース オブジェクトと混在させることが可能です。これを行う最も簡単な方法は、データベースのインストール先の event ディレクトリにある create_all スクリプトを実行することです。

SQL*Plus を使って Oracle にログインし、次の場所にある `create_all.sql` スクリプトを実行します。

```
%BEA_HOME%/weblogic700/portal/db/oracle/817/event/create_all.sql
```

`event` サブディレクトリ内の `create_all` スクリプトは、以下のスクリプトを実行します。

- `drop_event.sql`: 行動追跡関連のデータベース オブジェクトをすべて削除します。
- `create_event.sql`: 行動追跡関連のすべてのデータベース オブジェクトを作成します。
- `insert_event_type.sql`: `EVENT_TYPE` テーブルに基本データを挿入します。

プロダクション環境用のデータベースの作成

このシナリオは、Oracle 運用環境での利用を想定しています。この環境では、個別の表領域とそれに対応する要素（表や索引など）をそれぞれ独立させて配置でき、また WebLogic Portal 用のデータベース オブジェクトとは異なるデータベース サーバ上に配置できます。

行動追跡イベントを有効にする前に、以下の作業を行います。

1. 行動追跡イベントを記録するために使うサーバおよびデータベースを決定します。
2. `<BEA_HOME>\weblogic700\portal\db\oracle\817\event` ディレクトリで、次の処理を行います。
 - a. `create_event_tablespace.sql` スクリプトを編集して、表領域のパスおよびデータ ファイル名を正しく定義します。
 - b. `create_event_tablespace.sql` を実行して、表領域を作成します。
 - c. `create_event_users.sql` を編集し、このスクリプトの実行によって正しいユーザ アカウントが作成されるようにします（デフォルトのアカウント名は `WEBLOGIC_EVENT` です）。
 - d. `create_event_users.sql` を実行します。

3. SQL*Plus を使って、`create_event_users.sql` で定義されたユーザとして接続し、スクリプト `create_all.sql` を実行します。このスクリプトは、`drop_event.sql`、`create_event.sql`、および `insert_event_type.sql` の各スクリプトを実行します。
4. データソースの情報を変更して、このホスト、データベース インスタンス、およびユーザ アカウントを指すようにします。詳細については、[11-42 ページの「データソースのコンフィグレーション \(省略可能\)」](#)を参照してください。

ステップ 3: 行動追跡リスナを有効にする

行動追跡イベントをデータベースに記録できるようにするには、行動追跡リスナを有効にする必要があります。そのためには、リスナ クラスを追加します。

注意: このステップでは、Sample Portal にリスナ クラスを追加する方法を説明します。それぞれのアプリケーションについても、同様の手順で行ってください。

各アプリケーションのサービスとして Event サービスがない場合は、WebLogic Server Administration Console を使用して追加します。

行動追跡リスナを追加するには、次の手順を実行します。

1. WebLogic Server Administration Console で、次のようにして、`sampleportalDomain` のノード ツリー内の [同期型リスナ] タブまたは [非同期型リスナ] タブに移動します。

```
http://hostname:port/console > sampleportalDomain > [ デプロイメント ] > [ アプリケーション ] > sampleportal > [ サービス コンフィグレーション ] > [ Event サービス ] > [ コンフィグレーション ] タブ > [ 同期型リスナ ]
```

2. [追加すべきリスナ クラス] フィールドに行動追跡リスナ (`com.bea.pl3n.tracking.listeners.BehaviorTrackingListener`) を追加し、[追加] ボタンをクリックします。[図 11-6](#) を参照してください。

図 11-6 WebLogic Server Administration Console Event サービス



注意： 行動追跡を有効化する前に、データベースをコンフィグレーションする必要があります。この作業の詳細については、11-38 ページの「[プロダクション環境用のデータベースの作成](#)」を参照してください。

ステップ 4: 行動追跡サービスのコンフィグレーション

行動追跡イベントはいったんバッファに送られてから、データベースの Event テーブルに断続的に格納されます。データベースに格納されたイベントは、オフラインでの分析が可能です。非同期サービスを使用すると、実行時間の長いイベント ハンドラを、アプリケーションを利用している Web サイトの訪問者を待たせることなく動作させることができます。

注意： 行動追跡イベントの各プロパティは、WebLogic Server Administration Console でコンフィグレーションする必要があります。

接続プール バッファに置かれた行動追跡イベントは、データ接続のプールを使用してデータベースにスイープされます。デフォルトのデータソースは `weblogic.jdbc.jts.commercePool` です。別のデータソースも使用できます。そのためには、新しいデータソースを作成およびコンフィグレーションし (11-42 ページの「[データソースのコンフィグレーション \(省略可能\)](#)」を参照) WebLogic Server Administration Console で、デフォルト データソースの名前を新しいデータソースの名前に置き換えます。

プロパティ データベースに永続的に保存する特定のイベントは、PersistEventTypes プロパティで指定します。WebLogic Server Administration Console では、永続化するイベントのリストを表示したり変更したりできます。このリスト内のタイプは、イベントに指定されたタイプと一致する必要があります。たとえば、SessionBeginEvent のタイプを表す文字列は「SessionBeginEvent」です。

パフォーマンスの最適化 イベントをバッファからスイープする（データベースに移動する）頻度は、行動追跡サービスの以下のプロパティで制御します。

- MaxBufferSize
- SweepInterval
- SweepMaxTime

これらのプロパティを調整して、パフォーマンスを最適化します。バッファのスイープは、データベースへの書き込みに要する時間が長くなりすぎないように頻度で行う必要がありますが、回数が多すぎて処理が無駄にならないようにしなければなりません。

手順 行動追跡サービスのコンフィグレーションは、以下の手順で行います。

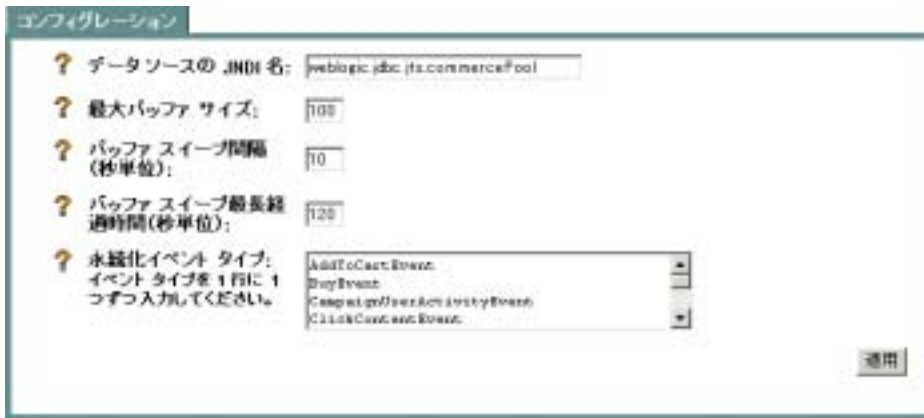
注意： 以下のステップでは、Sample Portal でのパフォーマンス最適化の方法を説明します。それぞれのアプリケーションについても、同様の手順で行ってください。

各アプリケーションのサービスとして Event サービスがない場合は、WebLogic Server Administration Console を使用して追加します。

1. WebLogic Server Administration Console で、次のようにして、sampleportalDomain のノードツリーの [Behavior Tracking] に移動します（[図 11-6](#) を参照）。

```
http://hostname:port/console > sampleportalDomain > [ デプロイメント ] > [ アプリケーション ] > sampleportal > [ サービス コンフィグレーション ] > [ Behavior Tracking ]
```

図 11-7 WebLogic Server Administration Console Behavior Tracking サービス



2. データソースを変更するには、データソースの完全修飾名を [データソースの JNDI 名] フィールドに入力します。
3. バッファからのイベントのスイープ設定を変更するには、所定のフィールドに新しいバッファ設定値を入力します。
4. 永続化するイベントの種類を指定するには、[永続化イベントタイプ] リストボックスでイベントを追加または削除します。

データソースのコンフィグレーション (省略可能)

この節では、Sample Portal でイベントの永続化に使用する新しいデータソースを接続プールにコンフィグレーションする方法について簡単に説明します。それぞれのアプリケーションについても、同様の手順で行ってください。

新しいデータソースをコンフィグレーションするには、次の手順に従います。

注意: WebLogic Server Administration Console の使い方の詳細については、<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wls/docs70/index.html> の WebLogic Server のマニュアルを参照してください。

1. WebLogic Server Administration Console で、次のようにして、sampleportalDomain のノード ツリーの [Behavior Tracking] に移動します ([図 11-6](#) を参照)。

```
http://hostname:port/console > sampleportal > [ サービス ] >
[JDBC] > [ データ ソース ] > [ JDBC データソース ファクトリ ]
```

図 11-8 WebLogic Server Administration Console JDBC データ ソース

The screenshot shows the configuration interface for a new JDBC Data Source Factory. The fields are as follows:

- 名前 (Name):** MyJDBCData Source Factory
- ユーザ名 (Username):** [Empty text box]
- URL:** [Empty text box]
- ドライバクラス名 (Driver Class Name):** [Empty text box]
- ファクトリ名 (Factory Name):** [Empty text box]
- プロパティ (Properties):** [Empty text area]

A '作成' (Create) button is visible in the bottom right corner of the configuration area.

2. 右ペインで、[新しい JDBCData Source Factory のコンフィグレーション] をクリックします。
3. 所定のタブおよびフィールドで、新しいデータソースの設定値を入力します。

付録 A データベース スキーマ

ここでは、WebLogic Portal のデータベース スキーマについて説明します。この情報は、WebLogic Portal で提供されている技術をカスタマイズしたり拡張したりするためのデータベース再構築の手助けとなるよう提供しています。

この章では、以下の内容について説明します。

- [Campaign データベース スキーマ](#)
- [イベント データベース スキーマ](#)
- [カタログ用データベース スキーマ](#)
- [注文および割引用データベース スキーマ](#)
- [パーソナライゼーション用データベース スキーマ](#)
- [ポータル用データベース スキーマ](#)

Campaign データベース スキーマ

この節では、Campaign サービスのデータベース スキーマについて説明します。

- [Campaign Manager 用データベース テーブルのエンティティ リレーションシップ ダイアグラム](#)
- [BEA Campaign Manager を構成するテーブルのリスト](#)
- [Campaign Manager データ ディクショナリ](#)

Campaign Manager 用データベース テーブルのエンティティ リレーションシップ ダイアグラム

図 A-1 は、E-Business Control Center で扱う Campaign サービス データベースのエンティティ リレーションシップ ダイアグラムです。データ型構文の詳細については、この章の後続の節を参照してください。

図 A-1 Campaign Manager 用データベース テーブルのエンティティ リレーションシップ ダイアグラム

SCENARIO_END_STATE	
SCENARIO_XML_REF: String	
USER_NAME: String	
CONTAINER_REF: String	
CONTAINER_TYPE: String	
APPLICATION_NAME: String	

BEA Campaign Manager を構成するテーブルのリスト

BEA Campaign Manager は以下のテーブルで構成されています。

キャンペーンとシナリオ

- [SCENARIO_END_STATE データベース テーブル](#)

Campaign Manager データ ディクショナリ

現時点では、Campaign Manager に直接関係するデータベース テーブルは 1 つだけです。

SCENARIO_END_STATE データベース テーブル

表 A-1 は、E-Business Control Center の SCENARIO_END_STATE テーブルのメタデータについての説明です。このテーブルは、特定のシナリオへの参加資格をユーザが失う時期を識別します。

主キーは、SCENARIO_XML_REF、USER_NAME、CONTAINER_REF、CONTAINER_TYPE、および APPLICATION_NAME です。

表 A-1 SCENARIO_END_STATE テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
SCENARIO_XML_REF	VARCHAR(20)	NOT NULL	PK (主キー) — XML ベースのシナリオ定義ファイルの ID
USER_NAME	VARCHAR(200)	NOT NULL	PK (主キー) — ユーザ ID (WLCS_USER.IDENTIFIER への外部キー)
CONTAINER_REF	VARCHAR(254)	NOT NULL	PK (主キー) — キャンペーンのユニークな ID (CAMPAIGN.CAMPAIGN_UID への外部キー)
CONTAINER_TYPE	VARCHAR(50)	NOT NULL	PK (主キー) — 現時点では、このカラムの値は常に文字列 'Campaign'
APPLICATION_NAME	VARCHAR(100)	NOT NULL	PK (主キー) — デプロイされる J2EE アプリケーション名。(WebLogic Server コンソールでの名前と一致することが望ましい。)

イベント データベース スキーマ

オンラインの訪問者が Web サイトとどのようにやり取りしているかを記録するために、イベント情報をデータベースに記録することができます。これらの種類のイベントは行動追跡イベントと呼ばれます。データ分析システムや e マーケティングシステムでは、これらのイベントをオフラインで分析して、訪問者の行動とトランザクションに関するデータを評価することができます。分析によ

て得た情報は、パーソナライゼーション ルールの最適化、商品ラインアップの見直し、双方向的なマーケティング キャンペーン の立案などに利用できます。この節では、イベント データをログに記録して分析で利用するために必要な事項およびデータベース スキーマについて説明します。

この節では、以下の内容について説明します。

- [データ ストレージ](#)
- [制約とインデックス](#)

データ ストレージ

この節では、リレーショナル データベースの基本概念について説明し、行動追跡イベントを記録するために必要なデータベース スキーマとテーブルの一覧を示します。

リレーショナル データベース

リレーショナル データベースは、論理構造と物理構造の両方を持ちます。論理的には、1 つまたは複数のデータベースを定義できます。各データベースには 1 つまたは複数のテーブルおよびインデックスを定義でき、各テーブルには複数のカラムおよび行を定義できます。データベースの論理構造は、ベンダ間でおおむね共通しています。一方、データベースの物理構造はベンダごとに大きく異なります。物理構造は本質的に、データが格納されるディスク ドライブ上の領域を定義します。各データベース環境では、環境ごとに独自の用語と、オペレーティング システム レベルでデータを格納するための独自の実装が使われています。たとえば、同じ概念に対して Oracle では表領域 (tablespace) という用語が使われ、Microsoft SQL Server ではファイル グループ (filegroup) という用語が使われています。

推奨事項 データベース構造を定義する際、データベース管理者は個別のテーブルの位置に注意を払う必要があります。テーブルの中には、あまり更新されない静的なものもあれば、多数の行が断続的に追加および削除される動的なものもあります。また、頻繁に読み取られるテーブルもあれば、めったに読み取られないテーブルもあります。個々のテーブルは、その利用状況に適した物理位置に配置することが理想的です。WebLogic Portal で最も頻繁に利用されるテーブルのいくつかは、行動追跡に使われるものです。1 人の顧客がサイト内を行き来するア

クティビティによって、複数のテーブル エントリが生成される場合があります。したがって、これらのテーブルはコンピュータ内の最も高速なドライブ上に配置することをお勧めします。経験を積んだデータベース管理者は、インストールされたデータベースの状況をモニタし、設定を調整して最適なパフォーマンスを得るための多くのテクニックを身に付けています。管理者を置かずにデータベースを運用していて、サイトに関するほかの仕事で手一杯であるような場合でも、できれば十分な技術を持ったデータベース管理者にシステムの定期的なメンテナンスを依頼することをお勧めします。

データベース ディレクトリのパス

デフォルトのデータベース ディレクトリのパスは次のとおりです。

- %PORTAL_HOME%\db\\<db version>\... (Windows)
- \$PORTAL_HOME/db/<db vendor>/<db version>/... (UNIX)

PORTAL_HOME は、WebLogic Portal をインストールしたディレクトリです。

たとえば、UNIX 上で Oracle 8.1.7 を使用する場合は、
\$PORTAL_HOME/db/oracle/817/.... のようになります。

スクリプト BEA では、WebLogic Portal に関連するデータだけでなく、行動追跡イベントを記録するために必要なデータベース スキーマのセット アップを支援するスクリプトを提供しています。データベースには注文、カタログ、商品、ポータル、ポートレットなどに関するさまざまなデータが記録されます。

Oracle データベースを使用する場合、WebLogic Portal 関連のデータを格納するための表領域 `WEBLOGIC_DATA` および `WEBLOGIC_INDEX` が作成されます。

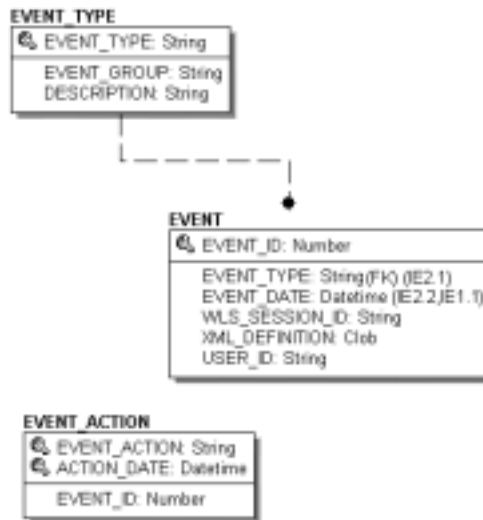
注意： `WEBLOGIC_DATA` と `WEBLOGIC_INDEX` は、BEA が提供するスクリプトによって作成される表領域の名前です。特定の命名規則を適用する場合、それに合わせて表領域の名前を変更できます。

行動追跡に使用される表領域の名前は `WEBLOGIC_EVENT_DATA` です。この表領域には、行動追跡関連のすべてのテーブル、インデックス、および制約が格納されます。データが大量になる可能性があるため、この表領域は注意深くモニタすることをお勧めします。

行動追跡用データベース スキーマ

行動追跡データ用に 3 種類のテーブルが用意されています。EVENT テーブルには、すべてのイベント データが格納されます。EVENT_ACTION テーブルには、記録されたイベント データに対してサードパーティのツールが実行するアクションが記録されます。EVENT_TYPE テーブルは、EVENT テーブル内のイベント タイプおよびイベント カテゴリを参照します。図 A-2 は、行動追跡用データベースの論理エンティティ リレーションシップ ダイアグラムです。

図 A-2 行動追跡用データベースのエンティティ リレーションシップ ダイアグラム



EVENT データベース テーブル

表 A-2 は、EVENT テーブルのメタデータについての説明です。このテーブルには、すべての行動追跡イベントのデータが格納されます。

主キーは、EVENT_ID です。

表 A-2 EVENT テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
APPLICATION	VARCHAR (30)	NOT NULL	イベントを作成したアプリケーション。
EVENT_ID	NUMBER	NOT NULL	システム側で生成されるユニークな数値で、レコード識別子として使われる。このテーブルの主キー。
EVENT_TYPE	VARCHAR(30)	NOT NULL	呼び出されたイベントを識別する文字列 ID。
EVENT_DATE	DATE	NOT NULL	イベントの日時。
WLS_SESSION_ID	VARCHAR(254)	NOT NULL	WebLogic Server が生成し、セッションに割り当てられるユニークな番号。
XML_DEFINITION	CLOB	NULL	各イベントタイプ固有のイベント情報を格納する XML ドキュメント。情報は、CLOB (Character Large Object) 形式で格納される。表 A-3 参照。
USER_ID	VARCHAR(50)	NULL	セッションおよびイベントと関連付けられるユーザ ID。ユーザがログインしていない場合、このカラムは NULL になる。

表 A-2 に示したように、EVENT テーブルには 6 つのカラムがあります。各カラムは特定のイベント要素に対応します。EVENT テーブルのカラムのうちの 5 つには、すべてのイベントタイプに共通するデータが格納されます。

XML_DEFINITION カラムには、これら 5 つのカラムの全情報に加えて、イベントタイプごとにユニークなイベントデータが格納されます。XML ドキュメントは、イベントタイプごとに固有の形式で作成されます。各イベントタイプに対応するデータ要素は、EVENT テーブルの XML_DEFINITION カラムに記憶されません。これらの要素集合の一覧を表 A-3 に示します。

表 A-3 XML_DEFINITION カラムのデータ要素

イベント	データ要素
AddToCartEvent	application event-date event-type session-id user-id sku quantity unit-list-price currency application-name
BuyEvent	application event-date event-type session-id user-id sku quantity unit-price currency application-name order-line-id
CampaignUserActivityEvent	application event-date event-type session-id user-id campaign-id scenario-id

表 A-3 XML_DEFINITION カラムのデータ要素 (続き)

イベント	データ要素
ClickCampaignEvent	application event-date event-type session-id user-id document-type document-id campaign-id scenario-id application-name placeholder-id
ClickContentEvent	application event-date event-type session-id user-id document-type document-id
ClickProductEvent	application event-date event-type session-id user-id document-type document-id sku category-id application-name
DisplayCampaignEvent	application event-date event-type session-id user-id document-type document-id campaign-id scenario-id application-name placeholder-id

表 A-3 XML_DEFINITION カラムのデータ要素 (続き)

イベント	データ要素
DisplayContentEvent	application event-date event-type session-id user-id document-type document-id
DisplayProductEvent	application event-date event-type session-id user-id document-type document-id sku category-id application-name
PurchaseCartEvent	application event-date event-type session-id user-id total-price order-id currency application-name
RemoveFromCartEvent	application event-date event-type session-id user-id sku quantity unit-price currency application-name

表 A-3 XML_DEFINITION カラムのデータ要素 (続き)

イベント	データ要素
RuleEvent	application event-date event-type session-id user-id ruleset-name rule-name
SessionBeginEvent	application event-date event-type session-id user-id
SessionEndEvent	application event-date event-type session-id user-id
SessionLoginEvent	application event-date event-type session-id user-id
UserRegistrationEvent	application event-date event-type session-id user-id

EVENT_ACTION データベース テーブル

表 A-4 は、EVENT_ACTION テーブルのメタデータについての説明です。このテーブルには、記録されたイベント データに対してサードパーティのツールが実行するアクションが記録されます。これは静的なテーブルです。

主キーは、EVENT_ACTION と ACTION_DATE です。

表 A-4 EVENT_ACTION テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
EVENT_ACTION	VARCHAR(30)	NOT NULL	実行されるイベント アクション。 BEGIN EXPORT や END EXPORT など。 このテーブルの主キーの 1 つ。
ACTION_DATE	DATE	NOT NULL	イベントの日時。このテーブルの主 キーの 1 つ。
EVENT_ID	NUMBER	NULL	実行されるイベント アクションと関連 付けられるイベントの ID。

EVENT_TYPE データベース テーブル

表 A-5 は、EVENT_TYPE テーブルのメタデータについての説明です。このテーブルは、EVENT テーブルに格納されるイベント タイプおよびイベント カテゴリを参照します。これは静的なテーブルです。

主キーは、EVENT_TYPE です。

表 A-5 EVENT_TYPE テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
EVENT_TYPE	VARCHAR(30)	NOT NULL	システム側で生成されるユニークな数 値で、レコード識別子として使われる。 このテーブルの主キー。
EVENT_GROUP	VARCHAR(10)	NOT NULL	イベント タイプと関連付けられるイベ ント カテゴリ グループ。
DESCRIPTION	VARCHAR(50)	NULL	EVENT_TYPE の説明。

注意： カスタム イベントを記録するには、このテーブルにエントリを作成する必要があります。カスタム イベントのレコードがこのテーブルに存在しない場合、そのイベントを EVENT テーブルに永続化することはできません。

制約とインデックス

EVENT テーブルおよび EVENT_TYPE テーブルの EVENT_TYPE カラムの間には、単一の外部キー制約が存在します。前述したように、カスタム イベントのレコードが EVENT_TYPE テーブルに存在しない場合、そのイベントを EVENT テーブルに永続化することはできません。

各テーブルの主キー以外に、EVENT テーブルに 2 つのインデックスが存在します。一方のインデックスは EVENT.EVENT_DATE カラムで、もう一方のインデックスは EVENT.EVENT_TYPE カラムと EVENT.EVENT_DATE カラムの組み合わせです。

カタログ用データベース スキーマ

この節では、Commerce サービス プロダクト カatalog用のデータベース スキーマについて説明します。

この節では、以下の内容について説明します。

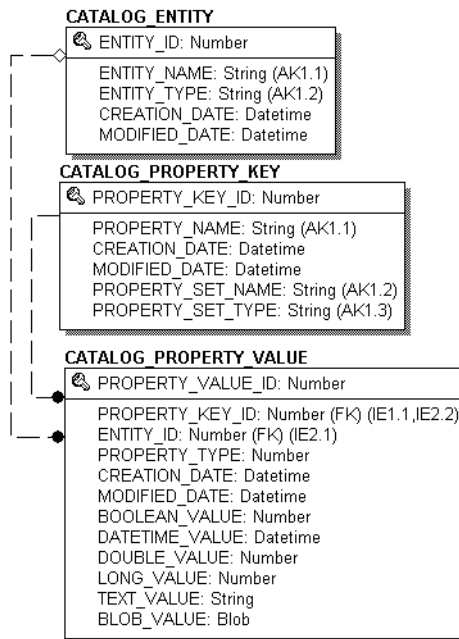
- [コア プロダクト カatalog用テーブルのエンティティ リレーションシップ ダイアグラム](#)
- [Campaign Manager データ ディクショナリ](#)
- [プロダクト カatalog用テーブルに関する定義済みの制約](#)
- [プロダクト カatalog用テーブルに関する定義済みの制約](#)

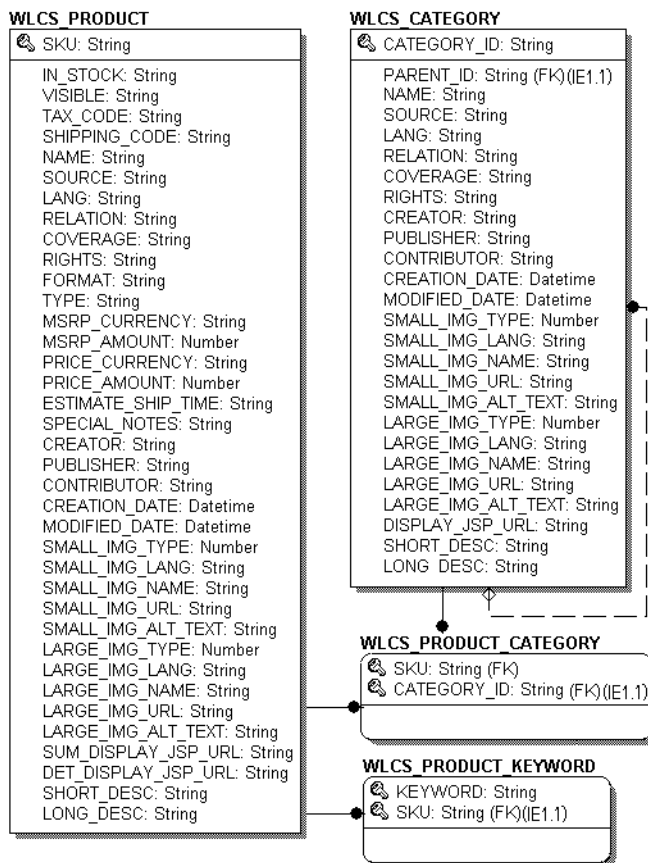
Commerce サービス プロダクト カatalog内の商品 (item) 用のメタデータは、Dublin Core Metadata Open Standard に基づいています。この標準には Web ベースのカatalogにとっての利点が数多くあります。Dublin Core Metadata Open Standard に関する詳細については、<http://purl.org/dc> を参照してください。

コア プロダクト カタログ用テーブルのエンティティ リレーションシップ ダイアグラム

図 A-3 は、Commerce サービスのコア プロダクト カタログ用の Commerce データベース内のテーブルについての論理エンティティ リレーションシップ ダイアグラムです。

図 A-3 コア プロダクト カタログ用テーブルのエンティティ リレーションシップ ダイアグラム





プロダクトカタログ用テーブル

以下のテーブルがプロダクト カタログ用データベースを構成しています。

- [CATALOG_ENTITY データベース テーブル](#)
- [CATALOG_PROPERTY_KEY データベース テーブル](#)
- [CATALOG_PROPERTY_VALUE データベース テーブル](#)

- [WLCS_CATEGORY データベース テーブル](#)
- [WLCS_PRODUCT データベース テーブル](#)
- [WLCS_PRODUCT_CATEGORY データベース テーブル](#)
- [WLCS_PRODUCT_KEYWORD データベース テーブル](#)

CATALOG_ENTITY データベース テーブル

内容: コンフィグレーション可能なエンティティのユニークな識別番号。

主キー: ENTITY_ID

表 A-6 CATALOG_ENTITY テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
ENTITY_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	PK (主キー) — システム側で生成されるユニークな数値で、レコード識別子として使われる。
ENTITY_NAME	VARCHAR(200)	NOT NULL	エンティティの名前。
ENTITY_TYPE	VARCHAR(100)	NOT NULL	エンティティのタイプ (ユーザ、グループなど)。
CREATION_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの作成日時。
MODIFIED_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの最終更新日時。

CATALOG_PROPERTY_KEY データベース テーブル

内容: コンフィグレーション可能なエンティティに関連付けるスコープ付きのプロパティ名用のユニークな識別番号。

主キー: PROPERTY_KEY_ID

表 A-7 CATALOG_PROPERTY_KEY テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
PROPERTY_KEY_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	PK (主キー) — システム側で生成されるユニークな数値で、レコード識別子として使われる。
PROPERTY_NAME	VARCHAR(100)	NOT NULL	プロパティ名 (以前の WLCS_PROP_ID テーブルの PROPERTY_NAME)。
CREATION_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの作成日時。
MODIFIED_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの最終更新日時。
PROPERTY_SET_NAME	VARCHAR(100)	NULL	プロパティ セットの名前 (以前の WLCS_PROP_ID テーブルの SCOPE_NAME)。
PROPERTY_SET_TYPE	VARCHAR(100)	NULL	プロパティ セットのタイプ (USER など)。

CATALOG_PROPERTY_VALUE データベース テーブル

内容: コンフィグレーション可能なエンティティに関連付ける Boolean、タイムスタンプ、浮動小数点、整数、テキスト、およびユーザ定義の (オブジェクト) プロパティ値。

主キー: PROPERTY_VALUE_ID

表 A-8 CATALOG_PROPERTY_VALUE テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
PROPERTY_VALUE_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	PK (主キー) — システム側で生成されるユニークな数値で、レコード識別子として使われる。
PROPERTY_KEY_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	システムが生成した値で PROPERTY_KEY カラムに対する外部キー。

表 A-8 CATALOG_PROPERTY_VALUE テーブルのメタデータ (続き)

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
ENTITY_ID	NUMBER (15)	NOT NULL	システムが生成した値で ENTITY カラムに対する外部キー。
PROPERTY_TYPE	NUMBER (1)	NOT NULL	有効値 : 0=Boolean、1=Integer、2=Float、 3=Text、4= 日時 (Date and Time)、5= ユーザ定義 (BLOB)
CREATION_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの作成日時。
MODIFIED_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの最終更新日時。
BOOLEAN_VALUE	NUMBER (1)	NULL	各 boolean 型プロパティ識別子の値。
DATETIME_VALUE	DATE	NULL	各日時 (date and time) 型プロパティ識別子の値。
DOUBLE_VALUE	NUMBER	NULL	各 float 型プロパティ識別子に関連付けられた値。
LONG_VALUE	NUMBER (20)	NULL	integer 型プロパティに関連付けられた値。
TEXT_VALUE	VARCHAR (254)	NULL	text 型プロパティに関連付けられた値。
BLOB_VALUE	BLOB	NULL	ユーザ定義プロパティに関連付けられた値。

WLCS_CATEGORY データベース テーブル

内容 : Commerce データベース内のカテゴリ。このテーブルでの説明は、Dublin Core 標準で使用するフィールドについて、「推奨する最良の実践」を反映させたものです。

主キー : CATEGORY_ID

表 A-9 WLCS_CATEGORY テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
CATEGORY_ID	VARCHAR(20)	NOT NULL	カテゴリのユニークな識別子。このテーブルの主キー。このフィールドは、NULL は不可。WLCS_CATEGORY テーブルのこれ以外のフィールドはすべて、NULL でも可。
PARENT_ID	VARCHAR(20)	NULL	プロダクト カタログを構成する各種カテゴリの階層における親カテゴリの CATEGORY_ID 値。これがトップレベルのユーザ定義カテゴリならば、PARENT_ID は、com.beasys.ROOT となる。
NAME	VARCHAR(50)	NULL	プロダクト カタログにおけるカタログ名。
SOURCE	VARCHAR(30)	NULL	現カテゴリを派生させた元のカテゴリへの参照。
LANG	VARCHAR(30)	NULL	カテゴリの内容説明を記述する言語。言語要素の値については、推奨する最良の実践が、RFC 1766 で定義されており、そこには、次のような 2 文字で表す言語コード (ISO 639 標準に準拠) が用意されている。日本語は ja、英語は en、フランス語は fr、ドイツ語は de など。言語コードには、オプションとして、その後ろに 2 文字の国コード (ISO 3166 標準 [ISO3166] 準拠) を付けることができる。たとえば、英国で使われている英語を表す場合は、en-uk となる。
RELATION	VARCHAR(30)	NULL	関係するカテゴリへの参照。
COVERAGE	VARCHAR(30)	NULL	カテゴリのコンテンツの有効範囲、スコープ。
RIGHTS	VARCHAR(30)	NULL	カテゴリが持ち、適用される権利に関する情報。

表 A-9 WLCS_CATEGORY テーブルのメタデータ (続き)

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
CREATOR	VARCHAR (50)	NULL	カテゴリのコンテンツを作る際に主たる責任を負うエンティティ。
PUBLISHER	VARCHAR (50)	NULL	カテゴリを利用可能にするにあたって責任を負うエンティティ。
CONTRIBUTOR	VARCHAR (50)	NULL	カテゴリのコンテンツに寄与するものを作成する際に責任を負うエンティティ。
CREATION_DATE	DATE	NULL	カテゴリのライフ サイクルにおけるイベントに関連付ける日付。日付の値をコード化するにあたって推奨する最良の方式は、ISO 8601 のプロファイルに定義されており、YYYY-MM-DD フォーマットに従う。
MODIFIED_DATE	DATE	NULL	Commerce サービスに付属する DBLoader プログラムによる更新や挿入など、カテゴリのライフ サイクルにおけるイベントに関連付ける日付。日付の値をコード化するにあたって推奨する最良の方式は、ISO 8601 のプロファイルに定義されており、YYYY-MM-DD フォーマットに従う。
SMALL_IMG_TYPE	NUMBER (3)	NULL	グラフィックに関する独自の設計のタイプフィールド。たとえば、次のような独自の番号付けを行うことができる。 0 = 低帯域幅のユーザに対して、低解像度のグラフィックを表示する。 1 = 高帯域幅のユーザに対して、高解像度のグラフィックを表示する。
SMALL_IMG_LANG	VARCHAR (30)	NULL	カテゴリのサムネイルイメージの言語。関連情報については、 LANG カラムの説明を参照。
SMALL_IMG_NAME	VARCHAR (50)	NULL	カテゴリのサムネイルイメージの名前。

表 A-9 WLCS_CATEGORY テーブルのメタデータ (続き)

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
SMALL_IMG_URL	VARCHAR(254)	NULL	カテゴリのサムネイル イメージの URL。
SMALL_IMG_ALT_TEXT	VARCHAR(254)	NULL	ユーザがカテゴリのサムネイル イメージ上にカーソルを置いた場合、または、ブラウザ設定で画像の表示が不可になっている場合に、画像の代わりに表示するテキスト。
LARGE_IMG_TYPE	NUMBER(3)	NULL	グラフィックに関する独自の設計のタイプ フィールド。たとえば、次のような独自の番号付けを行うことができる。 0 = 低帯域幅のユーザに対して、低解像度のグラフィックを表示する。 1 = 高帯域幅のユーザに対して、高解像度のグラフィックを表示する。
LARGE_IMG_LANG	VARCHAR(30)	NULL	カテゴリのフルサイズイメージの言語。関連情報については、 LANG カラムの説明を参照。
LARGE_IMG_NAME	VARCHAR(50)	NULL	カテゴリのフルサイズイメージの名前。
LARGE_IMG_URL	VARCHAR(254)	NULL	カテゴリのフルサイズイメージの URL。
LARGE_IMG_ALT_TEXT	VARCHAR(254)	NULL	ユーザが、カテゴリのフルサイズ イメージ上にカーソルを置いた場合、または、ブラウザ設定で、画像の表示が不可になっている場合に、画像の代わりに表示するテキスト。
DISPLAY_JSP_URL	VARCHAR(254)	NULL	カテゴリを表示するのに使用する JSP への URL。例： <code>/commerce/catalog/includes/category.jsp</code>
SHORT_DESC	VARCHAR(50)	NULL	カテゴリの内容の短い説明。
LONG_DESC	VARCHAR(254)	NULL	カテゴリの内容の長い説明。

WLCS_PRODUCT データベース テーブル

内容 : Commerce データベース内の商品の記録。

主キー : SKU

表 A-10 WLCS_PRODUCT テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
SKU	VARCHAR(40)	NOT NULL	商品アイテムのユニークな識別子 (「Stock Keeping Unit」(在庫商品識別番号) SKU)。このフィールドは、テーブルの主キーであり、NULL は不可。WLCS_PRODUCT テーブルのこれ以外のフィールドはすべて、NULL でも可。
IN_STOCK	VARCHAR(1)	NULL	商品アイテムの在庫があるかどうかを示すフラグ。在庫がなければ 0、在庫があれば 1。
VISIBLE	VARCHAR(1)	NULL	この商品をユーザに表示するかどうかを示す。表示する場合は 1、表示しない場合は 0。データベースに指定がない場合のデフォルトは 1。
TAX_CODE	VARCHAR(10)	NULL	TAXWARE システムで使用するコード。この商品が属する特定の税区分を指定。
SHIPPING_CODE	VARCHAR(10)	NULL	この商品について、配送会社で使用するコード。
NAME	VARCHAR(100)	NULL	商品アイテムの名前。
SOURCE	VARCHAR(30)	NULL	現商品を派生させた元になる別の商品アイテムへの参照。

表 A-10 WLCS_PRODUCT テーブルのメタデータ (続き)

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
LANG	VARCHAR(30)	NULL	カテゴリの内容説明を記述する言語。言語要素の値については、推奨する最良の方式が、RFC 1766 で定義されており、そこには、次のような 2 文字で表す言語コード (ISO 639 標準に準拠) が用意されている。日本語は ja、英語は en、フランス語は fr、ドイツ語は de など。言語コードには、オプションとして、その後ろに 2 文字の国コード (ISO 3166 標準 [ISO3166] 準拠) を付けることができる。たとえば、英国で使われている英語を表す場合は、en-uk となる。
RELATION	VARCHAR(30)	NULL	関係する商品アイテムへの参照。
COVERAGE	VARCHAR(30)	NULL	商品アイテムのコンテンツの有効範囲、スコープ。
RIGHTS	VARCHAR(30)	NULL	商品アイテムが持ち、適用される権利に関する情報。
FORMAT	VARCHAR(30)	NULL	商品の物理的またはデジタルな提示。
TYPE	VARCHAR(30)	NULL	商品の内容の性質やジャンル。
MSRP_CURRENCY	VARCHAR(30)	NULL	製造者が推奨する価格の通貨タイプ。
MSRP_AMOUNT	NUMBER(16,4)	NULL	製造者が推奨する価格。
PRICE_CURRENCY	VARCHAR(30)	NULL	商品のカタログ価格の通貨タイプ。
PRICE_AMOUNT	NUMBER(16,4)	NULL	カタログ内での商品の現行価格。
ESTIMATE_SHIP_TIME	VARCHAR(100)	NULL	在庫：商品発送までに要する日数 / 週数。
SPECIAL_NOTES	VARCHAR(100)	NULL	商品と一緒に表示する在庫関連のメッセージ。
CREATOR	VARCHAR(50)	NULL	商品アイテムのコンテンツを作る際に主たる責任を負うエンティティ。

表 A-10 WLCS_PRODUCT テーブルのメタデータ (続き)

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
PUBLISHER	VARCHAR (50)	NULL	商品アイテムを利用可能にするにあたって責任を負うエンティティ。
CONTRIBUTOR	VARCHAR (50)	NULL	商品アイテムのコンテンツに寄与するものを作成する際に責任を負うエンティティ。
CREATION_DATE	DATE	NULL	商品アイテムのライフ サイクルにおけるイベントに関連付ける日付。日付の値をコード化するにあたって推奨する最良の実践は、ISO 8601 のプロファイルに定義されており、YYYY-MM-DD フォーマットに従う。
MODIFIED_DATE	DATE	NULL	Commerce サービスに付属する DBLoader プログラムによる更新や挿入など、商品のライフ サイクルにおけるイベントに関連付ける日付。日付の値をコード化するにあたって推奨する最良の方式は、ISO 8601 のプロファイルに定義されており、YYYY-MM-DD フォーマットに従う。
SMALL_IMG_TYPE	NUMBER (3)	NULL	グラフィックに関する独自の設計のタイプフィールド。たとえば、次のような独自の番号付けを行うことができる。 0 = 低帯域幅のユーザに対して、低解像度のグラフィックを表示する。 1 = 高帯域幅のユーザに対して、高解像度のグラフィックを表示する。
SMALL_IMG_LANG	VARCHAR (30)	NULL	商品のサムネイル イメージの言語。関連情報については、 LANG カラムの説明を参照。
SMALL_IMG_NAME	VARCHAR (50)	NULL	商品のサムネイル イメージの名前。
SMALL_IMG_URL	VARCHAR (254)	NULL	カテゴリのサムネイル イメージの URL。

表 A-10 WLCS_PRODUCT テーブルのメタデータ (続き)

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
SMALL_IMG_ALT_TEXT	VARCHAR(254)	NULL	ユーザが、商品のサムネイルイメージ上にカーソルを置いた場合、または、ブラウザ設定で、画像の表示が不可になっている場合に、画像の代わりに表示するテキスト。
LARGE_IMG_TYPE	NUMBER(3)	NULL	グラフィックに関する独自の設計のタイプフィールド。たとえば、次のような独自の番号付けを行うことができる。 0 = 低帯域幅のユーザに対して、低解像度のグラフィックを表示する。 1 = 高帯域幅のユーザに対して、高解像度のグラフィックを表示する。
LARGE_IMG_LANG	VARCHAR(30)	NULL	商品のフルサイズ イメージの言語。関連情報については、LANG カラムの説明を参照。
LARGE_IMG_NAME	VARCHAR(50)	NULL	商品のフルサイズ イメージの名前。
LARGE_IMG_URL	VARCHAR(254)	NULL	商品のフルサイズ イメージの URL。
LARGE_IMG_ALT_TEXT	VARCHAR(254)	NULL	ユーザが、商品のフルサイズ イメージ上にカーソルを置いた場合、または、ブラウザ設定で、画像の表示が不可になっている場合に、画像の代わりに表示するテキスト。
SUM_DISPLAY_JSP_URL	VARCHAR(254)	NULL	商品をサマリ形式で表示するのに使用する JSP への URL。例： /commerce/catalog/includes/itemsummary.jsp
DET_DISPLAY_JSP_URL	VARCHAR(254)	NULL	商品の詳細を表示するのに使用する JSP への URL。例： /commerce/catalog/includes/itemdetails.jsp
SHORT_DESC	VARCHAR(254)	NULL	商品アイテムの内容の簡単な説明。
LONG_DESC	VARCHAR(2000)	NULL	商品アイテムの内容の詳細な説明。

WLCS_PRODUCT_CATEGORY データベース テーブル

内容: 商品アイテムとプロダクト カテゴリとの関連付け。

主キー: SKU と CATEGORY_ID

表 A-11 WLCS_PRODUCT_CATEGORY テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
SKU	VARCHAR(40)	NOT NULL	商品アイテムのユニークな識別子 (「Stock Keeping Unit」(在庫商品識別番号)、SKU)。
CATEGORY_ID	VARCHAR(20)	NOT NULL	カテゴリのユニークな識別子。

WLCS_PRODUCT_KEYWORD データベース テーブル

内容: 各商品アイテムに関連付けるキーワード。キーワードにより、Web サイトのページ上の検索機能、または管理ツールで商品レコードをすばやく取り込むことができます。

主キー: KEYWORD と SKU

表 A-12 WLCS_PRODUCT_KEYWORD テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
KEYWORD	VARCHAR(30)	NOT NULL	ユニークな SKU に割り当てられた商品アイテムに関連付けるキーワードが入る。 推奨事項: 指定した商品について、その会社で実装した一定の語や正式の分類スキーマから得た値を選択する。
SKU	VARCHAR(40)	NOT NULL	商品アイテムのユニークな識別子 (「Stock Keeping Unit」(在庫商品識別番号)、SKU)。

プロダクト カatalog用テーブルに関する定義済みの制約

プロダクト カatalog用データベース スキーマには、さまざまな制約が定義され使用されています。これらの制約は、以下のスクリプトに記述されています。

wlcs_create_fkeys.sql— 外部キーを記述

wlcs_create_tables.sql— チェック制約を記述

表 A-13 プロダクト カatalogのデータベース テーブルで定義されている制約

テーブル名	制約
CATALOG_PROPERTY_VALUE	<p>カラム —ENTITY_ID 制約名 —FK1_CAT_PROP_V 制約タイプ —FOREIGN KEY 各 CATALOG_PROPERTY_VALUE で ENTITY_ID カラムを介して既存の CATALOG_ENTITY が参照されることを保証する。</p> <p>カラム —PROPERTY_KEY_ID 制約名 —FK2_CAT_PROP_V 制約タイプ —FOREIGN KEY 各 CATALOG_PROPERTY_VALUE で PROPERTY_KEY_ID カラムを介して既存の CATALOG_PROPERTY_KEY が参照されることを保証する。</p> <p>カラム —BOOLEAN_VALUE 制約名 —CC1_CAT_PROP_V 制約タイプ —CHECK BOOLEAN_VALUE カラムの値が 0 (偽) または 1 (真) であることを保証する。</p>
WLCS_CATEGORY	<p>カラム —CATEGORY_ID 制約名 —FK1_CATEGORY 制約タイプ —FOREIGN KEY 各 PARENT_ID で CATEGORY_ID カラムを介して既存の WLCS_CATEGORY が参照されることを保証する。</p>

表 A-13 プロダクト カタログのデータベース テーブルで定義されている制約 (続き)

テーブル名	制約
WLCS_PRODUCT_CATEGORY	<p>カラム — CATEGORY_ID 制約名 — FK1_PRODUCT_CAT 制約タイプ —FOREIGN KEY 各 CATEGORY_ID で CATEGORY_ID カラムを介して既存の WLCS_CATEGORY が参照されることを保証する。</p>
WLCS_PRODUCT_KEYWORD	<p>カラム —SKU 制約名 —FK1_PRODUCT_KEY 制約タイプ —FOREIGN KEY 各 SKU で SKU カラムを介して既存の WLCS_PRODUCT が参照されることを保証する。</p>

注文および割引用データベース スキーマ

この節では、Order サービス 用のデータベーススキーマについて説明します。

この節では、以下の内容について説明します。

- [注文および割引用テーブルのエンティティ リレーションシップ ダイアグラム](#)
- [注文処理用データ ディクショナリ テーブル](#)
- [注文処理用データベース スキーマにおける定義済みの制約](#)

注文および割引用テーブルのエンティティ リレーションシップ ダイアグラム

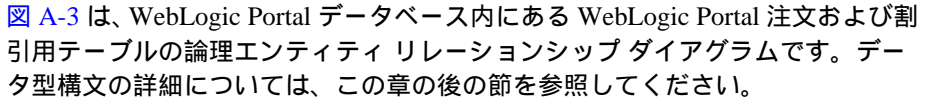
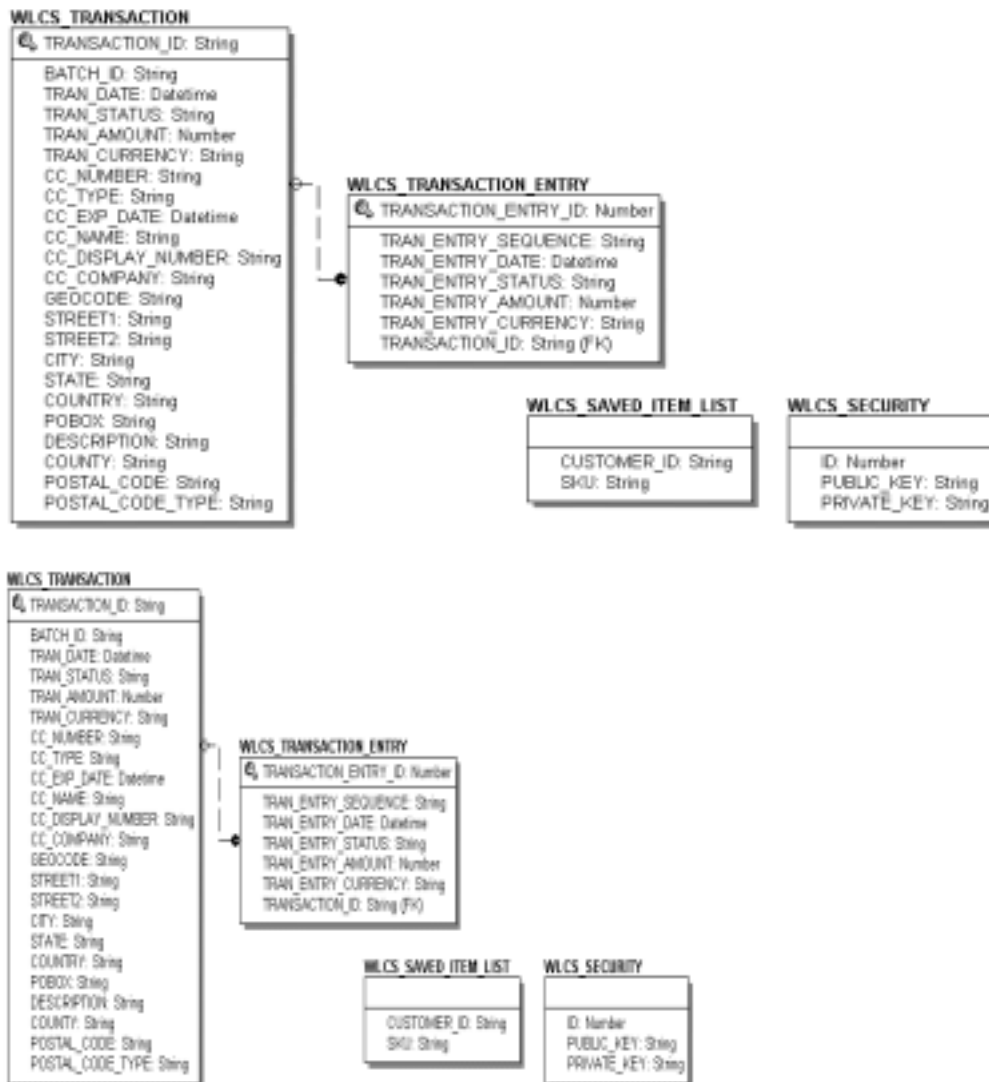
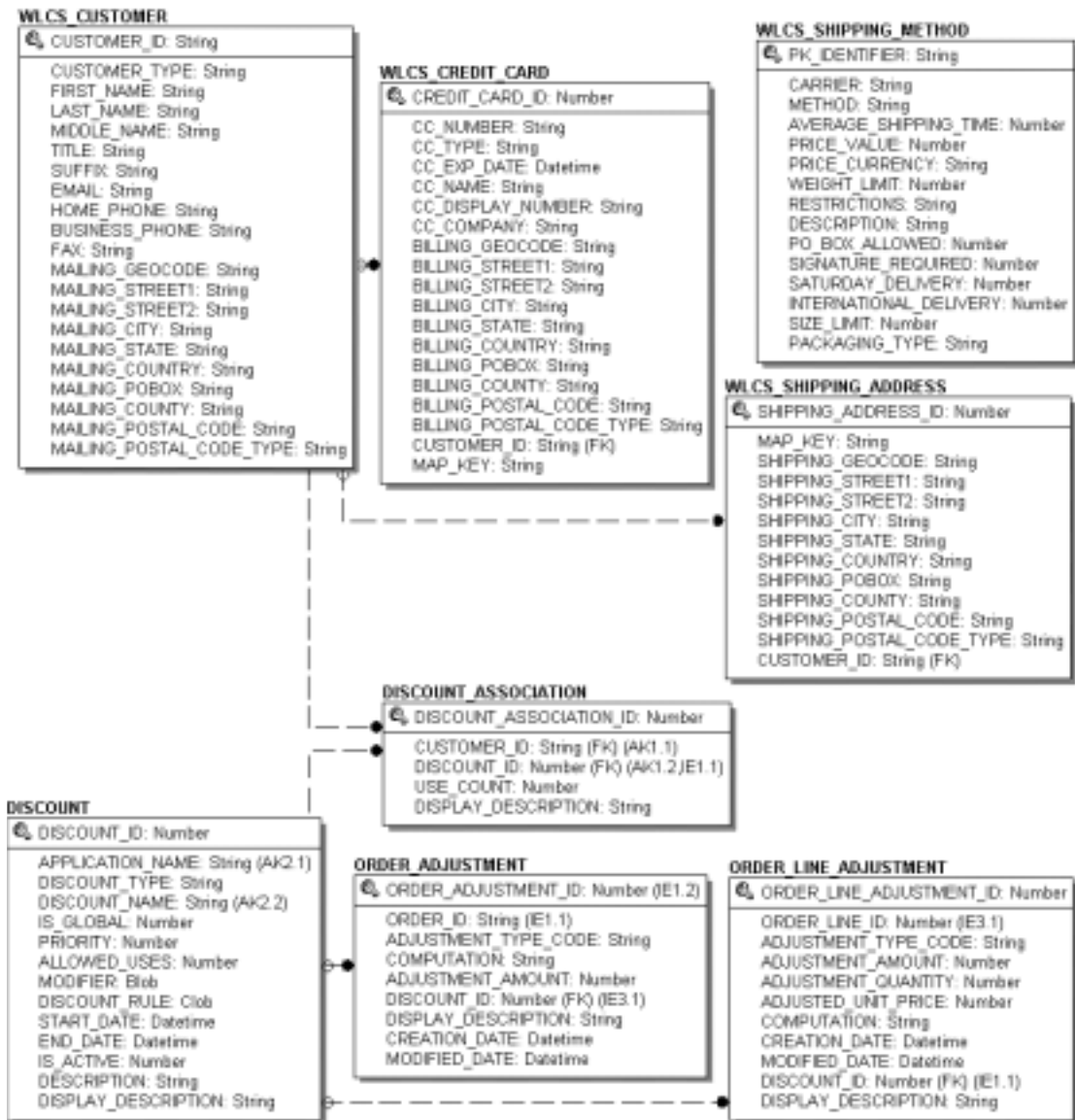
 [図 A-3](#) は、WebLogic Portal データベース内にある WebLogic Portal 注文および割引用テーブルの論理エンティティ リレーションシップ ダイアグラムです。データ型構文の詳細については、この章の後の節を参照してください。

図 A-4 注文と割引用テーブルのエンティティリレーションシップダイアグラム





注文処理用データ ディクショナリ テーブル

注意: 以下のマニュアルでは、さまざまなテーブルへ「外部キー」を参照していますが、これらの制約は、このリリースの Commerce サービスではまだ存在していません。しかし、これらの外部キーは、将来のバージョンの Commerce サービスでは用意される予定（将来のリリースでは利用可能）で、現時点ではこれらのリレーションシップに留意してください。

Commerce サービスの注文処理システムは、以下のテーブルで構成されます。

- [DISCOUNT データベース テーブル](#)
- [DISCOUNT_ASSOCIATION データベース テーブル](#)
- [ORDER_ADJUSTMENT データベース テーブル](#)
- [ORDER_LINE_ADJUSTMENT データベース テーブル](#)
- [WLCS_CREDIT_CARD データベース テーブル](#)
- [WLCS_CUSTOMER データベース テーブル](#)
- [WLCS_ORDER データベース テーブル](#)
- [WLCS_ORDER_LINE データベース テーブル](#)
- [WLCS_SAVED_ITEM_LIST データベース テーブル](#)
- [WLCS_SECURITY データベース テーブル](#)
- [WLCS_SHIPPING_ADDRESS データベース テーブル](#)
- [WLCS_SHIPPING_METHOD データベース テーブル](#)
- [WLCS_TRANSACTION データベース テーブル](#)
- [WLCS_TRANSACTION_ENTRY データベース テーブル](#)

DISCOUNT データベース テーブル

内容: 割引レコード。DISCOUNT_SET レコード 1 件につき 1 つ以上の割引レコードを格納できる。

主キー : DISCOUNT_ID

表 A-14 DISCOUNT

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
DISCOUNT_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	PK (主キー) — システム側で生成されるユニークな数値で、レコード識別子として使われる。
APPLICATION_NAME	VARCHAR(100)	NOT NULL	FK (外部キー) — DISCOUNT_SET テーブルへの外部キー。
DISCOUNT_TYPE	VARCHAR(10)	NOT NULL	割引のタイプ。注文総額に対する割引か、各注文商品に対する割引かの識別に使用される。
DISCOUNT_NAME	VARCHAR(254)	NOT NULL	割引名。
IS_GLOBAL	NUMBER(1)	NOT NULL	この割引を全体に適用可能かどうかを示すフラグ。
PRIORITY	NUMBER(3)	NOT NULL	他の割引がある場合の、この割引の優先レベル。
ALLOWED_USERS	NUMBER(10)	NOT NULL	この割引を利用できる回数。
MODIFIER	VARCHAR(254)	NOT NULL	実際に適用する割引の説明。これは XML。
DISCOUNT_RULE	CLOB	NOT NULL	割引商品の選択方法。これは XML。
START_DATE	DATE	NOT NULL	割引を開始する日時。
END_DATE	DATE	NOT NULL	割引を終了する日時。
IS_ACTIVE	NUMBER(1)	NOT NULL	割引が有効かどうかを示すフラグ。有効 =1、無効 =0
DESCRIPTION	VARCHAR(254)	NULL	割引の説明。
DISPLAY_DESCRIPTION	VARCHAR(254)	NULL	割引の説明 (表示用)。

DISCOUNT_ASSOCIATION データベース テーブル

機能 : 顧客と割引を関連付け、顧客が各割引を利用した回数を保持する。

主キー : DISCOUNT_ASSOCIATION_ID

表 A-15 DISCOUNT_ASSOCIATION

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
DISCOUNT_ASSOCIATION_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	PK (主キー) — システム側で生成されるユニークな数値で、レコード識別子として使われる。
CUSTOMER_ID	VARCHAR(20)	NOT NULL	FK (外部キー) — WLCS_CUSTOMER テーブルへの外部キー。
DISCOUNT_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	FK (外部キー) — DISCOUNT テーブルへの外部キー。
USE_COUNT	NUMBER(10)	NOT NULL	この割引が利用された回数。
DISPLAY_DESCRIPTION	VARCHAR(254)	NULL	割引の説明 (表示用)

ORDER_ADJUSTMENT データベース テーブル

内容 : 注文単位で適用される割引 (2002 年 1 月 1 日 ~ 31 日に受注したすべての注文から一律 2,000 円 割引する場合など) についての情報。

主キー : ORDER_ADJUSTMENT_ID

表 A-16 ORDER_ADJUSTMENT

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
ORDER_ADJUSTMENT_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	PK (主キー) — システム側で生成されるユニークな数値で、レコード識別子として使われる。
ORDER_ID	VARCHAR(20)	NOT NULL	FK (外部キー) — DISCOUNT_SET テーブルへの外部キー。
ADJUSTMENT_TYPE	VARCHAR(20)	NULL	調整のタイプ (商品単位の割引、送料割引など)
COMPUTATION	VARCHAR(254)	NOT NULL	この割引が利用された回数。

表 A-16 ORDER_ADJUSTMENT (続き)

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
ADJUSTMENT_AMOUNT	NUMBER(16,4)	NOT NULL	割引の説明 (表示用)。
DISCOUNT_ID	NUMBER(15)	NULL	FK (外部キー) — DISCOUNT テーブルへの外部キー。
DISPLAY_DESCRIPTION	VARCHAR(254)	NULL	割引の説明 (表示用)。 DISPLAY_DESCRIPTION は、割引の性格に応じて Discount サービスまたは Campaign サービスで生成されます。
CREATION_DATE	DATE	NOT NULL	注文調整レコードの作成日時。
MODIFIED_DATE	DATE	NULL	注文調整レコードの最終更新日時。

ORDER_LINE_ADJUSTMENT データベース テーブル

内容: 各注文商品に適用される割引 (SKU "Power Drill" を 10% 割引など) についての情報。

主キー: ORDER_LINE_ADJUSTMENT_ID

表 A-17 ORDER_LINE_ADJUSTMENT テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
ORDER_LINE_ADJUSTMENT_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	PK (主キー) — システム側で生成されるユニークな数値で、レコード識別子として使われる。
ORDER_LINE_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	顧客のショッピング カートの各行のユニークな ID。このフィールドは、テーブルの主キーであり、NULL は不可。WLCS_ORDERLINE テーブルのその他のフィールドは NULL でもかまわない。
ADJUSTMENT_TYPE	VARCHAR(20)	NULL	調整のタイプ (商品単位の割引、送料割引など)。
ADJUSTMENT_AMOUNT	NUMBER(16,4)	NOT NULL	ドル建ての調整額。

表 A-17 ORDER_LINE_ADJUSTMENT テーブルのメタデータ (続き)

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
ADJUSTMENT_QUANTITY	NUMBER(16,4)	NOT NULL	調整する数量。
ADJUSTED_UNIT_PRICE	NUMBER(16,4)	NOT NULL	各商品の調整済み単価。
COMPUTATION	VARCHAR(254)	NOT NULL	ADJUSTED_UNIT_PRICE を算出するための式。
CREATION_DATE	DATE	NOT NULL	注文調整レコードの作成日時。
MODIFIED_DATE	DATE	NULL	注文調整レコードの最終更新日時。
DISCOUNT_ID	NUMBER(15)	NULL	FK (外部キー) — DISCOUNT テーブルの割引の外部キー。
DISPLAY_DESCRIPTION	VARCHAR(254)	NULL	調整の説明 (表示用)。

WLCS_CREDIT_CARD データベーステーブル

内容 : 注文処理用データベースにおける顧客のクレジットカードに関連する情報。

主キー : CREDIT_CARD_ID

表 A-18 WLCS_CREDIT_CARD テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
CREDIT_CARD_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	クレジットカードのユニークな ID。このフィールドは、テーブルの主キーなので NULL は許されない。 WLCS_CREDIT_CARD テーブルのその他のフィールドは NULL でもかまわない。
CC_NUMBER	VARCHAR(200)	NULL	顧客のクレジットカード番号。 weblogiccommerce.properties ファイルで is.encryption.enable が true に設定されると、暗号化される。

表 A-18 WLCS_CREDIT_CARD テーブルのメタデータ (続き)

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
CC_TYPE	VARCHAR(20)	NULL	顧客のクレジットカードの種類 (VISA、MasterCard など)
CC_EXP_DATE	DATE	NULL	顧客のクレジットカードの有効期限。
CC_NAME	VARCHAR(50)	NULL	クレジットカードの名義人。
CC_DISPLAY_NUMBER	VARCHAR(20)	NULL	クレジットカード番号の表示形式 (末尾の4桁以外はすべて X)。
CC_COMPANY	VARCHAR(50)	NULL	クレジットカード会社の名前。
BILLING_GEOCODE	VARCHAR(2)	NULL	注文に対する税金を識別するコード。このコードは TAXWARE システムで使われる。
BILLING_STREET1	VARCHAR(30)	NULL	顧客の請求先住所の1行目 (番地)。
BILLING_STREET2	VARCHAR(30)	NULL	顧客の請求先住所の2行目 (アパート、マンション)。
BILLING_CITY	VARCHAR(30)	NULL	顧客の請求先住所の都市名 (市区町村)。
BILLING_STATE	VARCHAR(40)	NULL	顧客の請求先住所の州名 (都道府県)。
BILLING_COUNTRY	VARCHAR(40)	NULL	顧客の請求書送付先住所の国名。
BILLING_POBOX	VARCHAR(30)	NULL	顧客の請求先住所の私書箱。
BILLING_COUNTY	VARCHAR(50)	NULL	顧客の請求先住所の郡名。
BILLING_POSTAL_CODE	VARCHAR(10)	NULL	顧客の請求先住所の郵便番号。
BILLING_POSTAL_CODE_TYPE	VARCHAR(10)	NULL	郵便番号の形式。一般に国によって異なる。
CUSTOMER_ID	VARCHAR(20)	NULL	顧客のユニークな ID。
MAP_KEY	VARCHAR(60)	NULL	1人の顧客と複数のクレジットカードをマップするためのキー。

WLCS_CUSTOMER データベース テーブル

内容：注文処理用データベースにおける顧客についての情報。

主キー：CUSTOMER_ID

表 A-19 WLCS_CUSTOMER テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
CUSTOMER_ID	VARCHAR(20)	NOT NULL	顧客のユニークな ID。このフィールドは、テーブルの主キーであり、NULL は不可。WLCS_CUSTOMER テーブルのその他のフィールドは NULL でもかまわない。
CUSTOMER_TYPE	VARCHAR(20)	NULL	顧客に対するラベル (preferred、standard、business など)
FIRST_NAME	VARCHAR(30)	NULL	顧客のファーストネーム (氏名：フリガナ)
LAST_NAME	VARCHAR(30)	NULL	顧客のラストネーム (氏名：漢字)
MIDDLE_NAME	VARCHAR(30)	NULL	顧客のミドルネーム (未使用)
TITLE	VARCHAR(10)	NULL	顧客の希望する敬称 (Mr.、Mrs.、Ms.)
SUFFIX	VARCHAR(10)	NULL	顧客の希望する接尾辞 (Jr.、Sr.)
EMAIL	VARCHAR(80)	NULL	顧客の電子メールアドレス。
HOME_PHONE	VARCHAR(15)	NULL	顧客の自宅電話番号。
BUSINESS_PHONE	VARCHAR(20)	NULL	顧客の勤務先電話番号。
FAX	VARCHAR(15)	NULL	顧客のファックス番号。
MAILING_GEOCODE	VARCHAR(2)	NULL	注文に対する税金を識別するコード。このコードは TAXWARE システムで使われる。
MAILING_STREET1	VARCHAR(30)	NULL	顧客の住所の番地名以降の 1 行目 (番地)

表 A-19 WLCS_CUSTOMER テーブルのメタデータ (続き)

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
MAILING_STREET2	VARCHAR(30)	NULL	顧客の住所の番地の 2 行目 (アパート、マンション)。
MAILING_CITY	VARCHAR(30)	NULL	顧客の住所の都市名 (市区町村)。
MAILING_STATE	VARCHAR(40)	NULL	顧客の住所の州名 (都道府県)。
MAILING_COUNTRY	VARCHAR(40)	NULL	顧客の住所の国名。
MAILING_POBOX	VARCHAR(30)	NULL	顧客の住所の私書箱。
MAILING_COUNTY	VARCHAR(50)	NULL	顧客の住所の郡名 (未使用)。
MAILING_POSTAL_CODE	VARCHAR(10)	NULL	顧客の住所の郵便番号。
MAILING_POSTAL_CODE_TYPE	VARCHAR(10)	NULL	郵便番号の形式。一般に国によって異なる。

WLCS_ORDER データベース テーブル

内容: 注文処理用データベース内の顧客固有の注文についての情報。

注意: Commerce サービス プロダクトは、SHIPPING_AMOUNT、SHIPPING_CURRENCY、PRICE_AMOUNT、または PRICE_CURRENCY カラムのいずれにもデータを入力しません。

主キー: ORDER_ID

表 A-20 WLCS_ORDER テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
ORDER_ID	VARCHAR(20)	NOT NULL	注文のユニークな ID。このフィールドは、テーブルの主キーであり、NULL は不可。WLCS_ORDER テーブルのその他のフィールドは NULL でもかまわない。
CUSTOMER_ID	VARCHAR(20)	NULL	顧客のユニークな ID。

表 A-20 WLCS_ORDER テーブルのメタデータ (続き)

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
TRANSACTION_ID	VARCHAR(25)	NULL	トランザクションのユニークな ID。
STATUS	VARCHAR(20)	NULL	注文処理状況。
ORDER_DATE	DATE	NULL	注文日。
SHIPPING_METHOD	VARCHAR(40)	NULL	配送方法。
SHIPPING_AMOUNT	NUMBER(16,4)	NULL	配送料。
SHIPPING_CURRENCY	VARCHAR(10)	NULL	配送料の通貨単位。
PRICE_AMOUNT	NUMBER(16,4)	NULL	注文金額。
PRICE_CURRENCY	VARCHAR(10)	NULL	注文金額の通貨単位。
SHIPPING_GEOCODE	VARCHAR(2)	NULL	注文に対する税金を識別するコード。このコードは TAXWARE システムで使われる。
SHIPPING_STREET1	VARCHAR(30)	NULL	顧客の届け先住所の番地名以降の 1 行目 (番地)。
SHIPPING_STREET2	VARCHAR(30)	NULL	顧客の届け先住所の番地名以降の 2 行目 (アパート、マンション)。
SHIPPING_CITY	VARCHAR(30)	NULL	顧客の届け先住所の都市名 (市区町村)。
SHIPPING_STATE	VARCHAR(40)	NULL	顧客の届け先住所の州名 (都道府県)。
SHIPPING_COUNTRY	VARCHAR(40)	NULL	顧客の届け先住所の国名。
SHIPPING_POBOX	VARCHAR(30)	NULL	顧客の届け先住所の私書箱。
SHIPPING_COUNTY	VARCHAR(50)	NULL	顧客の届け先住所の郡名 (未使用)。
SHIPPING_POSTAL_CODE	VARCHAR(10)	NULL	顧客の届け先住所の郵便番号。
SHIPPING_POSTAL_CODE_TYPE	VARCHAR(10)	NULL	郵便番号の形式。一般に国によって異なる。

表 A-20 WLCS_ORDER テーブルのメタデータ (続き)

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
SPECIAL_INSTRUCTIONS	VARCHAR(254))	NULL	注文に関連した特別な指示。
SPLITTING_PREFERENCE	VARCHAR(254))	NULL	分納設定。
ORDER_SUBTOTAL	NUMBER(16,4))	NULL	WLCS_ORDER_LINE テーブルの当該注文についての TOTAL_LINE_AMOUNT カラムの合計。

WLCS_ORDER_LINE データベース テーブル

内容: 注文処理用データベースにおける顧客のショッピング カートの各行についての情報。

主キー: ORDER_LINE_ID

表 A-21 WLCS_ORDER_LINE テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
ORDER_LINE_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	顧客のショッピング カートの各行のユニークな ID。このフィールドは、テーブルの主キーであり、NULL は不可。WLCS_ORDERLINE テーブルのその他のフィールドは NULL でもかまわない。
QUANTITY	NUMBER(16,4)	NULL	ショッピング カート内の対応する商品の数量。
PRODUCT_ID	VARCHAR(40)	NULL	ショッピング カート内の対応する商品の ID。
TAX_AMOUNT	NUMBER(16,4)	NULL	注文に対する税額。
TAX_CURRENCY	VARCHAR(10)	NULL	税額の通貨単位。
SHIPPING_AMOUNT	NUMBER(16,4)	NULL	配送料。

表 A-21 WLCS_ORDER_LINE テーブルのメタデータ (続き)

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
SHIPPING_CURRENCY	VARCHAR (10)	NULL	配送料の通貨単位。
UNIT_PRICE_AMOUNT	NUMBER (16, 4)	NULL	単価。
UNIT_PRICE_CURRENCY	VARCHAR (10)	NULL	単価の通貨単位。
MSRP_AMOUNT	NUMBER (16, 4)	NULL	希望小売価格。
MSRP_CURRENCY	VARCHAR (10)	NULL	希望小売価格の通貨単位。
DESCRIPTION	VARCHAR (254)	NULL	対応する商品の名前。
ORDER_ID	VARCHAR (20)	NULL	注文のユニークな ID。
TOTAL_LINE_AMOUNT	NUMBER (16, 4)	NULL	その商品の合計割引金額。 UNIT_PRICE_AMOUNT (- 割引額) × QUANTITY

WLCS_SAVED_ITEM_LIST データベース テーブル

内容: 注文処理用データベースにおいて顧客が保存したショッピングカート内の商品についての情報。

主キー: なし

表 A-22 WLCS_SAVED_ITEM_LIST テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
CUSTOMER_ID	VARCHAR (20)	NULL	顧客のユニークな ID。
SKU	VARCHAR (40)	NULL	商品のユニークな ID (「在庫商品識別番号」または SKU)。

WLCS_SECURITY データベース テーブル

機能: 暗号化と複合化に使われる公開鍵とプライベート キーを注文処理用データベースに永続化する。このテーブルは、Commerce サービス プロダクト内部で使用されます。

主キー：なし

表 A-23 WLCS_SECURITY テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
ID	NUMBER(5)	NULL	鍵ペアのユニークな ID。このフィールドは、テーブルの主キーであり、NULL は不可。
PUBLIC_KEY	VARCHAR(2000)	NULL	クレジットカード番号の暗号化 / 復号化に利用する公開鍵。
PRIVATE_KEY	VARCHAR(2000)	NULL	クレジットカード番号の暗号化 / 復号化に利用するプライベートキー。

WLCS_SHIPPING_ADDRESS データベース テーブル

内容：注文処理用データベースにおける顧客の届け先住所に関連する情報。

主キー：SHIPPING_ADDRESS_ID

表 A-24 WLCS_SHIPPING_ADDRESS テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
SHIPPING_ADDRESS_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	届け先住所のユニークな ID。このフィールドは、テーブルの主キーであり、NULL は不可。 WLCS_SHIPPING_ADDRESS テーブルのその他のフィールドは NULL でもかまわない。
MAP_KEY	VARCHAR(60)	NULL	1 人の顧客の複数の届け先住所をマップするためのキー。
SHIPPING_GEOCODE	VARCHAR(2)	NULL	注文に対する税金を識別するコード。このコードは TAXWARE システムで使われる。
SHIPPING_STREET1	VARCHAR(30)	NULL	顧客の届け先住所の番地名以降の 1 行目 (番地)。

表 A-24 WLCS_SHIPPING_ADDRESS テーブルのメタデータ (続き)

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
SHIPPING_STREET2	VARCHAR (30)	NULL	顧客の届け先住所の番地名以降の 2 行目 (アパート、マンション)。
SHIPPING_CITY	VARCHAR (30)	NULL	顧客の届け先住所の都市名 (市区町村)。
SHIPPING_STATE	VARCHAR (40)	NULL	顧客の届け先住所の州名 (都道府県)。
SHIPPING_COUNTRY	VARCHAR (40)	NULL	顧客の届け先住所の国名。
SHIPPING_POBOX	VARCHAR (30)	NULL	顧客の届け先住所の私書箱。
SHIPPING_COUNTY	VARCHAR (50)	NULL	顧客の届け先住所の郡名。
SHIPPING_POSTAL_CODE	VARCHAR (10)	NULL	顧客の届け先住所の郵便番号。
SHIPPING_POSTAL_CODE_TYPE	VARCHAR (10)	NULL	郵便番号の形式。一般に国によって異なる。
CUSTOMER_ID	VARCHAR (20)	NULL	顧客のユニークな ID。

WLCS_SHIPPING_METHOD データベース テーブル

内容 : 注文処理用データベース内の配送方法についての情報。

主キー : PK_IDENTIFIER

表 A-25 WLCS_SHIPPING_METHOD テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
PK_IDENTIFIER	VARCHAR (20)	NOT NULL	配送方法のユニークな ID。このフィールドは、テーブルの主キーであり、NULL は不可。 WLCS_SHIPPING_METHOD テーブルのそれ以外の場所は NULL でもかまわない。
CARRIER	VARCHAR (40)	NULL	配送に利用する運送業者 (UPS、FedEx など)。

表 A-25 WLCS_SHIPPING_METHOD テーブルのメタデータ (続き)

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
METHOD	VARCHAR (40)	NULL	配送方法 (航空便、翌日航空便、郵便小包など)。
AVERAGE_SHIPPING_TIME	NUMBER	NULL	商品が客先に届くまでの平均日数。
PRICE_VALUE	NUMBER (16,4)	NULL	配送料。
PRICE_CURRENCY	VARCHAR (10)	NULL	PRICE_VALUE カラムの通貨単位 (ドル、ポンド、リラなど)。
WEIGHT_LIMIT	NUMBER (16,4)	NULL	配送の際の重量制限。
RESTRICTIONS	VARCHAR (254)	NULL	配送の際のその他の制限。
DESCRIPTION	VARCHAR (254)	NULL	配送方法についての説明 (FedEx Overnight、Standard など)。
PO_BOX_ALLOWED	NUMBER	NULL	配送を私書箱留めにするかどうかの指定。
SIGNATURE_REQUIRED	NUMBER	NULL	商品受領書にサインが必要かどうかの指定。
SATURDAY_DELIVERY	NUMBER	NULL	土曜日に配送可能かどうかの指定。
INTERNATIONAL_DELIVERY	NUMBER	NULL	海外への配送が選択できるかどうかの指定。
SIZE_LIMIT	NUMBER (16,4)	NULL	配送の際の大きさの制限。
PACKAGING_TYPE	VARCHAR (50)	NULL	配送の際の梱包の種類。

WLCS_TRANSACTION データベース テーブル

内容: 注文処理用データベース内の各支払トランザクションのデータ。

主キー: TRANSACTION_ID

表 A-26 WLCS_TRANSACTION テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
TRANSACTION_ID	VARCHAR (25)	NOT NULL	トランザクションのユニークな ID。このフィールドは、テーブルの主キーであり、NULL は不可。 WLCS_TRANSACTION テーブルのそれ以外の場所は NULL でもかまわない。
BATCH_ID	VARCHAR (15)	NULL	決済のために発行されたバッチ処理のユニークな ID (Payment サービスから返される)。このフィールドは、外部の支払サービスを利用する際には使う必要はない。
TRAN_DATE	DATE	NULL	トランザクションの日付 (トランザクションが最初に起動された日)。
TRAN_STATUS	VARCHAR (20)	NULL	トランザクションの現在の処理状況 (Settled、Authorized、MarkedForSettle、PendingSettle、Retry、Settled)。
TRAN_AMOUNT	NUMBER (16 , 4)	NULL	直近にトランザクション処理された金額 (MarkForSettle の金額と認可された金額は異なる場合がある)。
TRAN_CURRENCY	VARCHAR (30)	NULL	トランザクションの通貨単位。
CC_NUMBER	VARCHAR (200)	NULL	顧客のクレジットカード番号。 weblogiccommerce.properties ファイルで is. encryption. enable が true に設定されると、暗号化される。
CC_TYPE	VARCHAR (20)	NULL	顧客のクレジットカードの種類 (VISA、MasterCard など)。
CC_EXP_DATE	DATE	NULL	顧客のクレジットカードの有効期限。
CC_NAME	VARCHAR (50)	NULL	クレジットカードの名義人。
CC_DISPLAY_NUMBER	VARCHAR (20)	NULL	クレジットカード番号のバージョン (末尾の 4 桁以外はすべて X)。

表 A-26 WLCS_TRANSACTION テーブルのメタデータ (続き)

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
CC_COMPANY	VARCHAR(50)	NULL	クレジットカード会社の名前。
GEOCODE	VARCHAR(2)	NULL	注文に対する税金を識別するコード。このコードは TAXWARE システムで使われる。
STREET1	VARCHAR(30)	NULL	顧客の住所の番地名以降の 1 行目 (番地)
STREET2	VARCHAR(30)	NULL	顧客の住所の番地の 2 行目 (アパート、マンション)
CITY	VARCHAR(30)	NULL	顧客の住所の都市名 (市区町村)
STATE	VARCHAR(40)	NULL	顧客の届け先住所の州名 (都道府県)
COUNTRY	VARCHAR(40)	NULL	顧客の住所の国名。
POBOX	VARCHAR(30)	NULL	顧客の住所の私書箱。
DESCRIPTION	VARCHAR(30)	NULL	備考。NULL でもかまわない。
COUNTY	VARCHAR(50)	NULL	顧客の住所の郡名 (未使用)
POSTAL_CODE	VARCHAR(10)	NULL	顧客の住所の郵便番号。
POSTAL_CODE_TYPE	VARCHAR(10)	NULL	郵便番号の形式。一般に国によって異なる。

WLCS_TRANSACTION_ENTRY データベース テーブル

機能: 支払トランザクションがたどる様々な処理状況を注文処理用データベースに記録する。

主キー: TRANSACTION_ENTRY_ID

表 A-27 WLCS_TRANSACTION_ENTRY テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
TRANSACTION_ENTRY_ID	NUMBER(25)	NOT NULL	トランザクション エントリのユニークな ID。このフィールドは、テーブルの主キーであり、NULL は不可。 WLCS_TRANSACTION_ENTRY テーブルのその他のフィールドは NULL でもかまわない。
TRAN_ENTRY_SEQUENCE	VARCHAR(30)	NULL	トランザクション当たりの実行数。
TRAN_ENTRY_DATE	DATE	NULL	ログ エントリの日付。
TRAN_ENTRY_STATUS	VARCHAR(20)	NULL	このエントリが作成された時のトランザクションの処理状況。
TRAN_ENTRY_AMOUNT	NUMBER(16,4)	NULL	ログ エントリが作成された時のトランザクションの金額。
TRAN_ENTRY_CURRENCY	VARCHAR(30)	NULL	トランザクションの通貨単位。
TRANSACTION_ID	VARCHAR(25)	NULL	トランザクションのユニークな ID。

注文処理用データベース スキーマにおける定義済みの制約

注文処理用データベース スキーマには、さまざまな制約が定義され使用されています。これらの制約は、以下のスクリプトに記述されています。

wlcs_create_fkeys.sql – 外部キーを記述

wlcs_create_tables.sql – チェック制約を記述

表 A-28 注文に関するデータベース テーブルで定義されている制約

テーブル名	制約
DISCOUNT_ASSOCIATION	<p>カラム —CUSTOMER_ID 制約名 —FK1_DISC_ASSOC 制約タイプ —FOREIGN KEY 各 CUSTOMER_ID で CUSTOMER_ID カラムを介して既存の WLCS_CUSTOMER が参照されることを保証する。</p> <p>カラム —DISCOUNT_ID 制約名 —FK2_DISC_ASSOC 制約タイプ —FOREIGN KEY 各 DISCOUNT_ID で DISCOUNT_ID カラムを介して既存の DISCOUNT が参照されることを保証する。</p>
WLCS_CREDIT_CARD	<p>カラム —CUSTOMER_ID 制約名 —FK1_CREDIT_CARD 制約タイプ —FOREIGN KEY 各 CUSTOMER_ID で CUSTOMER_ID カラムを介して既存の WLCS_CUSTOMER が参照されることを保証する。</p>
WLCS_ORDER_LINE	<p>カラム —ORDER_ID 制約名 —FK1_ORDER_LINE 制約タイプ —FOREIGN KEY 各 ORDER_ID で ORDER_ID カラムを介して既存の WLCS_ORDER が参照されることを保証する。</p>
ORDER_ADJUSTMENT	<p>カラム —DISCOUNT_ID 制約名 —FK1_ORDER_ADJ 制約タイプ —FOREIGN KEY 各 DISCOUNT_ID で DISCOUNT_ID カラムを介して既存の DISCOUNT が参照されることを保証する。</p>
ORDER_LINE_ADJUSTMENT	<p>カラム —DISCOUNT_ID 制約名 —FK1_ORDER_L_ADJ 制約タイプ —FOREIGN KEY 各 DISCOUNT_ID で DISCOUNT_ID カラムを介して既存の DISCOUNT が参照されることを保証する。</p>

表 A-28 注文に関するデータベース テーブルで定義されている制約 (続き)

テーブル名	制約
WLCS_SHIPPING_ADDRESS	<p>カラム —CUSTOMER_ID 制約名 — FK1_SHIP_ADDR 制約タイプ —FOREIGN KEY 各 CUSTOMER_ID で CUSTOMER_ID カラムを介して既存の WLCS_CUSTOMER が参照されることを保証する。</p>
WLCS_TRANSACTION_ENTRY	<p>カラム —TRANSACTION_ID 制約名 —FK1_TRANS_ENTRY 制約タイプ —FOREIGN KEY 各 TRANSACTION_ID で TRANSACTION_ID カラムを介して既存の WLCS_TRANSACTION が参照されることを保証する。</p>
DISCOUNT	<p>カラム —IS_GLOBAL 制約名 — CC1_DISCOUNT 制約タイプ —CHECK IS_GLOBAL カラムの値が 0 (偽) または 1 (真) であることを保証する。</p> <p>カラム —IS_ACTIVE 制約名 — CC2_DISCOUNT 制約タイプ —CHECK IS_ACTIVE カラムの値が 0 (偽) または 1 (真) であることを保証する。</p>

パーソナライゼーション用データベース スキーマ

この節では、WebLogic Portal パーソナライゼーション機能用のデータベース スキーマについて説明します。

この節では、以下の内容について説明します。

- [Campaign Manager 用データベース テーブルのエンティティ リレーションシップ ダイアグラム](#)
- [WebLogic Portal パーソナライゼーション用テーブルのリスト](#)

- Campaign Manager データ ディクショナリ
- 定義済みの制約

WebLogic Portal パーソナライゼーション用のエンティティ リレーションシップ ダイアグラム

図 A-5 は、WebLogic Portal パーソナライゼーション データベースの論理エンティティ リレーションシップ ダイアグラムです。

図 A-5 WebLogic Portal パーソナライゼーション用のエンティティ リレーションシップ ダイアグラム

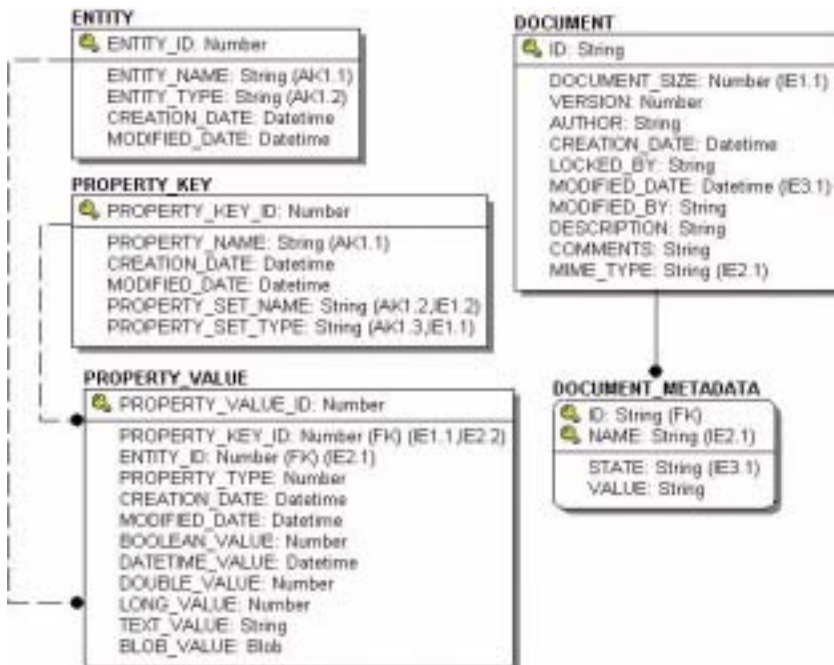
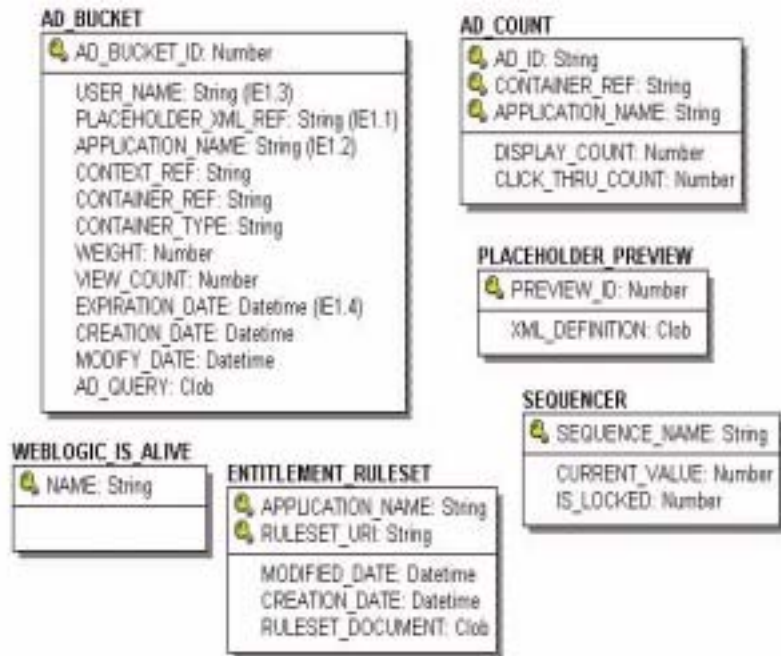


図 A-6 WebLogic Portal パーソナライゼーション用のエンティティ リレーションシップ ダイアグラム (続き)



WebLogic Portal パーソナライゼーション用テーブルのリスト

WebLogic Portal のパーソナライゼーション機能では、以下のテーブルを使用します。このリストでは、テーブルを機能別に並べています。

広告およびブレースホルダ用テーブル

[AD_BUCKET](#) データベース テーブル

[AD_COUNT](#) データベース テーブル

[PLACEHOLDER_PREVIEW](#) データベース テーブル

データ同期用テーブル

[DATA_SYNC_APPLICATION](#) データベース テーブル

DATA_SYNC_ITEM データベース テーブル
DATA_SYNC_SCHEMA_URI データベース テーブル
DATA_SYNC_VERSION データベース テーブル

ドキュメント管理用テーブル

DOCUMENT データベース テーブル
DOCUMENT_METADATA データベース テーブル

メール用テーブル

MAIL_ADDRESS データベース テーブル
MAIL_BATCH データベース テーブル
MAIL_BATCH_ENTRY データベース テーブル
MAIL_HEADER データベース テーブル
MAIL_MESSAGE データベース テーブル

ユーザ管理用テーブル

GROUP_HIERARCHY データベース テーブル
GROUP_SECURITY データベース テーブル
USER_GROUP_CACHE データベース テーブル
USER_GROUP_HIERARCHY データベース テーブル
USER_PROFILE データベース テーブル
USER_SECURITY データベース テーブル

WebLogic Portal で共通に使われるテーブル

ENTITLEMENT_RULESET データベース テーブル
ENTITY データベース テーブル
PROPERTY_KEY データベース テーブル
PROPERTY_VALUE データベース テーブル
SAMPLE_UUP_INFO データベース テーブル
SEQUENCER データベース テーブル
WEBLOGIC_IS_ALIVE データベース テーブル

Personalization Server 用データ ディクショナリ

この節では、WebLogic Portal パーソナライゼーション用スキーマ テーブルをデータ ディクショナリとしてアルファベット順に並べています。

注意: 以下のマニュアルでは、さまざまなテーブルへ「外部キー」を参照していますが、これらの制約は、このリリースの WebLogic Portal ではまだ存在していません。しかし、これらの外部キーは、将来のバージョンの WebLogic Portal では用意される予定（将来のリリースでは利用可能）で、現時点ではこれらのリレーションシップに留意してください。

AD_BUCKET データベース テーブル

表 A-29 は、AD_BUCKET テーブルについて説明しています。このテーブルは、広告を対象とするコンテンツクエリを維持します。

主キーは AD_BUCKET_ID です。

表 A-29 AD_BUCKET テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
AD_BUCKET_ID	NUMBER (15)	NOT NULL	PK (主キー) — システム側で生成されるユニークな数値で、レコード識別子として使われる。
USER_NAME	VARCHAR (200)	NOT NULL	この広告に関連付けられたユーザの名前。
PLACEHOLDER_XML_REF	VARCHAR (254)	NOT NULL	XML ベースのプレースホルダ定義ファイルのロケーション ID。
APPLICATION_NAME	VARCHAR (100)	NOT NULL	この広告がスコープとしているアプリケーションの名前。
CONTEXT_REF	VARCHAR (254)	NULL	シナリオ固有の ID。
CONTAINER_REF	VARCHAR (254)	NULL	キャンペーン固有の ID。
CONTAINER_TYPE	VARCHAR (50)	NULL	CONTAINER_REF に関連付けられているサービスを識別する。
WEIGHT	NUMBER (15)	NULL	プレースホルダ相互を順位付けするのに使う、重み付けスキーマ。
VIEW_COUNT	NUMBER (15)	NULL	無効。将来の使用に備えて確保されている。

表 A-29 AD_BUCKET テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	NULL 値	解説および推奨事項
EXPIRATION_DATE	DATE	NULL	この広告が期限切れで削除 (expire) または無効になる日時。
CREATION_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの作成日時。
MODIFIED_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの最終更新日時。
AD_QUERY	CLOB	NULL	実コンテンツクエリ。

AD_COUNT データベース テーブル

表 A-30 は、AD_COUNT テーブルについて説明しています。このテーブルは、広告が表示された回数およびクリック スルーされた回数を追跡します。

主キーは AD_ID、CONTAINER_REF および APPLICATION_NAME です。

表 A-30 AD_COUNT テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
AD_ID	VARCHAR(254)	NOT NULL	システム側で生成されるユニークな数値で、レコード識別子として使われる。
CONTAINER_REF	VARCHAR(254)	NOT NULL	キャンペーン固有の ID。
APPLICATION_NAME	VARCHAR(100)	NOT NULL	広告のクリックや表示のスコープとなったアプリケーションの名前。
DISPLAY_COUNT	NUMBER(15)	NOT NULL	広告が表示された回数。
CLICK_THROUGH_COUNT	NUMBER(15)	NOT NULL	広告がクリックされた回数。

DATA_SYNC_APPLICATION データベース テーブル

表 A-31 は、DATA_SYNC_APPLICATION テーブルについて説明しています。このテーブルは、データ同期処理の可能な様々なアプリケーションを保持します。

主キーは APPLICATION_ID です。

表 A-31 DATA_SYNC_APPLICATION テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
APPLICATION_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	PK (主キー) — システム側で生成されるユニークな数値で、レコード識別子として使われる。
APPLICATION_NAME	VARCHAR(100)	NOT NULL	デプロイされる J2EE アプリケーション名。(WebLogic Server コンソールでの名前と一致することが望ましい。)
CREATION_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの作成日時。
MODIFIED_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの最終更新日時。

DATA_SYNC_ITEM データベース テーブル

表 A-32 は、DATA_SYNC_ITEM テーブルについて説明しています。このテーブルは、同期を取るべきすべてのデータ項目を格納しています。

主キーは DATA_SYNC_ITEM_ID です。

表 A-32 DATA_SYNC_ITEM テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
DATA_SYNC_ITEM_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	PK (主キー) — システム側で生成されるユニークな数値で、レコード識別子として使われる。
APPLICATION_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	DATA_SYNC_APPLICATION.APPLICATION_ID への外部キー。
SCHEMA_URI_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	DATA_SYNC_SCHEMA_URI.SCHEMA_URI_ID への外部キー。
VERSION_MAJOR	NUMBER(15)	NOT NULL	DATA_SYNC_VERSION.VERSION_MAJOR への外部キー。
VERSION_MINOR	NUMBER(15)	NOT NULL	DATA_SYNC_VERSION.VERSION_MINOR への外部キー。

表 A-32 DATA_SYNC_ITEM テーブルのメタデータ (続き)

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
ITEM_CHECKSUM	NUMBER(15)	NOT NULL	XML_DEFINITION カラムのコンテンツを表す、生成された番号。
CREATION_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの作成日時。
MODIFIED_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの最終更新日時。
XML_MODIFIED_DATE	DATE	NOT NULL	XML ファイルが最後に修正された日時。
XML_CREATION_DATE	DATE	NOT NULL	XML ファイルが新規作成された日時。
XML_DEFINITION	CLOB	NOT NULL	同期すべきデータ項目の XML 表現。
ITEM_URI	VARCHAR(254)	NOT NULL	同期すべきデータ項目のシステム上のパス。
ITEM_AUTHOR	VARCHAR(200)	NULL	メタデータ情報 — o/s ログイン。
ITEM_NAME	VARCHAR(100)	NULL	メタデータ情報 — 項目の完全パス。
ITEM_DESCRIPTION	VARCHAR(254)	NULL	メタデータ情報 — 同期すべき項目の一般的な説明。

DATA_SYNC_SCHEMA_URI データベース テーブル

表 A-33 は、DATA_SYNC_SCHEMA_URI テーブルについて説明しています。このテーブルは、さまざまなドキュメントに使われる管轄スキーマのそれぞれに関する情報を保持します。

主キーは SCHEMA_URI_ID です。

表 A-33 DATA_SYNC_SCHEMA_URI テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
SCHEMA_URI_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	PK (主キー) — システム側で生成されるユニークな数値で、レコード識別子として使われる。
SCHEMA_URI	VARCHAR(254)	NOT NULL	ドキュメントの管轄スキーマ。
CREATION_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの作成日時。

表 A-33 DATA_SYNC_SCHEMA_URI テーブルのメタデータ (続き)

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
MODIFIED_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの最終更新日時。

DATA_SYNC_VERSION データベース テーブル

表 A-34 は、DATA_SYNC_VERSION テーブルについて説明しています。このテーブルは、現在使われていません。将来の利用のために、データ同期のバージョン管理をサポートすることを想定して確保されています。結果的に、このテーブルは 1 レコードのみを保持します。

主キーは VERSION_MAJOR と VERSION_MINOR の両方から構成されます。

表 A-34 DATA_SYNC_VERSION テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
VERSION_MAJOR	NUMBER (15)	NOT NULL	カレントレコードの値はゼロ。
VERSION_MINOR	NUMBER (15)	NOT NULL	カレントレコードの値はゼロ。
CREATION_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの作成日時。
MODIFIED_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの最終更新日時。
BUILD_NUMBER	NUMBER (15)	NULL	バージョンと関連付けられたビルド番号。
VERSION_DESCRIPTION	VARCHAR (30)	NULL	特定の同期バージョンについての説明。

DOCUMENT データベース テーブル

表 A-35 は、DOCUMENT テーブルについて説明しています。このテーブルは、WebLogic Portal 内部で使われる各ドキュメントに関連した情報を格納するために使われます。

主キーは ID です。

表 A-35 DOCUMENT テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
ID	VARCHAR(254)	NOT NULL	このドキュメントの識別子。実際のファイルへの相対パスを特定する (フォワード スラッシュを使い、大文字 / 小文字の区別をする)。
DOCUMENT_SIZE	NUMBER(15)	NOT NULL	このドキュメントのサイズ。バイト単位。
VERSION	NUMBER(15)	NULL	このドキュメントのバージョン。
AUTHOR	VARCHAR(50)	NULL	このドキュメントの著者名。
CREATION_DATE	DATE	NULL	このドキュメントがシステム内で新規作成された日付。
LOCKED_BY	VARCHAR(50)	NULL	このドキュメントを編集または更新目的でロックした人を識別するためのカラム。
MODIFIED_DATE	DATE	NULL	レコードの最終更新日時。
MODIFIED_BY	VARCHAR(50)	NULL	このドキュメントを最後に修正した個人の名前。
DESCRIPTION	VARCHAR(2000)	NULL	このドキュメントの説明。
COMMENTS	VARCHAR(2000)	NULL	このドキュメントについての種々のメモ。
MIME_TYPE	VARCHAR(100)	NOT NULL	このドキュメントに関連付けられた MIME タイプ (またはファイル タイプ)。MIME 1.0 を指定することになっている。

DOCUMENT_METADATA データベース テーブル

表 A-36 は、DOCUMENT_METADATA テーブルについて説明しています。このテーブルは、各ドキュメントに関連付けられたユーザ定義プロパティを格納するために使われます。

主キーは、ID と NAME の両方です。

表 A-36 DOCUMENT_METADATA テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
ID	VARCHAR (254)	NOT NULL	ドキュメントの識別子。DOCUMENT テーブルの ID カラムへの外部キー。
NAME	VARCHAR (240)	NOT NULL	ドキュメントのメタデータ名。
STATE	VARCHAR (50)	NULL	このメタデータ プロパティの現在の状態。Interwoven によって使われる。NULL 設定可能。
VALUE	VARCHAR (2000)	NULL	メタデータ名 (NAME) に関連付けられた値。

ENTITLEMENT_RULESET データベース テーブル

表 A-37 は、ENTITLEMENT_RULESET テーブルについて説明しています。このテーブルは、Entitlements Engine に使用されるアクセス デシジョン ルールを格納します。

主キーは APPLICATION_NAME と RULESET_URI の両方から構成されます。

表 A-37 ENTITLEMENT_RULESET テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
APPLICATION_NAME	VARCHAR (100)	NOT NULL	PK (主キー) — J2EE サーバ内部でのユニークなアプリケーション名。
RULESET_URI	VARCHAR (254)	NOT NULL	資格付与アクセス デシジョン ルールを識別するために使われる URI。
CREATION_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの作成日時。
MODIFIED_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの最終更新日時。
RULESET_DOCUMENT	CLOB	NULL	アクセス デシジョン ルールを記述している XML ドキュメント。

ENTITY データベース テーブル

表 A-38 は、ENTITY テーブルについて説明しています。システム内の任意の ConfigurableEntity はこのテーブル内にエントリを 1 つ保持します。

主キーは ENTITY_ID です。

表 A-38 ENTITY テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
ENTITY_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	PK (主キー) — システム側で生成されるユニークな数値で、レコード識別子として使われる。
ENTITY_NAME	VARCHAR(200)	NOT NULL	ConfigurableEntity の名前。
ENTITY_TYPE	VARCHAR(100)	NOT NULL	ConfigurableEntity のタイプ。
CREATION_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの作成日時。
MODIFIED_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの最終更新日時。

GROUP_HIERARCHY データベース テーブル

表 A-39 は、PARENT_CHILD_GROUP テーブルについて説明しています。このテーブルには、グループ間の関係情報が格納されます。

主キーは PARENT_GROUP_ID と CHILD_GROUP_ID の両方から構成されます。

表 A-39 GROUP_HIERARCHY テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
PARENT_GROUP_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	親グループ (parent group) 識別子。ENTITY テーブルの ENTITY_ID カラムへの外部キー。
CHILD_GROUP_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	子グループ (child group) 識別子。ENTITY テーブルの ENTITY_ID カラムへの外部キー。
CREATION_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの作成日時。

表 A-39 GROUP_HIERARCHY テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
MODIFIED_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの最終更新日時。

GROUP_SECURITY データベース テーブル

表 A-40 は、GROUP_SECURITY テーブルについて説明しています。このテーブルは、RDBMS レルムのセキュリティ認証用に利用するすべてのグループを保持します。

表 A-40 GROUP_SECURITY テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
GROUP_ID	NUMBER (15)	NOT NULL	PK (主キー) — システム側で生成されるユニークな数値で、レコード識別子として使われる。
GROUP_NAME	VARCHAR (200)	NOT NULL	グループの名前。
CREATION_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの作成日時。
MODIFIED_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの最終更新日時。

MAIL_ADDRESS データベース テーブル

表 A-41 は、E-Business Control Center MAIL_ADDRESS テーブル用のメタデータについて説明しています。このテーブルは、電子メール用のアドレス情報のすべてを格納します。

主キーは MAIL_ADDRESS_ID です。

表 A-41 MAIL_ADDRESS テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
MAIL_ADDRESS_ID	NUMBER (15)	NOT NULL	PK (主キー) — システム側で生成されるユニークな数値で、レコード識別子として使われる。

表 A-41 MAIL_ADDRESS テーブルのメタデータ (続き)

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
MESSAGE_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	FK (外部キー) — MAIL_MESSAGE テーブルへの外部キー。
ADDRESS	VARCHAR(254)	NOT NULL	配信リスト上の多様な電子メール アドレスを格納する。
SEND_TYPE	VARCHAR(4)	NOT NULL	このアドレスが含まれるべき配信の種類を決定する。とりうる値は、TO、CC、または BCC。

MAIL_BATCH データベース テーブル

表 A-42 は、E-Business Control Center MAIL_BATCH テーブル用のメタデータについて説明しています。このテーブルは、各メーリングのバッチを確立します。

主キーは BATCH_ID です。

表 A-42 MAIL_BATCH テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
BATCH_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	PK (主キー) — システム側で生成されるユニークな数値で、レコード識別子として使われる。
BATCH_NAME	VARCHAR(254)	NOT NULL	メール メッセージ バッチの名前。

MAIL_BATCH_ENTRY データベース テーブル

表 A-43 は、E-Business Control Center MAIL_BATCH_ENTRY テーブル用のメタデータについて説明しています。このテーブルは、特定のメール メッセージとメール バッチを相互に関連付けるために使われます。

主キーは BATCH_ID と MESSAGE_ID です。

表 A-43 MAIL_BATCH_ENTRY テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
BATCH_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	主キーかつ外部キー。システム側で生成されるユニークな数値で、レコード識別子として使われる。
MESSAGE_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	主キーかつ外部キー。MAIL_MESSAGE テーブルへの外部キー。

MAIL_HEADER データベース テーブル

表 A-44 は、E-Business Control Center MAIL_HEADER テーブル用のメタデータについて説明しています。このテーブルには、電子メール メッセージ固有のヘッダー情報のすべてが含まれています。

主キーは HEADER_ID です。

表 A-44 MAIL_HEADER テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
HEADER_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	PK (主キー) — システム側で生成されるユニークな数値で、レコード識別子として使われる。
MESSAGE_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	FK (外部キー) — MAIL_MESSAGE テーブルへの外部キー。
HEADER_NAME	VARCHAR(50)	NULL	メール メッセージ ヘッダーの名前。
HEADER_VALUE	VARCHAR(254)	NULL	メール メッセージ ヘッダーの値。

MAIL_MESSAGE データベース テーブル

表 A-45 は、E-Business Control Center MAIL_MESSAGE テーブル用のメタデータについて説明しています。このテーブルには、メールメッセージ固有の内容（たとえば、件名行、テキストなど）を格納します。

主キーは MESSAGE_ID です。

表 A-45 MAIL_MESSAGE テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
MESSAGE_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	PK (主キー) — システム側で生成されるユニークな数値で、レコード識別子として使われる。
FROM_ADDRESS	VARCHAR(254)	NULL	メールメッセージの送信者を識別するアドレス。
SUBJECT	VARCHAR(128)	NULL	メールメッセージの件名 (subject)。
MESSAGE_TEXT	CLOB	NULL	メールメッセージの中身。

PLACEHOLDER_PREVIEW データベース テーブル

表 A-46 は、PLACEHOLDER_PREVIEW テーブルを説明しています。このテーブルは、プレビュー目的のみでプレースホルダを保持するために使われます。

主キーは PPREVIEW_ID です。

表 A-46 PLACEHOLDER_PREVIEW テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
PREVIEW_ID	NUMBER	NOT NULL	PK (主キー) — システム側で生成されるユニークな数値で、レコード識別子として使われる。
XML_DEFINITION	CLOB	NULL	プレビューされる式の表現。

PROPERTY_KEY データベース テーブル

表 A-47 は、PROPERTY_KEY テーブルについて説明しています。

ConfigurableEntity に関連付けられている任意のプロパティはユニークな PROPERTY_ID を持ちます。この識別子および関連情報がここに格納されます。

主キーは、PROPERTY_KEY_ID です。

表 A-47 PROPERTY_KEY テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
PROPERTY_KEY_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	PK (主キー) — システム側で生成されるユニークな数値で、レコード識別子として使われる。
PROPERTY_NAME	VARCHAR(100)	NOT NULL	このプロパティの名前。
CREATION_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの作成日時。
MODIFIED_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの最終更新日時。
PROPERTY_SET_NAME	VARCHAR(100)	NULL	プロパティ セットの名前。
PROPERTY_SET_TYPE	VARCHAR(100)	NULL	プロパティ セットのタイプ。

PROPERTY_VALUE データベース テーブル

表 A-48 は、PROPERTY_VALUE テーブルについて説明しています。このテーブルは、boolean、datetime、float、integer、text、およびユーザ定義のプロパティのプロパティ値を格納します。

主キーは PROPERTY_VALUE_ID です。

表 A-48 PROPERTY_VALUE テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
PROPERTY_VALUE_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	PK (主キー) — システム側で生成されるユニークな数値で、レコード識別子として使われる。
PROPERTY_KEY_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	PROPERTY_KEY.PROPERTY_KEY_ID への外部キー。
ENTITY_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	ENTITY.ENTITY_ID への外部キー。

表 A-48 PROPERTY_VALUE テーブルのメタデータ (続き)

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
PROPERTY_TYPE	NUMBER(1)	NOT NULL	有効値: 0=Boolean、1=Integer、2=Float、 3=Text、4=日時 (Date and Time)、5= ユーザ定義 (BLOB)
CREATION_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの作成日時。
MODIFIED_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの最終更新日時。
BOOLEAN_VALUE	NUMBER(1)	NULL	各 boolean 型プロパティ識別子の値。
DATETIME_VALUE	DATE	NULL	各日時 (date and time) 型プロパティ識別子の値。
DOUBLE_VALUE	NUMBER	NULL	各 float 型プロパティ識別子に関連付けられた値。
LONG_VALUE	NUMBER(20)	NULL	integer 型プロパティに関連付けられた値。
TEXT_VALUE	VARCHAR(254)	NULL	text 型プロパティに関連付けられた値。
BLOB_VALUE	BLOB	NULL	ユーザ定義プロパティに関連付けられた値。

SAMPLE_UUP_INFO データベース テーブル

表 A-49 は、SAMPLE_UUP_INFO テーブルについて説明しています。これは、統合プロファイル タイプの使い方を示すサンプルです。

主キーは USER_NAME です。

表 A-49 SAMPLE_UUP_INFO テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
USER_NAME	VARCHAR(100)	NOT NULL	ユーザ名。
USER_INFO	CLOB	NOT NULL	XML 表現で格納されたユーザ データ。

SEQUENCER データベース テーブル

表 A-50 は、SEQUENCER テーブルについて説明しています。SEQUENCER テーブルは、アプリケーションで使われるシーケンス識別子（たとえば、property_meta_data_id_sequence など）のすべてを維持するために使われます。

主キーは SEQUENCE_NAME です。

表 A-50 SEQUENCER テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
SEQUENCE_NAME	VARCHAR(50)	NOT NULL	PK (主キー) — シーケンスを識別するために使われるユニークな名前。
CURRENT_VALUE	NUMBER(15)	NOT NULL	シーケンスの現在の値。
IS_LOCKED	NUMBER(1)	NOT NULL	このフラグは、個別の SEQUENCE_ID が更新に備えてロックされているかどうかを示す。このカラムは、複数データベース環境で使用可能な汎用ロック メカニズムとして使用できる。

USER_GROUP_CACHE データベース テーブル

表 A-51 は、USER_GROUP_CACHE テーブルについて説明しています。グループ階層が深い場合、このテーブルがグループ階層を単純化し、グループのメンバーの検索を高速化します。

注意： 起動処理 GroupCache は、デフォルトでは無効になっています。このテーブルは、有効のときにだけ使われます。

主キーは、USER_NAME と GROUP_NAME から構成されます。

表 A-51 USER_GROUP_CACHE テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
USER_NAME	VARCHAR(200)	NOT NULL	ユーザの名前。
GROUP_NAME	VARCHAR(200)	NOT NULL	グループの名前。

USER_GROUP_HIERARCHY データベース テーブル

表 A-52 は、USER_GROUP_HIERARCHY テーブルについて説明しています。このテーブルには、関連のあるユーザやグループを格納することができます。主キーは GROUP_ID と USER_ID の両方から構成されます。

表 A-52 USER_GROUP_HIERARCHY テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
GROUP_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	USER_SECURITY.USER_ID への外部キー。
USER_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	GROUP_SECURITY.GROUP_ID への外部キー。
CREATION_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの作成日時。
MODIFIED_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの最終更新日時。

USER_PROFILE データベース テーブル

表 A-53 は、USER_PROFILE テーブルについて説明しています。このテーブルは、ユーザをプロフィール (WLCS_CUSTOMER ユーザ プロファイルなど) と関連付けます。ユーザ プロファイルは、プロパティを組織するために、プロパティを含むプロパティ セットを使用します。

主キーは USER_NAME です。

表 A-53 USER_PROFILE テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
USER_NAME	VARCHAR(200)	NOT NULL	PK (主キー) — ユーザの名前。
PROFILE_TYPE	VARCHAR(100)	NOT NULL	ユーザに関連付けられたプロフィールのタイプ (WLCS_Customer など)。
CREATION_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの作成日時。

USER_SECURITY データベース テーブル

表 A-54 は、USER_SECURITY テーブルについて説明しています。このテーブルは、RDBMS レルムのセキュリティ認証のためのユーザ レコードのすべてを保持します。

主キーは USER_ID です。

表 A-54 USER_SECURITY テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
USER_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	PK (主キー) — システム側で生成されるユニークな数値で、レコード識別子として使われる。
USER_NAME	VARCHAR(200)	NOT NULL	ユーザの名前。
PASSWORD	VARCHAR(50)	NULL	ユーザのパスワード。
CREATION_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの作成日時。
MODIFIED_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの最終更新日時。

WEBLOGIC_IS_ALIVE データベース テーブル

表 A-55 は、WEBLOGIC_IS_ALIVE テーブルについて説明しています。このテーブルは、JDBC 接続プールによって、そのデータベースがまだ生きていることをその接続に保証するために使われます。

主キーは NAME です。

表 A-55 WEBLOGIC_IS_ALIVE テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
NAME	VARCHAR(100)	NOT NULL	JDBC 接続プールによって、そのデータベースがまだ生きていることをその接続に保証するために使われる。

定義済みの制約

WebLogic Portal Personalization サービス用データベース スキーマには、さまざまな制約が定義され使用されています。これらの制約は、以下のスクリプトに記述されています。

p13n_create_fkeys.sql— 外部キーを記述

p13n_create_tables.sql— チェック制約を記述

表 A-56 WebLogic Portal Personalization サービス用データベース テーブルに定義されている制約

テーブル名	制約
DATA_SYNC_ITEM	<p>カラム —APPLICATION_ID 制約名 —FK1_SYNC_ITEM 制約タイプ —FOREIGN KEY 各 DATA_SYNC_ITEM で APPLICATION_ID カラムを介して既存の DATA_SYNC_APPLICATION が参照されることを保証する。</p> <p>カラム —SCHEMA_URI_ID 制約名 —FK2_SYNC_ITEM 制約タイプ —FOREIGN KEY 各 DATA_SYNC_ITEM で DATA_SYNC_SCHEMA_URI カラムを介して既存の SCHEMA_URI_ID が参照されることを保証する。</p> <p>カラム —VERSION_MAJOR および VERSION_MINOR 制約名 —FK3_SYNC_ITEM 制約タイプ —FOREIGN KEY 各 DATA_SYNC_ITEM で VERSION_MAJOR、VERSION_MINOR カラムを介して既存の DATA_SYNC_VERSION が参照されることを保証する。</p>
DOCUMENT_METADATA	<p>カラム —ID 制約名 —FK1_DOCUMENT_MD 制約タイプ —FOREIGN KEY 各 DOCUMENT_METADATA で ID カラムを介して既存の DOCUMENT が参照されることを保証する。</p>

表 A-56 WebLogic Portal Personalization サービス用データベース テーブルに定義されている制約 (続き)

テーブル名	制約
GROUP_HIERARCHY	<p>カラム —PARENT_GROUP_ID 制約名 —FK1_GROUP_HRCHY 制約タイプ —FOREIGN KEY 各 PARENT_GROUP_HIERARCHY で GROUP_ID カラムを介して既存の GROUP_SECURITY が参照されることを保証する。</p> <p>カラム —CHILD_GROUP_ID 制約名 —FK2_GROUP_HRCHY 制約タイプ —FOREIGN KEY 各 CHILD_GROUP_HIERARCHY で GROUP_ID カラムを介して既存の GROUP_SECURITY が参照されることを保証する。</p>
MAIL_ADDRESS	<p>カラム —MESSAGE_ID 制約名 —FK1_MAIL_ADDRESS 制約タイプ —FOREIGN KEY 各 MAIL_ADDRESS で MESSAGE_ID カラムを介して既存の MAIL_MESSAGE が参照されることを保証する。</p>
MAIL_BATCH_ENTRY	<p>カラム —BATCH_ID 制約名 —FK1_MB_ENTRY 制約タイプ —FOREIGN KEY 各 MAIL_BATCH_ENTRY で BATCH_ID カラムを介して既存の MAIL_BATCH が参照されることを保証する。</p> <p>カラム —MESSAGE_ID 制約名 —FK2_MB_ENTRY 制約タイプ —FOREIGN KEY 各 MAIL_BATCH_ENTRY で MESSAGE_ID カラムを介して既存の MAIL_MESSAGE が参照されることを保証する。</p>
MAIL_HEADER	<p>カラム —FK1_MAIL_HEADER 制約名 —FK1_MAIL_HEADER 制約タイプ —FOREIGN KEY 各 MAIL_HEADER で FK1_MAIL_HEADER カラムを介して既存の MAIL_MESSAGE が参照されることを保証する。</p>

表 A-56 WebLogic Portal Personalization サービス用データベース テーブルに定義されている制約 (続き)

テーブル名	制約
USER_GROUP_HIERARCHY	<p>カラム —USER_ID 制約名 —FK1_USER_G_HRCHY 制約タイプ —FOREIGN KEY 各 USER_GROUP_HIERARCHY で USER_ID カラムを介して既存の USER_SECURITY が参照されることを保証する。</p> <p>カラム —GROUP_ID 制約名 —FK2_USER_G_HRCHY 制約タイプ —FOREIGN KEY 各 USER_GROUP_HIERARCHY で GROUP_ID カラムを介して既存の GROUP_SECURITY が参照されることを保証する。</p>
PROPERTY_VALUE	<p>カラム —ENTITY_ID 制約名 —FK1_PROP_VALUE 制約タイプ —FOREIGN KEY 各 PROPERTY_VALUE で ENTITY_ID カラムを介して既存の ENTITY が参照されることを保証する。</p> <p>カラム —PROPERTY_KEY_ID 制約名 —FK2_PROP_VALUE 制約タイプ —FOREIGN KEY 各 PROPERTY_VALUE で PROPERTY_KEY_ID カラムを介して既存の PROPERTY_KEY が参照されることを保証する。</p> <p>カラム —BOOLEAN_VALUE 制約名 —CC1_PROP_VALUE 制約タイプ —CHECK BOOLEAN_VALUE カラムが 0 (偽) か 1 (真) のいずれかであることを保証する。</p>
SEQUENCER	<p>カラム —IS_LOCKED 制約名 —CC1_SEQUENCER 制約タイプ —CHECK IS_LOCKED カラムの値が 0 (偽) か 1 (真) のいずれかであることを保証する。</p>

ポータル用データベース スキーマ

この節では、WebLogic Portal パッケージのデータベース スキーマについて説明します。

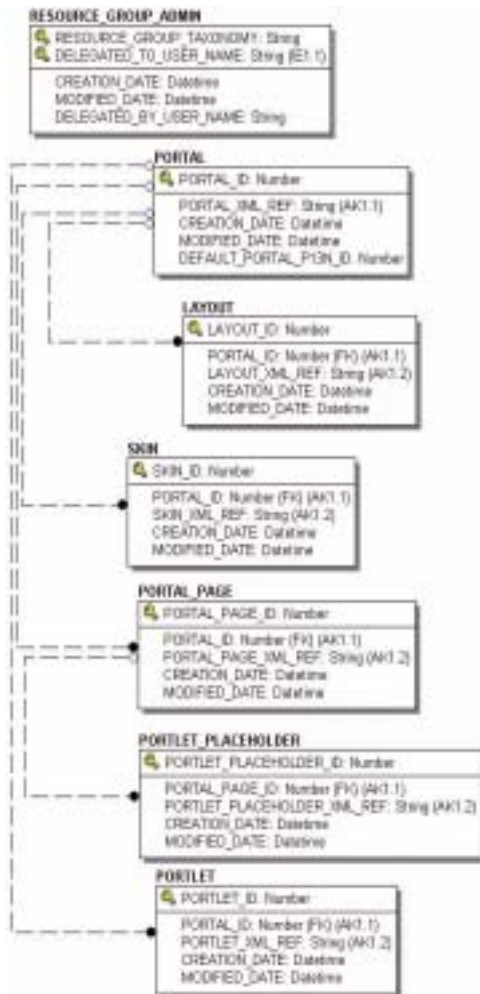
この節では、以下の内容について説明します。

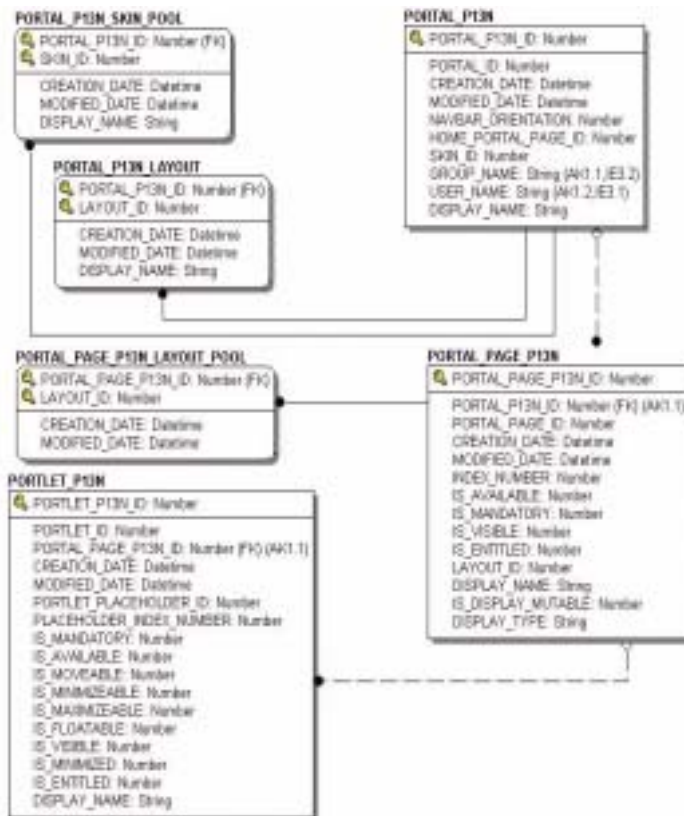
- コア プロダクト カタログ用テーブルのエンティティ リレーションシップ ダイアグラム
- ポータル管理パッケージを構成するテーブルのリスト
- ポータル管理用データ ディクショナリ
- 定義済みの制約

ポータルおよびポートレット用テーブルのエンティティ リレーションシップ ダイアグラム

図 A-7 に、Commerce データベース内の WebLogic Commerce Server ポータルおよびポートレット用テーブルの論理エンティティ リレーションシップ ダイアグラムを示します。データ型の構文については、このあとの各節を参照してください。

図 A-7 ポータルおよびポータルレット用テーブルのエンティティ リレーションシップ ダイアグラム





ポータル管理パッケージを構成するテーブルのリスト

ポータル管理用テーブル：

- LAYOUT データベース テーブル
- PORTAL データベース テーブル
- PORTAL_P13N データベース テーブル
- PORTAL_P13N_LAYOUT データベース テーブル
- PORTAL_P13N_SKIN_POOL データベース テーブル
- PORTAL_PAGE データベース テーブル
- PORTAL_PAGE_P13N データベース テーブル

[PORTAL_PAGE_P13N_LAYOUT_POOL データベース テーブル](#)
[PORTLET データベース テーブル](#)
[PORTLET_P13N データベース テーブル](#)
[PORTLET_PLACEHOLDER データベース テーブル](#)
[RESOURCE_GROUP_ADMIN データベース テーブル](#)
[SKIN データベース テーブル](#)

ポータル管理用データ ディクショナリ

この節では、データ ディクショナリとして、ポータル、ポートレット、およびサンプルポータル用のスキーマテーブルをアルファベット順に説明します。

LAYOUT データベース テーブル

表 A-57 は LAYOUT テーブルについての説明です。このテーブルには、定義済みのレイアウトがすべて格納されます。

主キーは LAYOUT_ID です。

表 A-57 LAYOUT テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
LAYOUT_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	PK (主キー) — システム側で生成されるユニークな数値で、レコード識別子として使われる。
PORTAL_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	当該レイアウトに関連付けられているポータルのレコード識別子。PORTAL テーブルへの外部キー。
LAYOUT_XML_REF	VARCHAR(254)	NOT NULL	ポータル定義 XML ファイル内に指定されている、このレイアウトの識別子。
CREATION_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの作成日時。
MODIFIED_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの最終更新日時。

PORTAL データベース テーブル

表 A-58 は PORTAL テーブルについての説明です。このテーブルには、定義済みのポータルがすべて格納されます。

主キーは PORTAL_ID です。

表 A-58 PORTAL テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
PORTAL_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	PK (主キー) — システム側で生成されるユニークな数値で、レコード識別子として使われる。
PORTAL_XML_REF	VARCHAR(254)	NOT NULL	ポータル定義 XML ファイル内に指定されている、このポータルの識別子。
CREATION_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの作成日時
MODIFIED_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの最終更新日時
DEFAULT_PORTAL_P13N_ID	NUMBER(15)	NULL	当該ポータルに関連付けられているパーソナライズされたポータルのレコード識別子

PORTAL_P13N データベース テーブル

表 A-59 は PORTAL_P13N テーブルについての説明です。このテーブルには、パーソナライズされたポータルのレコードがすべて格納されます。

主キーは PORTAL_P13N_ID です。

表 A-59 PORTAL_P13N テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
PORTAL_P13N_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	PK (主キー) — システム側で生成されるユニークな数値で、レコード識別子として使われる。

表 A-59 PORTAL_P13N テーブルのメタデータ (続き)

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
PORTAL_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	このパーソナライズされたポータルに関連付けられているポータルのレコード識別子。PORTAL テーブルへの外部キー。
CREATION_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの作成日時。
MODIFIED_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの最終更新日時。
NAVBAR_ORIENTATION	NUMBER(1)	NOT NULL	ナビゲーション バーの向きを示すフラグ。0 は水平 (horizontal) に、1 は垂直 (vertical) に、それぞれ相当する。
HOME_PORTAL_PAGE_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	このパーソナライズされたポータルに関連付けられているホーム ポータル ページのレコード識別子。PORTAL_PAGE テーブルへの外部キー。
SKIN_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	このパーソナライズされたポータルに関連付けられているスキンのレコード識別子。SKIN テーブルへの外部キー。
GROUP_NAME	VARCHAR(200)	NOT NULL	このパーソナライズされたポータルに関連付けられているグループ名。
USER_NAME	VARCHAR(200)	NOT NULL	このパーソナライズされたポータルに関連付けられているユーザ名。
DISPLAY_NAME	VARCHAR(254)	NOT NULL	このパーソナライズされたポータルの表示名。

PORTAL_P13N_LAYOUT データベース テーブル

表 A-60 は PORTAL_P13N_LAYOUT テーブルについての説明です。このテーブルには、パーソナライズされた各ポータルで使用可能なレイアウトがすべて格納されます。

主キーは、LAYOUT_ID と PORTAL_P13N_ID の両方で構成されます。

表 A-60 PORTAL_P13N_LAYOUT テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
LAYOUT_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	PK (主キー) — PORTAL_P13N_ID と組み合わされてユニークなレコード識別子となる。LAYOUT テーブルへの外部キー。
PORTAL_P13N_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	PK (主キー) — LAYOUT_ID と組み合わされてユニークなレコード識別子となる。PORTAL_P13N テーブルへの外部キー。
CREATION_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの作成日時。
MODIFIED_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの最終更新日時。
DISPLAY_NAME	VARCHAR(254)	NULL	パーソナライズされたポータルに関連付けられているレイアウトの表示名。

PORTAL_P13N_SKIN_POOL データベース テーブル

表 A-61 は PORTAL_P13N_SKIN_POOL テーブルについての説明です。このテーブルには、パーソナライズされたポータルで使用可能なスキンがすべて格納されます。

主キーは、PORTAL_P13N_ID と SKIN_ID の両方で構成されます。

表 A-61 PORTAL_P13N_SKIN_POOL テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
PORTAL_P13N_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	PK (主キー) — SKIN_ID と組み合わされてユニークなレコード識別子となる。PORTAL_P13N テーブルへの外部キー。
SKIN_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	PK (主キー) — PORTAL_P13N_ID と組み合わされてユニークなレコード識別子となる。SKIN テーブルへの外部キー。

表 A-61 PORTAL_P13N_SKIN_POOL テーブルのメタデータ (続き)

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
CREATION_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの作成日時。
MODIFIED_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの最終更新日時。
DISPLAY_NAME	VARCHAR(254)	NULL	パーソナライズされたポータルに関連付けられているスキンの表示名。

PORTAL_PAGE データベース テーブル

表 A-62 は PORTAL_PAGE テーブルについての説明です。このテーブルには、各ポータルに定義されているページがすべて格納されます。

主キーは PORTAL_PAGE_ID です。

表 A-62 PORTAL_PAGE テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
PORTAL_PAGE_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	PK (主キー) — システム側で生成されるユニークな数値で、レコード識別子として使われる。
PORTAL_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	当該ポータル ページに関連付けられているポータルのレコード識別子。 PORTAL テーブルへの外部キー。
PORTAL_PAGE_XML_REF	VARCHAR(254)	NOT NULL	ポータル定義 XML ファイル内に指定されている、このポータル ページの識別子。
CREATION_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの作成日時。
MODIFIED_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの最終更新日時。

PORTAL_PAGE_P13N データベース テーブル

表 A-63 は PORTAL_PAGE_P13N テーブルについての説明です。このテーブルには、パーソナライズされた各ポータル ページの情報が格納されます。

主キーは PORTAL_PAGE_P13N_ID です。

表 A-63 PORTAL_PAGE_P13N テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
PORTAL_PAGE_P13N_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	PK (主キー) — システム側で生成されるユニークな数値で、レコード識別子として使われる。
PORTAL_P13N_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	このパーソナライズされたポータルページに関連付けられているパーソナライズされたポータルのレコード識別子。PORTAL_P13N テーブルへの外部キー。
PORTAL_PAGE_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	このパーソナライズされたポータルページに関連付けられているポータルページのレコード識別子。 PORTAL_PAGE テーブルへの外部キー。
CREATION_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの作成日時。
MODIFIED_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの最終更新日時。
INDEX_NUMBER	NUMBER(4)	NOT NULL	このパーソナライズされたポータルページに関連付けられているインデックス番号
IS_AVAILABLE	NUMBER(1)	NOT NULL	このポータル ページが使用可能かどうかを示すフラグ。0 は false に、1 は true に、-1 は unspecified に、それぞれ相当する。
IS_ENTITLED	NUMBER(1)	NOT NULL	資格分類ルールセットがこのポータル ページに定義されているかどうかを示すフラグ。0 は false に、1 は true に、-1 は unspecified に、それぞれ相当する。
IS_MANDATORY	NUMBER(1)	NOT NULL	このポータル ページが必須かどうかを示すフラグ。0 は false に、1 は true に、-1 は unspecified に、それぞれ相当する。

表 A-63 PORTAL_PAGE_P13N テーブルのメタデータ (続き)

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
IS_VISIBLE	NUMBER(1)	NOT NULL	このポータル ページが表示されるかどうかを示すフラグ。0 は false に、1 は true に、-1 は unspecified に、それぞれ相当する。
LAYOUT_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	このパーソナライズされたポータル ページに関連付けられているレイアウトのレコード識別子。LAYOUT テーブルへの外部キー。
DISPLAY_NAME	VARCHAR(254)	NOT NULL	このパーソナライズされたポータル ページに関連付けられている表示名。

PORTAL_PAGE_P13N_LAYOUT_POOL データベース テーブル

表 A-64 は PORTAL_PAGE_P13N_LAYOUT_POOL テーブルについての説明です。このテーブルには、パーソナライズされた各ポータル ページで使用可能なレイアウトがすべて格納されます。

主キーは、PORTAL_PAGE_P13N_ID と LAYOUT_ID の両方で構成されます。

表 A-64 PORTAL_PAGE_P13N_LAYOUT_POOL テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
PORTAL_PAGE_P13N_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	PK (主キー) — LAYOUT_ID と組み合わせられてユニークなレコード識別子となる。PORTAL_PAGE_P13N テーブルへの外部キー。
LAYOUT_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	PK (主キー) — PORTAL_PAGE_P13N_ID と組み合わせられてユニークなレコード識別子となる。LAYOUT テーブルへの外部キー。
CREATION_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの作成日時。
MODIFIED_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの最終更新日時。

PORTLET データベース テーブル

表 A-65 は PORTLET テーブルについての説明です。このテーブルには、定義済みのポートレットがすべて格納されます。

主キーは PORTLET_ID です。

表 A-65 PORTLET テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
PORTLET_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	PK (主キー) — システム側で生成されるユニークな数値で、レコード識別子として使われる。
PORTAL_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	このポートレットに関連付けられているポータルレコードの識別子。PORTAL テーブルへの外部キー。
PORTLET_XML_REF	VARCHAR(254)	NOT NULL	ポータル定義 XML ファイル内に指定されている、このポートレットの識別子。
CREATION_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの作成日時。
MODIFIED_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの最終更新日時。

PORTLET_P13N データベース テーブル

表 A-66 は PORTLET_P13N テーブルについての説明です。このテーブルには、パーソナライズされたポートレットのレコードがすべて格納されます。

主キーは PORTLET_P13N_ID です。

表 A-66 PORTLET_P13N テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
PORTLET_P13N_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	PK (主キー) — システム側で生成されるユニークな数値で、レコード識別子として使われる。

表 A-66 PORTLET_P13N テーブルのメタデータ (続き)

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
PORTLET_ID	NUMBER (15)	NOT NULL	このパーソナライズされたポートレットに関連付けられているポートレットのレコード識別子。PORTLET テーブルへの外部キー。
PORTAL_PAGE_P13N_ID	NUMBER (15)	NOT NULL	このパーソナライズされたポートレットに関連付けられているパーソナライズされたポータルページのレコード識別子。 PORTAL_PAGE_P13N テーブルへの外部キー。
CREATION_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの作成日時。
MODIFIED_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの最終更新日時。
PORTLET_PLACEHOLDER_ID	NUMBER (15)	NOT NULL	このパーソナライズされたポートレットで選択されているプレースホルダのレコード識別子。 PORTLET_PLACEHOLDER テーブルへの外部キー。
PLACEHOLDER_INDEX_NUMBER	NUMBER (4)	NOT NULL	指定されたプレースホルダ内でのこのパーソナライズされたポートレットの出現順序を示すインデックス。
IS_MANDATORY	NUMBER (1)	NOT NULL	このパーソナライズされたポートレットが必須かどうかを示すフラグ。0 は false に、1 は true に、-1 は unspecified に、それぞれ相当する。
IS_AVAILABLE	NUMBER (1)	NOT NULL	このパーソナライズされたポートレットが使用可能かどうかを示すフラグ。0 は false に、1 は true に、-1 は unspecified に、それぞれ相当する。
IS_MOVEABLE	NUMBER (1)	NOT NULL	このカラムは現在使用されておらず、将来の使用に備えて確保されている。

表 A-66 PORTLET_P13N テーブルのメタデータ (続き)

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
IS_MINIMIZEABLE	NUMBER(1)	NOT NULL	このパーソナライズされたポートレットが最小化可能かどうかを示すフラグ。0 は false に、1 は true に、-1 は unspecified に、それぞれ相当する。
IS_MAXIMIZEABLE	NUMBER(1)	NOT NULL	このパーソナライズされたポートレットが最大化可能かどうかを示すフラグ。0 は false に、1 は true に、-1 は unspecified に、それぞれ相当する。
IS_FLOATABLE	NUMBER(1)	NOT NULL	このパーソナライズされたポートレットが移動可能かどうかを示すフラグ。0 は false に、1 は true に、-1 は unspecified に、それぞれ相当する。
IS_VISIBLE	NUMBER(1)	NOT NULL	このパーソナライズされたポートレットが表示されるかどうかを示すフラグ。0 は false に、1 は true に、-1 は unspecified に、それぞれ相当する。
IS_MINIMIZED	NUMBER(1)	NOT NULL	このパーソナライズされたポートレットが起動時に最小化されるかどうかを示すフラグ。0 は false に、1 は true に、-1 は unspecified に、それぞれ相当する。
IS_ENTITLED	NUMBER(1)	NOT NULL	資格分類ルールセットがこのポートレットに定義されているかどうかを示すフラグ。0 は false に、1 は true に、-1 は unspecified に、それぞれ相当する。
DISPLAY_NAME	VARCHAR(254)	NOT NULL	このパーソナライズされたポートレットの表示名。

PORTLET_PLACEHOLDER データベース テーブル

表 A-67 は PORTLET_PLACEHOLDER テーブルについての説明です。

主キーは PORTLET_PLACEHOLDER_ID です。

表 A-67 PORTLET_PLACEHOLDER テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
PORTLET_PLACEHOLDER_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	PK (主キー) — 各ポータルレットのすべての定義済みプレースホルダレコードに格納される。
PORTAL_PAGE_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	このポータルレット プレースホルダに関連付けられているポータル ページのレコード識別子。PORTAL_PAGE テーブルへの外部キー。
PORTLET_PLACEHOLDER_XML_REF	VARCHAR(254)	NOT NULL	ポータル定義 XML ファイル内に指定されている、このプレースホルダの識別子。
CREATION_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの作成日時。
MODIFIED_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの最終更新日時。

RESOURCE_GROUP_ADMIN データベース テーブル

表 A-68 は RESOURCE_GROUP_ADMIN テーブルについての説明です。このテーブルは、さまざまなユーザの管理特権を格納するのに使用されます。

主キーは、RESOURCE_GROUP_TAXONOMY と DELEGATED_TO_USER_NAME の両方で構成されます。

表 A-68 RESOURCE_GROUP_ADMIN テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
RESOURCE_GROUP_TAXONOMY	VARCHAR(254)	NOT NULL	PK (主キー) — DELEGATED_TO_USER_NAME と組み合わされ、ユニークなレコード識別子として使われる。
DELEGATED_TO_USER_NAME	VARCHAR(200)	NOT NULL	PK (主キー) — RESOURCE_GROUP_TAXONOMY と組み合わされて、ユニークなレコード識別子となる。
CREATION_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの作成日時。
MODIFIED_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの最終更新日時。
DELEGATED_BY_USER_NAME	VARCHAR(200)	NULL	DELEGATED_TO_USER_NAME に特権を与えたユーザ。

SKIN データベース テーブル

表 A-69 は SKIN テーブルについての説明です。このテーブルには、定義済みのスキンがすべて格納されます。

主キーは SKIN_ID です。

表 A-69 SKIN テーブルのメタデータ

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
SKIN_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	PK (主キー) — システム側で生成されるユニークな数値で、レコード識別子として使われる。
PORTAL_ID	NUMBER(15)	NOT NULL	このスキンに関連付けられているポータルレコードの識別子。 PORTAL テーブルへの外部キー。
SKIN_XML_REF	VARCHAR(254)	NOT NULL	ポータル定義 XML ファイル内に指定されている、このスキンの識別子。

表 A-69 SKIN テーブルのメタデータ (続き)

カラム名	データ型	Null 値	解説および推奨事項
CREATION_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの作成日時。
MODIFIED_DATE	DATE	NOT NULL	レコードの最終更新日時。

定義済みの制約

Portal 用データベース スキーマには、さまざまな制約が定義され使用されています。これらの制約は、以下のスクリプトに記述されています。

`portal_create_fkeys.sql`— 外部キーを記述

`portal_create_tables.sql`— チェック制約を記述

表 A-70 Portal データベース テーブルに関して定義されている制約

テーブル名	制約
LAYOUT	カラム — PORTAL_ID 制約名 — FK1_LAYOUT 制約タイプ — FOREIGN KEY 各 LAYOUT で PORTAL_ID カラムを介して既存の PORTAL が参照されることを保証する。
PORTAL_P13N_SKIN_POOL	カラム — PORTAL_P13N_ID 制約名 — FK1_SKIN_POOL 制約タイプ — FOREIGN KEY 各 PORTAL_P13N_SKIN_POOL で PORTAL_P13N_ID カラムを介して既存の PORTAL_P13N が参照されることを保証する。
PORTAL_PAGE	カラム — PORTAL_ID 制約名 — FK1_PORTAL_PAGE 制約タイプ — FOREIGN KEY 各 PORTAL_PAGE で PORTAL_ID カラムを介して既存の PORTAL が参照されることを保証する。

表 A-70 Portal データベース テーブルに関して定義されている制約 (続き)

テーブル名	制約
PORTAL_PAGE_P13N	<p>カラム — PORTAL_P13N_ID 制約名 — FK3_PL_PAGE_P13N 制約タイプ — FOREIGN KEY 各 PORTAL_PAGE_P13N で PORTAL_P13N_ID カラムを介して既存の PORTAL_P13N が参照されることを保証する。</p>
PORTAL_PAGE_P13N_LAYOUT_POOL	<p>カラム — PORTAL_PAGE_P13N_ID 制約名 — FK2_LAYOUT_POOL 制約タイプ — FOREIGN KEY 各 PORTAL_PAGE_P13N_LAYOUT_POOL で PORTAL_PAGE_P13N_ID カラムを介して既存の PORTAL_PAGE_P13N が参照されることを保証する。</p>
PORTLET	<p>カラム — PORTAL_ID 制約名 — FK1_PORTLET 制約タイプ — FOREIGN KEY 各 PORTLET で PORTAL_ID カラムを介して既存の PORTAL が参照されることを保証する。</p>
PORTLET_P13N	<p>カラム — PORTAL_PAGE_P13N_ID 制約名 — FK3_PORTLET_P13N 制約タイプ — FOREIGN KEY 各 PORTAL_P13N で PORTAL_PAGE_P13N_ID カラムを介して既存の PORTAL_PAGE_P13N が参照されることを保証する。</p>
PORTLET_PLACEHOLDER	<p>カラム — PORTAL_PAGE_ID 制約名 — FK1_PORTLET_PHD 制約タイプ — FOREIGN KEY 各 PORTLET_PLACEHOLDER で PORTAL_PAGE_ID カラムを介して既存の PORTAL_PAGE が参照されることを保証する。</p>
SKIN	<p>カラム — PORTAL_ID 制約名 — FK1_SKIN 制約タイプ — FOREIGN KEY 各 SKIN で PORTAL_ID カラムを介して既存の PORTAL が参照されることを保証する。</p>

表 A-70 Portal データベース テーブルに関して定義されている制約 (続き)

テーブル名	制約
PORTAL_P13N_LAYOUT	<p>カラム — PORTAL_P13N_ID 制約名 — FK1_PL_LAYOUT 制約タイプ — FOREIGN KEY 各 PORTAL_P13N_LAYOUT で PORTAL_P13N_ID カラムを介して既存の PORTAL_P13N が参照されることを保証する。</p>
PORTAL_PAGE_P13N	<p>カラム — IS_AVAILABLE 制約名 — CC1_PL_PAGE_P13N 制約タイプ — CHECK IS_AVAILABLE カラムの値が -1 (未定義)、0 (偽)、1 (真) のいずれかであることを保証する。</p> <p>カラム — IS_MANDATORY 制約名 — CC2_PL_PAGE_P13N 制約タイプ — CHECK IS_MANDATORY カラムの値が -1 (未定義)、0 (偽)、1 (真) のいずれかであることを保証する。</p> <p>カラム — IS_VISIBLE 制約名 — CC3_PL_PAGE_P13N 制約タイプ — CHECK IS_VISIBLE カラムの値が -1 (未定義)、0 (偽)、1 (真) のいずれかであることを保証する。</p> <p>カラム — IS_ENTITLED 制約名 — CC4_PL_PAGE_P13N 制約タイプ — CHECK IS_ENTITLED カラムの値が -1 (未定義)、0 (偽)、1 (真) のいずれかであることを保証する。</p>

表 A-70 Portal データベース テーブルに関して定義されている制約 (続き)

テーブル名	制約
PORTLET_P13N	カラム — IS_MINIMIZED 制約名 — CC1_PORTLET_P13N 制約タイプ — CHECK IS_MINIMIZED カラムの値が -1 (未定義)、0 (偽)、1 (真) のいずれかであることを保証する。
	カラム — IS_MANDATORY 制約名 — CC2_PORTLET_P13N 制約タイプ — CHECK IS_MANDATORY カラムの値が -1 (未定義)、0 (偽)、1 (真) のいずれかであることを保証する。
	カラム — IS_AVAILABLE 制約名 — CC3_PORTLET_P13N 制約タイプ — CHECK IS_AVAILABLE カラムの値が -1 (未定義)、0 (偽)、1 (真) のいずれかであることを保証する。
	カラム — IS_MOVEABLE 制約名 — CC4_PORTLET_P13N 制約タイプ — CHECK IS_MOVEABLE カラムの値が -1 (未定義)、0 (偽)、1 (真) のいずれかであることを保証する。
	カラム — IS_MINIMIZEABLE 制約名 — CC5_PORTLET_P13N 制約タイプ — CHECK IS_MINIMIZEABLE カラムの値が -1 (未定義)、0 (偽)、1 (真) のいずれかであることを保証する。
	カラム — IS_MAXIMIZEABLE 制約名 — CC6_PORTLET_P13N 制約タイプ — CHECK IS_MAXIMIZEABLE カラムの値が -1 (未定義)、0 (偽)、1 (真) のいずれかであることを保証する。
	カラム — IS_FLOATABLE 制約名 — CC7_PORTLET_P13N 制約タイプ — CHECK IS_FLOATABLE カラムの値が -1 (未定義)、0 (偽)、1 (真) のいずれかであることを保証する。

表 A-70 Portal データベース テーブルに関して定義されている制約 (続き)

テーブル名	制約
PORTLET_P13N (続き)	<p>カラム — IS_VISIBLE 制約名 — CC8_PORTLET_P13N 制約タイプ — CHECK IS_VISIBLE カラムの値が -1 (未定義)、0 (偽)、1 (真) のいずれかであることを保証する。</p> <p>カラム — IS_ENTITLED 制約名 — CC9_PORTLET_P13N 制約タイプ — CHECK IS_ENTITLED カラムの値が -1 (未定義)、0 (偽)、1 (真) のいずれかであることを保証する。</p>

索引

A

AD_BUCKET データベース テーブル A-54
AD_COUNT データベース テーブル A-55
AddToCartEvent 11-32
APPLICATION カラム 11-30
authorized, 支払のステータス 10-26

B

BuyEvent 11-32

C

CampaignUserActivityEvent 11-32
CATALOG_ENTITY データベース テーブル A-16
CATALOG_PROPERTY_KEY データベース
テーブル A-16
CATALOG_PROPERTY_VALUE データベース
テーブル A-17
ClickCampaignEvent 11-33
ClickContentEvent 11-33
ClickProductEvent 11-33
CLOB 11-31, A-7, A-65
commercePool 11-22
commercePool オプション 11-21
create_db スクリプト 11-18
create_event.sql 11-38

D

DATA_SYNC_APPLICATION データベース
テーブル A-55
DATA_SYNC_ITEM データベース テーブル A-56
DATA_SYNC_SCHEMA_URI データベース
テーブル A-57
DATA_SYNC_VERSION データベース テーブル A-58

db_settings.properties 11-14
db_settings.properties ファイル 11-17, 11-18
db_version の設定値 11-16
DB2 7.0 11-16
DISCOUNT_ASSOCIATION データベース
テーブル A-33
DISCOUNT データベース テーブル A-32
DisplayCampaignEvent 11-33
DisplayContentEvent 11-34
DisplayProductEvent 11-34
DOCUMENT_METADATA データベース テーブル A-59
DOCUMENT データベース テーブル A-58
drop_event.sql 11-38

E

EBCC
起動と使用 3-3
起動とログイン 1-6
使用するためにプロジェクト ファイルを
開く 3-3
設定 11-6
プロジェクト ファイルを開く 3-3
割引
条件を指定する 10-31, 10-32
E-Business Control Center, 「EBCC」を参照
ENTITLEMENT_RULESET データベース テーブル A-60
ENTITY データベース テーブル A-61
EVENT_DATE カラム 11-31
EVENT_ID カラム 11-31
EVENT_TYPE カラム 11-31
EVENT_TYPE テーブル 11-36
e コマース
サンプル, 起動 11-3

G

GROUP_HIERARCHY データベース テーブル
A-61
GROUP_SECURITY データベース テーブル A-
62
GUI, E-Business Control Center A-2

H

Hotspot 11-25

I

i18n
パフォーマンス チューニング 11-25
insert_event_type.sql 11-38
installService 11-6

J

JDBC
commercePool オプション 11-21
新しいデータ ソース ファクトリ 11-41
JNDI データ ソース 11-42
JRockit 11-24
JVM 11-24

L

LAYOUT データベース テーブル A-77
LDAP
ユーザとグループ 6-1
loadads スクリプト 11-19
loaddocs スクリプト 11-19

M

MAIL_ADDRESS データベース テーブル A-62
MAIL_BATCH_ENTRY データベース テーブル
A-63
MAIL_BATCH データベース テーブル A-63
MAIL_HEADER データベース テーブル A-64
MAIL_MESSAGE データベース テーブル A-64
MarkedForSettle
定義 10-26
Microsoft SQL Server 2000 11-16
Microsoft SQL Server 7 11-16

O

Oracle
インデックスの再構築 11-19
接続プロパティ例 11-15
他のデータベースからの切り替え 11-15
ORACLE 8.1.6 11-16
ORACLE 8.1.7 11-16
ORACLE 9i 11-16
ORDER_ADJUSTMENT データベース テーブル
A-34
ORDER_LINE_ADJUSTMENT データベース
テーブル A-35

P

PendingSettle
定義 10-26
PLACEHOLDER_PREVIEW データベース テーブル
A-65
PointBase
コンソール 11-13
サーバ起動時の注意事項 11-5
注意事項 11-12
POINTBASE 4.2 11-16
Portal
サンプル, 起動 11-3
サンプル ドメイン, 起動と停止 11-2
システム管理者
概要 6-23
削除 6-26
作成 6-25
ポータル管理者
概要 6-23
削除 6-28
作成 6-26
Portal Administration Tools
起動とログイン 1-6
Portal Wizard
作成されるファイル 4-7
使い方 4-3, 4-4
PORTAL_P13N_LAYOUT データベース テーブル
A-79
PORTAL_P13N_SKIN_POOL データベース
テーブル A-80
PORTAL_P13N データベース テーブル A-78
PORTAL_PAGE_P13N_LAYOUT_POOL データベース
テーブル A-83

PORTAL_PAGE_P13N データベース テーブル A-81
PORTAL_PAGE データベース テーブル A-81
PORTAL データベース テーブル A-78
PORTLET データベース テーブル A-84
PORTLET_P13N データベース テーブル A-84
PORTLET_PLACEHOLDER データベース テーブル A-87
PROPERTY_KEY データベース テーブル A-65
PROPERTY_VALUE データベース テーブル A-66
PurchaseCartEvent 11-34

R

Rejected
 定義 10-26
RemoveFromCartEvent 11-34
RESOURCE_GROUP_ADMIN データベース
 テーブル A-87
Retry
 定義 10-26
RuleEvent 11-35

S

SAMPLE_UUP_INFO データベース テーブル A-67
SCENARIO_END_STATE データベース テーブル A-3
SEQUENCER データベース テーブル A-68
SessionBeginEvent 11-35
SessionEndEvent 11-35
SessionLoginEvent 11-35
Settled
 定義 10-26
SKIN データベース テーブル A-88
SQL スクリプト 11-38
startP13N.bat 11-3
startP13N.sh 11-3
startPBConsole.bat 11-13
startPBConsole.sh 11-13
startPBServer.bat 11-13
startPBServer.sh 11-13
startPortal.bat 11-4
startPortal.sh 11-4
startSamplePortal.bat 11-3
startSamplePortal.sh 11-3

startWLCS.bat 11-3
startWLCS.sh 11-3
SYBASE 12.0 11-16
SYBASE 12.5 11-16

U

uninstallService 11-6
USER_GROUP_CACHE データベース テーブル A-68
USER_GROUP_HIERARCHY データベース
 テーブル A-69
USER_ID カラム 11-31
USER_PROFILE データベース テーブル A-69
USER_SECURITY データベース テーブル A-70
UserRegistrationEvent 11-35
UUP
 ユーザに対してシステムがアクセスする
 ロパティ 6-5

W

WebLogic Personalization Server (WLPS)
 スキーマ A-50
WebLogic Portal
 サンプル, 起動 11-3
 サンプル ドメイン, 起動と停止 11-2
 システム管理者
 概要 6-23
 削除 6-26
 作成 6-25
 「チュートリアル」も参照 3-1, 4-1, 5-1
 デフォルト パスワード 1-8, 6-3
 ポータル管理者
 概要 6-23
 削除 6-28
 作成 6-26
WebLogic Portal Administration Tools
 起動とログイン 1-6
WebLogic Portal サーバ
 起動 10-3
WebLogic Server
 システム管理者
 概要 6-23
 削除 6-25
 作成 6-24
WebLogic Server Administration Console 11-21,
 11-23, 11-41, 11-43

WebLogic Server Console 11-16
WEBLOGIC_IS_ALIVE データベーステーブル
A-70
Web アプリケーション
「エンタープライズ アプリケーション」、
「ポータル Web アプリケーション」も参照
Windows サービス
～と PointBase 11-5
～とサーバの起動 11-5
アンインストール 11-6
WLCS_CATEGORY データベース テーブル A-
18
WLCS_CREDIT_CARD データベース テーブル
A-36
WLCS_CUSTOMER データベース テーブル A-
38
WLCS_ORDER_LINE データベース テーブル
A-41
WLCS_ORDER データベース テーブル A-39
WLCS_PRODUCT_CATEGORY データベース
テーブル A-26
WLCS_PRODUCT_KEYWORD データベース
テーブル A-26
WLCS_PRODUCT データベース テーブル A-22
WLCS_SAVED_ITEM_LIST データベース テー
ブル A-42
WLCS_SECURITY データベース テーブル A-
42
WLCS_SHIPPING_ADDRESS データベース
テーブル A-43
WLCS_SHIPPING_METHOD データベース
テーブル A-44
WLCS_TRANSACTION_ENTRY データベース
テーブル A-47
WLCS_TRANSACTION データベース テーブ
ル A-45
WLS_SESSION_ID カラム 11-31

X

XML
ドキュメント A-7
XML_DEFINITION カラム 11-31
XML_DEFINITION カラムのデータ要素 11-32
XML_DEFINITION データ要素 A-8
XML ドキュメント 11-31

A

アイコン
ポータルの変更 7-2
アイテム
～とカテゴリ、概要 10-1
カタログ ブラウザ、ログイン 10-46
カタログ ブラウザ、使い方 10-45
カタログ、サンプル 10-2
カタログからの削除 10-15
カタログ ブラウザ、検索 10-47
カタログへの追加 10-3、10-6
カテゴリからの削除 10-14、10-15
カテゴリへの追加 10-8
削除、影響 10-1
出荷体制の編集 10-13
属性の編集 10-10
注文の詳細の表示 10-21
別のカテゴリへの移動 10-18
アイテムの削除
カタログから 10-15
カテゴリから 10-14、10-15
アイテムの出荷体制
編集 10-13
アクション
広告 (キャンペーン) 9-11
シナリオに追加 9-10
電子メール (キャンペーン) 9-16
割引 (キャンペーン) 9-20
アクション、複製 9-11
アクション (キャンペーン)
変更と削除 9-23
アクセス
管理ユーザの作成 6-23
「グループ ポータル」も参照
「資格」も参照
デフォルト パスワード 1-8、6-3
ユーザ グループの作成 6-10
ユーザ グループへのユーザの追加 6-11
アクティブ化
割引 10-53
アクティブなキャンペーンのリセット オプ
ションを表示する 11-10
アプリケーション
「Web アプリケーション」、「エンタープ
ライズ アプリケーション」、
「ポータル Web アプリケーショ

ン」も参照

概要 10-1

イ

イベント

- create_all スクリプト 11-38
- XML_DEFINITION カラムのデータ要素 11-33
- インデックスと制約 11-37
- 行動追跡用データベース スキーマ 11-29
- データベース テーブル 11-30, A-6
- プロパティ 11-40
- 無関係な ~ 発生の回避 11-22

色

- 「スキン」も参照
- インデックス 11-37
- インデックス, Oracle ~ の再構築 11-19
- インプレッション 9-25
- 広告インプレッション 9-25
- インプレッション, 広告 9-25

ウ

ウィザード

- Portal Wizard 4-4

ウィンドウ

- 広告検索 9-13
- シナリオ プロパティ 9-10
- 新規の広告アクション 9-12, 9-17
- 新規の割引アクション 9-21
- 電子メール コンテンツの選択 9-19
- 電子メール情報の入力 9-18
- ブレースホルダの選択 9-14
- 目標の詳細 9-25
- 割引の選択 9-22

エ

エディタ

- 割引エディタ 10-30
- エンタープライズ アプリケーション ディレクトリ, 指定 11-8
- エンティティ リレーションシップ ダイアグラム 11-30, A-2, A-6, A-29, A-51
- カタログ用テーブル A-14

オ

親カテゴリ

カ

開始

- キャンペーン 9-23

階層

- カタログ, 概要 10-1

開発

- キャンペーン 9-6

回復手順

- トラブルシューティング
- バックアップと回復の手順 11-20

確定

- 割引 10-41, 10-43
- ~ 後の変更 10-50
- 割引, 要件 10-42
- カスタマイズ, 顧客に合わせたコンテンツ, 「パーソナライゼーション」を参照

カタログ

- アイテムとカテゴリの編集 10-10
- アイテムのカタログからの削除 10-15
- アイテムの出荷体制, 編集 10-13
- アイテムの追加 10-6
- エンティティ リレーションシップ ダイアグラム A-14
- カタログ サイズ 11-22
- カテゴリ
- 概要 10-1
- カテゴリ, 追加 10-3
- カテゴリからのアイテムの削除 10-14, 10-15
- カテゴリの削除 10-17
- カテゴリの追加 10-3
- カテゴリへのアイテムの追加 10-8
- 管理 10-1
- 管理ツール, 起動とログイン 10-3
- 別のカテゴリへのアイテムの移動 10-18
- カタログ ブラウザ
- ログイン 10-46
- カタログ管理ツール
- 起動 10-3
- カタログ ブラウザ
- アイテムまたはカテゴリの検索 10-47
- 使い方 10-45
- カテゴリ
- ~ へのアイテムの追加 10-6, 10-8

- カタログ, サンプル 10-2
- カタログからのアイテムの削除 10-15
- カタログ ブラウザ, 検索 10-47
- カタログ ブラウザ, 使い方 10-45
- カタログへの追加 10-3
- カテゴリからのアイテムの削除 10-14, 10-15
- 概要 10-1
- 削除 10-17
- 削除, 影響 10-1
- 属性の編集 10-10
- 追加 10-3
- 別の ~ へのアイテムの移動 10-18
- カテゴリの追加 10-3
- カラム
- 「レイアウト」も参照
- 管理
- カタログ 10-1
- システム管理作業 11-1
- 支払 10-24
- 支払情報 10-1
- 注文 10-19
- 注文情報 10-1
- データベース管理 11-10
- 割引 10-1, 10-28
- 管理, ポータル
- 手引き 1-8
- 管理作業
- アイテムの追加 10-3, 10-6
- カテゴリの追加 10-3
- 管理者
- WebLogic Portal
- 概要 6-23
- 削除 6-26, 6-28
- 作成 6-25, 6-26
- WebLogic Server
- 概要 6-23
- 削除 6-25
- 作成 6-24
- 新しい ID でログイン, チュートリアル 2-11
- 管理ツールに対するパスワードの変更 6-2
- 管理ユーザの種類 6-23
- グループ ポータル管理者
- 概要 6-23
- 削除 6-32
- 作成 6-29

- ポータル管理者への変更 6-32
- グループ ポータルに対するセットアップ 6-23
- 作成 6-23
- 「資格」も参照
- デフォルト パスワード 1-8, 6-3
- ポータルの概要 1-2
- ユーザパスワードの変更 6-5
- ユーザへのポータル管理資格の付与, チュートリアル 2-5
- ユーザをポータル管理者にする, チュートリアル 2-8
- 管理対象サーバ 11-4
- 管理対象サーバを持つ管理サーバ 11-4
- 管理ツール
- 起動 10-3
- パスワードの変更 6-2
- 管理ツールへのログインとパスワード 10-3
- 管理ツール用の ID とパスワード 10-3
- 管理ツール用のユーザ名とパスワード 10-3
- 管理ユーザ
- 作成 6-23
- 作成, チュートリアル 2-1
- 種類 6-23
- 「ユーザ」も参照
- 外見, ポータル
- 「スキン」, 「レイアウト」, 「ページ」も参照
- 概要
- 作業の手引き 1-8
- ポータル 1-2
- ポータルの例 1-5

キ

- 既存のシナリオをコピー 9-9
- 起動
- ポータル サーバ 4-2, 5-2
- 起動, ツール 1-6
- キャンペーン
- 作成の前提条件 9-2
- キャンペーン 9-1
- E-Business Control Center でのファイルの作成 9-7
- ~ におけるブレースホルダ 9-11
- 開始日時の設定 9-23
- 広告アクションの作成 9-11

- コンテンツ 9-2
- 再アクティブ化 9-31
- 削除 9-30
- シナリオとアクションの変更と削除 9-23
- シナリオの作成 9-8
- 終了 9-23
- スポンサー 9-8
- 定義 9-6
- デバッグ 9-28
- デフォルト広告クエリとキャンペーン広告
クエリを選択するプレースホル
ダ 8-10
- 電子メールの作成 9-16
- トリガ 9-2
- パフォーマンスの要因 11-22
- 非アクティブ化 9-31
- 表示カウントバッファサイズの拡張 11-23
- 変更 9-28
- リセット 9-28
- 割引アクションの作成 9-20
- キャンペーン、プロモーション用
シナリオにアクションを追加 9-10

ク

- クエリ
 - デフォルト広告クエリとキャンペーン広告
クエリを選択するプレースホル
ダ 8-10
 - パーソナライズされたコンテンツを取り出
すための作成 8-2

区分

- 資格、「資格区分」も参照
- 「資格」も参照
- 「資格区分」も参照
- クラスタ化した管理対象サーバを持つ管理サー
バ 11-4

クリックスルー

- キャンペーンの停止 9-25

- クリックスルー、広告 9-25

グラフィックス

- ポータルの変更 7-2

グループ

- LDAP 6-1
- 管理 6-1
- グループへの追加 6-16
- 「グループポータル」も参照

- 削除 6-17
- 定義 6-1
- プロパティの変更 6-15
- メンバーの表示 6-14
- ユーザグループの作成 6-10
- ユーザグループへのユーザの追加 6-11
- ユーザの削除 6-14
- ユーザの追加 6-11
- 「ユーザ」も参照

グループポータル

- 作成 6-19
- グループで使用するための作成 6-18
- グループポータル管理者
 - 概要 6-23
 - 削除 6-32
 - 作成 6-29
 - ポータル管理者への変更 6-32

- 「グループ」も参照

作成

- チュートリアル 4-1, 5-1
- 資格によるアクセスの設定 7-27
- 定義 6-1
- ポータル管理者のセットアップ 6-23
- 「ユーザ」も参照

グループポータル管理者

- 削除 6-32
- 作成 6-29

ケ

検索

- 注文 10-19
- 検証 11-10

コ

広告

- loadads による広告のロード 11-19
- インプレッション 9-25
- キャンペーン終了条件としての使用 9-25
- クリックスルー 9-25
- デフォルト広告クエリとキャンペーン広告
クエリを選択するプレースホル
ダ 8-10
- パーソナライゼーション 8-6
- 表示カウントバッファサイズの拡張 11-23
- プレースホルダの選択 9-14
- 広告アクション

- キャンペーンにおける 9-11
- 広告インプレッション
 - キャンペーンの停止 9-25
- 広告クリックスルー
 - キャンペーンの停止 9-25
- 広告検索ウィンドウ 9-13
- 行動追跡
 - EVENTS テーブル 11-30
 - スクリプト 11-37
 - データベース 11-27
 - データベース作成 11-37
 - データベース スキーマ 11-29, A-6
 - 表領域 11-37
- 行動追跡データの永続化 11-26
- 顧客
 - 支払と注文の情報 10-1
 - 対象, 「パーソナライゼーション」を参照
 - パーソナライズされたコンテンツ, 「パーソナライゼーション」を参照
 - 割引, 管理 10-1
- 顧客 ID
 - 注文の検索 10-19, 10-25
- 顧客セグメント
 - 削除 6-38
 - 作成 6-38
 - パーソナライズされたコンテンツのための選択 8-4
 - 変更 6-38
- 顧客の注文
 - 「注文」を参照
- コスト軽減, 「割引」を参照
- コピー
 - シナリオ アクション 9-11
- コマース
 - サンプル, 起動 11-3
- コンソール
 - PointBase 11-13
- コンテンツ
 - キャンペーンでの 9-2
 - ポータルの変更 7-2
- コンテンツ管理
 - loaddocs によるコンテンツの追加 11-19
- コンテンツ セレクト
 - トリガ 8-2
 - ポータルでのパーソナライゼーション 8-2
 - ポータルのパーソナライズされたコンテンツのための作成 8-2

- 合計
 - 注文の詳細の表示 10-21

サ

- サーバ
 - 起動 10-3, 11-4
 - ～と PointBase 11-5
 - 起動と停止 11-2
 - サンプル Portal ドメイン, 起動と停止 11-2
 - 新規作成ドメインに対する起動 4-2, 4-11, 5-2
 - デフォルトパスワード 6-3
 - 同期と正しいプロジェクト設定 3-10
- サーバの起動 11-4
- 再アクティブ化 9-31
 - 割引 10-53
- 再起動
 - キャンペーン 9-31
- 最小化可能
 - ポートレットの設定 7-24
 - ポートレットの変更 7-19
- 最大化可能
 - ポートレットの設定 7-24
- 最大容量 11-22
- 削除
 - 「アイテムの削除」も参照
 - キャンペーン 9-30
 - キャンペーンのシナリオとアクション 9-23
 - グループのユーザ 6-14
 - ユーザ 6-8
 - 割引 10-53, 10-54
- 削除可能ページ 7-30
- 削除可能ポートレット 7-32
- 作成
 - キャンペーン 9-6
- サブカテゴリ
 - 「カテゴリ」も参照
 - サンプル 10-2
- サポート, テクニカル Xiii
- サポートされるデータベース 11-12
- サンプル
 - コマース機能 11-3
 - 「チュートリアル」も参照
 - パーソナライゼーション機能 11-3
 - パスワード, デフォルト 11-4

ポータル機能 11-3
サンプルアプリケーション
起動と停止 11-2
サンプルドメイン
起動と停止 11-2

シ

資格

グループポータル 7-27
「資格区分」も参照
ポートレットにアクセスできるユーザの設定 7-30

資格区分

削除 6-37
作成 6-33
変更 6-37

システム管理作業 11-1

システム管理者

WebLogic Portal

概要 6-23
削除 6-26
作成 6-25

WebLogic Server

概要 6-23
削除 6-25
作成 6-24

作成 6-23

パスワード, デフォルト 11-4

シナリオ 9-15

アクションの追加 9-10
キャンペーン 9-8
広告アクション 9-11
コピーを作業の出発点にする 9-9
テンプレート
選択 9-8
電子メールアクション 9-16
訪問者ごとに1回シナリオを実行 9-19, 9-22

割引アクション 9-20

シナリオ (キャンペーン)

変更と削除 9-23

シナリオアクション, 複製 9-11

シナリオテンプレートを選択 9-8

[シナリオプロパティ] ウィンドウ 9-10

支払

管理 10-1, 10-24

顧客IDによる検索 10-25

資金取得に必要な条件

処理状況 10-26

処理状況による検索 10-25

支払処理の履歴

説明 10-25

支払ステータス

値と定義 10-26

資金取得に必要な条件 10-26

支払による資金取得に必要な条件 10-26

修正

キャンペーン 9-28

終了

キャンペーン 9-23

縮小オプション 11-22

[縮小可] オプション 11-22

出荷情報

注文の詳細の表示 10-21

小計

注文の詳細の表示 10-21

商品ごとの割引 10-32

初期容量 11-22

処理状況

値と定義 10-26

支払

値 10-26

支払の検索 10-25

[新規の広告アクション] ウィンドウ 9-12, 9-17

[新規の割引アクション] ウィンドウ 9-21

シングルサーバ 11-4

実行, ツール 1-6

順序

ページ 7-12

条件, 割引 10-31, 10-32

ス

スキーマ, 「データベース」も参照

スキーマテーブル, パーソナライゼーション
A-52

スキン

新規使用

チュートリアル 3-12

選択 7-8

選択可能化

チュートリアル 3-3

変更したポータルでの表示

チュートリアル 3-12
ポータル ページでの利用可能性の変更 7-5,
7-6

スクリプト
開発環境 11-37
ステータス
注文, 更新 10-22
スポンサー
キャンペーン 9-8

セ

制約 11-37
セキュリティ 11-18
「アクセス」, 「グループ ポータル」も参
照
管理ツールに対するパスワードの変更 6-2
管理ユーザ, 作成 2-2

セグメント

顧客, 「顧客セグメント」を参照
セグメント, 「顧客セグメント」を参照
セット割引

入力 10-36
接続, リザーブされたときに接続をテスト 11-
22

接続設定の編集 3-10

接続プール

設定 11-16, 11-21
パフォーマンス チューニング
パフォーマンス チューニング
接続プール 11-40

選択可能なスキン 3-5

選択可能なポートレット 3-5

選択可能なレイアウト 3-5

選択ルール

ポータルのパーソナライズされたコンテン
ツのための作成 8-3

税額

注文の詳細の表示 10-21

ソ

属性

アイテムとカテゴリの編集 10-10
ページの属性の変更 7-14
ポートレット
編集 7-22

タ

対象

顧客, 「パーソナライゼーション」を参照
割引に対象を追加 10-35
対象マーケット, 「顧客セグメント」を参照
対話管理
手順 8-1
ダイアグラム, エンティティ リレーションシッ
プ A-2, A-51

チ

チュートリアル

Administration Tools に対するパスワード
とログイン 3-13
新しいポートレット、スキン、レイアウト
の使用 3-12
管理ユーザ, 作成
既存ポータルの表示 3-1
「サンプル」も参照
スキンとレイアウトの選択可能化 3-3
変更したポータルの同期 3-9
変更したポータルの表示 3-12, 3-19
ポータルとグループ ポータルの作成 4-1,
5-1
ポータルの管理 3-1
ポータル ページの作成 3-6
ポータル ページへのポートレットの追加
3-6
ポートレット ページの作成 3-6
ユーザがポータルを管理できるようにする
2-8
ユーザの追加 2-2
ユーザへのポータル管理資格の付与 2-5

チューニング

i18n 11-25

注文

管理 10-1, 10-19
検索 10-19
顧客 ID による検索 10-19
詳細の表示 10-21
ステータス, 更新 10-22
注文 ID による検索 10-19
日付で検索 10-20

注文 ID

注文の検索 10-19

注文管理ページ

- 検索ページ 10-19
- 注文処理スキーマ A-32
- 注文状況
 - 有り得るステータス 10-23
- 注文状況ページ 10-21
- 注文の authorized ステータス 10-23
- 注文リスト
 - 説明 10-21
- 注文割引
 - 入力 10-39

ツ

- 追加
 - アクションをシナリオに 9-10
 - キャンペーンに対するシナリオ 9-8
 - ユーザ, チュートリアル 2-2
- ツール
 - 起動とログイン 1-6
- ツール (管理)
 - 起動 10-3
- 使い方
 - ポータル, 「チュートリアル」も参照 5-1

テ

- 定義
 - キャンペーン 9-6
- 定義, ポータル
 - 変更 7-2
 - ポータル ページでの利用可能性の変更 7-6
 - 利用可能性の変更 7-5
- 定義, ポートレット
 - 変更 7-19
- 定義済みの制約 A-27, A-48, A-71, A-89
- 停止
 - キャンペーン 9-23
- 手順
 - 「チュートリアル」を参照
- 手順, ポータル管理 1-4
- [テスト] タブ 11-22
- 手引き
 - 作業内容 1-8
 - ポータル管理のロードマップ 1-4
- テンプレート
 - ポータル用の選択 4-5
- テンプレート, シナリオ
 - 選択 9-8

- ディレクトリ
 - エンタープライズ アプリケーション, 指定 11-8
 - データベース ディレクトリのパス
 - データベース
 - ディレクトリ 11-28
- データ ストレージ 11-27, A-4
- データ ソース
 - 新しい JDBC データ ソース ファクトリ 11-41
 - 正しいホストを指す 11-39
 - データ ソース, JNDI 用に入力 11-42
- データ ディクショナリ A-32
- データベース
 - Oracle インデックスの再構築 11-19
 - PointBase
 - 起動と停止 11-13
 - コンソール 11-13
 - 注意事項 11-12, 11-13
 - README.html 11-14
 - 開発環境用の ~ の作成 11-37
 - 管理作業 11-10
 - 切り替え前のコンフィグレーション 11-14
 - 行動追跡 11-27, 11-37
 - 行動追跡用データベース スキーマ 11-29
 - サポートされるデータベース 11-12
 - 接続プールのセットアップ 11-16
 - 他の ~への切り替え 11-14
 - データ ソースが正しいホストを指す 11-39
 - 「データベース テーブル」も参照
 - ドライバ 11-17
 - プロダクション環境用の ~ の作成 11-38
- データベース テーブル
 - 「データベース」も参照
 - データベース管理者 11-28, A-4
 - データベース スキーマ A-1, A-29
 - データベース スキーマ テーブル
 - WebLogic Portal 共通テーブル A-53
 - 広告およびブレースホルダ用テーブル A-52
 - データ同期用テーブル A-52
 - ドキュメント管理用テーブル A-53
 - メール用テーブル A-53
 - ユーザ管理用テーブル A-53
- データベース テーブル
 - AD_BUCKET A-54
 - AD_COUNT A-55

CATALOG_ENTITY A-16
CATALOG_PROPERTY_KEY A-16
CATALOG_PROPERTY_VALUE A-17
DATA_SYNC_APPLICATION A-55
DATA_SYNC_ITEM A-56
DATA_SYNC_SCHEMA_URI A-57
DATA_SYNC_VERSION A-58
DISCOUNT A-32
DISCOUNT_ASSOCIATION A-33
DOCUMENT A-58
DOCUMENT_METADATA A-59
ENTITLEMENT_RULESET A-60
ENTITY A-61
EVENT_TYPE 11-36
GROUP_HIERARCHY A-61
GROUP_SECURITY A-62
LAYOUT A-77
MAIL_ADDRESS A-62
MAIL_BATCH A-63
MAIL_BATCH_ENTRY A-63
MAIL_HEADER A-64
MAIL_MESSAGE A-64
ORDER_ADJUSTMENT A-34
ORDER_LINE_ADJUSTMENT A-35
PLACEHOLDER_PREVIEW A-65
PORTAL A-78
PORTAL_P13N A-78
PORTAL_P13N_LAYOUT A-79
PORTAL_P13N_SKIN_POOL A-80
PORTAL_PAGE A-81
PORTAL_PAGE_P13N A-81
PORTAL_PAGE_P13N_LAYOUT_POOL
A-83
PORTLET A-84
PORTLET_P13N A-84
PORTLET_PLACEHOLDER A-87
PROPERTY_KEY A-65
PROPERTY_VALUE A-66
RESOURCE_GROUP_ADMIN A-87
SAMPLE_UUP_INFO A-67
SCENARIO_END_STATE A-3
SEQUENCER A-68
SKIN A-88
USER_GROUP_CACHE A-68
USER_GROUP_HIERARCHY A-69
USER_PROFILE A-69
USER_SECURITY A-70
WEBLOGIC_IS_ALIVE A-70
WLCS_CATEGORY A-18
WLCS_CREDIT_CARD A-36
WLCS_CUSTOMER A-38
WLCS_ORDER A-39
WLCS_ORDER_LINE A-41
WLCS_PRODUCT A-22
WLCS_PRODUCT_CATEGORY A-26
WLCS_PRODUCT_KEYWORD A-26
WLCS_SAVED_ITEM_LIST A-42
WLCS_SECURITY A-42
WLCS_SHIPPING_ADDRESS A-43
WLCS_SHIPPING_METHOD A-44
WLCS_TRANSACTION A-45
WLCS_TRANSACTION_ENTRY A-47
データベース ディレクトリのパス 11-28, A-5
データベースのドライバ 11-17
データベース用 README.html 11-14
デバッグ
 キャンペーン 9-28
デフォルト
 ポータルの変更 7-2
 ポートレットの変更 7-19
デフォルト広告モローションに入れておく
 オプション 8-10
デフォルトで最小化
 ポートレットの設定 7-24
デフォルト パスワード 1-8, 6-3
デプロイ
 割引 10-41
デプロイメント
 新規ポータルのホット デプロイ 4-9
 ホット デプロイ, ユーザ名とパスワード 4-9
電子メール アクション
 キャンペーンでの作成 9-16
[電子メール コンテンツの選択] ウィンドウ 9-19
[電子メール情報の入力] ウィンドウ 9-18

ト
特性の定義, ポータル
 変更 7-2
 利用可能性の変更 7-5

特性の定義, ポータル, ポータル ページでの利
用可能性の変更 7-6

特性の定義, ポートレット
変更 7-19

特権

「管理者」も参照

管理ユーザ, 作成 2-2

デフォルト パスワード 1-8, 6-3

パスワードの変更 6-5

ユーザ グループの作成 6-10

ユーザ グループへのユーザの追加 6-11

ユーザ パスワードの変更 6-5

「ユーザ」も参照, UUP

トラブルシューティング

EBCC プロジェクト設定 3-10

Oracle インデックスの再構築 11-19

PointBase を使用するサーバの起動 11-5

Windows サービス 11-5

Windows サービス, アンインストール 11-6

エンタープライズ アプリケーション ディ
レクトリ, 指定 11-8

新規ポータル データをアプリケーション
に同期 7-25

デフォルト パスワード 1-8, 6-3

同期 3-3, 3-10, 11-8

トランザクション

資金取得に必要な条件

「支払」も参照

トリガ

キャンペーン 9-2

コンテンツ セレクタを起動するための作
成 8-2

[トリガ セットの指定] ウィンドウ 10-36
10-32

同期

正しい設定の入力 3-11

チュートリアル 3-9

プロジェクト設定のチェック 3-3, 3-10, 11-
8

ポータル データをアプリケーションに 7-
25

レルムその他の設定 11-10

割引 10-41, 10-44

同期のための接続 11-8

ドメイン

作成後の新規ドメインでのサーバの起動
4-2, 5-2

サンプル

起動と停止 11-2

新規作成ドメインでのサーバの起動 4-11

同期のためのプロジェクト設定のチェック
3-3, 11-8

同期のプロジェクト設定 3-10

ドメインに保存されるユーザの作成 6-4

割引

同期 10-44

ナ

名前

ポートレットのデフォルト名 7-24

名前フィルタ

割引の検索 10-48

ニ

認可

「資格」も参照

ネ

値下げ, 「割引」を参照

ハ

はじめに

「チュートリアル」も参照

範囲 11-10

バックアップ

バックアップと回復の手順 11-20

パーソナライゼーション

キャンペーンの作成 9-1

クエリ 8-2

広告の使用 8-6

顧客セグメントの選択 8-4

サンプル, 起動 11-3

スキーマ テーブル A-52

手順 8-1

トリガ 8-2

ポータル コンテンツの使用 8-2

パーミッション

「資格」も参照

パスワード

管理ツールに対する変更 6-2

管理ツール用 10-3

デフォルト 1-8, 6-3, 11-4

ホット デプロイ 4-9
ユーザ, 変更 6-5
パフォーマンス チューニング 11-21
Hotspot 11-24
i18n 11-25
キャンペーン 11-22

ヒ

非アクティブ化 9-31
割引 10-53
必須
ポートレットの設定 7-24
日付
注文の検索 10-20
日付選択カレンダーツール 10-20
日付選択カレンダーツール 10-20
表示対象のページ 3-16
表示対象のポートレット 3-18, 7-24
表示対象ページ 7-30
表示対象ポートレット 7-18, 7-32
表示名
ポートレットの設定 7-24
表領域と行動追跡 11-37

フ

フィルタ
割引の場所 10-48
複製
シナリオ アクション 9-11
フッター
ポータルの変更 7-2
ブラウザ
カタログ, ログイン 10-46
カタログ, アイテムまたはカテゴリの検索
10-47
カタログ, 使い方 10-45
ブレースホルダ
広告用に選択した 9-14
キャンペーンにおける 9-11
広告によるパーソナライゼーション 8-6
顧客に合わせて広告を提供するための作成
8-6
デフォルト広告クエリとキャンペーン広告
クエリの選択 8-10
表示カウントバッファ サイズの拡張 11-23
[ブレースホルダの選択] ウィンドウ 9-14

プレゼンテーション
変更 7-2
プロジェクト設定
チェック 3-10
同期のためのチェック 3-3, 11-8
プロジェクト設定の同期のための [接続の編集
] ウィンドウ 11-8
[プロジェクトの設定] ウィンドウ
設定値 11-10
プロジェクト ファイル
開く 3-3
プロダクト カタログ
ブラウザ 10-45
プロパティ
ユーザ プロパティの変更 6-7
プロファイル
UUP と正しいユーザ タイプ 6-5
ポータルでの利用可能性の変更 7-5
ポータル ページでの利用可能性の変更 7-6
プロモーション用キャンペーン
シナリオにアクションを追加 9-10

ヘ

ヘッダー
ポータルの変更 7-2
変更
キャンペーン 9-28
キャンペーンのシナリオとアクション 9-
23
ポータル 7-2, 7-5, 7-6
割引
確定後 10-50
変更, ポートレット 7-19
変更, ポータル管理者に 6-32
編集, ポータル 7-2, 7-5, 7-6
編集, ポートレット 7-19
編集可能ポートレット 7-32
ページ
順序 7-12
選択 7-12
属性 3-16
属性の変更 7-14
「ポータル」, 「ポートレット」も参照
ポータル ページでの利用可能性の変更 7-5,
7-6
ポートレット

選択
配置
ポートレットの外見の編集 7-22
ポートレットの追加
チュートリアル 3-6
レイアウトの編集 7-16

ホ

訪問者が編集可能なページの名前 3-16

訪問者ごとに 1 回シナリオを実行 9-15

訪問者ごとに 1 回実行 9-15, 9-19, 9-22

ホスト名の値 3-10

保存

割引 10-41, 10-43

割引, 要件 10-42

ホット デプロイ

新規ポータル 4-9

パスワードとユーザ名 4-9

ポータル

EBCC での新規作成用ウィンドウ 4-3

アクセス

「資格」も参照

新しいポータル管理者としてログイン,

チュートリアル 2-11

管理

チュートリアル 3-1

管理の手引き 1-8

外見

「スキン」、「レイアウト」、「ページ」
も参照

概要 1-2

グループ, 「グループ ポータル」も参照

グループ, グループ ポータル」も参照 1-3

グループ ポータルの概要 1-3

「グループ ポータル」も参照

サンプル, 起動 11-3

資格によるポートレットへのアクセス 7-30

新規データをアプリケーションに同期 7-25

新規ポータルのホット デプロイ 4-9

実現できること 1-2

スキンの選択 7-8

属性, ページの編集 7-14

使い方, 「チュートリアル」も参照 4-1

使い方, 「チュートリアル」を参照 3-1

テンプレートの選択 4-5

特性の定義

変更 7-2

利用可能性の変更 7-5

特性の定義, ポータル ページでの利用可能性の変更 7-6

同期

チュートリアル 3-9

パーソナライゼーション 8-2

表示

チュートリアル 3-1

変更後の表示

チュートリアル 3-12, 3-19

「ページ」、「ポートレット」も参照

ページの順序 7-12

ページの選択と順序設定 7-12

ページの属性の編集 7-14

ポータル管理者, 作成 2-2

ユーザ グループの作成 6-10

ユーザ グループへのユーザの追加 6-11

ユーザへのポータル管理資格の付与,

チュートリアル 2-5

ユーザをポータル管理者にする, チュートリアル 2-8

例 1-5

レイアウトと外見, 「スキン」、「レイアウト」を参照

サンプル ドメイン, 起動と停止 11-2

ポータル Web アプリケーション

新規作成 4-4

ポータル管理

ロードマップ 1-4

ポータル管理者

WebLogic Portal

概要 6-23

削除 6-28

作成 6-26

管理できるようにする, チュートリアル 2-8

グループ ポータル管理者からの変更 6-32

グループ ポータルへのセットアップ 6-23

作成 6-23

資格の付与, チュートリアル 2-5

ポータル管理ツール

起動 10-3

ポータル サーバ

起動 4-11, 10-3
ポータル サーバの起動 4-2, 4-11, 5-2
ポータルとグループ ポータル
作成
チュートリアル 4-1, 5-1
ポータルの使い方, 「チュートリアル」を参照
ポータル ページ
「ページ」を参照
ポートの値 3-10
ポートレット
アクセスできるユーザに対する資格の設定
7-30
外見
「スキン」, 「レイアウト」, 「ページ」
も参照
資格によるポートレットへのアクセス 7-
30
新規使用
チュートリアル 3-12
属性 3-18
属性の編集 7-22, 7-24
特性の定義
変更 7-19
動作の変更 7-19
変更後の表示
チュートリアル 3-19
変更したポータルでの表示
チュートリアル 3-12
ページの順序 7-13
「ポータル」, 「ページ」も参照
ポータル ページでの配置 7-17
ポータル ページに対する選択 7-17
ポートレット ページへの追加
チュートリアル 3-6

メ

メンバー
グループ メンバーの表示 6-14

モ

[目標の詳細] ウィンドウ 9-25

ユ

有効にする
行動追跡 11-39

ユーザ

LDAP 6-1
UUP プロパティへのアクセス 6-5
新しいポータル管理者としてログイン,
チュートリアル 2-11
管理 6-1
管理ユーザ
作成 6-23
管理ユーザの作成, チュートリアル
管理ユーザの種類 6-23
グループからの削除 6-14
グループの, 「メンバー」も参照
グループの削除 6-17
グループの作成 6-10
グループ プロパティの変更 6-15
グループへのグループの追加 6-16
グループへの追加 6-11
「グループ ポータル」も参照
グループ メンバーの表示 6-14
削除 6-8
作成 6-4
資格, ページへのアクセスに対する設定 7-
27
資格, ポートレットへのアクセスに対する
設定 7-30
使用できないユーザ名 6-5
追加, チュートリアル 2-2
パスワードの変更 6-5
プロパティの変更 6-7
ポータル管理資格の付与, チュートリアル
2-5
ポータル管理者にする, チュートリアル 2-
8

ユーザ グループ

「グループ」も参照
作成 6-10
追加, ユーザ 6-11
プロパティの変更 6-15
ユーザの追加 6-11

ユーザ プロファイル

ポータルでの利用可能性の変更 7-5
ポータル ページでの利用可能性の変更 7-6

ユーザ名

管理ツールに対するパスワードの変更 6-2

リ

- リザーブされたときに接続をテスト 11-22
- リセット
 - キャンペーン 9-28
- リソース バンドルのチェック , i18n 11-25
- 利用可能なページ 3-16
- 利用可能なポートレット 3-18
- 利用可能の設定 , ポートレット 7-24
- リレーショナル データベース 11-27, A-4

ル

- ルック アンド フィールド , 「プレゼンテーション」 , 「スキン」 , 「レイアウト」 , 「ページ」を参照

レ

- 例
 - 「サンプル」も参照
 - ポータル の概要と例 1-5
- レイアウト
 - 新規使用
 - チュートリアル 3-12
 - 「スキン」も参照
 - 選択可能化
 - チュートリアル 3-3
 - 変更後の表示
 - チュートリアル 3-19
 - 変更したポータルでの表示
 - チュートリアル 3-12
 - ページでの編集 7-16
 - ポータルでの利用可能性の変更 7-5
 - ポータル ページでの利用可能性の変更 7-6
- レルム 11-18
- [レルム] フィールド 11-10

ロ

- ロードマップ , ポータル管理 1-4
- ログイン
 - 管理ツールに対するパスワードの変更 6-2
 - ホット デプロイ 4-9
- ログイン , ツール 1-6
- ログイン遅延時間 11-22

ワ

- 割引
 - 確定 10-41, 10-43
 - ~後の変更 10-50
 - 確定 , 要件 10-42
 - 管理 10-1, 10-28
 - 検索 10-48
 - 再アクティブ化 10-53
 - 削除 10-53, 10-54
 - 商品ごとの 10-32
 - 条件
 - 商品ごとの割引 10-32
 - スタンドアロンまたはキャンペーン 10-31
 - セット 10-36
 - 全般的情報の指定 10-30
 - 対象 , 追加 10-35
 - 注文割引 10-39
 - 同期 10-41
 - 非アクティブ化 10-53
 - 変更 10-50
 - 確定後 10-50
 - 保存 10-41, 10-43
 - 保存 , 要件 10-42
 - 割引期間 10-40
- 割引アクション
 - キャンペーンでの作成 9-20
- 割引エディタ 10-30
- 割引期間 10-40
- 割引限度 10-40
- [割引の選択] ウィンドウ 9-22
- 割引の総限度 10-40

